

厚生労働省
平成23年度障害者総合福祉推進事業

災害時における自閉症をはじめとする
発達障害のある方の行動把握と効果的な
情報提供のあり方等に関する調査について

報 告 書

平成
24
年3月

平成 24 年 3 月

社団法人 日本自閉症協会

目 次

I 事業要旨	1
1 「研究1」被災地の現況調査およびケース検討	1
2 「研究2」自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査	1
3 「研究3」「防災・支援ハンドブック」の作成と公刊	2
4 まとめ	3
II 事業目的	5
1 現況調査およびケース検討	5
2 アンケート調査	6
3 防災・支援ハンドブックの作成	6
III 事業の実施内容	9
1 現況調査等の実施内容	9
(1) 調査の概要	9
(2) ケース検討の実施内容	13
2 アンケート調査の実施内容	25
3 防災・支援ハンドブック作成の実施内容	35
IV 調査等の結果	39
1 現況調査	39
2 アンケート調査	52
(1) 回収状況	52
(2) 調査結果	52
(3) 統計表	62
(4) 自由記載欄	103
3 防災・支援ハンドブック	202
「2011.3.11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック ー支援する方へー」	209
V 分析・考察	227
1 現況調査等の結果の分析・考察	227
2 アンケート調査の結果の分析・考察	229
3 防災・支援ハンドブック作成に関する考察	240
VI 検討委員会等の実施状況	245
1 検討委員会の開催状況	245
2 防災・支援ハンドブックの企画・編集の作業部会等の開催状況	245
VII 成果の公表実績計画	247
VIII おわりに	249

事業要旨

I 事業要旨

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災はマグニチュード 9.0 であり、地震と津波の被害の規模は想像を超えるものであり、さらに原発事故が重なった。自閉症をはじめとする発達障害のある方々とその家族は、被災直後からその障害特性のためにさまざまな生活上の困難に遭遇した。避難所で生活することができず、行政や関係機関などから差しのべられたさまざまな支援も、必ずしも有効には機能しなかった一面があった。

本研究では、災害時に自閉症をはじめとする発達障害（以下、「自閉症」と略す）のある方々がどのような生活上の困難に遭遇し、どのような支援や対応が必要であったのかを災害の複合性と時系列との関連で明らかにし、どのような情報提供が有効かを検討するために、以下の 3 つの研究を行った。なお、本研究においては、個人情報の漏洩やプライバシーの侵害が起きぬように、倫理的配慮を十分に行つた。

1 「研究 1」被災地の現況調査およびケース検討

(社) 日本自閉症協会は平成 23 年 4 月に現地調査を行っていたが、本研究では平成 23 年 11~12 月にかけて、被災地の関係者 1 名を含む 3 名 1 組のチームで被災地（岩手県、宮城県、福島県、茨城県）の県庁・市町村役場・支援施設など 20 施設を訪問し、現況調査を実施した。そして、①原子力発電所のある双葉町から放射能を逃れて、余儀なく 5 回も引っ越しをした自閉症の子ども、②双葉町から転居・転校を繰り返し、最近になってやっと落ち着きを取り戻しつつある特別支援学校高等部 2 年の自閉症の子ども、③避難所暮らしで苦勞し続けた 19 歳の自閉症の子どもとその家族の 3 事例について検討を行い、問題の背景と発達特性、さらには地域における社会資源の活用の仕方について検討した。

【分析と考察】自閉症の子ども達の多くは避難所に入れなかったり、入っても泣き叫んだり、飛び跳ねるために怒鳴りつけられ、車中や被災した自宅で過ごしたり、親戚の家を転々としていたり、やむなく転出して行った。避難所に入つていなければ水や食料品の配給が受けられず、子どもを抱えながら長時間、店の前に並んだ人もいた。事例検討した 3 例についてもさまざまな問題と課題があり、今後は自閉症の特性に配慮した福祉避難所の指定や、(社) 日本自閉症協会、全国自閉症者施設協議会、発達障害者支援センター連絡協議会などが連携を密にし、自閉症支援に取り組んでいる知的障害施設、特別支援学校などの連携も強化し、全国的なネットワークの構築を急ぐ必要があると考えられた。

2 「研究 2」自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査

災害の影響による生活上の困難さは、必ずしも物理的な衝撃力で客観的にはかり

うるものではなく、災害の直接的複合的衝撃力の強さとその後の復興の過程を継続的に検討することによって明らかにされるはずである。自閉症の子ども達は、診断学的行動特性の他に、常同行動、興奮、攻撃性、自傷、こだわり、多動と注意の問題、気分の問題などがある。さらに阪神淡路大震災の時にみられた身体症状（嘔吐、発熱、けいれん、食欲低下、排泄の失敗など）や心理・行動面の問題（生活のリズムの乱れ、依存性が強くなる、行動が止まってしまう、いろいろが強くなる、奇声や独りごとが増えなど）などの推移について検討するために、急遽、44 項目からなる「東日本大震災の被災による自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査票」（添付資料参照）を作成し、被災県の自閉症協会会員 975 人を対象に、平成 23 年 12 月に郵送によるアンケート調査を行い、522 人（53.5%）から回答を得た。この種のアンケート調査では高い回収率であった。自由記述の欄には膨大な書き込みがなされており、被災された方々の苦労と切実な思い、そして今後の対策への期待の大きさを知ることができた。

【分析と考察】主な項目について列挙する。①欲しくても得られなかつた情報として「原発事故の状況」を上げた人が 192 人（37.4%）いたことは注目される。②災害前に半数以上の人人が服薬していたが、災害後に服薬ができなかつた人が 15 人（2.9%）おり、災害時の医療的支援システムの構築が必要である。③要支援者名簿に登録していた人が 57 人（11.1%）しかおらず、福祉行政的情報の周知が必要である。④全般的な状態を災害前と比較すると、対人関係が悪くなつたものが 106 人（20.6%）、言葉がなくなつたものが 14 人（2.7%）おり、PTSD と関連する症状と考えられた。⑤一方、わずかではあるが、災害前にあつた症状が災害後に軽減した例もあつた。今回のアンケート調査によって、自閉症の人々の状態の変化が明らかになり、適切な支援体制を整えるための基礎資料を得ることができた。

3 「研究 3」「防災・支援ハンドブック」の作成と公刊

(社) 日本自閉症協会は、平成 7 年の阪神淡路大震災以来、いくつかの自然災害の経験から、平成 20 年 7 月に「自閉症の人たちのための防災ハンドブックー支援をする方へー」を刊行し、同年 12 月には「自閉症の人たちのための防災ハンドブックー自閉症のあなたと家族の方へー」を刊行し、ホームページにも公開していた。今回の東日本大震災では、多くの方々に活用して頂いた。しかし、大地震・大津波・原発事故という未だ経験したことのないあまりに大規模な今回の複合災害を経験して、改めて「東日本大震災を受けて 自閉症の人のための防災・支援ハンドブック」を編纂する必要があると考えた。

【考察】「研究 1」と「研究 2」の結果に基づいて新たに「防災・支援ハンドブック」を作成し、広く配布すると共にホームページに公開することにした。災害

現場で役に立つことを考えて、イラストをつけた平易で具体的な文章にした。被災地の方々をはじめ、放射能汚染の専門家を含めた多くの方々に執筆して頂いた。しかし、放射能汚染に対する防災・支援に関する資料は乏しく、今後の重要な検討課題となった。

4 まとめ

短期間の調査ではあったが、多くの方々のご理解とご協力により十分な成果を上げることができた。諸外国で行われているように、被災された方々に関する長期間におよぶ継続的な調査は、今後とも確実に実施していく必要があることを、強調しておきたい。

事業目的

II 事業目的

自閉症をはじめとする発達障害（以下、「自閉症」と略す）の人々の災害における行動上の変化や不適応への対応、避難所や仮設住宅での過ごし方などについては、世界的にも系統だった調査はほとんどない。今回の東日本大震災においてどのような症状・行動の変化が見られ、どのような対応がなされたのか、さらにはどのような復旧・復興がなされて行くのか、また、どのような社会資源と情報提供が有効であったのかを検証することは極めて重要である。

本研究では、自閉症の人々がどのような生活上の困難さを経験し、どのような支援や対応が必要であったのかを、災害の複合性と時系列との関連で明らかにすることを目的とした。また、災害直後から行政や関係機関などからさまざまな支援がなされたが、その障害特性から行き届かなかった問題があった。併せて、どの時期に自閉症に関する情報が役に立ち、どのような情報が必要であったのかも明らかにすることも目的とした。

(社) 日本自閉症協会では、すでに「自閉症の人たちのための防災ハンドブック」（「支援する方へ」と「自閉症のあなたと家族の方へ」の2編がある）を刊行し、ホームページ上に公開しているが、大地震・大津波・原発事故が複合して起きた今回の大災害に関する調査の結果をもとに、「東日本大震災受けて 自閉症の人々のための防災・支援ハンドブック」を作成し、近い将来に想定されている東海・南海・東南海大地震発生時に役立つ資料を提供することを目的とした。

上記の目的を達成するために以下の3つの課題についての研究を行ったが、その目的は、以下の通りである。

1 被災地の現況調査およびケース検討

(社) 日本自閉症協会は、すでに平成23年4月に被災地の現地調査を行っていたが、本研究では平成23年11～12月にかけて、被災地の関係者1名を含む3名1組のチームで被災地（岩手県、宮城県、福島県、茨城県）の県庁・市町村役場・支援施設など20カ所を訪問し、現況調査を実施し、①自閉症の人々の行動の変化、②災害後の家族の状況、③関係機関の連携などについて聞き取り調査を行い、今後起こりうる大震災などに向けた防災・支援体制をどのように構築するのかを検討するための基礎資料を収集することを目的とした。

さらに、①原子力発電所のある双葉町から放射能を逃れて、余儀なく5回も引っ越しをした自閉症の子ども、②双葉町から転居・転校を繰り返し、最近になってやっと落ち着きを取り戻しつつある特別支援学校高等部2年の自閉症の子ども、③避難所暮らしで苦労し続けた19歳の自閉症の子どもとその家族の3事例について検討し、問題の背景と障害特性、さらには地域における社会資源の活用の仕方について検討することを目的とした。

2 アンケート調査

44 項目からなる「自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査票」を作成し、自閉症の人々の災害の際の行動の変化を調査し、より適切な支援の方法や体制を構築するための基礎資料を収集することを目的とした。

自閉症の人々は、診断学的行動特性の他に、常同行動、興奮、攻撃性、自傷、こだわり、多動と注意の問題、気分の問題などがあり、さらに阪神淡路大震災の時にみられた身体症状（嘔吐、発熱、けいれん、食欲低下、排泄の失敗など）や心理・行動面の問題（生活のリズムの乱れ、依存性が強くなる、行動が止まってしまう、いらいらが強くなる、奇声や独りごとが増えなど）などがあり、それらの行動の推移について検討することも目的とした。

3 防災・支援ハンドブックの作成

今回の東日本大震災を受けて、前述した現況調査・事例検討、および自閉症の本人・家族へのアンケート調査を踏まえて、これまで災害対策用に作成されてきた「自閉症の人たちのための防災ハンドブック」を見直し、新たに、「東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック」を作成することを目的とした。

災害が起きた場合、障害のある人たちにはさまざまな困難がもたらされるが、とくに自閉症の人々は障害の特性から、状況の急変を理解し、状況に応じた行動をとることが難しく、さまざまな困難に遭遇することが予想される。

防災のために、各自治体が災害マニュアルなどのパンフレットを作成し、防災訓練を行う動きも活発になっている。しかし、「災害弱者」と呼ばれる「要援護者」に特化したパンフレット、マニュアルなどはごく少ない。また、それらの要援護者に特化したマニュアルにしても、要援護者の中でも一番理解されにくく、具体的な支援の方法が難しいと思われる発達障害、とくに自閉症の人々に特化したものはない。災害のたびに、自閉症の人々およびその家族が厳しい状況におかれ、自閉症の人々が支援から取り残されるということが容易に想像される。

(社) 日本自閉症協会は、「自閉症の人々は、その障害特性から、災害時にも周囲の理解が得られず困っている。災害から自分を守り、理解を得て適切な支援を受けるにはどうしたらよいか」ということに対して、自閉症の人々に特化した「防災・支援ハンドブック」の作成が必要であると考え、その実現化を図ることにした。

今回の「防災・支援ハンドブック」は、自閉症の障害特性の「理解と啓発」、「必要な支援」、「防災システムの構築」の3点を全国規模で展開していくことで、被害を軽減するためのシステム作り、災害時の支援体制の構築を図ることに資することを目的としている。

今回の東日本大震災は、大地震に加え、大津波および原発事故の問題もあり、それらに対する対応も含めて検討する必要があった。

事業の実施内容

III 事業の実施内容

1 現況調査等の実施内容

(1) 調査の概要

1) 現況調査の期間

- ① 11月30日～12月 1日 宮城県
- ② 12月 8日～12月 9日 岩手県
- ③ 12月13日～12月14日 福島県
- ④ 12月21日～12月22日 茨城県

2) 調査員

① 宮城県

11月30日

宮城県自閉症協会会长：目黒久美子

日本自閉症協会：吉濱暢恭、全国自閉症者施設協議会広報委員長：森下尊広

12月 1日

日本自閉症協会理事：三苦由紀雄、宮城県自閉症協会会长：目黒久美子

全国自閉症者施設協議会広報委員長：森下尊広

② 岩手県

12月 8日

岩手県自閉症協会会长：熊本葉一

日本自閉症協会：吉濱暢恭、全国自閉症者施設協議会広報委員長：森下尊広

12月 9日

日本自閉症協会理事：三苦由紀雄、岩手県自閉症協会：熊本葉一

全国自閉症者施設協議会広報委員長：森下尊広

③ 福島県

12月13日～14日

全国自閉症者施設協議会会长：五十嵐康郎、福島県自閉症協会会长：酒主照之

全国自閉症者施設協議会広報委員長：森下尊広

④ 茨城県

12月21日～22日

茨城県自閉症協会会长：高山孝信

日本自閉症協会事務局長：山浦正市、全国自閉症者施設協議会広報委員長：

森下尊広

3) 現況調査を調査協力機関等

(11月30日～12月1日 宮城県)

市町村名	仙台市	泉区泉中央 2-24-1
機関名	機関（仙台市発達障害相談センター アーチル）	
連絡先	電話番号（022-375-0136）	
担当者	佐藤 幸子（所長）	

市町村名	仙台市	宮城野区福田町 1-11-1
機関名	学校（仙台市立高砂小学校 支援教室）	
連絡先	電話番号（022-258-1088）	
担当者	菊池 秀敏（校長）、遠藤 真利子（特別支援教諭）	

市町村名	仙台市	宮城野区鶴ヶ谷 5-22-1
機関名	学校・（鶴ヶ谷特別支援学校）	
連絡先	電話番号（022-252-4231）	
担当者	中山 伸枝 校長（震災当時：沖野小学校 10日間避難所）	

市町村名	仙台市	若林区河原町 2-2-3
機関名	施設名（社会福祉法人みづきの郷 のぞみ苑分場 南材ホーム）	
連絡先	電話番号（022-215-6951）	
担当者	千葉 はるみ（支援課長）	

(12月8日～12月9日 岩手県)

市町村名	盛岡市	内丸 10-1
機関名	機関（岩手県保健福祉部障がい保健福祉課）	
連絡先	電話番号（019-629-5446）	
担当者	小澤 豊和（主任）	

市町村名	盛岡市	内丸 10-1
機関名	機関（岩手県教育委員会）	
連絡先	電話番号（019-629-6143）	
担当者	佐々木政義（課長）、佐藤 淳（主任指導主事）	

市町村名	盛岡市	手代森 6-10-6
機関名	機関（岩手県発達障がい者支援センター ウィズ）	
連絡先	電話番号（019-624-5141 019-601-2609）	
担当者	渡邊 逸夫（部長）、古内友子（主任）	

市町村名	宮古市	緑ヶ丘 2-3
機関名	機関（NPO 法人宮古圏域障がい者福祉ネット 地域活動支援センターみやこ）	
連絡先	電話番号（0193-71-1245）	
担当者	高屋敷 大助（相談支援専門員）	

市町村名	宮古市	崎山 5-88
機関名	学校・施設名・機関（はまゆり学園）	
連絡先	電話番号（0193-62-0759）	
担当者	畠中 正人（指導係長）	

市町村名	宮古市	崎山 5-88
機関名	学校（岩手県立 宮古恵風支援学校）	
連絡先	電話番号（0193-63-0400）	
担当者	菅原 寿（教諭）	

(12月13日～12月14日 福島県)

市町村名	福島市	杉妻町 2-16
機関名	機関（福島県庁 保健福祉部障がい福祉課）	
連絡先	電話番号（024-521-7171）	
担当者	熊坂 和美（主査）	

市町村名	郡山市	桑野 1-5-17 深谷ビル B棟 101号
機関名	機関（JDF 被災地障がい者支援センター）	
連絡先	電話番号（024-925-2428）	
担当者	岡部 聰（所長：自立生活センターオフィス IL） 宇田 春美（相談支援専門員）	

市町村名	郡山市	富田町上ノ台 4-1
機関名	機関（福島県発達障がい者支援センター）	
連絡先	電話番号（024-951-0352）	
担当者	後藤美智子（主査）、川島慶子（心理判定員）	

市町村名	郡山市	富田町上ノ台 4-1 福島県養教教育センター内
機関名	学校 (福島県立富岡養護学校)	
連絡先	電話番号 (024-952-6497 024-952-6680) 養教センター	
担当者	大関 彰久 (校長)	

市町村名	田村市	船引町船引字中島 22
機関名	施設名 (社会福祉法人福島県福祉事業協会 児童デイサービスのびっこらんど田村)	
連絡先	電話番号 (0247-73-8253)	
担当者	持館 純子 (サービス管理責任者)	

(12月21日～12月22日 茨城県)

市町村名		
機関名	機関名 (茨城県自閉症協会 会員)	
連絡先	電話番号 ()	
担当者	茨城県自閉症協会 会員4名、非会員1名	

市町村名	ひたちなか市	高場 2452
機関名	学校 (茨城県立勝田養護学校)	
連絡先	電話番号 (029-285-5644)	
担当者	和田 健児 (校長)、安達 正男 (副校長)	

市町村名	東茨城郡	茨城町大字小幡 2766-36
機関名	施設名 (知的障害者入所更正施設 あいの家)	
連絡先	電話番号 (029-292-8228)	
担当者	高松秀彦 (施設長)、大野 真裕 (発達障害者支援センター長)	

市町村名	潮来市	大賀 438-4
機関名	施設名 (社会福祉法人 鹿島育成園)	
連絡先	電話番号 (0299-66-3439)	
担当者	奥野 玲 (事務局長)	

(2) ケース検討の実施内容

平成24年2月26日の第4回検討委員会において、その出席メンバーによって以下の3例のケースについて検討を行った。

1) 東日本大震災からの避難生活

「私の地域は原子力発電所の立地町～放射能から逃れた今～」

○Tさん一家のプロフィール

以下は、福島第一原子力発電所の立地町から地域ぐるみ5回も引っ越しという避難所生活をつづけ、23年12月末に、集団の避難所から神奈川県のアパートに引っ越し、家族3人と犬一匹の生活をはじめたTさんの例です。

Tさんは、現在41歳。一人息子のお子さん（12歳、小学校6年生）は、軽度の発達障害と診断されています。家族構成は、父、母、発達障害の男子の3人。

Tさん、妻、従業員数人の飲食店を経営していました。

○23年3月11日から神奈川県に引っ越しまでのTさんのTさんの手記

ア 地震・津波発生一小学校へ避難

3月11日14時46分、自宅にいた私の2台の携帯電話のエリアメールが鳴り響きました。最近、大きな地震が続いていたので、「今回は危ない」と感じ妻の手を取り、外に逃げました。その瞬間激しく大きな揺れがきました。とても立っていられず両手、両足をついていました。「子供は大丈夫だろうか?」心配でしたが何もできません。しかし、まだ学校にいる時間だから先生に守ってもらえる。そう思い耐えました。

地震がおさまると、津波のため避難指示がでました。私は妻と一緒に子供が通う小学校に避難しました。子供の教室に行ってやっと無事を確認してホッとしました。子供が「お父さん今日は学校に泊まるの?」と聞いてきたので「そうだよ。」と答えると「わ~いわ~い」と喜びました。子供は発達障害なので、この先の事が想像できないので、友達と明日まで一緒遊べる。その事が嬉しそうでした。周りには泣いている子や不安な顔をした子がいるのに・・・・でも無事でなによりでした。

避難所で一夜を過ごし翌早朝、自宅にペットの犬を連れに行き校庭につなぎました。その数時間後、「原子力発電所から放射能を放出するので10キロ圏外に避難します。」と言われマスクを渡され窓からできる限り離れるように指示されました。ペットは連れて行けるのかと聞くと「それはできません」と言われました。家族なのに・・・惨い仕打ちです。

外には、警察官と自衛隊の人が防護服を着用して警護にきました。「えっ!」と驚きました。私たち民間人に防護服はありませんでした。避難車両に乗り込

む時、外気は焦臭い異臭がしました。

この時すでに放射能は放出されていたに違いありません。

イ 次の避難所へ

次の避難所につきましたが、そこには、すでに何百人も避難していて私達は校庭で待機しました。3時間位してさらに避難することになりました。次の移動手段は大型バスでした。

ウ 30キロ圏外へ避難—小学校の体育館

30キロ圏外に避難です。避難経路は1本だけなので、やはり大渋滞です。5時間程かかり到着しました。定員オーバーだったので私は立ちっぱなしだったので足と腰がガクガクしていました。一緒に同乗していた小学生の息子のいとこは、バスの中で何回も吐いてしまいました。

到着したのは小学校の体育館です。地元の方々が床にシートを敷き準備をして待機していました。ありがとうございました。自分の場所を確保し用意されていた、段ボールを床に敷き、間仕切りを作り、やっと腰を下ろせました。ジェットヒーターがあったので、とても暖かく落ち着きました。体育館にはテレビが用意されていて地震や原子力発電所の情報が得られましたので助かりました。

翌日には2キロ離れた所にスーパーやホームセンターがあると聞き、歩いて毛布や防寒着などの買い出しに行きました。私はお金を持って避難したので余裕がありましたが、ほとんどの人が「着の身着のまま」で避難しているので個人差がありました。食事は一人一食おにぎり一個でした。それも、お塩も海苔もまいてない冷たいおにぎりでした。そんな状況でも子供はわがままを言わず我慢をして毎日楽しそうに遊んでいましたが、時々見せる顔には不安や悲しさが見えていました。

エ 埼玉県の避難所へ

数日が過ぎ次の避難所に移動すると2日前に指示がでました。持つて行ける物は膝に置けるだけでした。私は毛布を持ちました。新しく買ったものもありましたが、膝に置けるだけの荷物ということでしたので、それらの物はすべて置いてきました。

4回目の避難所は、埼玉県でした。そこでは支援が充実していました。食べ物、飲み物、衣服、散髪、住宅、子どもに対する学習など十分すぎる支援でした。「ありがとうございます」。

しかし避難者の居場所は段ボールを敷いたプライベートがない状態で、ホームレス同様の生活空間でした。翌日10日ぶりの入浴ができました。

私達はいつまで、ここに居られるのか、帰る家もなく、仕事もなく、この先どう生きていいのか、方向性も見いだせない状態で不安がいっぱいでした。

オ 5回目の避難所—埼玉県の廃校になった避難所へ

そして2週間後、5回目の避難場所移動です。次は廃校になった高校です。2000人いた避難者も親類などを頼りに各地に出て行き1400人になりました。

廃校の避難所では教室、体育館などに振り分けられ、一人1.5畳ほどの割り当てで数世帯での共同部屋です。食事の時間、消灯の時間、清掃分担、各部屋の長などの決めごとの生活で、まるで強制収容所のように思いました。自分たちの生活リズムなんてありませんでした。このような生活の中でも支援が数多く、コンサートや旅行、遊園地、食事会など、さまざまイベントがあり、楽しませてもらひ感謝しています。

子供はこの避難所から区域の小学校に通うことになりました。今までの学校には支援学級がありませんでしたが、この学校にはあるので、子供は今まで通常学級でつらかったぶん、気持がずいぶんと楽になったようです。

しかし、最初に避難した小学校に繋いできたペットが気がかりです。生きているのだろうか？それとも・・・と考えると怒り、憎しみ、悲しみが湧き上がります。

ある日、動物愛護団体のチラシをもらいました。そこには私の故郷まで動物保護のため連れて行ってもらえる事が書いてありました。早速、電話して翌日一緒に行けることになりました。到着後すぐにペットを確認しに行くと、そこには繋いだはずの犬がいませんでしたが放された形跡があったので、誰かに助けてもらえたんだと確認できたので自宅付近、町内を探しましたが、見つかりませんでした。帰りに自宅の庭にありったけのペットフードを置いてきました。

「何とか生きていてほしい」そう願い、故郷を後にしました。その深夜愛護団体の方から電話が入り、私が帰った後、保護した犬が私の愛犬に似ているとの情報です。画像を送ってもらい確認すると私の愛犬でした。翌日引き取りに行き無事に戻ってきました。愛護団体の方「ありがとうございました」

カ 避難所から出て神奈川県のアパートへ

さてこの先、どう生きていくのか考えるも、私たちには夢や希望など、命以外全てを奪われ人生が変わってしまった今、まずは日常の生活ができる環境を整えなければ先には進む事ができないと思い、ペットを含め家族だけで住めるところを探し、昨年の12月にやっと、避難所から出て日常生活をする準備ができました。震災から9ヶ月、これからが人生の再スタートです。なれない土

地ですが一歩ずつ進んで生きて行くしかありません。

キ 現在の状況

現在、Tさん一家は、ペット（大型犬のゴールデンリトリバー）と一緒に、神奈川県のアパートに住み、お子さんは、地元の特別支援学級に通っています。この4月からは、同じく地元の公立中学校の特別支援学級に進学することになっています。

健康状況については、お子さんは18歳になるまでは、放射能の影響を加味した健康診断を福島県が実施することのこと。

ただ、放射能の被爆の検査は全員にあったが、「大丈夫です」の一言であり、原発災害を住民には伝えず、関係者だけ防護服を着て避難を呼びかけたことを考えると、何も信用できないというのが本音のようです。情報の隠ぺい・発信の在り方、場当たり的な対策に憤りを隠せないTさんでしたが、ここから、これから災害対策のシステム作りが見えてくるのではないかでしょうか。

Tさんに、お子さんとともに含めて現在の状況、これからのことなどを聞いてみました。

○転々と避難生活を重ねたお子さんの状況について

お子さんは、軽度の発達障害をもっていますが、集団の避難生活が地域ぐるみということもあって、学校の友だちと遊べるということが嬉しかったようです。「この先の不安や見通しがもてないために」とTさんも書いていますが、避難先の体育館などでは、興奮状態がつづき、毎晩夜遅くまで友だちと遊びまわっていて、探しにいかなければ自分の居場所に帰ってこず、生活のリズムが崩れてしまったということが一番懸念されたことのようでした。

埼玉県の4番目の避難所では、学習サポートがあって、とてもありがたかったということでした。

また、5番目の埼玉県の廃校に避難してからは、近くの公立小学校に編入でき、障害程度を考え、特別支援学級に入ったそうです。

地元の小学校には特別支援学級がなく、学習についていけなかったお子さんには、副担任がついてくれてはいたが、通常学級で、つらいときが多くたただろとお父さんは推測、5番目の避難所ではじめて焦点のあった教育を受けられたということが、ありがたかったといっています。ただ、本人は、いきなり、大人数の通常学級から少人数（4人）の特別支援学級に入ったことで、「お友だちがいなくなっちゃった。まちがいじゃないの」という戸惑いも最初あったようですが、お子さんに焦点をあてた学習内容を受けることができるようになって、次第に安定してきたということでした。

集団避難から、神奈川県に引っ越した理由は、一つは、子どもの将来を考えて、就労をめざした支援教育を受けることの出来る学級が近くにあるのではないかということ、および大型犬のペットといっしょに暮らせる場所を選んだということのようです。

神奈川県に越して、はじめて一家の生活のリズムが取り戻せ、その結果、お子さんも安定してきたとのことです。

○将来について

お子さんは、今春中学に入るので、少なくとも、中学3年間は神奈川県にいたいとのこと。その先については、今後の保障問題のめどが立たない限り、まったく見えない。お店をもつには借金しなければならないが、これも保障とのからみなので、どうなるのかは、まったく分からぬ。立地町には戻れる可能性は絶対ないと思うので、立地町の人たちと一緒に頑張るしかないということでした。

Tさんの例をみても、「日常」が崩れてしまったことによって、お子さんの生活のリズムが崩れ、夜中まで遊びまわってしまうという状況になってしまい、学習支援、学校支援が整備されていく中で、安定した状況に戻っていった経過が見られます。

「一日も早く日常にもどすこと」の大切さを、Tさんのお子さんの例は示しています。

Tさんを支えたのは、家族、そして、「家族の一員である」ペットの存在だったとTさんは、いっていました。お子さんのために、ペットのために、一番よいと思われる場所に引っ越したTさんですが、通常でも社会適応、地域で安心して生きていくことの困難なお子さんが、「なれない土地で生きていく」ための「場所づくり」「支援づくり」のためには、自閉症・発達障害を理解する人をふやしていくこと、いざという時の支援の積極的なシステムを作っていくことが、Tさんのお子さんをはじめ、自閉症の人たち、家族の将来を支えることになるとを考えます。

2) 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故にかかる避難状況

富岡養護学校

【自閉症の生徒の事例】

1 高等部2年(3月11日時点)、男子、自閉症

父親は原子力発電所勤務

2 避難生活の状況

○3月12日 川内村に移動

- 富岡町に在住しており、地震の翌日に避難指示が発令され、富岡町の避難所

である川内村へ自家用車で移動した。車になかなか乗れないことも多いため心配していたが、前もって言い含めていたこともありスムーズに車に乗って移動することができた。

- ・ 避難先であった川内小学校の校舎内に入ることができず、当日は車内で生活していた。

○ 3月16日 ビッグパレットに移動

- ・ 避難指示範囲が20kmに拡大したため、第二次避難先に移動することになっていたが、ガソリンがなくなっていたこともあり、バスでの移動を余儀なくされた。何度もバスに乗って移動することを説明してたこともあり、最終便のバスに乗車することができ、郡山市のビッグパレットへ移動した。

○ 3月17日 郡山高等学校の体育館に移動

- ・ 数日間は穏やかに避難生活をしてたが、ボランティアで散発屋さん来て、いつもと違った雰囲気になり、その後体育館に入れなくなった。
- ・ 郡山市の叔父の家で入浴後、家から動かなくなるなど落ち着かない生活が続いた。
- ・ 郡山高等学校の体育館での避難生活でも体育館内に入れない状態が続いた。
- ・ 自閉症親の会の方が避難所を訪れ、郡山福祉センターを紹介してくれた。
- ・ 郡山市福祉センターへ連絡したが、郡山市の施設なので市外の人は利用できないと断られる。

○ 3月25日

- ・ 県の災害対策本部からあぶくま養護学校の避難所を勧められた。見学に行つたがビッグパレットと同じような状態なので入所を断った。
- ・ あぶくま養護学校長に県に郡山福祉センターに入れるように連絡をお願いした。また、郡山福祉センターにいた「あいえるの会（郡山市障がい者生活支援事業）」の宮下さんにも間に入ってもらった。
- ・ 雪が降ってきたため、宮下さんが自宅に泊めてくれた。

○ 3月26日 郡山市福祉センターへ入ることが決定

- ・ 10日余り少し落ち着いた生活を送ることができるようになり、食事もきちんととれるようになった。
- ・ 福祉センターの避難所閉鎖とともに避難場所の移動を余儀なくされた。

○ 4月5日 郡山市内のビジネスホテルを紹介してもらい入所

- ・ 2、3日は落ち着いていたが、部屋の一斉清掃の日から落ち着かなくなる。
- ・ 食堂で食事をする事ができないため、車内で食事をしていた。食事後は社外に出ていた。
- ・ 夜遅くまで建物の中に入ることができず、朝方になってから車内に入ることもあった。
- ・ 食事をとるとき以外は、車内にいて唾を吐き続けていた。

○いわき市へ転居（4月16日）

- ・ 避難生活も限界にきていたため、移動予定であつたいわき市へ本人が寝ている間に荷物をまとめ転居した。
- ・ 父親が東電関係の仕事をしており、母親と二人で過ごしていることが多かった。
- ・ 4月中は、夜起きて家の周りを歩き回り、朝方4時ごろ寝るという昼夜逆転の生活が続く。
- ・ 4月末に担任が家庭訪問し、その日のうちに分教室を設置してあるいわき養護を見学した。
- ・ 母親が食事を作っているときは、車内におり、声掛けによって家の中に入ってくる状態が続いた。
- ・ 6月ごろから生活のリズムが整ってきた。
- ・ 7月に入ったころから、ほぼ毎日登校できるようになり、調子が良い時は清掃も行っている。4校時あたりから午後3時ごろまで学校で生活するパターンが多くなった。

○8月（夏休み中）

- ・ 6月ごろから生活のリズムが整ってきたが、入居しているアパートの通路に座り込んだり、ドアを開け放したりしてしまうため、住人の通路を妨げてしまっており、管理人から注意を受けた。
- ・ 夏休み中は、アパート住人の苦情があったこと、外には出られないということを言い聞かせ、2、3日は車内で駐車場を転々としていたが、その後夕食後の散歩しかアパートの外に出なくなってしまった。

○現在の様子

- ・ 以前に比べればだいぶ落ち着きを取り戻しているが、落ち着かない状態は続いてたままである。
- ・ 夜はなかなか寝ずに、開けたドアから外を見ていたりしている。眠くなると戻ってくるといった状態が続く。
- ・ 2学期からは、2時間目から下校時まで学校にいられるようになってきている。
- ・ 1学期間付添だった母親も、学校にいる間は自宅に戻れるようになった。
- ・ 集団での活動は難しいため、個別に本人の興味に沿った学習を行っている。

3) 東北大震災 自閉症の人々とその家族の日々

岩手県自閉症協会

①はじめに

3. 11の大震災から1年近くが過ぎた。未曾有の災害の中で、自閉症の人々とその家族はどのように今までの日々を辿ってきたのだろうか。大きな被害を受けた沿岸部はもちろんのこと、内陸で被災した自閉症児者にとっても様々な苦難や混乱を経験し、今現在もその渦中にあって日々の暮らしを懸命に繕っているところもある。その中で、自閉症という特有の障害のある者やその家族の直面する新たな課題も、喜びの発見もあった。それらのことを、被災されたご家族の事例をもとにまとめてみた。

②3. 11～その時～

「Yさんの場合」

大津波警報が出る中で、私は自閉症の長男（19）と二男（18）を車に乗せ避難所へと向かいました。しかし、自閉症の長男は、何故か指定の避難所へ行くのを強く嫌がりました。仕方なく、私は正反対の高台に向けて車を走らせたのです。思えばこのことが私達の命を救ってくれました。もし、指定の避難所に向かっていたのなら車もろとも津波に飲み込まれていたでしょう。避難所に通じる道路は、一旦低い土地へ下がらなければならず、また、多くの避難する車で渋滞していました。津波は、避難所へと通じる道路も、車も、そして我が家もすべて飲み込んで行きました。正に九死に一生を得た思いでした。

私は、とっさにコンビニに駆け込み、ホッカイロとソーセージを買い込みました。自閉症の子どもを抱えながら、それでも避難所に行くことはためらいました。その日は一晩、せまい軽自動車の中、大人3人でしのぎました。

翌日、あまりの寒さに耐えかね、避難所へ行きました。毛布をもらいに行つたのです。毛布は奪い合いのようになっていました。私は、絶対にこの子を守ろうという想いで、必死に訴えました。うちには障害を持った幼い子どもがいます、どうか毛布を分けてくださいと・・。親切な男性の方が、あなたの分を1枚とつておいたよと分けてくださいました。1枚の毛布を車全体にかぶせるようにして寝ました。

しかし、大の大人3人に軽の車は小さく、足が狭くて一晩中等々眠れませんでした。自閉症の子どもにとって大勢の人のいる体育馆は、厳しい環境です。それでも車の中での生活には限界があり、意を決して避難所の体育馆に移りました。

体育馆は運動をする場所。大勢の人のざわめきが聞こえる中、息子は案の定、体育馆の中を走り回ったりとび跳ねたりしました。「うるさい。走らせるな！」と怒鳴り声を上げられたのは、他でもない毛布を分けてくださった男性の方でした。避難しているみなさんが、それぞれ、苦しい思いを抱え、ギリギリのところで命

をつないでいることを改めて思いました。私は、息子に毛布をかぶせ、静かにするように言いました。みな苦しい中で、自分だけが障害を持っている子どもを理解してもらおうとはとても考えられませんでした。そして、何としてもこの子は自分が守ろうと思いました。依然として夫とは連絡が取れない状態でした。

自閉症の息子も、何か感じるところがあったのでしょうか。それ以来毛布をかぶったまま起き上がるとはしませんでした。トイレに行く時、ご飯を食べる時、毛布の中から顔を出し、「ごめんなさい。ごめんなさい。もうしません。」と謝りながら起きるようになりました。

③避難所の問題

岩手県自閉症協会では、アンケートに答えてもらう形で協会員の被災状況や自閉症の方々に関わる問題などについて調査した。その中で、最も問題意識が高かったのが避難所での生活である。

自閉症の子どもを持つ保護者の多くは、避難所で多くの人と一緒に生活することは難しい、ましてや体育館での避難生活は絶対に無理であると考えている。体育館で避難するくらいなら、車で寝泊まりする方がまだましであると考える保護者も少なくないのである。前述のYさんも、やむを得ず体育館に避難したが、そこでの生活は長く続かず、その後公民館などを転々とすることになってしまった。

多くの自閉症の子どもを持つ親は、同じ障害のある人たちが、同じ場所に避難できることを望んでいる。それは、同じ障害を持つ者同士理解しあえることや、よけいな気を使わないで済むことが第一の理由である。その為に、各都道府県には福祉避難所があるのだが、岩手のそれは、内陸盛岡に一つだけ設置されているだけだった。多くの人は、福祉避難所なるものがあることすら知らなかつたし、知っていても沿岸の地域では何の役にも立たなかつたのである。

震災後、沿岸の地域では福祉避難所が次々と指定されている。各市町村単位で、福祉施設等を中心に行き避難所として契約を交わすことが可能であることが分かったからである。「後の祭り」的ではあるが、震災を経験して初めてそういう問題意識を持ち、対応に乗り出したのである。私達協会としては、それを保護者に周知しておく必要があるだろうし、自閉症に特化した避難所の設置も考えなくてはならない。また、支援学校や支援学級を自閉症や発達障害のある人達に優先的に開放してもらえるよう働きかけていかなくてはならないと思うのである。

避難する場所の問題と同時に避難先での生活にも課題は存在している。

避難所で出される白いご飯は食べられないという子どもがいた。ふりかけがないとだめなのである。一日中やることがなくて問題行動を起こす子どももいる。必要な薬が手に入らず身体的な危機状況に直面する子どももいるであろう。

懐中電灯や携帯ラジオなど、緊急時の持ち出し用品を常日頃から準備している家庭も少なくないであろう。同様にして、自閉症児者のいる家庭では、自閉症の

子ども個々に応じた緊急時用の持ち出し用品を準備しておくことが必要ではないだろうか。

④どの子どもも不安定になった

「Yさんの場合」

息子には、自閉症特有のこだわりがありました。365日の毎日と言っていいくらいに、近所の特定の店に行き決まったお菓子を買います。そしてその中のおまけの絵本を集めるのが好きなのです。そのおまけの絵本には番号が付いており、100番を超えてまだ終わらないものでした。息子は何年もかけてそれを1番から順にそろえ、リビングの壁一面を埋めるほどのコレクションをしていました。避難所での生活の中でもその要求はありました。「マイヤ(いつも行く店)に行く。お菓子を買う。」と日課ともなっている行動を要求してきます。数日たってから、私は、息子をそのお店に連れて行きました。津波で壊れたマイヤを見て、息子は事態を理解したようです。そして、津波で無くなってしまった我が家にも行きました。土台だけとなってしまった家の跡に、わずかに、息子のコレクションしていたおまけの絵本が散らばっていました。息子は、それを拾い上げ、悲しそうにそれを眺め、そして閉じて戻ってきました。何が起ったのか、自分のコレクションがどうなってしまったのかを悟ったように静かに帰ってきました。子どもにとっての日常が何もかもなくなってしまったのです。

息子は、転々とする避難所での生活の中で、指かじりなどの自傷行為が多くなりました。今まで薬によって治まっていたてんかんの発作も頻発するようになりました。この生活の激変は、息子にとって大きなストレスであったことは間違いないことです。

自閉症の子どもにとって、日常がなくなることは大きなストレスである。それは、避難所で生活をしている子どもに限らない。

今回の震災は、内陸にも大きな被害をもたらした。津波の被害こそなかつたが、どの家庭もライフラインが止まり、何日もの間自宅での避難を余儀なくされてのである。電気が止まり、水道が止まり、ガスが止まった。情報も交通も流通も止まってしまった。学校は休校になり、職場も閉鎖になった。悲しいことに家族を失った自閉症の人もいる。つまり、どの自閉症の人も、多かれ少なかれ日常を失ったのである。そしてそのことは、どの子どもにも共通に、大なり小なりの困難(混乱)を引き起こしている。

ア 感覚が過敏になったこと・・・もともと自閉症の人は、感覚過敏である。特に聴覚的な刺激には過敏に反応する。そして、多くの子ども達が、揺れに対して敏感に反応するようになった。繰り返し起こる余震をいち早く感じ取り、「地震です。地震が来ます。」と言う子どももあれば、その度に怖がる子どももいる。

イ 確認行動・・・日常がいつもとに戻るのかは、自閉症の子ども達にとって最大の関心事だったのかもしれない。「電気はいつ点きますか」「水はいつ出ますか」「3月19日は卒業式です」など、繰り返し尋ねてくる。今回の震災は、卒業式シーズンでの出来事であり、卒業式や終業式など学校行事の予定変更が大きな不安材料となっていた。

ウ 復旧要求・・・内陸では地震による被害が大きかった。道路はひび割れ隆起し、橋は崩れたり通行止めになったところがある。あちこちの家の塀が崩れ、瓦屋根が落ちた。もちろん自分の家も被害に遭っていて、壁にひびが入ったり窓ガラスが割れたりする家も多い。自閉症の多くの子ども達は、それらを修繕するよう要求して来る。「壁を直しましょう」「明日アサヒペイント来るねえ」「道路を直してください」と子ども達の復旧要求は、毎日のように続くのである。

エ 謝罪行為・・・「ごめんなさい。ごめんなさい」この震災は誰のせいでもない。そんなことは誰もが分かっているが、自閉症の子ども達は、自分のでかした何かの報いとでも感じるのだろうか。電気がつかないことが、水が出ないことが、自分が悪いのだと思い、ごめんなさいを言わずにおれない姿には心が痛むのである。

オ 出来なかつたことが出来るように・・・自閉症の子ども達は、この壮絶な状況の中でどうにもならないことを悟るのであろうか。多くの子ども達が、立派とも思えるような行動をとる。今まで出来なかつたことが出来るようになるのである。例えば、一人でなければ寝れなかつた子どもが大勢の中で寝たりとか、こだわりを止められればパニックを起こしていた子どもが、静かに我慢していたりとか、多くの子ども達がそのような行動を示している。前述のYさんの話の中でも、毎日行かなければ気が済まないお店に行けなくなつたことをきちんと理解しそれを諦めることが出来ているのである。

上記の5つのことは、どの子どもにも見られる現象であった。自閉症の子どもの一番の困難さの一つは見通しの持てなさであるが、今回の震災はまさに、日常そのものが失われたのである。

彼らにどんな支援が必要であろうか。あるご家庭では、とにかく具体的な見通しを示すことを心がけた。「電気は、3月14日につきます。水は3月15日に出ます。」と具体的な日にちを知らせた。実際は、その予告日には、復旧にならず、その後、子どもに詫びて期日を2度延長したそうであるが、不確かな情報であれ、具体的な見通しを示すことは有効な支援であるのかもしれない。

⑤制度の落とし穴

「Yさんの場合」

私達は、4日間体育館の避難所にいました。そこでは、地域の方が中心となって

自治会が出来上がり、互いに協力しながら、炊事当番やトイレ掃除の当番などを行いました。私は、自閉症の子どもを抱えていましたので、地域の分かってくださっている方々が、それはいいからと当番を代わってくださいました。しかし、みなさんも大変な中何とかやっているのに、自分だけがという思いにもなり、親切にしてくださる方々に「すみません。すみません」と頭を下げていました。そして、もう一つの気持ちの中では、こんな状況の中でも、やはり頭を下げなければならないのかと思いました。

体育館では難しい状況が続き、もう少し広くて区切られたスペースのある公民館に移ることにしました。その時も、みんながここで頑張っている時に・・と思ひながら、移ることの理由を考え一生懸命に言い訳をしていたのでした。

新しいところは、行政が食事の面倒もトイレの掃除もしてくれました。それは、とても気が楽になることでしたが、避難する場所によってこんなにも違いがあるのかと感じました。しかし、やはりそこでも自閉症の息子はうまくいかずには場所を移しました。

高齢者や障害のある人を優先的に市の施設に移ることが出来ると聞き、それに申し込みました。そして、母子寮と言う市の施設に移ることが出来ました。しかし、そこは、部屋こそ個別に与えられましたが、古い木造の住宅で、何世帯かが入る長屋のような建物でした。トイレも風呂も炊事場の一つしかない共同でした。入居になったのは、自閉症の子を持つ私たち家族とあとは皆さんご高齢の方ばかりでした。介助の必要な方もいらっしゃる中、和式のトイレにもたれかかる様にして用を足すお年寄りの方々の姿がありました。当然、トイレや風呂を掃除する働き手は我が家しかなく、一人で掃除に追われるという毎日が続きました。

部屋の中でとび跳ねたり声を出す息子は、そこでもご迷惑をかける存在でした。これならば、元の避難所の方がよっぽどよかったですと思ってしまいました。

その後、被災地の生活も少しずつ落ち着き、仮設住宅の仮設住宅の建設も始まりました。アパートなどを借りてもそこも仮設の住宅として認められるという情報もありました。

しかし、私達は仮設住宅にもアパートにも移ることができませんでした。役所の方の話によれば、母子寮と言う市の施設に入っているから仮設住宅やアパートは認められないということでした。そのような法律があるのです。災害救助法という法律の中で、「被災者は必ず1度救わなくてはならない」という決まりがあるのですが、裏を返せば1度救えば2度目はないということらしいのです。私達は、そこから移ることが出来なくなりました。

今、主人の会社のご厚意により無料で会社の社宅に住まわせてもらっています。まだまだ安定しませんが、とりあえず住む場所については何とか落ち着きました。しかし、まだ、あの木造の建物にご高齢の方が住んでいらっしゃることを思うと、苦しい思いがいたします。

⑤おわりに

今回の震災では、多くの自閉症の方とそのご家族が危機的な状況の中にあった。しかし、どの家庭においても強い絆の中でこの困難を乗り越え安定を取り戻そうとしている。その原動力は、自閉症の子を支える家族の想いである。そして、家族を支えるために、学校や施設や関係のネットワークが大きな力となった。さらにそこを地域や行政が支えてくれた。外部からの支援も大きな支えとなつた。しかし、思えば、そのように多くの支援の手を集め人と人との絆を固く強くしていったのは、他でもない自閉症の人そのものである。こうして彼らを支援することによって、実は、私たち自身が支え合う喜びの中に居させてもらつていてことを感じざるを得ないのである。

この経験を是非とも次の備えとして役立ててほしい想いである。

2 アンケート調査の実施内容

(1) 調査の対象

被災県（岩手県、宮城県、福島県、茨城県）の自閉症協会の会員（平成23年11月8日現在）の会員を対象とした。

岩手県（229人）、宮城県（156人）

福島県（379人）、茨城県（211人）

計 975人

(2) 調査の時期及び期間

調査時点は、平成23年12月6日とし、郵送日から2週間後の12月24日を提出期限として、実施した。

(3) 調査事項

①本人の状況（基礎データ）、②災害時の状況、③被害の形態と状況、④避難の状況、⑤災害前と災害後を含めた本人の全般的状態、⑥本人の行動や状態の変化、⑦災害後の状況、⑧要望事項、⑨家族の状況などについて調査した。

(4) 調査の方法

調査票の配布および回収は、郵送により行った。

(5) 調査票

調査票は、以下のとおり。

アンケート調査票

平成 23 年 12 月 6 日

被災地のみなさま各位

社団法人日本自閉症協会

東日本大震災の被災による自閉症をはじめとする発達障害のある方々の 行動の変化と支援に関するアンケート調査票

三月の震災から、はや 9 か月が過ぎようとしています。みなさま、その後いかがお過ごしでしょうか。被災につきまして、再度心からお見舞い申し上げます。

このアンケート調査は、日本自閉症協会が厚生労働省の平成 23 年度障害者福祉推進事業の一環として実施するもので、自閉症をはじめとする発達障害のある方々についての災害の際の行動の変化を明らかにし、より適切な支援の方法や体制を構築するための基礎とすることを目的としています。

お答えいただいた内容につきましては、個人情報の保護に万全を期すとともに、調査結果の集計以外には使用いたしませんので、調査のご協力のほどお願い申し上げます。

つきましては、**12 月 24 日(土)**までに、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

ご記入者 (あてはまる方に○をおつけ下さい。複数の場合はその方々にも○をつけて下さい。)

①ご本人 ②父親 ③母親 ④兄弟姉妹

⑤その他 ()

該当する方 1 名に対して調査票 1 組をご使用下さい。

調査票を複数必要な場合は、日本自閉症協会事務局にご連絡下さい。

I 災害後の状況についてお伺いいたします

1 今回の災害において何らかの避難をされましたか (あてはまるもの 1 つに○をおつけ下さい)

- ・ はい : ①継続中 ②1 カ月以内 ③1 週間以内
- ④その他 ()
- ・ いいえ

2 災害後の主な生活場所の経緯 (生活場所が変わった順に番号を記入して下さい)

- ①自宅 ②避難所 ③福祉避難所 ④車
- ⑤親戚・知り合い宅 ⑥施設 ⑦仮設住宅
- ⑧賃貸住宅 ⑨その他 ()



3 このたびの災害で、ご家族が一番大変だったことはどのようなことですか？

II 現在および今後の要望についてお伺いいたします

1 災害時の支援についてお伺いいたします。

(1) どのような支援が特に必要でしたか (主なもの3つに○をおつけ下さい)

- ①家族の安否確認ツール ②福祉避難所 ③物資の配給 ④ボランティア
- ⑤発達障害児者への理解・配慮 ⑥医療の支援
- ⑦本人が安定する場・対応 ⑧原発事故に対する避難
- ⑨その他 ()

(2) 「役立った支援」は何番でしたか (上記の番号をお書き下さい (複数可))

回答 ()

(3) 「欲しくても、得られなかった支援」は何番でしたか (上記の番号をお書き下さい (複数可))

回答 ()

2 災害時の情報についてお伺いいたします

(1) 「欲しくても、得られなかった情報」は何ですか? (主なもの3つに○をつけて下さい。)

- ①家族の安否確認 ②地震、津波などの災害の状況 ③原発事故の状況
- ④福祉避難所 ⑤原発事故に対する避難 ⑦物資の配給
- ⑧ボランティア ⑨発達障害児者への理解・配慮 ⑩医療の支援
- ⑪本人が安定する場・対応 ⑫その他 ()

3 今後ご本人にどのような支援が必要でしょうか (あてはまるものすべてに○をおつけ下さい)

- ①心のケア ②居場所づくり ③医療の場
- ④その他 (具体的に :)

III ご家族の方にお伺いいたします

ご記入者：（あてはまる方に○をつけて下さい。複数の場合はその方々にも○をつけて下さい。）

- ①父親 ②母親 ③兄弟姉妹
④その他（ ）

これまで、いろいろなご苦労があったと思います。いま感じている思い、要望、困っていることなど、なんでもお書き下さい。

IV ご本人の状況についてお伺いいたします

ご本人の状況(基礎データ)

1 災害時の住所: _____ 県 _____ 郡・市 _____

2 年齢: _____ 歳 性別: 男 · 女

3 診断名: _____ · 未診断

4 手帳を持っていますか。（どちらかに○。有の場合は手帳の種類及び等級を記入してください。）

有 (手帳の種類: _____ 等級: _____) · 無

5 服薬について（あてはまるものに○をおつけ下さい）

災害前に薬を定期的に飲んでいましたか

有 ①情緒や行動に対して ②てんかん ③体の薬
④その他 () · 無

災害後に薬を手に入れて飲むことができましたか

①災害前と同じようにできた ②できなかった
③その他 () · 服薬無

V 災害時の状況についてお伺いいたします

1 災害時にはどこに所属していましたか（あてはまるものに○をおつけ下さい）

- ①就園前 ②幼稚園・保育園
③小学校 (通常学級 · 通級 · 特別支援学級 · 特別支援学校)
④中学校 (通常学級 · 通級 · 特別支援学級 · 特別支援学校)
⑤高等学校 (通常学級 · 通級 · 特別支援学級 · 特別支援学校)
⑥在宅 ⑦一般就労 ⑧福祉的就労 ⑨施設入所
⑩その他 ()

2 要援護者名簿に登録していましたか（あてはまるもの1つに○をおつけ下さい）

- ①登録していた ②登録していなかった ③登録について知らなかった
④その他（ ）

3 防災訓練に参加したことがありますか（あてはまるもの1つに○をおつけ下さい）

- ①参加したことがある ②参加したことがない
③その他（ ）

4 3月11日に災害に遭った場所はどこですか（あてはまるもの1つに○をおつけ下さい）

- ①自宅 ②外出先 ③学校 ④会社（就労先）
⑤下校・帰宅途中（徒歩）
⑥下校・帰宅途中（送迎バス・各種交通機関） ⑦その他（ ）

5 その時、一緒にいた人は、だれですか（あてはまるものすべてに○をおつけ下さい）

- ①教員 ②職員 ③ともだち ④家族 ⑤自分ひとり
⑥その他（ ）

6 災害時のご本人の反応・行動はどのようにでしたか（あてはまるもの1つに○をおつけ下さい）

- ①無反応 ②恐怖で動けない ③パニックを起こした
④周囲の指示に従った
⑤その他（具体的に： ）

VII ご本人の現在の様子についてお伺いいたします（あてはまるもの1つに○をおつけ下さい）

- ①ほぼ日常に戻った ②災害時と変わらない
③災害時よりも落ち着きがない
④その他（具体的に： ）

VIII 被害についてお伺いいたします

1 被害の種類についてお伺いいたします（あてはまるもの1つに○をおつけ下さい）

- ①地震 ②津波 ③地震と津波 ④原発事故 ⑤地震と原発事故
⑥津波と原発事故 ⑦地震と津波と原発事故
⑧その他（具体的に： ）

2 被害の状況についてお伺いいたします

（1）ご本人の状況（あてはまるもの1つに○をおつけ下さい）

- ①健康 ②けが（状態： ）
③病気（状態： ）
④情緒不安定（状態： ）
⑤その他（ ）

(2) ご家族の状況 (あてはまるものに○をおつけ下さい。その他の方は状態をご記入下さい)

- ・父： ①健康 ②けが ③病気 ④情緒不安定 ⑤行方不明 ⑥死亡
⑥その他 ()
- ・母： ①健康 ②けが ③病気 ④情緒不安定 ⑤行方不明 ⑥死亡
⑥その他 ()
- ・その他の方 () (状態：)

(3) 家屋などの被害状況 (あてはまるもの 1つに○をおつけ下さい)

- ①被害なし ②一部損壊 (状況) ③半壊 ④全壊
⑤その他 ()

(4) 学校、施設、職場などの被害状況 (あてはまるもの 1つに○をおつけ下さい)

- ご本人： ①被害なし ②学校の被災 ③施設の被災 ④職場の被災
⑤その他 ()

- ご家族： ①被害なし ②職場の被災 ③その他 ()

VIII 災害前と災害後を含めてのご本人の全般的状態についてお伺いいたします (あてはまるもの 1つに○をおつけ下さい)

1 人との関係

- ①特に変わりはない
- ②災害前よりもむしろよくなっている
- ③悪くなったが今は災害前と同じ程度にもどった
- ④災害前より悪くなり、現在も続いている
- ⑤その他 ()

2 言葉について

- ①言葉については特に変化はなかった
- ②災害後、一時期言葉が無くなり、今は元に戻った
- ③災害後、言葉が無くなり今も続いている
- ④以前から言葉は無い
- ⑤その他 ()

IX 本人の個々の行動や状態の変化についてお伺いいたします

1 項目ごとに、あてはまる主なもの 1つに○をおつけ下さい

(1) 興奮やいらだち

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
- ② " 災害後に強くなり、今は無くなっている (元に戻った)
- ③ " 災害後は少なくなっている
- ④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
- ⑤ " 現在も続いている

- ⑥このような症状は今まで見られない
⑦その他 ()

(2) 自傷

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
③〃 災害後は少なくなっている
④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
⑤〃 現在も続いている
⑥このような症状は今まで見られない
⑦その他 ()

(3) 人への攻撃性

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
③〃 災害後は少なくなっている
④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
⑤〃 現在も続いている
⑥このような症状は今まで見られない
⑦その他 ()

(4) こだわり

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
③〃 災害後は少なくなっている
④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
⑤〃 現在も続いている
⑥このような症状は今まで見られない
⑦その他 ()

(5) 落ち着きのなさや注意散漫

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
③〃 災害後は少なくなっている
④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
⑤〃 現在も続いている
⑥このような症状は今まで見られない
⑦その他 ()

(6) 眠れない

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
- ②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
- ③〃 災害後は少なくなっている
- ④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
- ⑤〃 現在も続いている
- ⑥このような症状は今まで見られない
- ⑦その他 （ ）

(7) 夜半に起きて騒ぐ

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
- ②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
- ③〃 災害後は少なくなっている
- ④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
- ⑤〃 現在も続いている
- ⑥このような症状は今まで見られない
- ⑦その他 （ ）

(8) 甘え（赤ちゃんがえりなど）

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
- ②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
- ③〃 災害後は少なくなっている
- ④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
- ⑤〃 現在も続いている
- ⑥このような症状は今まで見られない
- ⑦その他 （ ）

(9) 動作が突然止まってしまう

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
- ②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
- ③〃 災害後は少なくなっている
- ④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
- ⑤〃 現在も続いている
- ⑥このような症状は今まで見られない
- ⑦その他 （ ）

(10) 不安やおびえ

- ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
- ②〃 災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）
- ③〃 災害後は少なくなっている

④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった

⑤　〃　現在も続いている

⑥このような症状は今まで見られない

⑦その他 ()

(11) 閉じこもり

①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている

②　〃　災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）

③　〃　災害後は少なくなっている

④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった

⑤　〃　現在も続いている

⑥このような症状は今まで見られない

⑦その他 ()

(12) 無いものが見える、聞こえるなど（幻覚体験）

①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている

②　〃　災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）

③　〃　災害後は少なくなっている

④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった

⑤　〃　現在も続いている

⑥このような症状は今まで見られない

⑦その他 ()

(13) 頭痛、腹痛、吐き気、めまい、頻尿、夜尿などの体の症状

①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている

②　〃　災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）

③　〃　災害後は少なくなっている

④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった

⑤　〃　現在も続いている

⑥このような症状は今まで見られない

⑦その他 ()

2 上記1の(1)～(13)の状態で一番困っている項目はどれですか、番号に○をして下さい。

(1)興奮・いらだち (2)自傷 (3)人への攻撃性 (4)こだわり

(5)落ち着きのなさ・注意散漫 (6)眠れない

(7)夜半に起きて騒ぐ (8)甘え (9)動作が突然止まってしまう

(10)不安やおびえ (11)閉じこもり

(12)無いものが見える、聞こえるなど（幻覚体験）

(13)頭痛・腹痛などの体の症状

3 その他、困っている本人の状態などをお書きください。

(具体的に :)

4 最後に、災害後に、生活などに変化をもたらした本人の状態があればお書き下さい。

(具体的に :)

お差し支えなければ、ご氏名・ご連絡先をご記入ください。

保護者のご氏名 :

ご住所 : 〒

お電話番号（つながりやすいところをご記入ください）:

本調査にご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げますとともに、1日も早い復興と皆様方のご健康をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

本調査に関するお問い合わせ先

社団法人 日本自閉症協会 山浦、吉濱

住所 〒104-0044 東京都中央区明石町 6-22 6F

電話 03-3545-3380 Fax 03-3545-3381

E-mail asj@autism.or.jp

3 防災・支援ハンドブック作成の実施内容

1) 作成方針について

防災・支援ハンドブックの作成にあたっては、平成23年11月27日の検討委員会に作成を主に担当する出版委員会の基本方針を提出し、検討の上、作成作業に取り組んだ。自閉症の人たちのための「防災ハンドブック」の改訂の基本方針について（案）は次の通りである。

自閉症の人たちのための「防災ハンドブック」の改訂の基本方針について（案）今般表記の改訂の基本方針については、次の事項を基本方針として進めることとする。

- ① 平成20年度に作成した「自閉症の人たちのための防災ハンドブック～支援する方へ～」と「自閉症の人たちのための防災ハンドブック～自閉症のあなたと家族の方へ～」を初版として、改訂版を作成する。
- ② 東日本大震災の被災地の現況調査及びアンケート調査の結果を踏まえ、各項目に関して必要に応じた改訂を図り作成する。
- ③ 災害の影響の大きさから、広く各方面、各関係機関からの情報収集や意見聴取を進め、改訂の参考とするとともに必要に応じて掲載等を図り作成する。
- ④ 個人情報の保護につきまして十分配慮するとともに、ご協力いただく関係者の方々への配慮を図り、また、各掲載事項につきましても必要に応じ十分事前協議を行い作成する。
- ⑤ 各関係機関、関係者の早期の活用が必要とされることから、効率よい作成作業に取り組み、早期の配布を実現するように努める。

以上が方針である。

前回の「防災ハンドブック」は、阪神淡路大震災、新潟中越地震、新潟県中越沖地震等の経験を教訓に生かしていくもので、災害としては地震等が中心でしたが、今回作成する「防災・支援ハンドブック」は、前回の経験や教訓等から必要な部分を継続して取り上げるとともに、今回の東日本大震災を受けて地震に加え、津波、原発事故等も含めた災害への対応を取り上げることとしました。しかしながら、東日本大震災は未曽有の大災害であり、作成に当たる時期は災害発生時から7ヶ月しか経っていないこと、また、原発事故対策が継続されていることから、前回の「防災ハンドブック」のように経験や教訓をさまざまな被災者や関係者、地域等から収集し、集約していくことは容易ではないと判断しました。この時期における作成としては、犠牲になられた方々への鎮魂と被災された方々への励まし、支援を図るためにどのようなことが成しえるのかという視点を持ちつつ、今後、災害が起きた場合を想定して、事前の備えや災害時の対応等、今回の災害から早急に改善していく対策等について取り組むこととしました。

2) 作成方法等の検討及び作業の経過について

「防災・支援ハンドブック」を作成するに当たって、出版委員会では、作成方法、具体的には企画、編集の仕方等について検討を重ね、その結果、次のような企画、編集の仕方で進めることとしました。

(1) 情報の収集と情報の共有

出版委員会では、東日本大震災に関する情報収集が必要と考えましたが、従前の地震、津波に加え、原発事故への対応等、新たな課題が呈せられ、また、被災地も広域にわたることを考慮した情報収集が必要となりました。このことから、情報収集の様々な方法を検討し、また、企画、編集に当たって共通の取り組みができるように情報の共有を図りました。

① 東日本大震災に関連する情報の収集と情報の共有

国、都道府県、被災地の各市町村等からの情報や関係機関の情報等について直接、間接にメディアを通して情報収集を図り、委員会内で情報の共有を図りました。

② 東日本大震災の現地情報に関する直接的な収集及び現況調査や関係者との連携

現況調査に出版委員会からも派遣して被災地の情報を得るとともに、被災地の情報提供等、協会会員、地域の方々、関係機関等との連絡がとれる状況を作りました。また、現況調査を実施した委員には事前に調査項目に出版委員会として必要とされている情報の収集を依頼し、実施後に情報や具体的資料の提供を受けました。

③ アンケート調査による被災地の自閉症の人と家族の方々の状況等の把握

被災地4県の自閉症協会会員に依頼する調査である、「東日本大震災の被災による自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査」では作成原案段階から関わり、災害時の状況、必要だった支援、事前の状況、本人の状態や変化に加え、支援等の要望事項を記載してもらい、被災状況、本人の状況、今後の支援の観点が明確化されるようにしました。

④ 地震、津波、原発事故等の専門家、専門機関からの情報提供

東日本大震災の地震、津波の規模の大きさから、地震、津波とそれらの防災対策、防災教育・訓練のあり方については、より専門的な立場からの情報提供が必要と考え、第一線の研究者の方々の協力依頼を試み正確な情報提供が受けとることが可能となりました。

⑤ 被災地の自閉症協会からの情報の収集、情報の提供

東日本大震災発生後から地震や津波、原発事故の被災地である東北4県の自閉症協会と連絡をとり安否確認等をはじめ、現地の情報の収集、提供や、アンケート調査の実施についても種々の配慮、協力により回収が可能となりました。

⑥ 被災地への支援機関、支援者等からの情報の収集、情報の提供

東日本大震災直後から、日本各地から被災地へ支援機関、支援者等が入り支援を実施しており、その中には医療チーム等もあり、自閉症や発達障害の人たちへの心のケア等への取り組みが行われており、それらの情報の収集を図り情報提供を受けることが必要と考えました。

(2) 企画案の検討

さまざまな情報の収集、現況調査、アンケート調査等の進行に並行して、今回作成する「防災・支援ハンドブック」の構成、内容等、企画案の検討を進めました。以下のような点について企画案を作成する上での検討事項として検討を加え、また、新たな情報の収集等の基づき、適宜、企画案の修正を図ることとしました。

①本人・家族向け編と支援者向け編の2種類の作成

本人の防災力を高め、災害から身を守るために、また家族が災害への備えができるように「本人・家族向け編」を作成する。また、自閉症の特性に合わせた支援が図られることを願って、「支援者向け編」を作成する。

この2種類の防災・支援ハンドブックがあり活用されることが必要である。

②「防災ハンドブック」の継続内容の選択

継続内容を検討し、継続する内容、部分変更する内容、新規作成の内容に分ける。

③災害対応を中心に構成を変更し整理

構成は、災害に対しての準備から直面した場合の対応、さらに避難等、災害後の対応等について区別し、「災害前準備・備え」、「災害時対応」、「災害後の対応」等として構成し理解しやすくする。

④災害発生からの時間的経過を考慮して被災地の状況を直に伝えていく方法

東日本大震災から被災地の現況調査が始まったのは9ヶ月後であり、まだ行方不明者の捜索や原発事故での避難が続く現状がある。被災の状況や支援の課題等の現状をできるだけ多く伝える内容から、今後に繋げていく課題を明確化できるようにする。

⑤アンケート結果の反映

アンケート結果として、要援護者名簿への登録、防災訓練等の災害前の備え、災害時の対応、災害後の避難所の生活、また、自閉症の人の行動の変化等を掲載する。

⑥現況調査の結果の反映

被災地東北4県の調査の結果から従前の防災ハンドブックの内容で修正、加筆すべき事項、また、新たに作成すべき内容を選択する。

⑦現地関係者からの直接意見等

現況調査から得た協会会員、関係機関の方々や専門機関の情報や意見聴取を掲載し被災地の現状や今後への課題等を具体的に提示する。

⑧専門家の情報提供

地震、津波等について、専門的な研究の立場から災害への備え、対処の仕方等について最新の情報を提供を受け、掲載する。

⑨医療機関の情報提供

被災地での医療機関の方々、また各地から支援チーム等として被災地で医療活動をされた医療機関等から災害後のP T S D等、実際の支援を通した心のケアについて掲載する。

⑩要望事項の反映

被災地からのアンケート調査には、災害後の支援、今後の支援等、必要とされる支援についての回答があり、多くの要望が挙がっている。防災と支援に関する緊急的な対策を必要としていることについて掲載する。

(3) 企画案の決定と原稿依頼等、編集作業

平成23年12月には企画案を検討し、12月下旬より原稿の執筆者への依頼等をはじめました。今回の企画案については、被災地の情報に基づいて作成されていることが特徴で、特に、原稿執筆については、被災地、あるいは被災地に直接関係されている方々に依頼し、掲載することとしました。その掲載の多くは、被災地の会員、相談機関、支援機関、医療機関、教育機関等の関係者の方々により構成されることとなりました。

調査等の結果

IV 調査等の結果

1 現況調査

(1) 特別支援学校・特別支援学級

4県の調査において、ほとんどの特別支援学校は指定避難所ではなかったため、保護者はわが子を連れて近隣の避難所、親戚宅、車中泊、倒壊しかかったわが家に帰るしかなかった。一部地域では、指定避難所になっていたが、一般市民と一緒に避難生活であったため、1週間もいられなかった。

1) 仙台市立高砂小学校

宮城県仙台市立高砂小学校は、学校自体が指定避難所になっており、そこの特別支援学級では、震災当日市職員が備蓄米を持って学校に入り、地区割りを行って、地区長と避難所運営を行った。「このままでは、支援学級の生徒の居場所が確保できない」と、危機を感じた支援コーディネーターの先生が、普段から校長と自閉症児への支援の難しさを共有していたことから、校長にお願いして市職員・地区長に掛け合い、体育館の音響室を確保することが出来た。日頃からの連携の大切さを感じたという。

2) 岩手県立宮古恵風支援学校

岩手県立宮古恵風支援学校では、津波被害が大きかったために、保護者と連絡がとれず、校長の判断で1週間ほど生徒を預かった。

3) 福島県立富岡養護学校

福島県立富岡養護学校は、富岡養護学校を避難所として設定されていたが、避難してきたのは数名のみであった。校舎に亀裂が入るなど、地震による被害のみだが、原発事故により、いわき市の聾学校へ避難し、教師の車で子どもたち全員を家族に引き渡した。翌日10キロ圏内避難指示が出たため、校長も含めて各避難場所に避難した。現在は、県内9つの養護学校に分教室を設けて授業を行っている。元々の在校生が116名で、県外避難児童が60名弱いる。一時帰宅時に校舎から卒業証書を持ち出し、7月に各分教室を回って渡した。高校生には集まつてもらって卒業式を行った。東洋学園の子どもは千葉県に集団で避難しているため、戻り次第卒業証書を渡すことを予定している。いわき市に仮設の校舎を作って、来年4月1日に開設を予定している。戻れない児童は転校することになる。

相談のたらいまわしが行われるなど、障害のある人は後回しになっている。避難先では「やかましい」「だまらせろ」といわれて保護者が疲れ果ててしまい利用できない状況がある。仮設住宅やアパートの2階には住めない。

避難区域以外にも関わらず、交通遮断休暇をとって県外に避難した教員がいたり、

辞めた教員もいて、教員不足の状態になっているとのことだった。校長自身も被災者の身であることから、この件と行政の人が現場に足を運んで施策を進めて欲しいなど、行政の対応に対しても憤慨していた。自閉症協会の人は安否確認が取れたが、流動的に移動することによって把握できない状況があった。

放射能は車、衣類、屋根瓦等に吸着して除染しても容易に落ちないとのことだった。

「高等部2年の自閉症の男性の避難事例」

養護学校高等部2年の自閉症の男性の事例では、3月12日に川内小学校に避難したが、校舎内に入ることができず、車内で生活し、3月16日避難指示範囲が20kmに拡大し、ガソリンがなくなったために、なかなかバスに乗ることができず、最終のバスで郡山市のビッグパレットに移動した。17日に郡山高等学校の体育館に移動したが、ボランティアの散髪屋さんが来て、雰囲気が変わったために体育館に入れなくなった。自閉症協会の方が郡山福祉センターを紹介してくれたが、郡山市の施設なので市外の人は利用できないと断られた。3月25日に県の災害対策本部からあぶくま養護学校の避難所を勧められたが、ビッグパレットと同じ状況なので断って、あいえるの会の宮下さんに間に入ってもらって26日に郡山福祉センターに入ることができたが、福祉センターの避難所閉鎖とともに移動を余儀なくされ、4月5日郡山市内のビジネスホテルに入館した。数日は落ち着いて過ごせたが、部屋の一斉清掃があってから落ち着かなくなり、車内で過ごすことが多かった。

避難生活も限界に達していたため、本人が寝ている間に荷物をまとめていわき市へ転居した。4月中は夜起きて家の周りを歩き回り、朝方4時ごろに寝るという昼夜逆転の生活が続いた。6月頃から生活のリズムが整ってきたが、落ち着かない状態は続いており、夜はなかなか寝ないで、開けたドアから外を見たりしていて、眠くなると戻ってくるという状態が続いている。

（2）県保健福祉部障がい福祉課・県教育委員会

1) 岩手県保健福祉部障がい福祉課

自閉症児者への直接的な人的被害の報告はなかった。しかし、家族の死亡や、家屋倒壊などの自閉症児を取り巻く大幅な環境変化が見受けられ、避難所などでの生活を余儀なくされたことから、災害発生初期は避難所生活が困難な事案や心理的ストレスを抱える発達障害児者への課題が見受けられた。

発生後の支援経過について

①安否確認及び支援ニーズの把握。

②避難所での支援要請

- ・岩手県自閉症協会の要請を踏まえ、県が発達障害児支援の簡易チラシを作成し、各市町村に避難所での掲示を要請したほか、岩手県公式ホームページに

も掲載した。

③相談支援専門員などによる支援

- ・専門相談窓口を岩手県立療育センターに設置したが、震災に関する新規相談は少なく、震災前から受けていた発達障害者支援センターの継続した相談が中心だった。
- ・相談支援体制を充実させるため、障害者相談支援センターの開設、及び沿岸地域の相談支援事業所に対して相談事業の委託を行った。

④子どものこころのケアの取り組み

- ・東日本大震災に係る被災児童全般への対応として、心理的なケアが必要な児童及び保護者への直接支援のほか、関係機関との連携により、子もが受けた被災ダメージからの回復を図るために、「子どものこころのケアセンター」を設置し、児童精神科医師による診察、支援者等へのレクチャー、関係機関とのコンサルテーション、家庭、保育所等訪問を実施した。

2) 岩手県教育委員会

①学校現場での支援経過について

(児童生徒への「いわて子どものこころのサポートチーム」設置について)

ア 児童生徒への教育相談活動

- 県外の臨床心理士を各学校に派遣し、相談活動やストレスマネジメントの指導などを実施。特別支援学校へは週当たり 13 名を 6 週間（延べ 78 名）派遣した。
イ ハイリスクな児童生徒については、特別支援学校特別支援教育コーディネーターや医療機関につなぐなどの対応を実施した。
ウ 夏季休業以降は、県内の臨床心理士や県内各大学（岩手大学、盛岡大学、岩手県立大学）の連携により、担当地域を決め、ニーズに応じた支援の実施を予定している。

(こころのサポート研修会)

- ア 4 月に県内 17ヶ所で、震災にあった児童生徒の基本的な対応についての教育研修を実施した。
イ 夏季休業中の全県 13ヶ所で 1 学期の取組成果と課題、及び今後の対応に関する教育研修を実施した。

②特別支援学校における支援

岩手県特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを対象に震災によるストレスを抱えた発達障害児への対応研修を JDD ネットの協力を得て実施した。また、沿岸部の特別支援学校 4 校において、市町村教育委員会を通じて支援の要請のあった 38 校について、継続的に訪問支援を実施している。

3) 福島県保健福祉部障がい福祉課

今回の震災ではとにかく原発の問題が大きく①準備期間のない突然の避難②避難先から次の避難先に転々と移る状況③役場機能の分散、情報管理の限界④自治体による対処の差を痛感した。

①ニーズ把握と支援の困難性

ア 緊急で大規模な住民避難・役場機能の移転

震災からしばらくは行政機能が低下し、住民がどこに避難したのかを把握するのが難しい事態になり、障害のある人たちがどこに避難しているのか、困っていること、支援してほしいことは何かを把握することはさらに難しい状況だった。

イ 支援をすること、受けることの難しさ

4/10～13にJDDネットによる巡回相談と地域の状況把握を実施。その中の報告では、避難所で生活が難しい人や震災後に不眠や退行がみられた子どもの話があり、1人1人が困難を抱えていた。しかし、「このぐらいは大丈夫です」「もっと大変な人がいるから」との返答が多くあり、我慢している傾向が見られた。

②支援を上手く受けることの大切さ

障がい福祉課主査の熊坂さんは、災害時には、支援を上手く受けること、相談することの大切さを感じたという。また、支援者側が外部からの支援を上手く受け入れることも大切。そして、災害時には支援者側も混乱するため、外部の方からの支援で客観的に事態を把握することも大事と語る。

③支援の課題

ア 避難の今後の見通しがもてない。特に相双地区の子どもたちの落ち着き先の見通しが立たない。

イ 現状出来ることは、今後の支援のための個別の支援計画の基となる発達アセスメントを提供していくこと。

ウ 石巻で開発した発達アセスメントの様式にそって福島県4ヶ所、親の会が設定した相談の場所において、派遣された専門家が発達アセスメントを行う。

④JDDネットの被災地支援

「いつもの日常を取り戻すために／新しい日常を創り出すために」をスローガンに以下の支援計画を立てている。

ア JDDネットとしては、子どもたちの日常を取り戻すために、日常的な発達支援が機能できるための取り組みを行う。

イ 個別の支援計画のための発達アセスメント様式を現地のニーズを聞きつつ、専門家チームを派遣して作成し、その普及のための講習会を各地で実施する。

ウ 6月以降に、宮城県、福島県において、現地の児童デイや親の会などの設定した場所で実際の支援を行う。

エ 今後は、変化していく現地のニーズに対応して支援を構成する。

(3) 発達障害者支援センター

1) 仙台市発達障害相談センター（アーチル）

①災害直後の対応

- ・小さい子どものいる家族の多くは、仙台市を離れ、他県へ避難した。
- ・学齢児のいる家族の多くは、避難所へ行かず自宅で過ごした。
- ・重症心身障害児のいる家族は、吸引の電源を車からとるために車中泊をした。
- ・自閉症児の多くは自宅で過ごした。
- ・アーチルへは建物の安全確保ができるまで、閉鎖せざるを得なかった。
- ・色々な機関から、安否確認の連絡が入り、重複していたため被災者から苦情があつた。
- ・こころのケアチーム・ハートポートから、アーチルへ要請があり、こころのケアチームとして若林区、宮城野区へ職員を派遣し、福祉避難所へ出向いたが、ほとんど高齢者と精神障害者からの相談だった。
- ・現在、震災当時からどのような状況だったのか、徐々に情報が集まっている。
- ・震災当日から1ヶ月～2ヶ月くらいまでは、みんな大人しく生活していたが、徐々に震災前に見られていたこだわり行動が出てきているとの声が多い。

②対応の難しさ

- ・情報の伝達の難しさ。「助けて」を言わない人や言えない人、我慢してしまう人等、SOS をどこに発信しどこが受けて、どこからどこに助けが来るのか？明確になっていなかった。
- ・震災後の行動で、高機能自閉症やアスペルガー症候群の人に多かったのが、ポータブルゲーム機への依存。避難生活でやる事がなく、毎日ポータブルゲームに没頭し、日常生活に戻るのが大変という声があった。
- ・障害特性の問題ではなく、日頃から孤立している家族があった。ネットワークから漏れた家族をどう拾い上げるかが課題だ。
- ・アーチル近辺では、3月11日～4月20日まで春休みだったところが多く、「長かった」という保護者の声が多かった。

③良かったこと

- ・保育所の再開が早く、震災翌日にはオープンしたことにより、保護者が物資の調達や復旧に力を注ぐことができた。

④今後について

- ・民生児童委員は、地域によって支援のバラつきがある。要援護者リストを活用してほしい。
- ・民生児童委員と保護者の関係性、学校と民生児童委員の関係の強化を図るべき。
- ・親亡き後の対応が困難。

- ・「地域生活、地域生活」と言うが、特別支援学校の場合、遠方から通学する生徒が多い。そうした場合、何処からが本人にとって地域なのか？やはり、特別支援学校を指定避難所にしなければ、近隣の避難所で一般の人と避難生活をおくるを得なくなるが、自閉症児者にとっては難しい。
- ・自閉症防災ハンドブックに、「助けて」の発信、スマーローステップから表記する。家族に、「これくらいでも、助けて」を発信しても良いと知ってもらう。それに伴い、福祉サービス利用の早期化を促す。災害時だけでは遅い。普段から、障害児サービスに慣れてもらう。関係性を広げておくことが大切だ。
- ・市民の「助けて」を、行政に伝えていく。
- ・若い保護者は、サービス利用率が高いが、年配の保護者は利用率低い傾向がある。

2) 岩手県発達障害者支援センター（ウィズ）

①災害直後の対応

- ・災害発生から 2 日間は、ウィズのある盛岡市も停電と断水が続いたため、パソコンや電話は使えない状況だった。
- ・13 日朝から携帯電話のメールアドレスが分かる相談者と、メールサービスが使えた相談者へメールで安否確認を送信した。13 日中に返信はなかったが、14 日ごろから徐々に被災地からメールで返信が来た。連絡手段の無い相談者の安否確認は新聞、インターネットの避難所名簿で行った。
- ・14 日朝から、県内各地の保健師、相談支援専門員に連絡し、安否確認と状況把握を実施した。
- ・災害時のメンタルケア、自閉症児者への対応について、メールが可能な地域に送信した。災害発生時から 1 週間はほとんど動きが取れない状況だった。

②現在の被災地支援について

- ・トラウマへの支援では、相談担当職員がこころのケアに関する研修会に参加し、巡回相談や親の会への参加時に対応方法の助言を行っている。
- ・JDD ネットいわてとも連携し、今回の災害に関する継続的支援を実施しながら、災害時の現状について整理している。また、JDD ネット（全国）をはじめとした各機関の活動に協力している。震災直後より知的障害者福祉協会、県社会福祉協議会が共同設置している情報交換の場に参加し、他障害の団体も含めて情報交換・連携を行っている。

3) 福島県発達障がい者支援センター

- ・突然の避難だったために薬に関する相談があった。自閉症協会の要望もあって、被害の大きい地域に内山先生（精神科医）に同行した。内山先生が数日分の薬を準備し、処方箋を書いてくれた。他に県外の避難先での医療機関や療育機関に対しての問い合わせの電話相談や転校先で同級生になじめないというような

相談があった。

フラッシュバックで、小さい揺れでも疲れなつたり、母親から離れられない。施設が避難している場所が狭く、退行現象が見られるなどの相談があった。

(4) 福祉機関や施設の対応

- 1) 宮古市圏域障がい者福祉ネット地域活動支援センターみやこ レインボーネット
 - ・コミュニティと両親・家を流され、ひきこもりだった高機能自閉症の人が、福祉サービスと繋がった。現在は、福祉サービスを受け生活している。
 - ・山形県都留児童相談所近藤先生率いる「こころのケアチーム」から、ひきこもりで発達障害かもしれないとレインボーネットに連絡あり、孤立せずに済んだ。
 - ・今回の災害後、被災地の銀行・郵便局などの金融機関では、障害者を持つ家族に対して積極的に成年後見人を申請するよう要求があった。理由としては、今回の災害で保護者が津波や事故で亡くなった事や、他人が家族を装い現金を引き出してしまった懸念からようだ。しかし実際に現地では、成年後見人申請の中で、コンピューター判定において IQ が実際より高めに判定が出てしまった。裁判所では書面での対応のため、処理にとても時間がかかる。成年後見制度を促す動きには理解できるが、申請まで 8か月以上かかり、お金もかなり高額なため財政面で家庭を圧迫してしまう。家族へのエネルギーが高くメリットが少ない。通帳管理や身元引受人くらいなら福祉課でも対応できるという意見もあった。メリットとデメリットがあるようだ。

2) J D F 被災地障がい者支援センターふくしま

3月19日に立ち上げ、4月頃から J D F として活動を開始した。相談支援事業の窓口を一つにして欲しいとの要望があり、5月に有志でスタートし、県と交渉して6月に予算が付いた。「被災障がい者個別支援」「被災事業所支援」「県外避難被災障がい者支援」「被災地の障がい者ニーズ調査・県外への避難所の情報提供と紹介」など幅広い支援に取り組んでいる。

①災害時の状況

- ・一時避難所に入れず、体育館の倉庫や駐車場で過ごす人がいた。障害者福祉センターを福祉避難所として指定してもらった。高齢者と障がい者が避難したために、自閉症の人に個室の利用を考えたが、郡山市と福島県が建物の管轄を巡ってトラブルとなった。交渉の結果、個室で受け入れられた。最初から避難所に行く気はなかったという声を聞いた。個室があれば良いと思う。養護学校が一般の避難所に指定されていたが、福祉避難所に指定されれば良かった。避難所指定は後追いだった。
- ・自閉症の人は仮設住宅は壁が薄いために希望しないで、借り上げ住宅に入っている。広域に借り上げ住宅を探して欲しいという相談があった。
- ・T V で相談を受けるテロップを流してもらったら一番多くの相談があった。

- ・ガソリンが手に入らないかという相談が多かった。緊急車両指定を受けて優先的にガソリンを入れてもらうことができると良い。
- ・子どもがいるので食材を買いにいくことができないとのことから、配食サービスを実施し、自閉症の子どもや外出困難な人も対象にした。

②今後の課題

- ・事業につながっていない人の把握が難しい。
- ・バリアフリー化の話しさは出るが、精神や自閉症の人に対しての配慮（個室など）が不十分、あきらめていると感じた。
- ・窓口とネットワークをどう築くかが課題だ。
- ・医療への取り組みは早かったが、相談体制が不十分だった。医療と福祉の接点をどう構築するかも今後の課題だ。
- ・原発事故に対しての備えが不十分だった。

3) 社会福祉法人福島県福祉事業協会（のびっこらんど田村）

①社会福祉法人福島県福祉事業協会について

同法人は、浜通り地区で知的障害児施設、知的障害者更生施設、知的障害者授産施設、生活介護、就労継続B、児童デイサービス事業所などを運営する総合施設である。多くの施設が警戒区域（半径 20 km 圏内）、緊急時避難準備区域、計画的避難区域に入っているために休業中等である。

②災害時の状況

- ・12 日午前に福島原発から半径 10 km 圏外に避難指示があり、東洋学園児童部・成人部、東洋育成園、GH富岡事業所計 165 名が川内村のあぶくま更生園に避難した。午後には 20 km 圏外に避難指示があり、川内村小学校体育館に避難（計 220 名）したが、体育館での避難生活が困難となり、同法人の施設である田村市多機能型事業所田村、児童デイサービス事業所田村の 2 箇所に避難先を移した。居住スペースが狭く劣悪な環境のため、各機関と協議し、避難先を千葉県鴨川市の千葉県立鴨川青年の家に移すことになり、4 月に千葉県立鴨川青年の家に移動した。

③今後の課題

- ・一般住民よりも避難が遅れたために、避難所の真中のスペースしか無く、体育館での避難生活は無理だった。地域交流はしていたが非常時はみんな自分のことで精一杯で障害者は後回しになってしまふため、福祉避難所を確保しておく必要がある。
- 仮設住宅は隣の部屋の爪を切る音が聞こえるような状態なので、自閉症などの避難生活場所としては不適当で殆どの人が希望しない。
- 次々と移動するために固定電話は使せず、携帯電話やメールが有効だった。

4) 知的障害者入所施設（あいの家）

① 災害時の状況

- ・食堂に全員集めて寝床とした。職員は、夜は通常2人体制を6人体制にした。
- ・暖房は、電気を使わない灯油ストーブが役立った。
- ・時間的に早出の職員も勤務中で多かったことが幸いした。
- ・災害時人材要請が県庁からあり、登録したがその後の連絡はなかった。
- ・運営は、ガソリンの問題もあり、施設まで送ってもらえるなら可とした。結果として1週間の休業となった。
- ・6人の職員以外は帰宅可能だった。
- ・通所利用者の家族への引渡しは、マイクロバスで4~5時間を要した。

② 今後の教訓について

- ・当施設は重度者が多く、福祉避難所としての対応は困難である。
- ・日頃の避難訓練が、重要だと実感した。
- ・水不足の対応が望まれる。

（5）自閉症協会会員への聞き取り

(Aさん)

災害時の状況

- ・被災状況：震度6、津波4.6m、家屋の壁にヒビ、被災により電化製品使用不可
- ・家族構成：高齢者（アルツハイマー：デイサービスへ）、両親、本人
- ・本人の状況：中学2年、災害時はランニング中であり、先生が同伴していた。全員で、その場で1時間待機した。自宅へは3倍ほど時間をかけて帰宅した。避難所（中学校へ）には「キャンプに行く」として同行した。
- ・災害後の変化：緊急予報の言葉「ただいまから・・・」を連発していた。
- ・ライフライン：電気及びガスは4,5日後に、水は12日後に復旧した。
- ・物資：水は2日後に給水車がきた。
- ・困難状況：情報収集は、小学校で。家庭用水の確保が難しかった。

(Bさん)

災害時の状況

- ・自宅：ガス支障なく、電気、水は翌日より使用可能。家族構成：3人家族
- ・本人の状況：通所施設、その場で待機した。近くのバス停まで迎えに行くが3時間遅れとなり19:00に合流した。ワゴン車で翌日まで好きな音楽を聴きながら過ごした。当人の変化は、特にない。食事は、主にフレークを食した。
- ・県協会からの情報：携帯メールの登録の依頼があった。

(Cさん：娘さん 21歳 自閉症)

- ・通所施設にいた
- ・避難所の中学校に 2週間ほどいた。
- ・上下水道が使えなくなり、簡易トイレを使用した。
- ・県からの物資として紙おむつが配布されて助かった。
- ・通所施設は 4月 1日から再開された。なお、再開に当たっては、施設及び行政への働きかけによって可能となったが、保護者による送迎が基本だった。
- ・災害後、掲示板を活用することで情報の共有化が図れた。
- ・本人は、インターネットなどを好み、変化なく生活できた。

(Dさん：息子さん 小6年生 自閉症)

- ・養護学校に通っており、昇降口で待機した。
- ・食料を確保するためコンビニに行くがお茶、チョコレートしかなかった。
- ・17:30頃に本人と合流し、中学校体育館に避難した。本人はテンションが高く、夜寝ない、笑う、寝ている人をまたぐといった状況だった。自宅は、一部損壊だが、井戸水、プロパンガスは使用可能のため一部を除き普通の生活が可能だった。
- ・その後実家で 3週間過ごしたが、家族のストレスなどもあり自宅に帰った。
- ・被災で感じたことは、水、アルファ米、簡易トイレ（紙おむつ）を事前に準備していたのが役立った。
- ・本人は、車の中が一番安定していた。

(Eさん：娘さん 14歳 広汎性発達障害)

- ・母親は職場で被災。机の下に潜り揺れを待つ。しかし、スチール棚が倒れてきて身動きが取れなくなり、しばらく脱出できない状態だった。
 - ・デイサービスにいっていた娘を通常は 10 分のところ 1 時間 30 分かけて迎えにいった。
 - ・震災当日、本人は喜んでいる様子だった。水は 1 週間後に使用可能となり、電気は太陽光で使用可能だった。
 - ・トイレは、自宅の敷地内のマンホールを利用した。
 - ・娘は震災後しばらく、1時間ごとに家の周りを大声を出して 2, 3 周走るという以前は見られない行動が続いた。また、TV 番組を見て、「つながろう日本。募金。母親の携帯番号」をチラシに書き、それを何枚も作成して周りの家などに貼る行動があり、母親はそれを回収して回るなど、3ヶ月ほど大変な面があった。また、TV を見ては「地震嫌い」「津波こわい」と書いていた。
- （要因としては、大好きな従妹が、本人宅に避難して同室するという環境の変化もあったのではないだろうか？震災前までは、大型の休みに従妹が尋ねて来たが、

今回は、休みでもなく、震災による突然の訪問だったので、本人なりの気持ちの調整ではないかと推測する。)

- ・6ヶ月たち少しづつ良くなつた。

(6) 調査のまとめ

1) 自閉症の障害特性を配慮した福祉避難所の指定

今回の調査によって、あらかじめ福祉避難所の指定がされていなかつたこと、一般避難所には本人が入れなかつたり、自閉症者特有の行動から周囲に気兼ねして居づらい状況があり、自閉症児者の家族の多くが、車中泊や避難所、親戚宅等を転々とせざるをえなかつたことが明らかになつた。指定避難所以外の場所では、救援物資の支給も受けられず、自閉症児を連れて2～3時間もお店に並ばなければならぬなど、食料品の確保にも苦労する状況だつた。

仮に福祉避難所があつても、高齢者、妊産婦、幼児等と同じスペースで過ごすことは困難と思われることから、自閉症児者の特性に配慮した福祉避難所の指定が必要である。条件としては、個室や仕切りで過剰な刺激を制限できること、自閉症児者の障害特性を熟知した支援者が存在することなどである。

発達障害者支援センター連絡協議会等で協議して、自閉症児者の災害時の避難所等についてあらかじめ指定しておく必要がある。避難所の候補としては、全国自閉症者施設協議会加盟施設、自閉症支援に取り組んでいる知的障害施設、特別支援学校などが考えられる。

日頃から、児童デイサービス、通所事業、短期入所、居宅介護、行動援護等の福祉サービスを利用していると、支援者が本人の特性を理解し、信頼関係が成立していることにより安心して避難生活を送ることができる。

避難生活が長期にわたる場合は、借り上げ住宅等に入居できるように配慮する。

2) 福祉サービスの早期再開

保育所が震災翌日にオーブンしたことで、保護者が物資の調達や復旧に力を注ぐことができて良かったという声があつた。一方でガソリンの確保ができないために事業再開が遅れたと思われるケースがあつた。児童デイサービス、通所事業、居宅介護、行動援護等の在宅者向けの事業の早期再開が望まれるが、早期再開には、ガソリンの確保が欠かせないので、優先的に給油を受けられるようとするべきである。事業所そのものが被災したり、避難等による人口移動に伴つて、利用者が急増した場合は、空教室や公民館等の代替施設で早期に事業を始められるようにする。

3) 安否確認及び情報伝達

今回の調査で、残念ながら「要援護者リスト」が機能したという情報はなかつ

た。安否確認や情報伝達は、自閉症協会、特別支援学校、福祉事業所などが会員、生徒、サービス利用者を通して行っていた。会員、生徒、サービス利用者等のつながりがある家族に関しては、安否確認や情報を得ることが可能だったが、孤立している家族の情報は得られなかった。このことから日頃から絆を深めておくことが重要と思われる。

J D F 被災地障がい者支援センターふくしまは、災害後、早期に自主的に活動を開始し、県と交渉した結果、県予算も付いて「被災障がい者個別支援」「被災事業所支援」「県外避難被災障がい者支援」「被災地の障がい者ニーズ調査・県外への避難所の情報提供と紹介」など幅広い支援に取り組んでいる。福島県の被災障がい者支援のセンター的な役割を担っていた。どの機関がセンター的な役割を担うかは各都道府県の事情もあるが、福島の例をみると組織の大・小ではなく、結局は「やる気」と「思い」のある民間の組織が担わなければ機能しない。各都道府県自閉症協会が、全国自閉症者施設協議会の会員施設や発達障害者支援センターと連携をとりながら被災時の安否確認や情報伝達の仕組みを構築しておく必要がある。なお、安否確認や情報伝達の手段としては、被災や移動によって固定電話が使用できないことが多く、携帯電話とメールが有効だった。相談機関や窓口の周知にはTV等のマスコミによる報道が有効だった。また災害時にはサポートシートや処方箋などのデータの消失や破損を防ぐために、個人情報に配慮した上で、発達障害者支援センター等の専門機関や本人宛メールの形で保存しておく必要がある。

4) 日本自閉症協会の災害対策

今回の教訓を生かして、災害時に全国組織としての行うべき支援内容を明らかにして、体制を構築する必要がある。現地のニーズを把握し、真に求められる支援を迅速に実行するためには、災害後の可能な限り早期に自閉症協会本部から現地にスタッフ（2名程度）を派遣し、現地の自閉症協会と合同で情報を収集し、対策を講じる必要がある。現地に派遣するスタッフが一貫性を持って取り組むために、一定程度の目途が立つまではスタッフが災害対策に集中して取り組める条件を保障しなければならない。災害時のスタッフの入件費、派遣経費、緊急援助などに必要な資金をいつでも使えるように別会計で災害対策積立金（仮称）を寄付や特別会費として積み立てておく必要がある。

災害時の体制については、自閉症に関わる職能団体である全国自閉症施設協議会、発達障害者支援センター全国連絡協議会と連携して取り組む。また、各都道府県レベルで自閉症専門施設や発達障害者支援センター等の関係機関と連携し、ネットワーク作りを強化する。

(7) おわりに

福島県の場合は、原発事故の影響が極めて大きく、避難区域外の郡山市等から多くの住民が県外等に避難している状況で、福島市、郡山市など何事も無かつたように見えても、教員が避難したり、県立の医療機関からも60名もの医師が退職するなど教育や医療に支障をきたす状況になっていると聞いて改めて原発事故の深刻さを痛感した。

今回の調査によって、震災前に福祉避難所の指定などの準備が殆どされていなかったことが明らかになった。原発事故という特殊性はあるものの、障害のある人は後回しで、非常時にもかかわらず、郡山市福祉センターが市民でないという理由で自閉症の人に避難場所を提供できないなど、行政が充分に機能しなかった様子をうかがい知ることができた。

その一方でJDF被災地障がい者支援センターなどのNPO法人がいち早く立ち上がり当事者から頼りにされている状況があった。被災県自閉症協会、東京都自閉症協会、JDFネット等が安否情報の確認や被災地支援に取り組み、関係機関等から頼りにされていた。大きな震災があった場合に即時に対応できるように日本自閉症協会としての体制を整える必要がある。

自閉症協会の会員については安否情報が得られやすいが、どこにも所属せず、サービスも利用していない人の安否情報を把握することは困難であり、行政任せでは無理なことが判明した。そういう意味では自閉症協会の会員拡大が災害時の対策の一助になると思われる。

各地の自閉症協会、発達障害者支援センター連絡協議会が協議して、震災発生時の連絡・支援体制等を決めておき、震災が発生した場合は直ちに情報交換の場を設ける。東日本大震災では事前の準備がなかつたために、発達障害者支援センターが機能を充分に發揮したとは思えないが、自閉症者施設や特別支援学校等を自閉症の人たちの福祉避難所に指定するとともに、発達支援登録証等を通して、自閉症の人たちの情報を把握し、震災時には、自閉症協会、行政、相談支援事業所、医療機関等と連携を取りながら、発達障害者支援センターが支援拠点として機能（コーディネート）するべきである。

某養護学校の大門校長から、被災者となって自宅を失いながらも踏み止まっている人がいる反面、教師や医師という職責にありながらいち早く逃げてしまった人もいると聞いた。被災地の現況調査を通して、被災地の一日も早い復興を願うと共に、日本自閉症協会は、震災時に自閉症の人たちが安心して過ごせるよう全力で取り組むことを通じて、全国組織としての責任を果たさなければならない。

※福祉避難所 大きな災害が起こったときに、介護の必要な高齢者や障害者、妊産婦、乳幼児、病人のうち、特別の配慮を必要とする人たちを一時的に受け入れてケアする施設。専門スタッフを配置した福祉施設や学校を自治体が指定することになっている

2 アンケート調査

(1) 回収状況等

調査票の配布及び回収数は以下のとおりである。

1) 回収率等

調査客体数	回収客体数	回収率	集計客対数
975	522	53.5%	514

2) 回答者の属性

年齢階層	男	女	計
0— 6 歳	24	3	27
7—12	64	22	86
13—18	113	20	133
19～	218	50	268
計	419	95	514

(2) 調査結果

1) 災害後の状況

①今回の災害における何らかの避難の有無

計	避難した					避難して いない	無回答
	継続中	1ヵ月以 内	1週間以 内	その他			
514	125	17	31	48	29	379	10
100.0%	24.3%	3.3%	6.0%	9.3%	5.6%	73.7%	1.9%

②災害時の主な生活場所の変化

計	なし	あり			無回答
			再掲 車中	再掲 避難所	
514	335	153	32	37	26
100.0%	65.2%	29.8%	6.2%	7.2%	5.1%

2) 現在及び今後の要望

①災害時の支援

ア どのような支援が必要だったか

計	家族の 安否確 認ツー ル	福祉 避難 所	物資 の配 給	ボラ ンテ ィア	発達障 害児者 への 理・配 慮	医療 の支 援	本人が 安定す る・対 応	原発事 故に対 する避 難	その 他	無回 答
514	222	167	222	36	230	38	288	58	42	23
100.0%	43.2%	32.5%	43.2%	7.0%	44.7%	7.4%	56.0%	11.3%	8.2%	4.5%

イ 役立った支援

計	家族の安否確認ツール	福祉避難所	物資の配給	ボランティア	発達障害児者への理解・配慮	医療の支援	本人が安定する場・対応	原発事故に対する避難	その他	無回答
514	39	10	85	20	28	22	55	4	15	288
100.0%	7.6%	1.9%	16.5%	3.9%	5.4%	4.3%	10.7%	0.8%	2.9%	56.0%

ウ 欲しくても得られなかつた支援

計	家族の安否確認ツール	福祉避難所	物資の配給	ボランティア	発達障害児者への理解・配慮	医療の支援	本人が安定する場・対応	原発事故に対する避難	その他	無回答
514	40	68	116	21	78	17	92	36	22	194
100.0%	7.8%	13.2%	22.6%	4.1%	15.2%	3.3%	17.9%	7.0%	4.3%	37.7%

②災害時の情報

欲しくても得られなかつた情報

- | | |
|----------------|----------------|
| ①家族の安否確認 | ⑦ボランティア |
| ②地震、津波などの災害の状況 | ⑧発達障害児者への理解・配慮 |
| ③原発事故の状況 | ⑨医療の支援 |
| ④福祉避難所 | ⑩本人が安定する場・対応 |
| ⑤原発事故に対する避難 | ⑪その他 |
| ⑥物資の配給 | |

計	①家族の安否	②災害の状況	③原発事故の状況	④福祉避難所	⑤原発事故での避難	⑥物資の配給
514	131	153	192	118	65	132
100.0%	25.5%	29.8%	37.4%	23.0%	12.6%	25.7%
	⑦ボランティア	⑧障害者への理解	⑨医療支援	⑩安定する場・対応	⑪その他	無回答
	21	96	26	114	27	72
	4.1%	18.7%	5.1%	22.2%	5.3%	14.0%

③今後、本人に必要な支援

計	心のケア	居場所づくり	医療の場	その他	無回答
514	164	364	90	81	68
100.0%	31.9%	70.8%	17.5%	15.8%	13.2%

3) 本人の状況

①災害時の住所

計	岩手県	宮城県	福島県	茨城県
514	111	105	173	125
100.0%	21.6%	20.4%	33.7%	24.3%

②年齢

計	0～6 歳	7～12 歳	13～18 歳	19 歳～
514	27	86	133	268
100.0%	5.3%	16.7%	25.9%	52.1%

③性別

計	男性	女性	無回答
514	418	94	2
100.0%	81.3%	18.3%	0.4%

④診断名

計	自閉症	知的障害	てんかん	アスペルガー 症候群	精神薄弱	なし	無回答
514	439	9	3	11	31	3	18
100.0%	85.4%	1.8%	0.6%	2.1%	6.0%	0.6%	3.5%

⑤手帳の種類

計	有	無	無回答
514	475	38	1
100.0%	92.4%	7.4%	0.2%

⑥災害前の定期的な薬の服用

計	あり					なし	無回答
		情緒や行動 に対して	てんかん	体の薬	その他		
514	486	180	104	26	41	214	28
100.0%	94.6%	35.0%	20.2%	5.1%	8.0%	41.6%	5.4%

⑦災害後に薬を入手し服用できたか

計	災害前と同じようにできた	できなかつた	その他	服薬なし	無回答
514	242	15	39	150	75
100.0%	47.1%	2.9%	7.6%	29.2%	14.6%

4) 災害時の状況

①災害時の所属

計	就園前	幼稚保育園	小学校	中学校	高等学校	在宅	一般就労	福祉的就労	施設入所	その他	無回答
514	2	22	91	59	63	26	18	105	71	56	1
100.0%	0.4%	4.3%	17.7%	11.5%	12.3%	5.1%	3.5%	20.4%	13.8%	10.9%	0.2%

②要援護者名簿への登録

計	登録していた	登録していなかった	登録について知らなかった	その他	無回答
514	57	129	293	14	21
100.0%	11.1%	25.1%	57.0%	2.7%	4.1%

③防災訓練への参加

計	参加したことがある	参加したことがない	その他	無回答
514	232	257	12	13
100.0%	45.1%	50.0%	2.3%	2.5%

④3月11日の災害に遭った場所

計	自宅	外出先	学校	会社(就労先)	下校・帰宅途中(徒歩)	下校・帰宅途中(送迎バス・各種交通機関)	その他	無回答
514	116	29	85	87	9	25	158	5
100.0%	22.6%	5.6%	16.5%	16.9%	1.8%	4.9%	30.7%	1.0%

⑤その時一緒にいた人

計	教員	職員	ともだち	家族	自分ひとり	その他	無回答
514	87	255	147	163	15	43	1
100.0%	16.9%	49.6%	28.6%	31.7%	2.9%	8.4%	0.2%

⑥災害時の本人の反応、行動

計	無反応	恐怖で動けない	パニックを起こした	周囲の指示に従った	その他	無回答
514	60	32	37	305	70	10
100.0%	11.7%	6.2%	7.2%	59.3%	13.6%	1.9%

5) 本人の現在の様子

計	ほぼ日常に戻った	災害時と変わらない	災害時よりも落ち着きがない	その他	無回答
514	407	27	27	50	3
100.0%	79.2%	5.3%	5.3%	9.7%	0.6%

6) 被害の状況

①被害の種類

計	地震	津波	地震と津波	原発事故	地震と原発事故	津波と原発事故	地震と津波と原発事故	その他	無回答
514	333	1	20	5	139	0	3	6	7
100.0%	64.8%	0.2%	3.9%	1.0%	27.0%	0.0%	0.6%	1.2%	1.4%

②被害の状況

ア 本人の状況

計	健康	けが	病気	情緒不安定	その他	無回答
514	381	1	3	97	14	18
100.0%	74.1%	0.2%	0.6%	18.9%	2.7%	3.5%

イ 家族の状況

(父)

計	健康	けが	病気	情緒不安定	行方不明	死亡	その他	無回答
514	441	1	11	0	5	15	6	35
100.0%	85.8%	0.2%	2.1%	0.0%	1.0%	2.9%	1.2%	6.8%

(母)

計	健康	けが	病気	情緒不安定	行方不明	死亡	その他	無回答
514	463	2	7	0	1	5	19	17
100.0%	90.1%	0.4%	1.4%	0.0%	0.2%	1.0%	3.7%	3.3%

ウ 家屋などの被害状況

計	被害なし	一部損壊	半壊	全壊	その他	無回答
514	193	244	28	11	33	5
100.0%	37.5%	47.5%	5.4%	2.1%	6.4%	1.0%

エ 学校、施設、職場などの被害状況
(本人)

計	被害なし	学校の被災	施設の被災	職場の被災	その他	無回答
514	279	84	99	16	11	25
100.0%	54.3%	16.3%	19.3%	3.1%	2.1%	4.9%

(家族)

計	被害なし	職場の被災	その他	無回答
514	310	138	34	32
100.0%	60.3%	26.8%	6.6%	6.2%

7) 災害前と災害後の本人の全般的状況

①人との関係

計	特に変わりはない	災害前よりもむしろよくなっている	悪くなったが今は災害前と同じ程度にもどった	災害前より悪くなり、現在も続いている	その他	無回答
514	390	9	88	18	7	2
100.0%	75.9%	1.8%	17.1%	3.5%	1.4%	0.4%

②言葉

計	言葉については特に変化はなかった	災害後、一時期言葉が無くなり、今は元に戻った	災害後、言葉が無くなり今も続いている	以前から言葉は無い	その他	無回答
514	363	13	1	103	27	7
100.0%	70.6%	2.5%	0.2%	20.0%	5.3%	1.4%

8) 本人の個々の行動や状態の変化

①あてはまる状態の変化

※あてはまる状態の変化は各状態ごとに次の区分でその変化かを把握している。

- | |
|-------------------------------|
| ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている |
| ②災害以前にもあったが災害後に強くなり、今は無くなっている |
| ③災害以前にもあったが災害後は少なくなっている |
| ④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった |
| ⑤災害後に新しく現れたが現在も続いている |
| ⑥このような症状は今まで見られない |
| ⑦その他 |

ア 興奮やいらだち

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	43	97	40	30	15	171	91	27
100.0%	8.4%	18.9%	7.8%	5.8%	2.9%	33.3%	17.7%	5.3%

イ 自傷

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	20	46	31	7	13	279	86	32
100.0%	3.9%	8.9%	6.0%	1.4%	2.5%	54.3%	16.7%	6.2%

ウ 人への攻撃性

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	24	32	31	9	9	305	71	33
100.0%	4.7%	6.2%	6.0%	1.8%	1.8%	59.3%	13.8%	6.4%

エ こだわり

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	72	69	50	10	23	112	155	23
100.0%	14.0%	13.4%	9.7%	1.9%	4.5%	21.8%	30.2%	4.5%

オ 落ち着きのなさや注意散漫

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	40	83	52	21	17	151	122	28
100.0%	7.8%	16.1%	10.1%	4.1%	3.3%	29.4%	23.7%	5.4%

オ 眠れない

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	22	76	34	24	4	253	82	19
100.0%	4.3%	14.8%	6.6%	4.7%	0.8%	49.2%	16.0%	3.7%

キ 夜半に起きて騒ぐ

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	12	42	27	9	4	327	68	25
100.0%	2.3%	8.2%	5.3%	1.8%	0.8%	63.6%	13.2%	4.9%

ク 甘え（赤ちゃんがえりなど）

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	31	35	12	16	8	352	35	25
100.0%	6.0%	6.8%	2.3%	3.1%	1.6%	68.5%	6.8%	4.9%

ケ 動作が突然止まってしまう

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	21	15	19	6	4	374	49	26
100.0%	4.1%	2.9%	3.7%	1.2%	0.8%	72.8%	9.5%	5.1%

コ 不安やおびえ

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	34	66	30	52	22	242	45	23
100.0%	6.6%	12.8%	5.8%	10.1%	4.3%	47.1%	8.8%	4.5%

サ 閉じこもり

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥このような症状は今まで見られない	その他	無回答
	①今も続いている	②今はなくなっている	③災害後は少なくなっている	④しばらくしてなくなった	⑤現在も続いている			
514	9	17	14	7	5	393	39	30
100.0%	1.8%	3.3%	2.7%	1.4%	1.0%	76.5%	7.6%	5.8%

シ 無いものが見える、聞こえる（幻覚体験）

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥この ような 症状は 今まで 見られ ない	その他	無回答
	①今も 続いて いる	②今は なくな ってい る	③災害 後は少 なくな ってい る	④しば らくし てなく なった	⑤現在 も続い ている			
514	5	4	5	0	4	415	48	33
100.0%	1.0%	0.8%	1.0%	0.0%	0.8%	80.7%	9.3%	6.4%

ス 頭痛、腹痛、吐き気、めまい、頻尿、などの体の症状

計	災害以前にもあった			災害後に新しく現れた		⑥この ような 症状は 今まで 見られ ない	その他	無回答
	①今も 続いて いる	②今は なくな ってい る	③災害 後は少 なくな ってい る	④しば らくし てなく なった	⑤現在 も続い ている			
514	17	18	13	11	9	355	58	33
100.0%	3.3%	3.5%	2.5%	2.1%	1.8%	69.1%	11.3%	6.4%

②上記の状態で一番困っているもの

計	興奮・い らだち	自傷	人への 攻撃性	こだわり	落ち着きの なさ・注意散 漫	眠れない	夜半に起 きて騒ぐ
514	86	32	45	152	38	20	19
100.0%	16.7%	6.2%	8.8%	29.6%	7.4%	3.9%	3.7%
	甘え	動作が 突然止 まっ てしまう	不安や おびえ	閉じこも り	無いものが 見える、聞こ えるなど（幻 覚体験）	頭痛・腹痛 などの体 の症状	無回答
	13	16	36	8	2	15	156
	2.5%	3.1%	7.0%	1.6%	0.4%	2.9%	30.4%

(3) 統計表

統計表一覧

①災害時の状況

統 計 表 NO	IV・V				I・II				VII	II	VII						
	本人の性	本人の年齢	県別	防災訓練の有無	何らかの避難	生活場所の経緯	災害時の支援	役立った支援			被害の種類	得られなかつた情報	今後の本人への支援	本人の被害の状況	家族の被害の状況	学校施設等の被害・本人	学校施設等の被害・家族
1	○	○			○	○											
2			○		○	○											
3	○	○			○		○										
4			○		○		○										
5	○	○			○			○									
6			○		○			○									
7		○		○	○	○											
8							○			○							
9								○		○							
10	○	○							○								
11									○	○							
12			○						○								
13	○	○									○						
14			○								○						
15	○	○								○	○						
16	○	○										○					
17	○	○	○							○							
18	○	○											○				
19	○	○											○				
20	○	○												○			
21	○	○													○		

②本人の状況

統 計 表 NO	IV・V							V			VI	VIII・IX			一番困 つて いる 項目		
	本人 の性 格	本人 の年 齢	県別	診 断 名	手帳 の有 無	服 薬 ・災 害 前	災 害 後 の 薬 の入 手	防 災 訓 練 の有 無	災 害 時 の所 属	要 援 護 者 名 簿 へ の登 録		災 害 に あ つ た 場 所	本 人 の 反 応 ・行 動	現 在 の 様 子	人 と の 関 係	言 葉	
22	○	○	○	○													
23	○	○			○												
24	○	○				○											
25	○	○					○										
26		○						○		○							
27	○		○						○								
28	○	○								○							
29	○	○									○	○					
30	○	○									○	○					
31	○	○									○	○					
32	○	○									○		○				
33	○	○									○			○			
34	○	○													○		
35	○	○														○	

統計表 1 性・年齢別×何らかの避難をした、生活場所の変化の有無の状況(災害後一現在まで)

総数	はい	何らかの避難をした					生活場所の変化の有無				
		①継続中 ②1ヶ月以内 ③1週間以内 ④その他				いいえ	無回答	①変化なし	②変化あり	無回答	
		実数(人)									
総数	512	125	17	31	48	29	377	10	333	153	26
①0~6	27	9	0	3	4	2	18	0	15	12	0
②7~12	85	41	6	10	18	7	44	0	39	44	2
③13~18	133	31	5	5	11	10	100	2	85	36	12
④19~	267	44	6	13	15	10	215	8	194	61	12
男性 計	418	104	10	29	38	27	305	9	266	131	21
①0~6	24	9	0	3	4	2	15	0	12	12	0
②7~12	63	31	2	9	13	7	32	0	28	33	2
③13~18	113	26	3	4	10	9	85	2	73	31	9
④19~	218	38	5	13	11	9	173	7	153	55	10
女性 計	94	21	7	2	10	2	72	1	67	22	5
①0~6	3	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0
②7~12	22	10	4	1	5	0	12	0	11	11	0
③13~18	20	5	2	1	1	1	15	0	12	5	3
④19~	49	6	1	0	4	1	42	1	41	6	2
構成割合(%)											
総数	100.0	24.4	3.3	6.1	9.4	5.7	73.6	2.0	65.0	29.9	5.1
①0~6	100.0	33.3	0.0	11.1	14.8	7.4	66.7	0.0	55.6	44.4	0.0
②7~12	100.0	48.2	7.1	11.8	21.2	8.2	51.8	0.0	45.9	51.8	2.4
③13~18	100.0	23.3	3.8	3.8	8.3	7.5	75.2	1.5	63.9	27.1	9.0
④19~	100.0	16.5	2.2	4.9	5.6	3.7	80.5	3.0	72.7	22.8	4.5
男計	100.0	24.9	2.4	6.9	9.1	6.5	73.0	2.2	63.6	31.3	5.0
①0~6	100.0	37.5	0.0	12.5	16.7	8.3	62.5	0.0	50.0	50.0	0.0
②7~12	100.0	49.2	3.2	14.3	20.6	11.1	50.8	0.0	44.4	52.4	3.2
③13~18	100.0	23.0	2.7	3.5	8.8	8.0	75.2	1.8	64.6	27.4	8.0
④19~	100.0	17.4	2.3	6.0	5.0	4.1	79.4	3.2	70.2	25.2	4.6
女計	100.0	22.3	7.4	2.1	10.6	2.1	76.6	1.1	71.3	23.4	5.3
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	45.5	18.2	4.5	22.7	0.0	54.5	0.0	50.0	50.0	0.0
③13~18	100.0	25.0	10.0	5.0	5.0	5.0	75.0	0.0	60.0	25.0	15.0
④19~	100.0	12.2	2.0	0.0	8.2	2.0	85.7	2.0	83.7	12.2	4.1

統計表 2 県別×何らかの避難をした、生活場所の変化の有無の状況(災害後一現在まで)

総数	はい	何らかの避難をした					生活場所の変化の有無				
		①継続中 ②1ヶ月以 ③1週間以 ④その他				いいえ	無回答	①変化なし	②変化あり	無回答	
		実数(人)									
総数	513	125	17	31	48	29	378	10	334	153	26
3 岩手県	111	11	1	2	5	3	96	4	83	18	10
4 宮城県	105	33	0	6	16	11	70	2	62	40	3
7 福島県	172	58	16	18	14	10	111	3	99	65	8
8 茨城県	125	23	0	5	13	5	101	1	90	30	5
構成割合(%)											
総数	100.0	24.4	3.3	6.0	9.4	5.7	73.7	1.9	65.1	29.8	5.1
3 岩手県	100.0	9.9	0.9	1.8	4.5	2.7	86.5	3.6	74.8	16.2	9.0
4 宮城県	100.0	31.4	0	5.7	15.2	10.5	66.7	1.9	59.0	38.1	2.9
7 福島県	100.0	33.7	9.3	10.5	8.1	5.8	64.5	1.7	57.6	37.8	4.7
8 茨城県	100.0	18.4	0	4.0	10.4	4.0	80.8	0.8	72.0	24.0	4.0

統計表 3 性・年齢別×何らかの避難をした、災害時の支援

総数	何らかの避難をした	災害時の支援												無回答				
		①継続中 はい	②1ヵ月 以内	③1週間 以内	④その 他の いいえ	無回答	①家族の 安否確認 ツール	②福祉 避難所	③物資 の配給	④ボラ ンティ ア	⑤発達障 害児者への 理解・ 配慮	⑥医療 の支援	⑦本人が 安定する 場・対応	⑧原発事 故に對する 避難				
							実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)				
総数	512	125	17	31	48	29	377	10	221	166	222	36	228	38	286	58	42	23
①0~6	27	9	0	3	4	2	18	0	6	12	12	1	22	2	16	1	3	0
②7~12	85	41	6	10	18	7	44	0	37	21	40	7	47	5	44	15	5	5
③13~18	133	31	5	5	11	10	100	2	52	48	54	8	61	10	79	16	14	4
④19~	267	44	6	13	15	10	215	8	126	85	116	20	98	21	147	26	20	14
男計	418	104	10	29	38	27	305	9	180	137	186	30	179	32	232	45	35	18
①0~6	24	9	0	3	4	2	15	0	5	12	11	1	19	2	14	1	3	0
②7~12	63	31	2	9	13	7	32	0	28	14	30	4	34	3	32	11	3	5
③13~18	113	26	3	4	10	9	85	2	46	44	49	8	51	9	66	11	13	2
④19~	218	38	5	13	11	9	173	7	101	67	96	17	75	18	120	22	16	11
女計	94	21	7	2	10	2	72	1	41	29	36	6	49	6	54	13	7	5
①0~6	3	0	0	0	0	0	3	0	1	0	1	0	3	0	2	0	0	0
②7~12	22	10	4	1	5	0	12	0	9	7	10	3	13	2	12	4	2	0
③13~18	20	5	2	1	1	1	15	0	6	4	5	0	10	1	13	5	1	2
④19~	49	6	1	0	4	1	42	1	25	18	20	3	23	3	27	4	4	3
構成割合(%)																		
総数	100.0	24.4	3.3	6.1	9.4	5.7	73.6	2.0	43.2	32.4	43.4	7.0	44.5	7.4	55.9	11.3	8.2	4.5
①0~6	100.0	33.3	0.0	11.1	14.8	7.4	66.7	0.0	22.2	44.4	44.4	3.7	81.5	7.4	59.3	3.7	11.1	0.0
②7~12	100.0	48.2	7.1	11.8	21.2	8.2	51.8	0.0	43.5	24.7	47.1	8.2	55.3	5.9	51.8	17.6	5.9	5.9
③13~18	100.0	23.3	3.8	3.8	8.3	7.5	75.2	1.5	39.1	36.1	40.6	6.0	45.9	7.5	59.4	12.0	10.5	3.0
④19~	100.0	16.5	2.2	4.9	5.6	3.7	80.5	3.0	47.2	31.8	43.4	7.5	36.7	7.9	55.1	9.7	7.5	5.2
男計	100.0	24.9	2.4	6.9	9.1	6.5	73.0	2.2	43.1	32.8	44.5	7.2	42.8	7.7	55.5	10.8	8.4	4.3
①0~6	100.0	37.5	0.0	12.5	16.7	8.3	62.5	0.0	20.8	50.0	45.8	4.2	79.2	8.3	58.3	4.2	12.5	0.0
②7~12	100.0	49.2	3.2	14.3	20.6	11.1	50.8	0.0	44.4	22.2	47.6	6.3	54.0	4.8	50.8	17.5	4.8	7.9
③13~18	100.0	23.0	2.7	3.5	8.8	8.0	75.2	1.8	40.7	38.9	43.4	7.1	45.1	8.0	58.4	9.7	11.5	1.8
④19~	100.0	17.4	2.3	6.0	5.0	4.1	79.4	3.2	46.3	30.7	44.0	7.8	34.4	8.3	55.0	10.1	7.3	5.0
女計	100.0	22.3	7.4	2.1	10.6	2.1	76.6	1.1	43.6	30.9	38.3	6.4	52.1	6.4	57.4	13.8	7.4	5.3
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	45.5	18.2	4.5	22.7	0.0	54.5	0.0	40.9	31.8	45.5	13.6	59.1	9.1	54.5	18.2	9.1	0.0
③13~18	100.0	25.0	10.0	5.0	5.0	5.0	75.0	0.0	30.0	20.0	25.0	0.0	50.0	5.0	65.0	25.0	5.0	10.0
④19~	100.0	12.2	2.0	0.0	8.2	2.0	85.7	2.0	51.0	36.7	40.8	6.1	46.9	6.1	55.1	8.2	8.2	6.1

統計表 4 県別×何らかの避難をした、災害時の支援

総数	何らかの避難をした	災害時の支援												無回答				
		①継続中 はい	②1ヵ月 以内	③1週間 以内	④その 他の いいえ	無回答	①家族の 安否確認 ツール	②福祉 避難所	③物資 の配給	④ボラ ンティ ア	⑤発達障 害児者への 理解・ 配慮	⑥医療 の支援	⑦本人が 安定する 場・対応	⑧原発事 故に對する 避難				
							実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)	実数(人)				
総数	513	125	17	31	48	29	378	10	222	167	222	36	230	38	288	58	42	22
3 岩手県	111	11	1	2	5	3	96	4	53	30	38	5	52	7	64	1	12	9
4 宮城県	105	33	0	6	16	11	70	2	39	48	57	15	50	7	59	0	6	3
7 福島県	172	58	16	18	14	10	111	3	59	52	70	11	83	16	96	50	12	4
8 茨城県	125	23	0	5	13	5	101	1	71	37	57	5	45	8	69	7	12	6
構成割合(%)																		
総数	100.0	24.4	3.3	6.0	9.4	5.7	73.7	1.9	43.3	32.6	43.3	7.0	44.8	7.4	56.1	11.3	8.2	4.3
3 岩手県	100.0	9.9	0.9	1.8	4.5	2.7	86.5	3.6	47.7	27.0	34.2	4.5	46.8	6.3	57.7	0.9	10.8	8.1
4 宮城県	100.0	31.4	0	5.7	15.2	10.5	66.7	1.9	37.1	45.7	54.3	14.3	47.6	6.7	56.2	0.0	5.7	2.9
7 福島県	100.0	33.7	9.3	10.5	8.1	5.8	64.5	1.7	34.3	30.2	40.7	6.4	48.3	9.3	55.8	29.1	7.0	2.3
8 茨城県	100.0	18.4	0	4.0	10.4	4.0	80.8	0.8	56.8	29.6	45.6	4.0	36.0	6.4	55.2	5.6	9.6	4.8

統計表 5 性・年齢別×何らかの避難をした、役立った支援

総数	はい	何らかの避難をした				災害時の支援											無回答	
		①継続中	②1ヶ月以内	③1週間以内	④その他	いいえ	無回答	①家族の安否確認ツール	②福祉避難所	③物資の配給	④ボランティア	⑤発達障害児者への理解・配慮	⑥医療的支援	⑦本人が安定する場・対応	⑧原発事故に対する避難	⑨その他		
		実数(人)																
総数	512	125	17	31	48	29	377	10	38	84	20	28	22	55	4	15	287	
①0~6	27	9	0	3	4	2	18	0	2	7	2	4	0	2	0	1	13	
②7~12	85	41	6	10	18	7	44	0	8	0	20	5	6	3	7	2	44	
③13~18	133	31	5	5	11	10	100	2	10	3	11	2	5	6	14	0	4	87
④19~	267	44	6	13	15	10	215	8	18	7	46	11	13	13	32	2	8	143
男性 計	418	104	10	29	38	27	305	9	32	10	65	14	22	20	46	3	12	239
①0~6	24	9	0	3	4	2	15	0	2	0	6	2	4	0	2	0	1	11
②7~12	63	31	2	9	13	7	32	0	6	0	15	3	4	2	3	1	1	35
③13~18	113	26	3	4	10	9	85	2	8	3	8	2	4	6	13	0	2	74
④19~	218	38	5	13	11	9	173	7	16	7	36	7	10	12	28	2	8	119
女性 計	94	21	7	2	10	2	72	1	6	0	19	6	6	2	9	1	3	48
①0~6	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
②7~12	22	10	4	1	5	0	12	0	2	0	5	2	2	1	4	1	1	9
③13~18	20	5	2	1	1	1	15	0	2	0	3	0	1	0	1	0	2	13
④19~	49	6	1	0	4	1	42	1	2	0	10	4	3	1	4	0	0	24
構成割合(%)																		
総数	100.0	24.4	3.3	6.1	9.4	5.7	73.6	2.0	7.4	2.0	16.4	3.9	5.5	4.3	10.7	0.8	2.9	56.1
①0~6	100.0	33.3	0.0	11.1	14.8	7.4	66.7	0.0	7.4	0.0	25.9	7.4	14.8	0.0	7.4	0.0	3.7	48.1
②7~12	100.0	48.2	7.1	11.8	21.2	8.2	51.8	0.0	9.4	0.0	23.5	5.9	7.1	3.5	8.2	2.4	2.4	51.8
③13~18	100.0	23.3	3.8	3.8	8.3	7.5	75.2	1.5	7.5	2.3	8.3	1.5	3.8	4.5	10.5	0.0	3.0	65.4
④19~	100.0	16.5	2.2	4.9	5.6	3.7	80.5	3.0	6.7	2.6	17.2	4.1	4.9	4.9	12.0	0.7	3.0	53.6
男性 計	100.0	24.9	2.4	6.9	9.1	6.5	73.0	2.2	7.7	2.4	15.6	3.3	5.3	4.8	11.0	0.7	2.9	57.2
①0~6	100.0	37.5	0.0	12.5	16.7	8.3	62.5	0.0	8.3	0.0	25.0	8.3	16.7	0.0	8.3	0.0	4.2	45.8
②7~12	100.0	49.2	3.2	14.3	20.6	11.1	50.8	0.0	9.5	0.0	23.8	4.8	6.3	3.2	4.8	1.6	1.6	55.6
③13~18	100.0	23.0	2.7	3.5	8.8	8.0	75.2	1.8	7.1	2.7	7.1	1.8	3.5	5.3	11.5	0.0	1.8	65.5
④19~	100.0	17.4	2.3	6.0	5.0	4.1	79.4	3.2	7.3	3.2	16.5	3.2	4.6	5.5	12.8	0.9	3.7	54.6
女性 計	100.0	22.3	7.4	2.1	10.6	2.1	76.6	1.1	6.4	0.0	20.2	6.4	6.4	2.1	9.6	1.1	3.2	51.1
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
②7~12	100.0	45.5	18.2	4.5	22.7	0.0	54.5	0.0	9.1	0.0	22.7	9.1	9.1	4.5	18.2	4.5	4.5	40.9
③13~18	100.0	25.0	10.0	5.0	5.0	5.0	75.0	0.0	10.0	0.0	15.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	10.0	65.0
④19~	100.0	12.2	2.0	0.0	8.2	2.0	85.7	2.0	4.1	0.0	20.4	8.2	6.1	2.0	8.2	0.0	0.0	49.0

統計表 6 県別×何らかの避難をした、県別×役立った支援

総数	はい	何らかの避難をした				役立った支援												無回答
		①継続中	②1ヶ月以内	③1週間以内	④その他	いいえ	無回答	①家族の安否確認ツール	②福祉避難所	③物資の配給	④ボランティア	⑤発達障害児者への理解・配慮	⑥医療的支援	⑦本人が安定する場・対応	⑧原発事故に対する避難	⑨その他		
		実数(人)																
総数	514	125	17	31	48	29	379	10	39	10	85	20	28	22	55	4	15	288
3 岩手県	111	11	1	2	5	3	96	4	6	6	7	3	10	5	13	1	0	71
4 宮城県	105	33	0	6	16	11	70	2	11	0	19	5	4	3	14	0	6	53
7 福島県	173	58	16	18	14	10	112	3	14	2	37	7	12	13	14	3	4	90
8 茨城県	125	23	0	5	13	5	101	1	8	2	22	5	2	1	14	0	5	74
構成割合(%)																		
総数	100.0	24.3	3.3	6.0	9.3	5.6	73.7	1.9	7.6	1.9	16.5	3.9	5.4	4.3	10.7	0.8	2.9	56.0
3 岩手県	100.0	9.9	0.9	1.8	4.5	2.7	86.5	3.6	5.4	5.4	6.3	2.7	9.0	4.5	11.7	0.9	0.0	64.0
4 宮城県	100.0	31.4	0	5.7	15.2	10.5	66.7	1.9	10.5	0.0	18.1	4.8	3.8	2.9	13.3	0.0	5.7	50.5
7 福島県	100.0	33.5	9.2	10.4	8.1	5.8	64.7	1.7	8.1	1.2	21.4	4.0	6.9	7.5	8.1	1.7	2.3	52.0
8 茨城県	100.0	18.4	0	4.0	10.4	4.0	80.8	0.8	6.4	1.6	17.6	4.0	1.6	0.8	11.2	0.0	4.0	59.2

統計表 7 防災訓練に参加したことありますか×何らかの避難をした、生活場所の変化の有無の状況

総数	はい	何らかの避難をした				生活場所の変化の有無の状況												無回答	
		①継続中	②1ヶ月以内	③1週間以内	④その他	いいえ	無回答	①変化なし	②変化あり										
		実数(人)																	
総数	501	122	15	31	47	29	369	10	326	150	25								
①参加したことがある	232	71	7	17	30	17	154	7	141	81	10								
②参加したことがない	257	49	7	14	16	12	205	3	177	65	15								
③その他	12	2	1	0	1	0	10	0	8	4	0								
構成割合(%)																			
総数	100.0	24.4	3.0	6.2	9.4	5.8	73.7	2.0	65.1	29.9	5.0								
①参加したことがある	100.0	30.6	3.0	7.3	12.9	7.3	66.4	3.0	60.8	34.9	4.3								
②参加したことがない	100.0	19.1	2.7	5.4	6.2	4.7	79.8	1.2	68.9	25.3	5.8								
③その他	100.0	16.7	8.3	0.0	8.3	0.0	83.3	0.0	66.7	33.3	0.0								

統計表 8 被害の種類×災害時の支援

	総数	災害時の支援									
		①家族の安否確認ツール	②福祉避難所	③物資の配給	④ボランティア	⑤発達障害児者への理解・配慮	⑥医療の支援	⑦本人が安定する場・対応	⑧原発事故に対する避難	⑨その他	無回答
実数(人)											
総数	507	220	164	220	36	225	38	283	58	41	23
①地震	333	157	112	144	21	152	22	190	13	26	17
②津波	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0
③地震と津波	20	10	8	8	2	10	1	13	0	2	1
④原発事故	5	1	1	1	0	2	0	2	4	0	0
⑤地震と原発事故	139	47	40	63	12	60	13	77	41	12	3
⑥津波と原発事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦地震と津波と原発事故	3	2	2	2	0	1	1	1	0	0	0
⑧その他	6	3	1	1	0	0	0	0	0	1	2
構成割合(%)											
総数	100.0	43.4	32.3	43.4	7.1	44.4	7.5	55.8	11.4	8.1	4.5
①地震	100.0	47.1	33.6	43.2	6.3	45.6	6.6	57.1	3.9	7.8	5.1
②津波	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③地震と津波	100.0	50.0	40.0	40.0	10.0	50.0	5.0	65.0	0.0	10.0	5.0
④原発事故	100.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	80.0	0.0	0.0
⑤地震と原発事故	100.0	33.8	28.8	45.3	8.6	43.2	9.4	55.4	29.5	8.6	2.2
⑥津波と原発事故	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑦地震と津波と原発事故	100.0	66.7	66.7	66.7	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
⑧その他	100.0	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0

統計表 9 被害の種類×役立った支援

	総数	役立った支援									
		①家族の安否確認ツール	②福祉避難所	③物資の配給	④ボランティア	⑤発達障害児者への理解・配慮	⑥医療の支援	⑦本人が安定する場・対応	⑧原発事故に対する避難	⑨その他	無回答
実数(人)											
総数	507	39	10	85	20	28	21	55	4	15	282
①地震	333	22	8	43	9	19	10	42	1	11	196
②津波	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0
③地震と津波	20	1	1	10	3	0	0	1	0	0	5
④原発事故	5	0	0	2	1	1	0	0	0	0	2
⑤地震と原発事故	139	16	1	27	6	8	10	11	3	4	73
⑥津波と原発事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦地震と津波と原発事故	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
⑧その他	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
構成割合(%)											
総数	100.0	7.7	2.0	16.8	3.9	5.5	4.1	10.8	0.8	3.0	55.6
①地震	100.0	6.6	2.4	12.9	2.7	5.7	3.0	12.6	0.3	3.3	58.9
②津波	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③地震と津波	100.0	5.0	5.0	50.0	15.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	25.0
④原発事故	100.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
⑤地震と原発事故	100.0	11.5	0.7	19.4	4.3	5.8	7.2	7.9	2.2	2.9	52.5
⑥津波と原発事故	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑦地震と津波と原発事故	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
⑧その他	100.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3

統計表 10 性・年齢別×得られなかつた支援

	総数	得られなかつた支援									
		①家族の安否確認ツール	②福祉避難所	③物資の配給	④ボランティア	⑤発達障害児者への理解・配慮	⑥医療の支援	⑦本人が安定する場・対応	⑧原発事故に対する避難	⑨その他	無回答
実数(人)											
総数	514	40	68	116	21	78	17	92	36	22	194
①0~6	27	2	4	5	0	12	0	4	2	1	4
②7~12	86	9	11	20	3	24	5	27	11	4	19
③13~18	133	6	20	32	8	16	5	19	11	9	49
④19~	268	23	33	59	10	26	7	42	12	8	122
男性 計	419	34	56	92	16	68	15	75	30	20	157
①0~6	24	2	4	4	0	11	0	3	2	1	4
②7~12	64	7	7	15	2	19	4	19	8	2	15
③13~18	113	6	18	28	7	15	5	16	10	9	39
④19~	218	19	27	45	7	23	6	37	10	8	99
女性 計	95	6	12	24	5	10	2	17	6	2	37
①0~6	3	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
②7~12	22	2	4	5	1	5	1	8	3	2	4
③13~18	20	0	2	4	1	1	0	3	1	0	10
④19~	50	4	6	14	3	3	1	5	2	0	23
構成割合(%)											
総数	100.0	7.8	13.2	22.6	4.1	15.2	3.3	17.9	7.0	4.3	37.7
①0~6	100.0	7.4	14.8	18.5	0.0	44.4	0.0	14.8	7.4	3.7	14.8
②7~12	100.0	10.5	12.8	23.3	3.5	27.9	5.8	31.4	12.8	4.7	22.1
③13~18	100.0	4.5	15.0	24.1	6.0	12.0	3.8	14.3	8.3	6.8	36.8
④19~	100.0	8.6	12.3	22.0	3.7	9.7	2.6	15.7	4.5	3.0	45.5
男性 計	100.0	8.1	13.4	22.0	3.8	16.2	3.6	17.9	7.2	4.8	37.5
①0~6	100.0	8.3	16.7	16.7	0.0	45.8	0.0	12.5	8.3	4.2	16.7
②7~12	100.0	10.9	10.9	23.4	3.1	29.7	6.3	29.7	12.5	3.1	23.4
③13~18	100.0	5.3	15.9	24.8	6.2	13.3	4.4	14.2	8.8	8.0	34.5
④19~	100.0	8.7	12.4	20.6	3.2	10.6	2.8	17.0	4.6	3.7	45.4
女性 計	100.0	6.3	12.6	25.3	5.3	10.5	2.1	17.9	6.3	2.1	38.9
①0~6	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	9.1	18.2	22.7	4.5	22.7	4.5	36.4	13.6	9.1	18.2
③13~18	100.0	0.0	10.0	20.0	5.0	5.0	0.0	15.0	5.0	0.0	50.0
④19~	100.0	8.0	12.0	28.0	6.0	6.0	2.0	10.0	4.0	0.0	46.0

統計表 11 被害の種類×得られなかつた支援

	総数	得られなかつた支援									
		①家族の安否確認ツール	②福祉避難所	③物資の配給	④ボランティア	⑤発達障害児者への理解・配慮	⑥医療の支援	⑦本人が安定する場・対応	⑧原発事故に対する避難	⑨その他	無回答
実数(人)											
総数	507	40	66	116	20	77	17	91	36	22	189
①地震	333	32	36	79	14	37	11	47	12	11	144
②津波	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
③地震と津波	20	3	6	4	1	8	1	9	0	1	1
④原発事故	5	2	0	1	0	2	0	1	1	0	0
⑤地震と原発事故	139	3	22	30	4	29	5	33	22	9	37
⑥津波と原発事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦地震と津波と原発事故	3	0	2	2	1	1	0	1	1	0	1
⑧その他	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
構成割合(%)											
総数	100.0	7.9	13.0	22.9	3.9	15.2	3.4	17.9	7.1	4.3	37.3
①地震	100.0	9.6	10.8	23.7	4.2	11.1	3.3	14.1	3.6	3.3	43.2
②津波	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
③地震と津波	100.0	15.0	30.0	20.0	5.0	40.0	5.0	45.0	0.0	5.0	5.0
④原発事故	100.0	40.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
⑤地震と原発事故	100.0	2.2	15.8	21.6	2.9	20.9	3.6	23.7	15.8	6.5	26.6
⑥津波と原発事故	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑦地震と津波と原発事故	100.0	0.0	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
⑧その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

統計表 12 県別×得られなかつた支援

	総数	得られなかつた支援									
		①家族の安否確認ツール	②福祉避難所	③物資の配給	④ボランティア	⑤発達障害児者への理解・配慮	⑥医療の支援	⑦本人が安定する場・対応	⑧原発事故に対する避難	⑨その他	無回答
実数(人)											
総数	514	40	68	116	21	78	17	92	36	22	194
3 岩手県	111	9	5	20	5	15	5	19	0	7	59
4 宮城県	105	9	23	33	8	19	3	18	1	3	29
7 福島県	173	9	24	32	4	29	5	40	30	8	50
8 茨城県	125	13	16	31	4	15	4	15	5	4	56
構成割合(%)											
総数	100.0	7.8	13.2	22.6	4.1	15.2	3.3	17.9	7.0	4.3	37.7
3 岩手県	100.0	8.1	4.5	18.0	4.5	13.5	4.5	17.1	0.0	6.3	53.2
4 宮城県	100.0	8.6	21.9	31.4	7.6	18.1	2.9	17.1	1.0	2.9	27.6
7 福島県	100.0	5.2	13.9	18.5	2.3	16.8	2.9	23.1	17.3	4.6	28.9
8 茨城県	100.0	10.4	12.8	24.8	3.2	12.0	3.2	12.0	4.0	3.2	44.8

統計表 13 性・年齢別×得られらなかつた情報

	総数	得られらなかつた情報											
		①家族の安否確認	②地震、津波などの災害の状況	③原発事故の状況	④福祉避難所	⑤原発事故に対する避難	⑥物資の配給	⑦ボランティア	⑧発達障害児者への理解・配慮	⑩医療の支援	⑪本人が安定する場・対応	⑫その他	無回答
実数(人)													
総数	514	131	153	192	118	65	132	21	96	26	114	27	72
①0~6	27	3	4	5	10	4	8	0	13	3	9	0	2
②7~12	86	21	28	38	25	19	23	3	22	7	21	6	7
③13~18	133	26	40	51	31	20	31	6	25	6	26	9	21
④19~	268	81	81	98	52	22	70	12	36	10	58	12	42
男性 計	419	108	124	161	93	59	112	16	76	21	95	25	57
①0~6	24	2	4	4	10	4	7	0	11	1	7	0	2
②7~12	64	18	21	31	16	15	17	1	17	6	13	6	5
③13~18	113	24	32	43	29	18	30	6	20	5	22	8	17
④19~	218	64	67	83	38	22	58	9	28	9	53	11	33
女性 計	95	23	29	31	25	6	20	5	20	5	19	2	15
①0~6	3	1	0	1	0	0	1	0	2	2	2	0	0
②7~12	22	3	7	7	9	4	6	2	5	1	8	0	2
③13~18	20	2	8	8	2	2	1	0	5	1	4	1	4
④19~	50	17	14	15	14	0	12	3	8	1	5	1	9
構成割合(%)													
総数	100.0	25.5	29.8	37.4	23.0	12.6	25.7	4.1	18.7	5.1	22.2	5.3	14.0
①0~6	100.0	11.1	14.8	18.5	37.0	14.8	29.6	0.0	48.1	11.1	33.3	0.0	7.4
②7~12	100.0	24.4	32.6	44.2	29.1	22.1	26.7	3.5	25.6	8.1	24.4	7.0	8.1
③13~18	100.0	19.5	30.1	38.3	23.3	15.0	23.3	4.5	18.8	4.5	19.5	6.8	15.8
④19~	100.0	30.2	30.2	36.6	19.4	8.2	26.1	4.5	13.4	3.7	21.6	4.5	15.7
男性 計	100.0	25.8	29.6	38.4	22.2	14.1	26.7	3.8	18.1	5.0	22.7	6.0	13.6
①0~6	100.0	8.3	16.7	16.7	41.7	16.7	29.2	0.0	45.8	4.2	29.2	0.0	8.3
②7~12	100.0	28.1	32.8	48.4	25.0	23.4	26.6	1.6	26.6	9.4	20.3	9.4	7.8
③13~18	100.0	21.2	28.3	38.1	25.7	15.9	26.5	5.3	17.7	4.4	19.5	7.1	15.0
④19~	100.0	29.4	30.7	38.1	17.4	10.1	26.6	4.1	12.8	4.1	24.3	5.0	15.1
女性 計	100.0	24.2	30.5	32.6	26.3	6.3	21.1	5.3	21.1	5.3	20.0	2.1	15.8
①0~6	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	13.6	31.8	31.8	40.9	18.2	27.3	9.1	22.7	4.5	36.4	0.0	9.1
③13~18	100.0	10.0	40.0	40.0	10.0	10.0	5.0	0.0	25.0	5.0	20.0	5.0	20.0
④19~	100.0	34.0	28.0	30.0	28.0	0.0	24.0	6.0	16.0	2.0	10.0	2.0	18.0

統計表 14 県別×得られなかつた情報

	総数	得られなかつた情報											
		①家族の安否確認	②地震、津波などの災害の状況	③原発事故の状況	④福祉避難所	⑤原発事故に対する避難	⑦物資の配給	⑧ボランティア	⑨発達障害児者への理解・配慮	⑩医療の支援	⑪本人が安定する場・対応	⑫その他	無回答
実数(人)													
総数	514	131	153	192	118	65	132	21	96	26	114	27	72
3 岩手県	111	30	54	18	13	2	20	4	17	3	26	9	25
4 宮城県	105	27	40	29	40	3	38	9	21	10	20	5	12
7 福島県	173	33	20	100	35	55	40	4	38	7	45	7	17
8 茨城県	125	41	39	45	30	5	34	4	20	6	23	6	18
構成割合(%)													
総数	100.0	25.5	29.8	37.4	23.0	12.6	25.7	4.1	18.7	5.1	22.2	5.3	14.0
3 岩手県	100.0	27.0	48.6	16.2	11.7	1.8	18.0	3.6	15.3	2.7	23.4	8.1	22.5
4 宮城県	100.0	25.7	38.1	27.6	38.1	2.9	36.2	8.6	20.0	9.5	19.0	4.8	11.4
7 福島県	100.0	19.1	11.6	57.8	20.2	31.8	23.1	2.3	22.0	4.0	26.0	4.0	9.8
8 茨城県	100.0	32.8	31.2	36.0	24.0	4.0	27.2	3.2	16.0	4.8	18.4	4.8	14.4

統計表 15 被害の種類×得られなかつた情報

	総数	得られなかつた情報											
		①家族の安否確認	②地震、津波などの災害の状況	③原発事故の状況	④福祉避難所	⑤原発事故に対する避難	⑦物資の配給	⑧ボランティア	⑨発達障害児者への理解・配慮	⑩医療の支援	⑪本人が安定する場・対応	⑫その他	無回答
実数(人)													
総数	507	129	150	192	117	65	132	21	95	26	112	27	70
①地震	333	95	117	97	74	15	90	14	54	15	67	22	54
②津波	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
③地震と津波	20	8	10	2	11	0	7	1	5	3	8	0	1
④原発事故	5	1	0	3	0	3	0	0	1	0	2	0	0
⑤地震と原発事故	139	21	20	88	30	47	31	6	34	7	33	5	13
⑥津波と原発事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦地震と津波と原発事故	3	1	1	1	1	0	2	0	1	0	1	0	0
⑧その他	6	3	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	2
構成割合(%)													
総数	100.0	25.4	29.6	37.9	23.1	12.8	26.0	4.1	18.7	5.1	22.1	5.3	13.8
①地震	100.0	28.5	35.1	29.1	22.2	4.5	27.0	4.2	16.2	4.5	20.1	6.6	16.2
②津波	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
③地震と津波	100.0	40.0	50.0	100.0	55.0	0.0	35.0	5.0	25.0	15.0	40.0	0.0	5.0
④原発事故	100.0	20.0	0.0	60.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0
⑤地震と原発事故	100.0	15.1	14.4	63.3	21.6	33.8	22.3	4.3	24.5	5.0	23.7	3.6	9.4
⑥津波と原発事故	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑦地震と津波と原発事故	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
⑧その他	100.0	50.0	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

統計表 16 性・年齢別×今後の本人への支援

	総数	今後の本人への支援				
		①心のケア	②居場所づくり	③医療の場	④その他	無回答
実数(人)						
総数	514	164	364	90	81	68
①0~6	27	8	22	3	5	2
②7~12	86	28	66	15	16	7
③13~18	133	50	97	23	24	13
④19~	268	78	179	49	36	46
男性 計	419	132	299	77	71	54
①0~6	24	8	19	3	5	2
②7~12	64	22	48	11	14	6
③13~18	113	42	81	21	22	12
④19~	218	60	151	42	30	34
女性 計	95	32	65	13	10	14
①0~6	3	0	3	0	0	0
②7~12	22	6	18	4	2	1
③13~18	20	8	16	2	2	1
④19~	50	18	28	7	6	12
構成割合(%)						
総数	100.0	31.9	70.8	17.5	15.8	13.2
①0~6	100.0	29.6	81.5	11.1	18.5	7.4
②7~12	100.0	32.6	76.7	17.4	18.6	8.1
③13~18	100.0	37.6	72.9	17.3	18.0	9.8
④19~	100.0	29.1	66.8	18.3	13.4	17.2
男性 計	100.0	31.5	71.4	18.4	16.9	12.9
①0~6	100.0	33.3	79.2	12.5	20.8	8.3
②7~12	100.0	34.4	75.0	17.2	21.9	9.4
③13~18	100.0	37.2	71.7	18.6	19.5	10.6
④19~	100.0	27.5	69.3	19.3	13.8	15.6
女性 計	100.0	33.7	68.4	13.7	10.5	14.7
①0~6	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	27.3	81.8	18.2	9.1	4.5
③13~18	100.0	40.0	80.0	10.0	10.0	5.0
④19~	100.0	36.0	56.0	14.0	12.0	24.0

統計表 17 県・性・年齢別×被害の種類

	総数	被害の種類								
		①地震	②津波	③地震と津波	④原発事故	⑤地震と原発事故	⑥津波と原発事故	⑦地震と津波と原発事故	⑧その他	無回答
実数(人)										
総数	514	333	1	20	5	139	0	3	6	7
①0~6	27	16	0	1	1	9	0	0	0	0
②7~12	86	43	0	9	2	32	0	0	0	0
③13~18	133	77	1	2	0	45	0	1	3	4
④19~	268	197	0	8	2	53	0	2	3	3
男性 計	419	264	1	19	5	117	0	3	5	5
①0~6	24	14	0	1	1	8	0	0	0	0
②7~12	64	29	0	9	2	24	0	0	0	0
③13~18	113	64	1	2	0	39	0	1	3	3
④19~	218	157	0	7	2	46	0	2	2	2
女性 計	95	69	0	1	0	22	0	0	1	2
①0~6	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0
②7~12	22	14	0	0	0	8	0	0	0	0
③13~18	20	13	0	0	0	6	0	0	0	1
④19~	50	40	0	1	0	7	0	0	1	1
3岩手県 計	111	97	1	7	0	2	0	0	1	3
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	16	12	0	3	0	1	0	0	0	0
③13~18	30	25	1	1	0	0	0	0	1	2
④19~	65	60	0	3	0	1	0	0	0	1
男性 計	93	80	1	7	0	2	0	0	1	2
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	12	8	0	3	0	1	0	0	0	0
③13~18	25	21	1	1	0	0	0	0	1	1
④19~	56	51	0	3	0	1	0	0	0	1
女性 計	18	17	0	0	0	0	0	0	0	1
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
③13~18	5	4	0	0	0	0	0	0	0	1
④19~	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0
4宮城県 計	105	92	0	9	0	3	0	0	0	1
①0~6	5	4	0	1	0	0	0	0	0	0
②7~12	18	13	0	4	0	1	0	0	0	0
③13~18	21	19	0	1	0	1	0	0	0	0
④19~	61	56	0	3	0	1	0	0	0	1
男性 計	90	77	0	9	0	3	0	0	0	1
①0~6	4	3	0	1	0	0	0	0	0	0
②7~12	16	11	0	4	0	1	0	0	0	0
③13~18	19	17	0	1	0	1	0	0	0	0
④19~	51	46	0	3	0	1	0	0	0	1
女性 計	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0
①0~6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
③13~18	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
④19~	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
7福島県 計	173	40	0	3	4	123	0	2	0	1
①0~6	14	5	0	0	1	8	0	0	0	0
②7~12	39	6	0	1	2	30	0	0	0	0
③13~18	47	6	0	0	0	40	0	0	0	1
④19~	73	23	0	2	1	45	0	2	0	0
男性 計	143	31	0	2	4	103	0	2	0	1
①0~6	12	4	0	0	1	7	0	0	0	0
②7~12	29	4	0	1	2	22	0	0	0	0
③13~18	41	6	0	0	0	34	0	0	0	1
④19~	61	17	0	1	1	40	0	2	0	0
女性 計	30	9	0	1	0	20	0	0	0	0
①0~6	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
②7~12	10	2	0	0	0	8	0	0	0	0
③13~18	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
④19~	12	6	0	1	0	5	0	0	0	0
8茨城県 計	125	104	0	1	1	11	0	1	5	2
①0~6	8	7	0	0	0	1	0	0	0	0
②7~12	13	12	0	1	0	0	0	0	0	0
③13~18	35	27	0	0	0	4	0	1	2	1
④19~	69	58	0	0	1	6	0	0	3	1
男性 計	93	76	0	1	1	9	0	1	4	1
①0~6	8	7	0	0	0	1	0	0	0	0
②7~12	7	6	0	1	0	0	0	0	0	0
③13~18	28	20	0	0	0	4	0	1	2	1
④19~	50	43	0	0	1	4	0	0	2	0
女性 計	32	28	0	0	0	2	0	0	1	1
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0
③13~18	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0
④19~	19	15	0	0	0	2	0	0	1	1

	構成割合(%)									
総数	100.0	64.8	0.2	3.9	1.0	27.0	0.0	0.6	1.2	1.4
①0~6	100.0	59.3	0.0	3.7	3.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	50.0	0.0	10.5	2.3	37.2	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	57.9	0.8	1.5	0.0	33.8	0.0	0.8	2.3	3.0
④19~	100.0	73.5	0.0	3.0	0.7	19.8	0.0	0.7	1.1	1.1
男性 計	100.0	63.0	0.2	4.5	1.2	27.9	0.0	0.7	1.2	1.2
①0~6	100.0	58.3	0.0	4.2	4.2	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	45.3	0.0	14.1	3.1	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	56.6	0.9	1.8	0.0	34.5	0.0	0.9	2.7	2.7
④19~	100.0	72.0	0.0	3.2	0.9	21.1	0.0	0.9	0.9	0.9
女性 計	100.0	72.6	0.0	1.1	0.0	23.2	0.0	0.0	1.1	2.1
①0~6	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	63.6	0.0	0.0	0.0	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	65.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	5.0
④19~	100.0	80.0	0.0	2.0	0.0	14.0	0.0	0.0	2.0	2.0
3岩手県 計	100.0	87.4	0.9	6.3	0.0	1.8	0.0	0.0	0.9	2.7
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	75.0	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	83.3	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	6.7
④19~	100.0	92.3	0.0	4.6	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5
男性 計	100.0	86.0	1.1	7.5	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	2.2
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	66.7	0.0	25.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	84.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0
④19~	100.0	91.1	0.0	5.4	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	1.8
女性 計	100.0	94.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
④19~	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4宮城県 計	100.0	87.6	0.0	8.6	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	1.0
①0~6	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	72.2	0.0	22.2	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	90.5	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	91.8	0.0	4.9	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6
男性 計	100.0	85.6	0.0	10.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	1.1
①0~6	100.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	68.8	0.0	25.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	89.5	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	90.2	0.0	5.9	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
女性 計	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7福島県 計	100.0	23.1	0.0	1.7	2.3	71.1	0.0	1.2	0.0	0.6
①0~6	100.0	35.7	0.0	0.0	7.1	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	15.4	0.0	2.6	5.1	76.9	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	12.8	0.0	0.0	0.0	85.1	0.0	0.0	0.0	2.1
④19~	100.0	31.5	0.0	2.7	1.4	61.6	0.0	2.7	0.0	0.0
男性 計	100.0	21.7	0.0	1.4	2.8	72.0	0.0	1.4	0.0	0.7
①0~6	100.0	33.3	0.0	0.0	8.3	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	13.8	0.0	3.4	6.9	75.9	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	14.6	0.0	0.0	0.0	82.9	0.0	0.0	0.0	2.4
④19~	100.0	27.9	0.0	1.6	1.6	65.6	0.0	3.3	0.0	0.0
女性 計	100.0	30.0	0.0	3.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
①0~6	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	50.0	0.0	8.3	0.0	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0
8茨城県 計	100.0	83.2	0.0	0.8	0.8	8.8	0.0	0.8	4.0	1.6
①0~6	100.0	87.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	92.3	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	77.1	0.0	0.0	0.0	11.4	0.0	2.9	5.7	2.9
④19~	100.0	84.1	0.0	0.0	1.4	8.7	0.0	0.0	4.3	1.4
男性 計	100.0	81.7	0.0	1.1	1.1	9.7	0.0	1.1	4.3	1.1
①0~6	100.0	87.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	71.4	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	3.6	7.1	3.6
④19~	100.0	86.0	0.0	0.0	2.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0
女性 計	100.0	87.5	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	3.1	3.1
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	78.9	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0	5.3	5.3

統計表 18 性・年齢別×本人の被害の状況

	総数	本人の被害の状況					
		①健康	②けが	③病気	④情緒不安定	⑤その他	無回答
実数(人)							
総数	514	381	1	3	97	14	18
①0~6	27	24	0	0	3	0	0
②7~12	86	62	1	1	20	1	1
③13~18	133	104	0	0	23	2	4
④19~	268	191	0	2	51	11	13
男性 計	419	315	0	3	74	11	16
①0~6	24	21	0	0	3	0	0
②7~12	64	47	0	1	14	1	1
③13~18	113	90	0	0	19	1	3
④19~	218	157	0	2	38	9	12
女性 計	95	66	1	0	23	3	2
①0~6	3	3	0	0	0	0	0
②7~12	22	15	1	0	6	0	0
③13~18	20	14	0	0	4	1	1
④19~	50	34	0	0	13	2	1
構成割合(%)							
総数	100.0	74.1	0.2	0.6	18.9	2.7	3.5
①0~6	100.0	88.9	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
②7~12	100.0	72.1	1.2	1.2	23.3	1.2	1.2
③13~18	100.0	78.2	0.0	0.0	17.3	1.5	3.0
④19~	100.0	71.3	0.0	0.7	19.0	4.1	4.9
男性 計	100.0	75.2	0.0	0.7	17.7	2.6	3.8
①0~6	100.0	87.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
②7~12	100.0	73.4	0.0	1.6	21.9	1.6	1.6
③13~18	100.0	79.6	0.0	0.0	16.8	0.9	2.7
④19~	100.0	72.0	0.0	0.9	17.4	4.1	5.5
女性 計	100.0	69.5	1.1	0.0	24.2	3.2	2.1
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	68.2	4.5	0.0	27.3	0.0	0.0
③13~18	100.0	70.0	0.0	0.0	20.0	5.0	5.0
④19~	100.0	68.0	0.0	0.0	26.0	4.0	2.0

統計表 19-1 性・年齢別×家族の被害の状況・父

	総数	家族の被害の状況・父							
		①健康	②けが	③病気	④情緒不安定	⑤行方不明	⑥死亡	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	441	1	11	0	5	15	6	35
①0~6	27	25	0	1	0	0	1	0	0
②7~12	86	76	1	0	0	0	3	2	4
③13~18	133	117	0	2	0	1	3	1	9
④19~	268	223	0	8	0	4	8	3	22
男性 計	419	359	1	11	0	3	11	6	28
①0~6	24	22	0	1	0	0	1	0	0
②7~12	64	55	1	0	0	0	2	2	4
③13~18	113	99	0	2	0	1	3	1	7
④19~	218	183	0	8	0	2	5	3	17
女性 計	95	82	0	0	0	2	4	0	7
①0~6	3	3	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	22	21	0	0	0	0	1	0	0
③13~18	20	18	0	0	0	0	0	0	2
④19~	50	40	0	0	0	2	3	0	5
構成割合(%)									
総数	100.0	85.8	0.2	2.1	0.0	1.0	2.9	1.2	6.8
①0~6	100.0	92.6	0.0	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	88.4	1.2	0.0	0.0	0.0	3.5	2.3	4.7
③13~18	100.0	88.0	0.0	1.5	0.0	0.8	2.3	0.8	6.8
④19~	100.0	83.2	0.0	3.0	0.0	1.5	3.0	1.1	8.2
男性 計	100.0	85.7	0.2	2.6	0.0	0.7	2.6	1.4	6.7
①0~6	100.0	91.7	0.0	4.2	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0
②7~12	100.0	85.9	1.6	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	6.3
③13~18	100.0	87.6	0.0	1.8	0.0	0.9	2.7	0.9	6.2
④19~	100.0	83.9	0.0	3.7	0.0	0.9	2.3	1.4	7.8
女性 計	100.0	86.3	0.0	0.0	0.0	2.1	4.2	0.0	7.4
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	95.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
③13~18	100.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
④19~	100.0	80.0	0.0	0.0	0.0	4.0	6.0	0.0	10.0

統計表 19-2 性・年齢別×家族の被害の状況・母

	総数	家族の被害の状況・母							
		①健康	②けが	③病気	④情緒不安定	⑤行方不明	⑥死亡	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	463	2	7	0	1	5	19	17
①0~6	27	25	0	0	0	0	0	2	0
②7~12	86	75	0	1	0	0	1	7	2
③13~18	133	123	1	2	0	1	0	2	4
④19~	268	240	1	4	0	0	4	8	11
男性 計	419	375	2	7	0	1	4	15	15
①0~6	24	22	0	0	0	0	0	2	0
②7~12	64	55	0	1	0	0	1	5	2
③13~18	113	104	1	2	0	1	0	2	3
④19~	218	194	1	4	0	0	3	6	10
女性 計	95	88	0	0	0	0	1	4	2
①0~6	3	3	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	22	20	0	0	0	0	0	2	0
③13~18	20	19	0	0	0	0	0	0	1
④19~	50	46	0	0	0	0	1	2	1
構成割合(%)									
総数	100.0	90.1	0.4	1.4	0.0	0.2	1.0	3.7	3.3
①0~6	100.0	92.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0
②7~12	100.0	87.2	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	8.1	2.3
③13~18	100.0	92.5	0.8	1.5	0.0	0.8	0.0	1.5	3.0
④19~	100.0	89.6	0.4	1.5	0.0	0.0	1.5	3.0	4.1
男性 計	100.0	89.5	0.5	1.7	0.0	0.2	1.0	3.6	3.6
①0~6	100.0	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
②7~12	100.0	85.9	0.0	1.6	0.0	0.0	1.6	7.8	3.1
③13~18	100.0	92.0	0.9	1.8	0.0	0.9	0.0	1.8	2.7
④19~	100.0	89.0	0.5	1.8	0.0	0.0	1.4	2.8	4.6
女性 計	100.0	92.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	4.2	2.1
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
③13~18	100.0	95.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
④19~	100.0	92.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	2.0

統計表 20 性・年齢別×学校施設等の被害・本人

	総数	学校施設等の被害・本人					
		①被害なし	②学校の被災	③施設の被災	④職場の被災	⑤その他	無回答
実数(人)							
総数	514	279	84	99	16	11	25
①0~6	27	19	4	3	0	0	1
②7~12	86	43	36	5	0	0	2
③13~18	133	78	43	8	0	1	3
④19~	268	139	1	83	16	10	19
男性 計	419	229	70	81	14	6	19
①0~6	24	16	4	3	0	0	1
②7~12	64	31	27	5	0	0	1
③13~18	113	68	38	5	0	1	1
④19~	218	114	1	68	14	5	16
女性 計	95	50	14	18	2	5	6
①0~6	3	3	0	0	0	0	0
②7~12	22	12	9	0	0	0	1
③13~18	20	10	5	3	0	0	2
④19~	50	25	0	15	2	5	3
構成割合(%)							
総数	100.0	54.3	16.3	19.3	3.1	2.1	4.9
①0~6	100.0	70.4	14.8	11.1	0.0	0.0	3.7
②7~12	100.0	50.0	41.9	5.8	0.0	0.0	2.3
③13~18	100.0	58.6	32.3	6.0	0.0	0.8	2.3
④19~	100.0	51.9	0.4	31.0	6.0	3.7	7.1
男性 計	100.0	54.7	16.7	19.3	3.3	1.4	4.5
①0~6	100.0	66.7	16.7	12.5	0.0	0.0	4.2
②7~12	100.0	48.4	42.2	7.8	0.0	0.0	1.6
③13~18	100.0	60.2	33.6	4.4	0.0	0.9	0.9
④19~	100.0	52.3	0.5	31.2	6.4	2.3	7.3
女性 計	100.0	52.6	14.7	18.9	2.1	5.3	6.3
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	54.5	40.9	0.0	0.0	0.0	4.5
③13~18	100.0	50.0	25.0	15.0	0.0	0.0	10.0
④19~	100.0	50.0	0.0	30.0	4.0	10.0	6.0

統計表 21 性・年齢別×学校施設等の被害・家族

	総数	学校施設等の被害・家族			
		①被害なし	②職場の被災	③その他	無回答
実数(人)					
総数	514	310	138	34	32
①0~6	27	15	12	0	0
②7~12	86	46	33	4	3
③13~18	133	84	42	3	4
④19~	268	165	51	27	25
男性 計	419	256	112	25	26
①0~6	24	14	10	0	0
②7~12	64	33	27	3	1
③13~18	113	73	35	2	3
④19~	218	136	40	20	22
女性 計	95	54	26	9	6
①0~6	3	1	2	0	0
②7~12	22	13	6	1	2
③13~18	20	11	7	1	1
④19~	50	29	11	7	3
構成割合(%)					
総数	100.0	60.3	26.8	6.6	6.2
①0~6	100.0	55.6	44.4	0.0	0.0
②7~12	100.0	53.5	38.4	4.7	3.5
③13~18	100.0	63.2	31.6	2.3	3.0
④19~	100.0	61.6	19.0	10.1	9.3
男性 計	100.0	61.1	26.7	6.0	6.2
①0~6	100.0	58.3	41.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	51.6	42.2	4.7	1.6
③13~18	100.0	64.6	31.0	1.8	2.7
④19~	100.0	62.4	18.3	9.2	10.1
女性 計	100.0	56.8	27.4	9.5	6.3
①0~6	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	59.1	27.3	4.5	9.1
③13~18	100.0	55.0	35.0	5.0	5.0
④19~	100.0	58.0	22.0	14.0	6.0

統計表 22 県・性・年齢別×診断名

	総数	診断名						
		①自閉症	②知的障害	③てんかん	④アスペルガー	⑤精神薄弱	⑥なし	無回答
実数(人)								
総数	514	439	9	3	11	31	3	18
①0~6	27	24	0	0	0	3	0	0
②7~12	86	72	0	1	2	11	0	0
③13~18	133	118	1	0	6	3	2	3
④19~	268	225	8	2	3	14	1	15
男性 計	419	358	9	2	9	26	2	13
①0~6	24	21	0	0	0	3	0	0
②7~12	64	55	0	0	1	8	0	0
③13~18	113	100	1	0	5	3	2	2
④19~	218	182	8	2	3	12	0	11
女性 計	95	81	0	1	2	5	1	5
①0~6	3	3	0	0	0	0	0	0
②7~12	22	17	0	1	1	3	0	0
③13~18	20	18	0	0	1	0	0	1
④19~	50	43	0	0	0	2	1	4
3岩手県 計	111	103	2	0	1	1	0	4
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	16	15	0	0	0	1	0	0
③13~18	30	28	0	0	1	0	0	1
④19~	65	60	2	0	0	0	0	3
男性 計	93	86	2	0	0	1	0	4
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	12	11	0	0	0	1	0	0
③13~18	25	24	0	0	0	0	0	1
④19~	56	51	2	0	0	0	0	3
女性 計	18	17	0	0	1	0	0	0
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	4	4	0	0	0	0	0	0
③13~18	5	4	0	0	1	0	0	0
④19~	9	9	0	0	0	0	0	0
4宮城県 計	105	86	3	2	1	8	1	4
①0~6	5	5	0	0	0	0	0	0
②7~12	18	17	0	0	0	1	0	0
③13~18	21	19	0	0	1	0	1	0
④19~	61	45	3	2	0	7	0	4
男性 計	90	73	3	2	1	8	1	2
①0~6	4	4	0	0	0	0	0	0
②7~12	16	15	0	0	0	1	0	0
③13~18	19	17	0	0	1	0	1	0
④19~	51	37	3	2	0	7	0	2
女性 計	15	13	0	0	0	0	0	2
①0~6	1	1	0	0	0	0	0	0
②7~12	2	2	0	0	0	0	0	0
③13~18	2	2	0	0	0	0	0	0
④19~	10	8	0	0	0	0	0	2
7福島県 計	173	150	0	1	7	8	1	6
①0~6	14	13	0	0	0	1	0	0
②7~12	39	32	0	1	2	4	0	0
③13~18	47	42	0	0	3	1	0	1
④19~	73	63	0	0	2	2	1	5
男性 計	143	125	0	0	6	8	0	4
①0~6	12	11	0	0	0	1	0	0
②7~12	29	24	0	0	1	4	0	0
③13~18	41	37	0	0	3	1	0	0
④19~	61	53	0	0	2	2	0	4
女性 計	30	25	0	1	1	0	1	2
①0~6	2	2	0	0	0	0	0	0
②7~12	10	8	0	1	1	0	0	0
③13~18	6	5	0	0	0	0	0	1
④19~	12	10	0	0	0	0	1	1
8茨城県 計	125	100	4	0	2	14	1	4
①0~6	8	6	0	0	0	2	0	0
②7~12	13	8	0	0	0	5	0	0
③13~18	35	29	1	0	1	2	1	1
④19~	69	57	3	0	1	5	0	3
男性 計	93	74	4	0	2	9	1	3
①0~6	8	6	0	0	0	2	0	0
②7~12	7	5	0	0	0	2	0	0
③13~18	28	22	1	0	1	2	1	1
④19~	50	41	3	0	1	3	0	2
女性 計	32	26	0	0	0	5	0	1
①0~6	0	0	0	0	0	0	0	0
②7~12	6	3	0	0	0	3	0	0
③13~18	7	7	0	0	0	0	0	0
④19~	19	16	0	0	0	2	0	1

	構成割合(%)							
総数	100.0	85.4	1.8	0.6	2.1	6.0	0.6	3.5
①0~6	100.0	88.9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
②7~12	100.0	83.7	0.0	1.2	2.3	12.8	0.0	0.0
③13~18	100.0	88.7	0.8	0.0	4.5	2.3	1.5	2.3
④19~	100.0	84.0	3.0	0.7	1.1	5.2	0.4	5.6
男性 計	100.0	85.4	2.1	0.5	2.1	6.2	0.5	3.1
①0~6	100.0	87.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
②7~12	100.0	85.9	0.0	0.0	1.6	12.5	0.0	0.0
③13~18	100.0	88.5	0.9	0.0	4.4	2.7	1.8	1.8
④19~	100.0	83.5	3.7	0.9	1.4	5.5	0.0	5.0
女性 計	100.0	85.3	0.0	1.1	2.1	5.3	1.1	5.3
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	77.3	0.0	4.5	4.5	13.6	0.0	0.0
③13~18	100.0	90.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	5.0
④19~	100.0	86.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	8.0
3岩手県 計	100.0	92.8	1.8	0.0	0.9	0.9	0.0	3.6
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	93.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
③13~18	100.0	93.3	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	3.3
④19~	100.0	92.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6
男性 計	100.0	92.5	2.2	0.0	0.0	1.1	0.0	4.3
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	91.7	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
③13~18	100.0	96.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
④19~	100.0	91.1	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4
女性 計	100.0	94.4	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4宮城県 計	100.0	81.9	2.9	1.9	1.0	7.6	1.0	3.8
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	94.4	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0
③13~18	100.0	90.5	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0
④19~	100.0	73.8	4.9	3.3	0.0	11.5	0.0	6.6
男性 計	100.0	81.1	3.3	2.2	1.1	8.9	1.1	2.2
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	93.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
③13~18	100.0	89.5	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0
④19~	100.0	72.5	5.9	3.9	0.0	13.7	0.0	3.9
女性 計	100.0	86.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
7福島県 計	100.0	86.7	0.0	0.6	4.0	4.6	0.6	3.5
①0~6	100.0	92.9	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
②7~12	100.0	82.1	0.0	2.6	5.1	10.3	0.0	0.0
③13~18	100.0	89.4	0.0	0.0	6.4	2.1	0.0	2.1
④19~	100.0	86.3	0.0	0.0	2.7	2.7	1.4	6.8
男性 計	100.0	87.4	0.0	0.0	4.2	5.6	0.0	2.8
①0~6	100.0	91.7	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	82.8	0.0	0.0	3.4	13.8	0.0	0.0
③13~18	100.0	90.2	0.0	0.0	7.3	2.4	0.0	0.0
④19~	100.0	86.9	0.0	0.0	3.3	3.3	0.0	6.6
女性 計	100.0	83.3	0.0	3.3	3.3	0.0	3.3	6.7
①0~6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	80.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
④19~	100.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3
8茨城県 計	100.0	80.0	3.2	0.0	1.6	11.2	0.8	3.2
①0~6	100.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	61.5	0.0	0.0	0.0	38.5	0.0	0.0
③13~18	100.0	82.9	2.9	0.0	2.9	5.7	2.9	2.9
④19~	100.0	82.6	4.3	0.0	1.4	7.2	0.0	4.3
男性 計	100.0	79.6	4.3	0.0	2.2	9.7	1.1	3.2
①0~6	100.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	71.4	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
③13~18	100.0	78.6	3.6	0.0	3.6	7.1	3.6	3.6
④19~	100.0	82.0	6.0	0.0	2.0	6.0	0.0	4.0
女性 計	100.0	81.3	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	3.1
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
③13~18	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	84.2	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	5.3

統計表 23 性・年齢別×手帳の有無

	総数	手帳の有無		
		①有	②無	無回答
実数(人)				
総数	514	475	38	1
①0~6	27	21	6	0
②7~12	86	70	15	1
③13~18	133	120	13	0
④19~	268	264	4	0
男性 計	419	390	29	0
①0~6	24	19	5	0
②7~12	64	52	12	0
③13~18	113	103	10	0
④19~	218	216	2	0
女性 計	95	85	9	1
①0~6	3	2	1	0
②7~12	22	18	3	1
③13~18	20	17	3	0
④19~	50	48	2	0
構成割合(%)				
総数	100.0	92.4	7.4	0.2
①0~6	100.0	77.8	22.2	0.0
②7~12	100.0	81.4	17.4	1.2
③13~18	100.0	90.2	9.8	0.0
④19~	100.0	98.5	1.5	0.0
男性 計	100.0	93.1	6.9	0.0
①0~6	100.0	79.2	20.8	0.0
②7~12	100.0	81.3	18.8	0.0
③13~18	100.0	91.2	8.8	0.0
④19~	100.0	99.1	0.9	0.0
女性 計	100.0	89.5	9.5	1.1
①0~6	100.0	66.7	33.3	0.0
②7~12	100.0	81.8	13.6	4.5
③13~18	100.0	85.0	15.0	0.0
④19~	100.0	96.0	4.0	0.0

統計表 24 性・年齢別×服薬・災害前

	総数	服薬・災害前						
		有	①情緒や行動に対して	②てんかん	③体の薬	④その他	無	無回答
			実数(人)					
総数	514	272	180	104	26	41	214	28
①0~6	27	10	6	2	1	2	17	0
②7~12	86	33	23	8	4	4	49	4
③13~18	133	65	45	23	4	10	64	4
④19~	268	164	106	71	17	25	84	20
男性 計	419	220	144	80	21	31	173	26
①0~6	24	10	6	2	1	2	14	0
②7~12	64	23	16	4	4	4	38	3
③13~18	113	57	40	21	4	8	52	4
④19~	218	130	82	53	12	17	69	19
女性 計	95	52	36	24	5	10	41	2
①0~6	3	0	0	0	0	0	3	0
②7~12	22	10	7	4	0	0	11	1
③13~18	20	8	5	2	0	2	12	0
④19~	50	34	24	18	5	8	15	1
構成割合(%)								
総数	100.0	52.9	35.0	20.2	5.1	8.0	41.6	5.4
①0~6	100.0	37.0	22.2	7.4	3.7	7.4	63.0	0.0
②7~12	100.0	38.4	26.7	9.3	4.7	4.7	57.0	4.7
③13~18	100.0	48.9	33.8	17.3	3.0	7.5	48.1	3.0
④19~	100.0	61.2	39.6	26.5	6.3	9.3	31.3	7.5
男性 計	100.0	52.5	34.4	19.1	5.0	7.4	41.3	6.2
①0~6	100.0	41.7	25.0	8.3	4.2	8.3	58.3	0.0
②7~12	100.0	35.9	25.0	6.3	6.3	6.3	59.4	4.7
③13~18	100.0	50.4	35.4	18.6	3.5	7.1	46.0	3.5
④19~	100.0	59.6	37.6	24.3	5.5	7.8	31.7	8.7
女性 計	100.0	54.7	37.9	25.3	5.3	10.5	43.2	2.1
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
②7~12	100.0	45.5	31.8	18.2	0.0	0.0	50.0	4.5
③13~18	100.0	40.0	25.0	10.0	0.0	10.0	60.0	0.0
④19~	100.0	68.0	48.0	36.0	10.0	16.0	30.0	2.0

統計表 25 性・年齢別×災害後の薬の入手

	総数	災害後の薬の入手				
		①災害前と同じようでききた	②できなかつた	③その他	服薬無	無回答
実数(人)						
総数	514	242	15	39	150	75
①0~6	27	8	1	2	15	2
②7~12	86	29	3	6	38	12
③13~18	133	51	4	14	48	18
④19~	268	154	7	17	49	43
男性 計	419	201	12	31	122	59
①0~6	24	8	1	2	12	2
②7~12	64	22	2	4	29	9
③13~18	113	46	3	12	41	13
④19~	218	125	6	13	40	35
女性 計	95	41	3	8	28	16
①0~6	3	0	0	0	3	0
②7~12	22	7	1	2	9	3
③13~18	20	5	1	2	7	5
④19~	50	29	1	4	9	8
構成割合(%)						
総数	100.0	47.1	2.9	7.6	29.2	14.6
①0~6	100.0	29.6	3.7	7.4	55.6	7.4
②7~12	100.0	33.7	3.5	7.0	44.2	14.0
③13~18	100.0	38.3	3.0	10.5	36.1	13.5
④19~	100.0	57.5	2.6	6.3	18.3	16.0
男性 計	100.0	48.0	2.9	7.4	29.1	14.1
①0~6	100.0	33.3	4.2	8.3	50.0	8.3
②7~12	100.0	34.4	3.1	6.3	45.3	14.1
③13~18	100.0	40.7	2.7	10.6	36.3	11.5
④19~	100.0	57.3	2.8	6.0	18.3	16.1
女性 計	100.0	43.2	3.2	8.4	29.5	16.8
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
②7~12	100.0	31.8	4.5	9.1	40.9	13.6
③13~18	100.0	25.0	5.0	10.0	35.0	25.0
④19~	100.0	58.0	2.0	8.0	18.0	16.0

統計表 26 年齢別×防災訓練の有無、要援護者名簿への登録

	総数	防災訓練の有無				要援護者名簿への登録				
		①参加したことがある	②参加したことがない	③その他	無回答	①登録していた	②登録していないなかつた	③登録について知らないなかつた	④その他	無回答
実数(人)										
総数	514	232	257	12	13	57	129	293	14	21
①0~6	27	14	13	0	0	0	4	23	0	0
②7~12	86	42	44	0	0	5	15	60	5	1
③13~18	133	44	83	3	3	15	40	73	3	2
④19~	268	132	117	9	10	37	70	137	6	18
構成割合(%)										
総数	100.0	45.1	50.0	2.3	2.5	11.1	25.1	57.0	2.7	4.1
①0~6	100.0	51.9	48.1	0.0	0.0	0.0	14.8	85.2	0.0	0.0
②7~12	100.0	48.8	51.2	0.0	0.0	5.8	17.4	69.8	5.8	1.2
③13~18	100.0	33.1	62.4	2.3	2.3	11.3	30.1	54.9	2.3	1.5
④19~	100.0	49.3	43.7	3.4	3.7	13.8	26.1	51.1	2.2	6.7

統計表 27 県・性別×災害時の所属

	総数	災害時の所属					⑥在宅	⑦一般就労	⑧福祉的就労	⑨施設入所	⑩その他	無回答
		①就園前	②幼稚園・保育園	③小学校	④中学校	⑤高等学校						
実数(人)												
計	514	2	22	91	59	63	26	18	105	71	56	1
総数 男性	419	2	20	69	51	54	17	17	85	57	46	1
女性	95	0	2	22	8	9	9	1	20	14	10	0
計	111	0	0	18	11	15	3	2	26	28	8	0
3岩手県 男性	93	0	0	13	11	11	2	1	23	25	7	0
女性	18	0	0	5	0	4	1	1	3	3	1	0
計	105	0	3	22	9	11	7	1	21	17	14	0
4宮城県 男性	90	0	2	19	8	11	6	1	19	13	11	0
女性	15	0	1	3	1	0	1	0	2	4	3	0
計	173	2	11	39	23	20	7	7	34	8	21	1
7福島県 男性	143	2	10	30	20	17	4	7	27	6	19	1
女性	30	0	1	9	3	3	3	0	7	2	2	0
計	125	0	8	12	16	17	9	8	24	18	13	0
8茨城県 男性	93	0	8	7	12	15	5	8	16	13	9	0
女性	32	0	0	5	4	2	4	0	8	5	4	0
構成割合(%)												
計	100.0	0.4	4.3	17.7	11.5	12.3	5.1	3.5	20.4	13.8	10.9	0.2
総数 男性	100.0	0.5	4.8	16.5	12.2	12.9	4.1	4.1	20.3	13.6	11.0	0.2
女性	100.0	0.0	2.1	23.2	8.4	9.5	9.5	1.1	21.1	14.7	10.5	0.0
計	100.0	0.0	0.0	16.2	9.9	13.5	2.7	1.8	23.4	25.2	7.2	0.0
3岩手県 男性	100.0	0.0	0.0	14.0	11.8	11.8	2.2	1.1	24.7	26.9	7.5	0.0
女性	100.0	0.0	0.0	27.8	0.0	22.2	5.6	5.6	16.7	16.7	5.6	0.0
計	100.0	0.0	2.9	21.0	8.6	10.5	6.7	1.0	20.0	16.2	13.3	0.0
4宮城県 男性	100.0	0.0	2.2	21.1	8.9	12.2	6.7	1.1	21.1	14.4	12.2	0.0
女性	100.0	0.0	6.7	20.0	6.7	0.0	6.7	0.0	13.3	26.7	20.0	0.0
計	100.0	1.2	6.4	22.5	13.3	11.6	4.0	4.0	19.7	4.6	12.1	0.6
7福島県 男性	100.0	1.4	7.0	21.0	14.0	11.9	2.8	4.9	18.9	4.2	13.3	0.7
女性	100.0	0.0	3.3	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	23.3	6.7	6.7	0.0
計	100.0	0.0	6.4	9.6	12.8	13.6	7.2	6.4	19.2	14.4	10.4	0.0
8茨城県 男性	100.0	0.0	8.6	7.5	12.9	16.1	5.4	8.6	17.2	14.0	9.7	0.0
女性	100.0	0.0	0.0	15.6	12.5	6.3	12.5	0.0	25.0	15.6	12.5	0.0

統計表 28 性・年齢別×要援護者名簿への登録

	総数	要援護者名簿への登録				
		①登録していた	②登録していないなかつた	③登録について知らなかつた	④その他	無回答
実数(人)						
総数	514	57	129	293	14	21
①0～6	27	0	4	23	0	0
②7～12	86	5	15	60	5	1
③13～18	133	15	40	73	3	2
④19～	268	37	70	137	6	18
男性 計	419	45	110	238	11	15
①0～6	24	0	4	20	0	0
②7～12	64	4	13	43	4	0
③13～18	113	12	34	63	3	1
④19～	218	29	59	112	4	14
女性 計	95	12	19	55	3	6
①0～6	3	0	0	3	0	0
②7～12	22	1	2	17	1	1
③13～18	20	3	6	10	0	1
④19～	50	8	11	25	2	4
構成割合(%)						
総数	100.0	11.1	25.1	57.0	2.7	4.1
①0～6	100.0	0.0	14.8	85.2	0.0	0.0
②7～12	100.0	5.8	17.4	69.8	5.8	1.2
③13～18	100.0	11.3	30.1	54.9	2.3	1.5
④19～	100.0	13.8	26.1	51.1	2.2	6.7
男性 計	100.0	10.7	26.3	56.8	2.6	3.6
①0～6	100.0	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0
②7～12	100.0	6.3	20.3	67.2	6.3	0.0
③13～18	100.0	10.6	30.1	55.8	2.7	0.9
④19～	100.0	13.3	27.1	51.4	1.8	6.4
女性 計	100.0	12.6	20.0	57.9	3.2	6.3
①0～6	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
②7～12	100.0	4.5	9.1	77.3	4.5	4.5
③13～18	100.0	15.0	30.0	50.0	0.0	5.0
④19～	100.0	16.0	22.0	50.0	4.0	8.0

統計表 29 性・年齢別×災害にあった場所、本人の反応・行動

	総数	災害にあった場所							本人の反応・行動						
		①自宅	②外出先	③学校	④会社 (就労先)	⑤下校・ 帰宅途中 (徒歩)	⑥下校・ 帰宅途中 (送迎バス・各種 交通機関)	⑦その他	無回答	①無反応	②恐怖で 動けない	③パニックを起こ した	④周囲の 指示に従つた	⑤その他	無回答
実数(人)															
総数	514	116	29	85	87	9	25	158	5	60	32	37	305	70	10
①0~6	27	8	2	7	0	1	4	5	0	6	1	4	12	4	0
②7~12	86	22	4	33	0	3	6	18	0	13	6	10	44	12	1
③13~18	133	48	15	43	1	2	8	15	1	15	9	11	74	23	1
④19~	268	38	8	2	86	3	7	120	4	26	16	12	175	31	8
男性 計	419	88	25	71	73	7	18	133	4	45	24	26	258	57	9
①0~6	24	6	2	6	0	1	4	5	0	5	1	4	11	3	0
②7~12	64	14	3	26	0	2	3	16	0	7	4	6	35	12	0
③13~18	113	42	14	37	0	1	5	13	1	12	9	7	65	19	1
④19~	218	26	6	2	73	3	6	99	3	21	10	9	147	23	8
女性 計	95	28	4	14	14	2	7	25	1	15	8	11	47	13	1
①0~6	3	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0
②7~12	22	8	1	7	0	1	3	2	0	6	2	4	9	0	1
③13~18	20	6	1	6	1	1	3	2	0	3	0	4	9	4	0
④19~	50	12	2	0	13	0	1	21	1	5	6	3	28	8	0
構成割合(%)															
総数	100.0	22.6	5.6	16.5	16.9	1.8	4.9	30.7	1.0	11.7	6.2	7.2	59.3	13.6	1.9
①0~6	100.0	29.6	7.4	25.9	0.0	3.7	14.8	18.5	0.0	22.2	3.7	14.8	44.4	14.8	0.0
②7~12	100.0	25.6	4.7	38.4	0.0	3.5	7.0	20.9	0.0	15.1	7.0	11.6	51.2	14.0	1.2
③13~18	100.0	36.1	11.3	32.3	0.8	1.5	6.0	11.3	0.8	11.3	6.8	8.3	55.6	17.3	0.8
④19~	100.0	14.2	3.0	0.7	32.1	1.1	2.6	44.8	1.5	9.7	6.0	4.5	65.3	11.6	3.0
男性 計	100.0	21.0	6.0	16.9	17.4	1.7	4.3	31.7	1.0	10.7	5.7	6.2	61.6	13.6	2.1
①0~6	100.0	25.0	8.3	25.0	0.0	4.2	16.7	20.8	0.0	20.8	4.2	16.7	45.8	12.5	0.0
②7~12	100.0	21.9	4.7	40.6	0.0	3.1	4.7	25.0	0.0	10.9	6.3	9.4	54.7	18.8	0.0
③13~18	100.0	37.2	12.4	32.7	0.0	0.9	4.4	11.5	0.9	10.6	8.0	6.2	57.5	16.8	0.9
④19~	100.0	11.9	2.8	0.9	33.5	1.4	2.8	45.4	1.4	9.6	4.6	4.1	67.4	10.6	3.7
女性 計	100.0	29.5	4.2	14.7	14.7	2.1	7.4	26.3	1.1	15.8	8.4	11.6	49.5	13.7	1.1
①0~6	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
②7~12	100.0	36.4	4.5	31.8	0.0	4.5	13.6	9.1	0.0	27.3	9.1	18.2	40.9	0.0	4.5
③13~18	100.0	30.0	5.0	30.0	5.0	5.0	15.0	10.0	0.0	15.0	0.0	20.0	45.0	20.0	0.0
④19~	100.0	24.0	4.0	0.0	26.0	0.0	2.0	42.0	2.0	10.0	12.0	6.0	56.0	16.0	0.0

統計表 30 性・年齢別×災害にあった場所、一緒にいた人

	総数	災害にあった場所							一緒にいた人							
		①自宅	②外出先	③学校	④会社 (就労先)	⑤下校・ 帰宅途中 (徒歩)	⑥下校・ 帰宅途中 (送迎バス・各種 交通機関)	⑦その他	無回答	①教員	②職員	③ともだ ち	④家族	⑤自分ひ とり	⑥その他	無回答
実数(人)																
総数	514	116	29	85	87	9	25	158	5	87	255	147	163	15	43	1
①0~6	27	8	2	7	0	1	4	5	0	10	11	10	11	0	2	0
②7~12	86	22	4	33	0	3	6	18	0	33	16	35	33	1	14	0
③13~18	133	48	15	43	1	2	8	15	1	41	25	31	63	7	6	1
④19~	268	38	8	2	86	3	7	120	4	3	203	71	56	7	21	0
男性 計	419	88	25	71	73	7	18	133	4	74	210	113	128	14	37	1
①0~6	24	6	2	6	0	1	4	5	0	0	10	10	9	0	2	0
②7~12	64	14	3	26	0	2	3	16	0	26	12	27	24	1	10	0
③13~18	113	42	14	37	0	1	5	13	1	35	20	24	54	7	6	1
④19~	218	26	6	2	73	3	6	99	3	3	168	52	41	6	19	0
女性 計	95	28	4	14	14	2	7	25	1	13	45	34	35	1	6	0
①0~6	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0
②7~12	22	8	1	7	0	1	3	2	0	7	4	8	9	0	4	0
③13~18	20	6	1	6	1	1	3	2	0	6	5	7	9	0	0	0
④19~	50	12	2	0	13	0	1	21	1	0	35	19	15	1	2	0
構成割合(%)																
総数	100.0	22.6	5.6	16.5	16.9	1.8	4.9	30.7	1.0	16.9	49.6	28.6	31.7	2.9	8.4	0.2
①0~6	100.0	29.6	7.4	25.9	0.0	3.7	14.8	18.5	0.0	37.0	40.7	37.0	40.7	0.0	7.4	0.0
②7~12	100.0	25.6	4.7	38.4	0.0	3.5	7.0	20.9	0.0	38.4	18.6	40.7	38.4	1.2	16.3	0.0
③13~18	100.0	36.1	11.3	32.3	0.8	1.5	6.0	11.3	0.8	30.8	18.8	23.3	47.4	5.3	4.5	0.8
④19~	100.0	14.2	3.0	0.7	32.1	1.1	2.6	44.8	1.5	1.1	75.7	26.5	20.9	2.6	7.8	0.0
男性 計	100.0	21.0	6.0	16.9	17.4	1.7	4.3	31.7	1.0	17.7	50.1	27.0	30.5	3.3	8.8	0.2
①0~6	100.0	25.0	8.3	25.0	0.0	4.2	16.7	20.8	0.0	41.7	41.7	41.7	37.5	0.0	8.3	0.0
②7~12	100.0	21.9	4.7	40.6	0.0	3.1	4.7	25.0	0.0	40.6	18.8	42.2	37.5	1.6	15.6	0.0
③13~18	100.0	37.2	12.4	32.7	0.0	0.9	4.4	11.5	0.9	31.0	17.7	21.2	47.8	6.2	5.3	0.9
④19~	100.0	11.9	2.8	0.9	33.5	1.4	2.8	45.4	1.4	1.4	77.1	23.9	18.8	2.8	8.7	0.0
女性 計	100.0	29.5	4.2	14.7	14.7	2.1	7.4	26.3	1.1	13.7	47.4	35.8	36.8	1.1	6.3	0.0
①0~6	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	36.4	4.5	31.8	0.0	4.5	13.6	9.1	0.0	31.8	18.2	36.4	40.9	0.0	18.2	0.0
③13~18	100.0	30.0	5.0	30.0	5.0	5.0	15.0	10.0	0.0	30.0	25.0	35.0	45.0	0.0	0.0	0.0
④19~	100.0	24.0	4.0	0.0	26.0	0.0	2.0	42.0	2.0	0.0	70.0	38.0	30.0	2.0	4.0	0.0

統計表 31 性・年齢別×本人の反応・行動、現在の様子

	総数	本人の反応・行動						現在の様子			
		①無反応	②恐怖で動けない	③パニックを起こした	④周囲の指示に従った	⑤その他	無回答	①ほぼ日常に戻った	②災害時と変わらない	③災害時よりも落ち着きがない	④その他
実数(人)											
総数	514	60	32	37	305	70	10	407	27	27	50
①0~6	27	6	1	4	12	4	0	22	2	1	2
②7~12	86	13	6	10	44	12	1	69	2	3	12
③13~18	133	15	9	11	74	23	1	104	8	6	13
④19~	268	26	16	12	175	31	8	212	15	17	23
男性 計	419	45	24	26	258	57	9	340	22	17	37
①0~6	24	5	1	4	11	3	0	20	1	1	2
②7~12	64	7	4	6	35	12	0	54	1	1	8
③13~18	113	12	9	7	65	19	1	90	7	3	11
④19~	218	21	10	9	147	23	8	176	13	12	16
女性 計	95	15	8	11	47	13	1	67	5	10	13
①0~6	3	1	0	0	1	1	0	2	1	0	0
②7~12	22	6	2	4	9	0	1	15	1	2	4
③13~18	20	3	0	4	9	4	0	14	1	3	2
④19~	50	5	6	3	28	8	0	36	2	5	7
構成割合(%)											
総数	100.0	11.7	6.2	7.2	59.3	13.6	1.9	79.2	5.3	5.3	9.7
①0~6	100.0	22.2	3.7	14.8	44.4	14.8	0.0	81.5	7.4	3.7	7.4
②7~12	100.0	15.1	7.0	11.6	51.2	14.0	1.2	80.2	2.3	3.5	14.0
③13~18	100.0	11.3	6.8	8.3	55.6	17.3	0.8	78.2	6.0	4.5	9.8
④19~	100.0	9.7	6.0	4.5	65.3	11.6	3.0	79.1	5.6	6.3	8.6
男性 計	100.0	10.7	5.7	6.2	61.6	13.6	2.1	81.1	5.3	4.1	8.8
①0~6	100.0	20.8	4.2	16.7	45.8	12.5	0.0	83.3	4.2	4.2	8.3
②7~12	100.0	10.9	6.3	9.4	54.7	18.8	0.0	84.4	1.6	1.6	12.5
③13~18	100.0	10.6	8.0	6.2	57.5	16.8	0.9	79.6	6.2	2.7	9.7
④19~	100.0	9.6	4.6	4.1	67.4	10.6	3.7	80.7	6.0	5.5	7.3
女性 計	100.0	15.8	8.4	11.6	49.5	13.7	1.1	70.5	5.3	10.5	13.7
①0~6	100.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	27.3	9.1	18.2	40.9	0.0	4.5	68.2	4.5	9.1	18.2
③13~18	100.0	15.0	0.0	20.0	45.0	20.0	0.0	70.0	5.0	15.0	10.0
④19~	100.0	10.0	12.0	6.0	56.0	16.0	0.0	72.0	4.0	10.0	14.0

統計表 32 性・年齢別×本人の反応・行動、人との関係

	総数	本人の反応・行動					人との関係						
		①無反応	②恐怖で動けない	③パニックを起こした	④周囲の指示に従った	⑤その他	無回答	①特に変わりはない	②災害前よりもむしろよくなっている	③悪くなつたが今は災害前と同じ程度にもどつた	④災害前より悪くなり、現在も続いている	⑤その他	
実数(人)													
総数	514	60	32	37	305	70	10	390	9	88	18	7	2
①0~6	27	6	1	4	12	4	0	19	0	8	0	0	0
②7~12	86	13	6	10	44	12	1	66	0	16	3	1	0
③13~18	133	15	9	11	74	23	1	102	3	19	4	4	1
④19~	268	26	16	12	175	31	8	203	6	45	11	2	1
男性 計	419	45	24	26	258	57	9	319	6	72	14	7	1
①0~6	24	5	1	4	11	3	0	17	0	7	0	0	0
②7~12	64	7	4	6	35	12	0	49	0	12	2	1	0
③13~18	113	12	9	7	65	19	1	86	3	17	3	4	0
④19~	218	21	10	9	147	23	8	167	3	36	9	2	1
女性 計	95	15	8	11	47	13	1	71	3	16	4	0	1
①0~6	3	1	0	0	1	1	0	2	0	1	0	0	0
②7~12	22	6	2	4	9	0	1	17	0	4	1	0	0
③13~18	20	3	0	4	9	4	0	16	0	2	1	0	1
④19~	50	5	6	3	28	8	0	36	3	9	2	0	0
構成割合(%)													
総数	100.0	11.7	6.2	7.2	59.3	13.6	1.9	75.9	1.8	17.1	3.5	1.4	0.4
①0~6	100.0	22.2	3.7	14.8	44.4	14.8	0.0	70.4	0.0	29.6	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	15.1	7.0	11.6	51.2	14.0	1.2	76.7	0.0	18.6	3.5	1.2	0.0
③13~18	100.0	11.3	6.8	8.3	55.6	17.3	0.8	76.7	2.3	14.3	3.0	3.0	0.8
④19~	100.0	9.7	6.0	4.5	65.3	11.6	3.0	75.7	2.2	16.8	4.1	0.7	0.4
男性 計	100.0	10.7	5.7	6.2	61.6	13.6	2.1	76.1	1.4	17.2	3.3	1.7	0.2
①0~6	100.0	20.8	4.2	16.7	45.8	12.5	0.0	70.8	0.0	29.2	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	10.9	6.3	9.4	54.7	18.8	0.0	76.6	0.0	18.8	3.1	1.6	0.0
③13~18	100.0	10.6	8.0	6.2	57.5	16.8	0.9	76.1	2.7	15.0	2.7	3.5	0.0
④19~	100.0	9.6	4.6	4.1	67.4	10.6	3.7	76.6	1.4	16.5	4.1	0.9	0.5
女性 計	100.0	15.8	8.4	11.6	49.5	13.7	1.1	74.7	3.2	16.8	4.2	0.0	1.1
①0~6	100.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	27.3	9.1	18.2	40.9	0.0	4.5	77.3	0.0	18.2	4.5	0.0	0.0
③13~18	100.0	15.0	0.0	20.0	45.0	20.0	0.0	80.0	0.0	10.0	5.0	0.0	5.0
④19~	100.0	10.0	12.0	6.0	56.0	16.0	0.0	72.0	6.0	18.0	4.0	0.0	0.0

統計表 33 性・年齢別×本人の反応・行動、言葉

	総数	本人の反応・行動					言葉						
		①無反応	②恐怖で動けない	③パニックを起こした	④周囲の指示に従った	⑤その他	無回答	①言葉について特に変化はなかった	②災害後、一時期言葉が無くなり、今は元に戻った	③災害後、言葉が無くなり今も続いている	④以前から言葉は無い	⑤その他	
実数(人)													
総数	514	60	32	37	305	70	10	363	13	1	103	27	7
①0~6	27	6	1	4	12	4	0	21	1	0	4	1	0
②7~12	86	13	6	10	44	12	1	67	3	0	12	4	0
③13~18	133	15	9	11	74	23	1	97	5	1	21	9	0
④19~	268	26	16	12	175	31	8	178	4	0	66	13	7
男性 計	419	45	24	26	258	57	9	301	10	0	80	22	6
①0~6	24	5	1	4	11	3	0	20	1	0	2	1	0
②7~12	64	7	4	6	35	12	0	52	1	0	8	3	0
③13~18	113	12	9	7	65	19	1	82	4	0	18	9	0
④19~	218	21	10	9	147	23	8	147	4	0	52	9	6
女性 計	95	15	8	11	47	13	1	62	3	1	23	5	1
①0~6	3	1	0	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0
②7~12	22	6	2	4	9	0	1	15	2	0	4	1	0
③13~18	20	3	0	4	9	4	0	15	1	1	3	0	0
④19~	50	5	6	3	28	8	0	31	0	0	14	4	1
構成割合(%)													
総数	100.0	11.7	6.2	7.2	59.3	13.6	1.9	70.6	2.5	0.2	20.0	5.3	1.4
①0~6	100.0	22.2	3.7	14.8	44.4	14.8	0.0	77.8	3.7	0.0	14.8	3.7	0.0
②7~12	100.0	15.1	7.0	11.6	51.2	14.0	1.2	77.9	3.5	0.0	14.0	4.7	0.0
③13~18	100.0	11.3	6.8	8.3	55.6	17.3	0.8	72.9	3.8	0.8	15.8	6.8	0.0
④19~	100.0	9.7	6.0	4.5	65.3	11.6	3.0	66.4	1.5	0.0	24.6	4.9	2.6
男性 計	100.0	10.7	5.7	6.2	61.6	13.6	2.1	71.8	2.4	0.0	19.1	5.3	1.4
①0~6	100.0	20.8	4.2	16.7	45.8	12.5	0.0	83.3	4.2	0.0	8.3	4.2	0.0
②7~12	100.0	10.9	6.3	9.4	54.7	18.8	0.0	81.3	1.6	0.0	12.5	4.7	0.0
③13~18	100.0	10.6	8.0	6.2	57.5	16.8	0.9	72.6	3.5	0.0	15.9	8.0	0.0
④19~	100.0	9.6	4.6	4.1	67.4	10.6	3.7	67.4	1.8	0.0	23.9	4.1	2.8
女性 計	100.0	15.8	8.4	11.6	49.5	13.7	1.1	65.3	3.2	1.1	24.2	5.3	1.1
①0~6	100.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	27.3	9.1	18.2	40.9	0.0	4.5	68.2	9.1	0.0	18.2	4.5	0.0
③13~18	100.0	15.0	0.0	20.0	45.0	20.0	0.0	75.0	5.0	5.0	15.0	0.0	0.0
④19~	100.0	10.0	12.0	6.0	56.0	16.0	0.0	62.0	0.0	0.0	28.0	8.0	2.0

統計表34-1 性・年齢別×興奮やいらだち

	総数	興奮やいらだち							
		①災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、 今も 続いている	②災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、 今は 無くなつて いる	③災害以前にも あつたが 災害後に 少なくなつて いる	④災害後に 新しく 現れたが しばらくして 無くなつた	⑤災害後に 新しく 現れたが 現在も続 いている	⑥このよ うな症状 は今まで 見られな い	⑦その他	無回答
		実数(人)							
総数	514	43	97	40	30	15	171	91	27
①0~6	27	2	6	3	3	2	9	2	0
②7~12	86	5	19	6	3	5	33	13	2
③13~18	133	10	23	12	9	4	55	19	1
④19~	268	26	49	19	15	4	74	57	24
男性 計	419	37	78	33	26	9	137	75	24
①0~6	24	2	6	2	3	1	8	2	0
②7~12	64	5	16	4	2	3	24	9	1
③13~18	113	9	18	12	7	3	45	18	1
④19~	218	21	38	15	14	2	60	46	22
女性 計	95	6	19	7	4	6	34	16	3
①0~6	3	0	0	1	0	1	1	0	0
②7~12	22	0	3	2	1	2	9	4	1
③13~18	20	1	5	0	2	1	10	1	0
④19~	50	5	11	4	1	2	14	11	2
		構成割合(%)							
総数	100.0	8.4	18.9	7.8	5.8	2.9	33.3	17.7	5.3
①0~6	100.0	7.4	22.2	11.1	11.1	7.4	33.3	7.4	0.0
②7~12	100.0	5.8	22.1	7.0	3.5	5.8	38.4	15.1	2.3
③13~18	100.0	7.5	17.3	9.0	6.8	3.0	41.4	14.3	0.8
④19~	100.0	9.7	18.3	7.1	5.6	1.5	27.6	21.3	9.0
男性 計	100.0	8.8	18.6	7.9	6.2	2.1	32.7	17.9	5.7
①0~6	100.0	8.3	25.0	8.3	12.5	4.2	33.3	8.3	0.0
②7~12	100.0	7.8	25.0	6.3	3.1	4.7	37.5	14.1	1.6
③13~18	100.0	8.0	15.9	10.6	6.2	2.7	39.8	15.9	0.9
④19~	100.0	9.6	17.4	6.9	6.4	0.9	27.5	21.1	10.1
女性 計	100.0	6.3	20.0	7.4	4.2	6.3	35.8	16.8	3.2
①0~6	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	0.0	13.6	9.1	4.5	9.1	40.9	18.2	4.5
③13~18	100.0	5.0	25.0	0.0	10.0	5.0	50.0	5.0	0.0
④19~	100.0	10.0	22.0	8.0	2.0	4.0	28.0	22.0	4.0

統計表 34-2 性・年齢別×自傷

	総数	自傷							
		①災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今も 続いている	②災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今は 無くなっている	③災害以前にも あったが災害後は 少なくなっている	④災害後に新しく 現れたがしばらくして無くなった	⑤災害後に新しく 現れたが現在も続いている	⑥このようないい な症状は今まで見られない	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	20	46	31	7	13	279	86	32
①0~6	27	1	2	1	0	1	19	3	0
②7~12	86	1	7	3	2	6	56	10	1
③13~18	133	6	8	8	0	3	87	19	2
④19~	268	12	29	19	5	3	117	54	29
男性 計	419	12	38	27	5	9	233	66	29
①0~6	24	0	2	1	0	1	17	3	0
②7~12	64	0	5	3	1	4	44	6	1
③13~18	113	4	8	7	0	2	72	18	2
④19~	218	8	23	16	4	2	100	39	26
女性 計	95	8	8	4	2	4	46	20	3
①0~6	3	1	0	0	0	0	2	0	0
②7~12	22	1	2	0	1	2	12	4	0
③13~18	20	2	0	1	0	1	15	1	0
④19~	50	4	6	3	1	1	17	15	3
構成割合(%)									
総数	100.0	3.9	8.9	6.0	1.4	2.5	54.3	16.7	6.2
①0~6	100.0	3.7	7.4	3.7	0.0	3.7	70.4	11.1	0.0
②7~12	100.0	1.2	8.1	3.5	2.3	7.0	65.1	11.6	1.2
③13~18	100.0	4.5	6.0	6.0	0.0	2.3	65.4	14.3	1.5
④19~	100.0	4.5	10.8	7.1	1.9	1.1	43.7	20.1	10.8
男性 計	100.0	2.9	9.1	6.4	1.2	2.1	55.6	15.8	6.9
①0~6	100.0	0.0	8.3	4.2	0.0	4.2	70.8	12.5	0.0
②7~12	100.0	0.0	7.8	4.7	1.6	6.3	68.8	9.4	1.6
③13~18	100.0	3.5	7.1	6.2	0.0	1.8	63.7	15.9	1.8
④19~	100.0	3.7	10.6	7.3	1.8	0.9	45.9	17.9	11.9
女性 計	100.0	8.4	8.4	4.2	2.1	4.2	48.4	21.1	3.2
①0~6	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	4.5	9.1	0.0	4.5	9.1	54.5	18.2	0.0
③13~18	100.0	10.0	0.0	5.0	0.0	5.0	75.0	5.0	0.0
④19~	100.0	8.0	12.0	6.0	2.0	2.0	34.0	30.0	6.0

統計表 34-3 性・年齢別×人への攻撃性

	総数	人への攻撃性							
		①災害以前にも あったが 災害後に 強くな り、今も 続いてい る	②災害以 前にも あったが 災害後に 強くな り、今は 無くなっ ている	③災害以 前にも あったが 災害後は 少なく なってい る	④災害後 に新しく 現れたが しばらく して無く なった	⑤災害後 に新しく 現れたが 現在も続 いている	⑥このよ うな症状 は今まで 見られな い	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	24	32	31	9	9	305	71	33
①0~6	27	3	1	4	0	0	17	2	0
②7~12	86	3	10	7	2	1	55	7	1
③13~18	133	6	7	9	2	6	85	14	4
④19~	268	12	14	11	5	2	148	48	28
男性 計	419	19	22	25	8	7	249	58	31
①0~6	24	2	1	3	0	0	16	2	0
②7~12	64	3	8	4	2	1	39	6	1
③13~18	113	4	5	9	2	5	71	13	4
④19~	218	10	8	9	4	1	123	37	26
女性 計	95	5	10	6	1	2	56	13	2
①0~6	3	1	0	1	0	0	1	0	0
②7~12	22	0	2	3	0	0	16	1	0
③13~18	20	2	2	0	0	1	14	1	0
④19~	50	2	6	2	1	1	25	11	2
構成割合(%)									
総数	100.0	4.7	6.2	6.0	1.8	1.8	59.3	13.8	6.4
①0~6	100.0	11.1	3.7	14.8	0.0	0.0	63.0	7.4	0.0
②7~12	100.0	3.5	11.6	8.1	2.3	1.2	64.0	8.1	1.2
③13~18	100.0	4.5	5.3	6.8	1.5	4.5	63.9	10.5	3.0
④19~	100.0	4.5	5.2	4.1	1.9	0.7	55.2	17.9	10.4
男性 計	100.0	4.5	5.3	6.0	1.9	1.7	59.4	13.8	7.4
①0~6	100.0	8.3	4.2	12.5	0.0	0.0	66.7	8.3	0.0
②7~12	100.0	4.7	12.5	6.3	3.1	1.6	60.9	9.4	1.6
③13~18	100.0	3.5	4.4	8.0	1.8	4.4	62.8	11.5	3.5
④19~	100.0	4.6	3.7	4.1	1.8	0.5	56.4	17.0	11.9
女性 計	100.0	5.3	10.5	6.3	1.1	2.1	58.9	13.7	2.1
①0~6	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	0.0	9.1	13.6	0.0	0.0	72.7	4.5	0.0
③13~18	100.0	10.0	10.0	0.0	0.0	5.0	70.0	5.0	0.0
④19~	100.0	4.0	12.0	4.0	2.0	2.0	50.0	22.0	4.0

統計表 34-4 性・年齢別×こだわり

	総数	こだわり							
		①災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、今も 続いている	②災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、今は 無くなっている	③災害以前にも あつたが 災害後に 少なくなってい る	④災害後に新しく 現れたが しばらくして無く なった	⑤災害後に新しく 現れたが 現在も続 いている	⑥このよ うな症状 は今まで 見られな い	⑦その他	無回答
		実数(人)							
総数	514	72	69	50	10	23	112	155	23
①0~6	27	5	3	3	1	2	6	7	0
②7~12	86	12	15	9	3	3	18	24	2
③13~18	133	18	13	14	3	6	34	43	2
④19~	268	37	38	24	3	12	54	81	19
男性 計	419	62	57	43	7	13	94	124	19
①0~6	24	4	3	3	1	1	5	7	0
②7~12	64	11	11	6	2	3	14	16	1
③13~18	113	16	10	14	2	2	30	38	1
④19~	218	31	33	20	2	7	45	63	17
女性 計	95	10	12	7	3	10	18	31	4
①0~6	3	1	0	0	0	1	1	0	0
②7~12	22	1	4	3	1	0	4	8	1
③13~18	20	2	3	0	1	4	4	5	1
④19~	50	6	5	4	1	5	9	18	2
		構成割合(%)							
総数	100.0	14.0	13.4	9.7	1.9	4.5	21.8	30.2	4.5
①0~6	100.0	18.5	11.1	11.1	3.7	7.4	22.2	25.9	0.0
②7~12	100.0	14.0	17.4	10.5	3.5	3.5	20.9	27.9	2.3
③13~18	100.0	13.5	9.8	10.5	2.3	4.5	25.6	32.3	1.5
④19~	100.0	13.8	14.2	9.0	1.1	4.5	20.1	30.2	7.1
男性 計	100.0	14.8	13.6	10.3	1.7	3.1	22.4	29.6	4.5
①0~6	100.0	16.7	12.5	12.5	4.2	4.2	20.8	29.2	0.0
②7~12	100.0	17.2	17.2	9.4	3.1	4.7	21.9	25.0	1.6
③13~18	100.0	14.2	8.8	12.4	1.8	1.8	26.5	33.6	0.9
④19~	100.0	14.2	15.1	9.2	0.9	3.2	20.6	28.9	7.8
女性 計	100.0	10.5	12.6	7.4	3.2	10.5	18.9	32.6	4.2
①0~6	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	4.5	18.2	13.6	4.5	0.0	18.2	36.4	4.5
③13~18	100.0	10.0	15.0	0.0	5.0	20.0	20.0	25.0	5.0
④19~	100.0	12.0	10.0	8.0	2.0	10.0	18.0	36.0	4.0

統計表 34-5 性・年齢別×落ち着きのなさや注意散漫

	総数	落ち着きのなさや注意散漫							
		①災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、 今も 続いている	②災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、 今は 無くなつて いる	③災害以前にも あつたが 災害後は 少なく なつて いる	④災害後 に新しく 現れたが しばらく して無く なつた	⑤災害後 に新しく 現れたが 現在も続 いている	⑥このよ うな症状 は今まで 見られな い	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	40	83	52	21	17	151	122	28
①0~6	27	4	6	5	1	1	4	6	0
②7~12	86	9	15	10	5	5	21	20	1
③13~18	133	8	19	14	5	5	53	27	2
④19~	268	19	43	23	10	6	73	69	25
男性 計	419	32	70	43	19	11	124	95	25
①0~6	24	3	6	4	1	1	4	5	0
②7~12	64	7	13	6	4	4	15	14	1
③13~18	113	7	16	14	4	2	46	23	1
④19~	218	15	35	19	10	4	59	53	23
女性 計	95	8	13	9	2	6	27	27	3
①0~6	3	1	0	1	0	0	0	1	0
②7~12	22	2	2	4	1	1	6	6	0
③13~18	20	1	3	0	1	3	7	4	1
④19~	50	4	8	4	0	2	14	16	2
構成割合(%)									
総数	100.0	7.8	16.1	10.1	4.1	3.3	29.4	23.7	5.4
①0~6	100.0	14.8	22.2	18.5	3.7	3.7	14.8	22.2	0.0
②7~12	100.0	10.5	17.4	11.6	5.8	5.8	24.4	23.3	1.2
③13~18	100.0	6.0	14.3	10.5	3.8	3.8	39.8	20.3	1.5
④19~	100.0	7.1	16.0	8.6	3.7	2.2	27.2	25.7	9.3
男性 計	100.0	7.6	16.7	10.3	4.5	2.6	29.6	22.7	6.0
①0~6	100.0	12.5	25.0	16.7	4.2	4.2	16.7	20.8	0.0
②7~12	100.0	10.9	20.3	9.4	6.3	6.3	23.4	21.9	1.6
③13~18	100.0	6.2	14.2	12.4	3.5	1.8	40.7	20.4	0.9
④19~	100.0	6.9	16.1	8.7	4.6	1.8	27.1	24.3	10.6
女性 計	100.0	8.4	13.7	9.5	2.1	6.3	28.4	28.4	3.2
①0~6	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
②7~12	100.0	9.1	9.1	18.2	4.5	4.5	27.3	27.3	0.0
③13~18	100.0	5.0	15.0	0.0	5.0	15.0	35.0	20.0	5.0
④19~	100.0	8.0	16.0	8.0	0.0	4.0	28.0	32.0	4.0

統計表 34-6 眠れない

	総数	眠れない							
		①災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今も 続いている	②災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今は 無くなっている	③災害以前にも あったが災害後は 少なくなっている	④災害後に新しく 現れたがしばらく して無くなった	⑤災害後に新しく 現れたが現在も続 いている	⑥このようないい 状況は今まで見られ ない	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	22	76	34	24	4	253	82	19
①0~6	27	1	6	3	0	1	14	2	0
②7~12	86	2	16	6	7	0	48	6	1
③13~18	133	5	13	8	7	0	78	22	0
④19~	268	14	41	17	10	3	113	52	18
男性 計	419	17	60	25	21	2	214	64	16
①0~6	24	0	6	2	0	1	14	1	0
②7~12	64	2	12	1	6	0	37	5	1
③13~18	113	4	10	7	6	0	68	18	0
④19~	218	11	32	15	9	1	95	40	15
女性 計	95	5	16	9	3	2	39	18	3
①0~6	3	1	0	1	0	0	0	1	0
②7~12	22	0	4	5	1	0	11	1	0
③13~18	20	1	3	1	1	0	10	4	0
④19~	50	3	9	2	1	2	18	12	3
構成割合(%)									
総数	100.0	4.3	14.8	6.6	4.7	0.8	49.2	16.0	3.7
①0~6	100.0	3.7	22.2	11.1	0.0	3.7	51.9	7.4	0.0
②7~12	100.0	2.3	18.6	7.0	8.1	0.0	55.8	7.0	1.2
③13~18	100.0	3.8	9.8	6.0	5.3	0.0	58.6	16.5	0.0
④19~	100.0	5.2	15.3	6.3	3.7	1.1	42.2	19.4	6.7
男性 計	100.0	4.1	14.3	6.0	5.0	0.5	51.1	15.3	3.8
①0~6	100.0	0.0	25.0	8.3	0.0	4.2	58.3	4.2	0.0
②7~12	100.0	3.1	18.8	1.6	9.4	0.0	57.8	7.8	1.6
③13~18	100.0	3.5	8.8	6.2	5.3	0.0	60.2	15.9	0.0
④19~	100.0	5.0	14.7	6.9	4.1	0.5	43.6	18.3	6.9
女性 計	100.0	5.3	16.8	9.5	3.2	2.1	41.1	18.9	3.2
①0~6	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
②7~12	100.0	0.0	18.2	22.7	4.5	0.0	50.0	4.5	0.0
③13~18	100.0	5.0	15.0	5.0	5.0	0.0	50.0	20.0	0.0
④19~	100.0	6.0	18.0	4.0	2.0	4.0	36.0	24.0	6.0

統計表 34-7 性・年齢別×夜間に起きて騒ぐ

	総数	夜間に起きて騒ぐ							
		①災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今も 続いている	②災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今は 無くなっている	③災害以前にも あったが災害後は 少なくなっている	④災害後に新しく 現れたがしばらくして無くなった	⑤災害後に新しく 現れたが現在も続いている	⑥このような症状は今まで見られない	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	12	42	27	9	4	327	68	25
①0~6	27	1	3	2	0	0	19	2	0
②7~12	86	1	8	7	2	0	61	6	1
③13~18	133	5	8	4	5	1	97	12	1
④19~	268	5	23	14	2	3	150	48	23
男性 計	419	6	32	23	8	3	273	50	24
①0~6	24	0	3	1	0	0	19	1	0
②7~12	64	1	6	5	2	0	47	2	1
③13~18	113	3	6	4	4	1	82	12	1
④19~	218	2	17	13	2	2	125	35	22
女性 計	95	6	10	4	1	1	54	18	1
①0~6	3	1	0	1	0	0	0	1	0
②7~12	22	0	2	2	0	0	14	4	0
③13~18	20	2	2	0	1	0	15	0	0
④19~	50	3	6	1	0	1	25	13	1
構成割合(%)									
総数	100.0	2.3	8.2	5.3	1.8	0.8	63.6	13.2	4.9
①0~6	100.0	3.7	11.1	7.4	0.0	0.0	70.4	7.4	0.0
②7~12	100.0	1.2	9.3	8.1	2.3	0.0	70.9	7.0	1.2
③13~18	100.0	3.8	6.0	3.0	3.8	0.8	72.9	9.0	0.8
④19~	100.0	1.9	8.6	5.2	0.7	1.1	56.0	17.9	8.6
男性 計	100.0	1.4	7.6	5.5	1.9	0.7	65.2	11.9	5.7
①0~6	100.0	0.0	12.5	4.2	0.0	0.0	79.2	4.2	0.0
②7~12	100.0	1.6	9.4	7.8	3.1	0.0	73.4	3.1	1.6
③13~18	100.0	2.7	5.3	3.5	3.5	0.9	72.6	10.6	0.9
④19~	100.0	0.9	7.8	6.0	0.9	0.9	57.3	16.1	10.1
女性 計	100.0	6.3	10.5	4.2	1.1	1.1	56.8	18.9	1.1
①0~6	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
②7~12	100.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	63.6	18.2	0.0
③13~18	100.0	10.0	10.0	0.0	5.0	0.0	75.0	0.0	0.0
④19~	100.0	6.0	12.0	2.0	0.0	2.0	50.0	26.0	2.0

統計表 34-8 性・年齢別×甘え(赤ちゃんがえりなど)

	総数	甘え(赤ちゃんがえりなど)							
		①災害以前にも あつたが 災害後に 強くな り、今も 続いてい る	②災害以 前にも あつたが 災害後に 強くな り、今は 無くなっ ている	③災害以 前にも あつたが 災害後に は少な くなっ ていい る	④災害後 に新しく 現れたが しばらく して無く なった	⑤災害後 に新しく 現れたが 現在も続 いている	⑥このよ うな症状 は今まで 見られな い	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	31	35	12	16	8	352	35	25
①0~6	27	6	6	1	2	1	11	0	0
②7~12	86	7	10	4	4	1	53	5	2
③13~18	133	9	5	2	5	2	96	13	1
④19~	268	9	14	5	5	4	192	17	22
男性 計	419	26	23	9	13	6	289	29	24
①0~6	24	5	6	0	2	1	10	0	0
②7~12	64	6	6	3	4	1	38	4	2
③13~18	113	9	3	2	4	2	81	11	1
④19~	218	6	8	4	3	2	160	14	21
女性 計	95	5	12	3	3	2	63	6	1
①0~6	3	1	0	1	0	0	1	0	0
②7~12	22	1	4	1	0	0	15	1	0
③13~18	20	0	2	0	1	0	15	2	0
④19~	50	3	6	1	2	2	32	3	1
構成割合(%)									
総数	100.0	6.0	6.8	2.3	3.1	1.6	68.5	6.8	4.9
①0~6	100.0	22.2	22.2	3.7	7.4	3.7	40.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	8.1	11.6	4.7	4.7	1.2	61.6	5.8	2.3
③13~18	100.0	6.8	3.8	1.5	3.8	1.5	72.2	9.8	0.8
④19~	100.0	3.4	5.2	1.9	1.9	1.5	71.6	6.3	8.2
男性 計	100.0	6.2	5.5	2.1	3.1	1.4	69.0	6.9	5.7
①0~6	100.0	20.8	25.0	0.0	8.3	4.2	41.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	9.4	9.4	4.7	6.3	1.6	59.4	6.3	3.1
③13~18	100.0	8.0	2.7	1.8	3.5	1.8	71.7	9.7	0.9
④19~	100.0	2.8	3.7	1.8	1.4	0.9	73.4	6.4	9.6
女性 計	100.0	5.3	12.6	3.2	3.2	2.1	66.3	6.3	1.1
①0~6	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	4.5	18.2	4.5	0.0	0.0	68.2	4.5	0.0
③13~18	100.0	0.0	10.0	0.0	5.0	0.0	75.0	10.0	0.0
④19~	100.0	6.0	12.0	2.0	4.0	4.0	64.0	6.0	2.0

統計表 34-9 性・年齢別×動作が突然止まってしまう

	総数	動作が突然止まってしまう							
		①災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今も 続いている	②災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今は 無くなっている	③災害以前にも あったが災害後は 少なくなっている	④災害後に新しく 現れたがしばらくして無くなった	⑤災害後に新しく 現れたが現在も続いている	⑥このようないい な症状は今まで見られない	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	21	15	19	6	4	374	49	26
①0~6	27	0	0	2	0	0	25	0	0
②7~12	86	2	1	3	1	0	71	7	1
③13~18	133	6	4	4	3	2	96	16	2
④19~	268	13	10	10	2	2	182	26	23
男性 計	419	18	15	16	5	3	296	41	25
①0~6	24	0	0	2	0	0	22	0	0
②7~12	64	2	1	1	1	0	54	4	1
③13~18	113	5	4	4	2	2	79	15	2
④19~	218	11	10	9	2	1	141	22	22
女性 計	95	3	0	3	1	1	78	8	1
①0~6	3	0	0	0	0	0	3	0	0
②7~12	22	0	0	2	0	0	17	3	0
③13~18	20	1	0	0	1	0	17	1	0
④19~	50	2	0	1	0	1	41	4	1
構成割合(%)									
総数	100.0	4.1	2.9	3.7	1.2	0.8	72.8	9.5	5.1
①0~6	100.0	0.0	0.0	7.4	0.0	0.0	92.6	0.0	0.0
②7~12	100.0	2.3	1.2	3.5	1.2	0.0	82.6	8.1	1.2
③13~18	100.0	4.5	3.0	3.0	2.3	1.5	72.2	12.0	1.5
④19~	100.0	4.9	3.7	3.7	0.7	0.7	67.9	9.7	8.6
男性 計	100.0	4.3	3.6	3.8	1.2	0.7	70.6	9.8	6.0
①0~6	100.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	91.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	3.1	1.6	1.6	1.6	0.0	84.4	6.3	1.6
③13~18	100.0	4.4	3.5	3.5	1.8	1.8	69.9	13.3	1.8
④19~	100.0	5.0	4.6	4.1	0.9	0.5	64.7	10.1	10.1
女性 計	100.0	3.2	0.0	3.2	1.1	1.1	82.1	8.4	1.1
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	77.3	13.6	0.0
③13~18	100.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0	85.0	5.0	0.0
④19~	100.0	4.0	0.0	2.0	0.0	2.0	82.0	8.0	2.0

統計表 34-10 性・年齢別×不安やおびえ

	総数	不安やおびえ							
		①災害以前にもあつたが災害後に強くなり、今も続いている	②災害以前にもあつたが災害後に強くなり、今は無くなっている	③災害以前にもあつたが災害後は少なくなっている	④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった	⑤災害後に新しく現れたが現在も続いている	⑥このような症状は今まで見られない	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	34	66	30	52	22	242	45	23
①0~6	27	2	4	4	2	4	11	0	0
②7~12	86	6	13	4	15	3	36	7	2
③13~18	133	11	16	4	13	6	69	13	1
④19~	268	15	33	18	22	9	126	25	20
男性 計	419	30	50	24	43	17	197	36	22
①0~6	24	2	3	3	2	4	10	0	0
②7~12	64	6	9	3	12	3	24	5	2
③13~18	113	10	11	3	10	5	62	11	1
④19~	218	12	27	15	19	5	101	20	19
女性 計	95	4	16	6	9	5	45	9	1
①0~6	3	0	1	1	0	0	1	0	0
②7~12	22	0	4	1	3	0	12	2	0
③13~18	20	1	5	1	3	1	7	2	0
④19~	50	3	6	3	3	4	25	5	1
構成割合(%)									
総数	100.0	6.6	12.8	5.8	10.1	4.3	47.1	8.8	4.5
①0~6	100.0	7.4	14.8	14.8	7.4	14.8	40.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	7.0	15.1	4.7	17.4	3.5	41.9	8.1	2.3
③13~18	100.0	8.3	12.0	3.0	9.8	4.5	51.9	9.8	0.8
④19~	100.0	5.6	12.3	6.7	8.2	3.4	47.0	9.3	7.5
男性 計	100.0	7.2	11.9	5.7	10.3	4.1	47.0	8.6	5.3
①0~6	100.0	8.3	12.5	12.5	8.3	16.7	41.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	9.4	14.1	4.7	18.8	4.7	37.5	7.8	3.1
③13~18	100.0	8.8	9.7	2.7	8.8	4.4	54.9	9.7	0.9
④19~	100.0	5.5	12.4	6.9	8.7	2.3	46.3	9.2	8.7
女性 計	100.0	4.2	16.8	6.3	9.5	5.3	47.4	9.5	1.1
①0~6	100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	0.0	18.2	4.5	13.6	0.0	54.5	9.1	0.0
③13~18	100.0	5.0	25.0	5.0	15.0	5.0	35.0	10.0	0.0
④19~	100.0	6.0	12.0	6.0	6.0	8.0	50.0	10.0	2.0

統計表 34-11 性・年齢別×閉じこもり

	総数	閉じこもり							
		①災害以前にも あつたが 災害後に 強くな り、今も 続いてい る	②災害以 前にも あつたが 災害後に 強くな り、今は 無くなっ ている	③災害以 前にも あつたが 災害後は 少なく なってい る	④災害後 に新しく 現れたが しばらく して無く なった	⑤災害後 に新しく 現れたが 現在も続 いている	⑥このよ うな症状 は今まで 見られな い	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	9	17	14	7	5	393	39	30
①0~6	27	0	0	0	0	1	26	0	0
②7~12	86	3	4	4	1	1	68	4	1
③13~18	133	0	3	2	1	1	112	10	4
④19~	268	6	10	8	5	2	187	25	25
男性 計	419	8	13	11	6	2	320	30	29
①0~6	24	0	0	0	0	1	23	0	0
②7~12	64	3	3	2	1	0	52	2	1
③13~18	113	0	2	2	1	1	94	9	4
④19~	218	5	8	7	4	0	151	19	24
女性 計	95	1	4	3	1	3	73	9	1
①0~6	3	0	0	0	0	0	3	0	0
②7~12	22	0	1	2	0	1	16	2	0
③13~18	20	0	1	0	0	0	18	1	0
④19~	50	1	2	1	1	2	36	6	1
構成割合(%)									
総数	100.0	1.8	3.3	2.7	1.4	1.0	76.5	7.6	5.8
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	96.3	0.0	0.0
②7~12	100.0	3.5	4.7	4.7	1.2	1.2	79.1	4.7	1.2
③13~18	100.0	0.0	2.3	1.5	0.8	0.8	84.2	7.5	3.0
④19~	100.0	2.2	3.7	3.0	1.9	0.7	69.8	9.3	9.3
男性 計	100.0	1.9	3.1	2.6	1.4	0.5	76.4	7.2	6.9
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	95.8	0.0	0.0
②7~12	100.0	4.7	4.7	3.1	1.6	0.0	81.3	3.1	1.6
③13~18	100.0	0.0	1.8	1.8	0.9	0.9	83.2	8.0	3.5
④19~	100.0	2.3	3.7	3.2	1.8	0.0	69.3	8.7	11.0
女性 計	100.0	1.1	4.2	3.2	1.1	3.2	76.8	9.5	1.1
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	0.0	4.5	9.1	0.0	4.5	72.7	9.1	0.0
③13~18	100.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	90.0	5.0	0.0
④19~	100.0	2.0	4.0	2.0	2.0	4.0	72.0	12.0	2.0

統計表 34-12 性・年齢別×無いものが見える、聞こえるなど(幻覚体験)

	総数	無いものが見える、聞こえるなど(幻覚体験)							
		①災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今も 続いている	②災害以前にも あったが災害後に 強くなり、今は 無くなっている	③災害以前にも あったが災害後は 少なくなっている	④災害後に新しく 現れたがしばらく して無くなった	⑤災害後に新しく 現れたが現在も続 いている	⑥このようないい な症状は今まで見 られない	⑦その他	無回答
実数(人)									
総数	514	5	4	5	0	4	415	48	33
①0~6	27	0	0	1	0	2	24	0	0
②7~12	86	3	1	2	0	0	71	6	3
③13~18	133	0	1	0	0	0	115	13	4
④19~	268	2	2	2	0	2	205	29	26
男性 計	419	5	3	4	0	2	338	38	29
①0~6	24	0	0	1	0	2	21	0	0
②7~12	64	3	0	1	0	0	54	4	2
③13~18	113	0	1	0	0	0	96	13	3
④19~	218	2	2	2	0	0	167	21	24
女性 計	95	0	1	1	0	2	77	10	4
①0~6	3	0	0	0	0	0	3	0	0
②7~12	22	0	1	1	0	0	17	2	1
③13~18	20	0	0	0	0	0	19	0	1
④19~	50	0	0	0	0	2	38	8	2
構成割合(%)									
総数	100.0	1.0	0.8	1.0	0.0	0.8	80.7	9.3	6.4
①0~6	100.0	0.0	0.0	3.7	0.0	7.4	88.9	0.0	0.0
②7~12	100.0	3.5	1.2	2.3	0.0	0.0	82.6	7.0	3.5
③13~18	100.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	86.5	9.8	3.0
④19~	100.0	0.7	0.7	0.7	0.0	0.7	76.5	10.8	9.7
男性 計	100.0	1.2	0.7	1.0	0.0	0.5	80.7	9.1	6.9
①0~6	100.0	0.0	0.0	4.2	0.0	8.3	87.5	0.0	0.0
②7~12	100.0	4.7	0.0	1.6	0.0	0.0	84.4	6.3	3.1
③13~18	100.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	85.0	11.5	2.7
④19~	100.0	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	76.6	9.6	11.0
女性 計	100.0	0.0	1.1	1.1	0.0	2.1	81.1	10.5	4.2
①0~6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
②7~12	100.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	77.3	9.1	4.5
③13~18	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	95.0	0.0	5.0
④19~	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	76.0	16.0	4.0

統計表 34-13 性・年齢別×頭痛、腹痛、吐き気、めまい、頻尿、夜尿などの体の症状

	総数	頭痛、腹痛、吐き気、めまい、頻尿、夜尿などの体の症状							
		①災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、 今も 続いている	②災害以前にも あつたが 災害後に 強くなり、 今は 無くなっている	③災害以前にも あつたが 災害後に 少なくなっ ていて	④災害後 に新しく 現れたが しばらくして 無くなっ た	⑤災害後 に新しく 現れたが 現在も続 いている	⑥このよ うな症状 は今まで 見られな い	⑦その他	無回答
		実数(人)							
総数	514	17	18	13	11	9	355	58	33
①0~6	27	2	0	3	0	0	21	1	0
②7~12	86	1	4	1	6	3	62	6	3
③13~18	133	5	3	6	1	1	104	9	4
④19~	268	9	11	3	4	5	168	42	26
男性 計	419	13	16	9	10	8	293	41	29
①0~6	24	2	0	2	0	0	19	1	0
②7~12	64	0	3	0	5	3	48	3	2
③13~18	113	4	3	5	1	1	89	7	3
④19~	218	7	10	2	4	4	137	30	24
女性 計	95	4	2	4	1	1	62	17	4
①0~6	3	0	0	1	0	0	2	0	0
②7~12	22	1	1	1	1	0	14	3	1
③13~18	20	1	0	1	0	0	15	2	1
④19~	50	2	1	1	0	1	31	12	2
		構成割合(%)							
総数	100.0	3.3	3.5	2.5	2.1	1.8	69.1	11.3	6.4
①0~6	100.0	7.4	0.0	11.1	0.0	0.0	77.8	3.7	0.0
②7~12	100.0	1.2	4.7	1.2	7.0	3.5	72.1	7.0	3.5
③13~18	100.0	3.8	2.3	4.5	0.8	0.8	78.2	6.8	3.0
④19~	100.0	3.4	4.1	1.1	1.5	1.9	62.7	15.7	9.7
男性 計	100.0	3.1	3.8	2.1	2.4	1.9	69.9	9.8	6.9
①0~6	100.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	79.2	4.2	0.0
②7~12	100.0	0.0	4.7	0.0	7.8	4.7	75.0	4.7	3.1
③13~18	100.0	3.5	2.7	4.4	0.9	0.9	78.8	6.2	2.7
④19~	100.0	3.2	4.6	0.9	1.8	1.8	62.8	13.8	11.0
女性 計	100.0	4.2	2.1	4.2	1.1	1.1	65.3	17.9	4.2
①0~6	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
②7~12	100.0	4.5	4.5	4.5	4.5	0.0	63.6	13.6	4.5
③13~18	100.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	75.0	10.0	5.0
④19~	100.0	4.0	2.0	2.0	0.0	2.0	62.0	24.0	4.0

(4) 自由記載欄

1) 自由記載欄の記載状況

	総数	就園前	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高等学校	在宅	一般就労	福祉的就労	施設入所	その他	不詳
岩手県	105		1	15	10	14	3	2	26	24	7	3
I-3	101		1	14	10	13	3	2	26	23	7	2
III	84		1	14	9	9	1	2	22	19	6	1
IV-3	40		0	8	2	3	2	1	13	10	0	1
IV-4	24		0	6	5	1	0	0	6	4	1	1
宮城县	104		3	22	8	10	5	1	22	18	14	1
I-3	100		3	20	8	9	5	1	22	17	14	1
III	93		2	22	8	9	4	1	19	15	13	0
IV-3	51		2	9	2	4	3	0	15	7	8	1
IV-4	40		0	9	2	6	2	0	9	5	7	0
福島県	165	1	11	40	20	17	4	7	31	8	21	5
I-3	162	1	10	39	20	17	3	7	31	8	21	5
III	138	1	10	38	14	13	4	5	24	7	20	2
IV-3	55	0	2	15	8	5	1	2	9	5	7	1
IV-4	65	1	4	21	9	7	1	3	9	2	7	1
茨城县	113		7	9	16	15	8	8	23	14	12	1
I-3	107		7	9	16	14	8	8	21	13	10	1
III	96		6	9	10	13	8	7	21	11	11	0
IV-3	33		2	2	5	4	5	1	9	3	2	0
IV-4	28		4	2	2	7	4	1	2	5	1	0
その他	5											
I-3	5											
III	1											
IV-3	1											
IV-4	0											
全体	492											
I-3	475	1	21	82	54	53	19	18	100	61	52	9
III	412	1	19	83	41	44	17	15	86	52	50	3
IV-3	180	0	6	34	17	16	11	4	46	25	17	3
IV-4	157	1	8	38	18	21	7	4	26	16	16	2

2) 主な記述内容

①震災時の状況に関すること

多くの方から、「ライフライン（電気、ガス、水道等）の停止で大変困った」、また、「食料、日用品、ガソリン等の購入については、行列に並んで買わなければならぬが、子どもが障害児（者）であるため、並ぶことが困難であり、入手に苦労した。」との生活全般の状況が述べられています。併せて、「家族との連絡（安否確認）がなかなかとれなかつた」といった心配も同様に述べられています。

子どもの状況については、「電気が止まる、水道が出ないので、子どもがパニックになった」という報告もあります。

②避難生活について

非難については、「集団による避難は困難であり、安心して行ける場所がほしい」との要望や、「避難所は最悪で、他の人に白い目で見られた」という実態も寄せられています。

③子どもの生活に関するこ

震災により、「子どもは、テレビやビデオを楽しみにしているため、それが見られないことへの不満がでた。」「食べ物やお菓子にこだわりがあり、それが手に入らない」という障害の特性による問題も出されています。

また、生活全般では、「薬を服用しているので手に入らず困った」「外で遊べない」「作業所が休みになり、本人はやることがなく手持ち無沙汰だった」「夜中に起きて騒ぐ状態が続き、精神安定剤を服用した」「一時支援などの福祉サービスが受けられなかつた」といった状況が述べられています。

同時に、震災の中で、「本人が手助けをしてくれて助かった」「今回の震災では「ガマン」することができた」といった、子どもの成長も見られます。

施設関係では、「自閉症支援施設ではよくしてもらい助かった」「施設に入所しているが、職員の働きによりパニックを起こすことなく過ごせた」「施設で支援していただき、保護者として安心できだし、心強かつた」といった感謝も述べられています。

④原発事故について

原発事故にかんしては、「放射線の影響で外で遊べない。遊ぶ企画があればうれしい」「子どもが小さいため、原発のことを伝えることが難しかつた（なぜ、外であそべないか）」「被曝線量の検査がまったくできていない。内部被曝も。いつまで子どもに不安な生活を強いなければならないのか」「放射能の心配に悩まされている」「放射線量が高く、子どもへの影響が心配」「避難するにしても、ここを離れることは並大抵ではない」「施設に入所していたが休みになり、いつ戻れるかわからない。一日も早く元の生活を遅らせたい。」といった実態や悩みが出されると同時に、「放射能の情報が入らず、政府の公表もコロコロ変わつた。正確な情報が入ってこないことに怒りを感じる」といった不満も出されています。

⑤行政への要望等

行政への要望では、「一般の人が障害への理科を深めるための啓発、普及活動をお願いしたい」「仕事をしているので、子どもの面倒を見てくれるボランティアがあればありがたい」「災害時に適切に避難させてくれる支援を」（幼稚園）「障

害者のための避難所の設置、福祉避難所の拡大と充実」「様々なタイプの事業所の設置を望む」「災害が起きたときの支援が届くのか」「自閉症児は一般の避難所での生活は無理なので、行政としての細かい支援策の検討をお願いしたい」等が寄せられています。

⑥子どもの将来について

震災と直接の関係はありませんが、「子どもの将来像がみえない」「親が元気なうちはいいが、死亡したあと、本人がどうなるか不安、安心して過ごせる場所の確保を望む」といった基本的な問題への不安も寄せられています。

⑦その他

そのた、「協会として出来ることがあれば呼びかけて長期的に支援を」「協会は何もしてくれない」「医師に相談しても「分らない」と言われる。医師の勉強不足に怒りを覚える」等の感想も寄せられています。

自由記載欄の記載内容

注：（ ）は、本人の性、年齢、回答者の続柄

「I-3」は、「このたびの震災で一番大変だったこと」

「III」は、「今、感じている思い、要望等」、（ ）は回答者の続柄

「IX-3」は、「困っている本人の状況」

「IX-4」は、「災害後に生活に変化をもたらした本人の状態」

【岩手県】

幼稚園・保育園

(男 6 ノ 母)

I-3 停電、断水、余震

III 我が家は、駐車場が割れた（地割）ついでですんだので、大したことはなかったが、余震があったり、緊急地震速報の音にビクッとしたりしています。

小学校

(女 10 ノ 母)

I-3 ガソリン不足でストーブがつけられない。車で移動も難しく大変でした

III 地震で好きなことができない。寒い。食事のことなど、自閉症ゆえの困りはありました。学校が休みになったり、デイサービスも使えない。いつもの当たり前がすべて予測できなく、本人は地震よりもその後の生活が大変そうでした。もし、避難しなければならなかつたら…そう思うと、やはり集団で過ごすのは無理です。てんかんもあるので、服薬の薬が少ししか出してもらえない不安でした。

(男 8 ノ 母)

I-3 夫が役所勤務のため、学校から自宅へ戻った後の本人のパニックと買い物など。車も使えず、並ぶことも出来ず、支援もなく、私と娘（姉）で対処するしかなかった。物資ももらえなかつたし、対象になったとしても、子を連れてもらいに行くことはできなかつたと思う。子の食のこだわりも強いので、とても大変だった。協会はまったく助けてくれなかつた。

III 協会に入っているメリットが全くないと感じる。名簿もないため横のつながりもない。震災後も、自宅避難者に対する支援は何もない。とっさの時、横のつながりがとても大事だが、知り合いが多い人のみがつながっている感じ。支部が地域で分かれているため、内陸の人とのつながりが全くないため、今回、地域間の出会いの場が必要だととても強く感じた。

IX-3 急に飛び出し、他の家に入ってしまう。対策はとったが、理解してもらうのがむずかしい。

IX-4 飛び出しが増え、以前以上に目が離せない。

(男 8 ノ 母)

I-3 部屋の片付け、食器等、たくさん壊れたので。

III 今回は避難所へ行かなくて済んだのですが、もし、避難所へ行かなくてはならなくなつた時、どこへ行けばいいのか…。通学している支援学校を開放してくださいとお願いしているところです。一般の避難所は無理だと思っています。

IX-3 よく地震のときの話を他の人にもする。自分の体験だけでなく、私（母）の体験も私が話したように…。

IX-4 地震が来るたびに、大きい地震がいつくるのかと聞いてきて、来年の3月1日頃と言ってあげたら、私を含めほかの人にも来年の3月11日頃大きな地震がくるよ、停電するよ、自家発電回るよ、見に行くよ、給水車に行く、ガソリンスタンドに車並ぶよ等と話し出す。

(男 8 ノ 母)

I-3 食べ物を買うために並んで買うこと

(男 11 ノ 母)

I-3 避難所にいるのは難しく、外に出たり入ったり、入り口を汚したり何度も注意され、独り言などが多くなり、皆さんに変な目でみられるし、寒いのに外に出て行って行方不明になり探し回ったり、暗くなると騒いだり、とにかくたくさん人がいる場所にいることは無理でした。

III 毎日、同じビデオをみて独りごとを言っている。スクールバス通いになり、泣いて降りて帰ってくることが度々で、布団に入ってしばらく泣いている。理由を聞いても？？。仮設住宅に移っても、知らない人からみると、やはり変な子供にしか見えない。ウロウロして、皆にばかにされ、誰もみていらないところでは、何と言われているのか。とにかく、何とかしなくては、この状況を抜け出したいと思い、人に頼ってはならないとつくづく思いました。避難所は最悪でした。

IX-3 太っている。外に出ると近所に変な人扱いされるので、外に出てほしくない。周りの方の理解が広められない。以前には小さい頃から知っていて多少の理解もあり、何かあると教えてくれたりしたが、今は、住宅が密集しすぎて見えない。

(男 11 ノ 母)

I-3 ライフラインがとだえたこと。連絡がとれない。ガソリンがないこと。

III 私たちの住まいは、内陸部でしたので、避難所への避難など大きく生活が変化することはなかったのですが。日ごろからの寒さ対策（今回は3月の震災だったために、家にある石油ストーブ、湯たんぽで過ごしました）、ガス、水道は使えましたが、もしもの時の蓄え。子どもの余暇について（日ごろゲーム機で遊んでいたので、それ以外に使えるもの）等々。

IX-4 地震に対して以前より極度に怯えるようになった。ただ、生活していく中の支障は今のところ見られない。

(男 10 ノ 父)

I-3 ガソリン不足で、長時間並んで、少量しか変えなかった。

III 岩手の内陸部在住なので、沿岸部の方々と比べ、被害は微々たるものでした。2日にわたる停電もガスは使えたので、何とかなりました。自閉症の次男はテレビが好きなので、映らない間は、ブレーカーを上げに何度もトライしていました。何気ない日常を送ることの幸せを強く感じ、家族のつながりを再確認した時間でした。

IX-3 出かけていってしまう

(女 10 ノ 母)

I- 停電が2日ほど（3晩）続いた間、電灯やテレビをつけてほしがり、停電という自体を理解できない娘にどう伝えたらしいか・・・。ガソリンを調達するためには、長蛇の列に並ぶしかなかったのですが、待つことが苦手な娘を連れては行けず、数日、不便をしました。

III 将来像を描くとよいと効きますが、これから成長を考えても、未知数のことが多く、どんな姿を思い描いたらいいのか。そのためには、今、何をすればいいのかわからず、迷ってばかりで、すべてが、中途半端なのではと思ってしまうことがあります。今の笑顔が将来もずっと続くような生活ができたと、漠然とした思いは強くありますが・・・。

(男 10 ノ 母)

- I-3 停電。テレビ、DVD、パソコンが見れない。いつ復旧するかわからない。見通しが持てないこと。パニックになった。断水。ガソリン不足。
- III 地震のとき、子どもたちは学校にいたため、すぐに迎えに行き、安心できた。しかし、その後、停電、断水が4日間続いた。日頃から、テレビ、パソコン、DVD、ウォームマンと電化製品が大好きな息子にとって、それらがすべて使えないということは、かなりきつかった。パニックになり、それがいつまで続くのか、何回も聞かれた。親もわからないので困った。とにかく、自宅が大丈夫だったので、何とか乗り切れたと思う。薬を飲んでいるが、処方されたばかりだったので、約1か月分の備えがあり、その件については心配なかった。薬がなければ、更に不安だったろう。情報がラジオだけだったので、身近で必要な情報は少なく、せめて、携帯でアクセスできる市内の情報が欲しかった（学校、スーパー、ガソリン、病院、情報）。本人は地震を怖がらないので、避難させるのが大変。今後の課題です。おやつの「じやがりこ」にこだわりもあり、自転車で探しまわった。大変だった。
- IX-3 停電、断水などがいつまでつづくのかわからず、繰り返し質問てくる。
- IX-4 停電へのおそれ

(男 10 ノ 母)

- I-3 配給はあったのですが、本人は決まったものしか食べないので、食料品の調達が大変でした（牛乳や薬を飲む時のヨーグルトなど）。お気に入りのテレビ（DVD）が見られなかつたので、騒いだりしました（停電1か月）。被災者（身内）が避難してきていたので、受け入れるまで大変でした。
- III 障害児（本人）について詳しくない身内が避難してきていたので、複雑でした。今現在もですが、家を流された方々からは、「家があるから良い」とか言われます。被災地にいても、被災者ではないと言われると、何とも言えません。とりあえず、自宅、家族は無事だったので、うちは大丈夫です。
- IX-3 災害と言うことで困ったことはありません。
- IX-4 お気に入りのスーパーや公園等にいけなくなり、たびたび、指示して行きたがる程度です。自宅、家族、学校等は無事で、大きな変化はありませんが、通学路はガレキの山を通ったり、地元の小学校（交流校）もガレキ置き場になっているのを見ているので、何かを感じているのかなと思っています。

(男 12 ノ 母)

- I-3 ガソリンが無かつたので移動できず、家族がそろったのは、3日後でした。
- III 家をどうするのか。残りのローン、高台移転、その場所。新しい家のローン。

(男 12 ノ 母)

- I-3 停電で、暖房が使えない、テレビが見れない（ニュースの情報がない）、夜暗いので地震がこわい、信号機がつかないので怖い。断水で、風呂、飲み水。食品が手に入らない。電話がつながらないので困った。
- III 住んでいるところは、今回の震災以前にも、震度6弱という地震を経験しています。今回の震度も同じくらいでしたが、まさかあんな大きい津波が起つていいとは思いもよらなかつたです。台所で家事をしていて、携帯のテレビをみていたとき「緊急地震情報」を耳にしたなあと思ったら、すぐに揺れ始めました。すぐに終るだろうと思ったのですが、だんだん揺れは強くなり、尋常じゃない・・・と思い、あわてて2階の電気コードを抜きに行き、・・・。そのうちに停電になりました。自閉症の次男のデイサービスにも、連絡が取れず。地震の情報も分らない中、夜になって、暗いことでパニックになっていた次男をなだめることも大変でしたが、寒かったです。内陸はまだ良い方です。沿岸の方々や福島の方々の方がもっと大変だと思います。
- IX-3 思い通りにいかないときの荒れ。危険がわからない（急に飛び出す、高いところに上る等）。

IX-4 大きな地震は今回で3回目なのですが、今まで停電、断水があつても、すぐに（その日のうちに）よくなっていたのが、今回は3日くらいかかり、余震も朝、昼、夜間わず、起きていたため、「ゆれ」に敏感になりました。揺れるたびに怯えています、顔がこわばってしましました。

(女 10 ／母)

I-3 学校や福祉施設がお休みになり、両親が仕事に行かず、子どもを療育しなければならなかつた（仕事を休まなければならず、心苦しかつた）。

III 自宅で子どもと過ごしたいが、家事もしなければならない。自宅で面倒見てくれるボランティアさんがいたらなあと思っています。会社も休みずらい、障害のある子供がいるので理解してもらっているが、特別にはしてもらえない。仕方のないことではある。やめられたらしいが、生活が成り立たない。お金も無い。外出できない本人が落ち着かず、走り回る。人ごみは嫌い、など人の目も気になる。めっきり外出がへつた。土、日の時間、過ごし方が難しい。食べることが好きで、太っている。買い置きできないか、食べ物がないと、怒って暴れる。病気になつても薬を飲まない。方法が見当たらず、今後どうなるか心配である。

IX-3 一人で過ごせない。一人でやることが無く、時間をもてあります。

(男 12 ／母)

I-3 停電、断水が長かったことと、食料品、衣料品等、生活用品が自由に買えなかつたこと。ガソリンがなかつたこと。

III 自閉症児が災害にあつた時に、適切に避難をさせてくれ、避難所でも落ち着いて（少しでも）過ごせるように支援してもらいたいこと。その後の生活の保障等。今回は、津波の被害も無く、家も停電、断水、物資不足程度ですみましたが、大きな災害にあつたらどうしようという思いです。何を備えておけばいいのか。自閉症の子どもに今から何を伝えておけばいいのか。結局、何もできずにいます。

(女 12 ／母)

I-3 停電のため、テレビが見られなかつたこと。

III 今回の地震では、避難の必要はありませんでしたが、今後、なんらかの災害で避難しなければならなくなつた時、避難場所で生活できるか心配です。

中学校

(男 15 ／母)

I-3 最初の地震の際、停電による信号が付かずでした。学校への迎えが危なくて大変でした。

(男 15 ／母)

I-3 家族の安否の確認。食料の確保。

III 沿岸の被災地に比べれば、被害はあまりありません。特に苦労したことはなかつたです。

(男 14 ／母)

I-3 火をともす怖がるのですが、停電が続いたため、ロウソクで夜を過ごす日が続いた。

III 親が死亡した後、残された子がどのように生活していくのか心配。

(男 14 ／母)

I-3 私の実家が全壊し、子供の祖父と同居することになったことで、子供の部屋が祖父の部屋となり、子供はリビング横のダイニングに、カーテンでしきつた狭い部屋となり、一人きりになりことができないため、落ち着かなかつたり、トイレにこもることがあつた。

III 自分の家庭には、停電以外の被害はなかった。以前に、災害が起きたとき、家族以外で子供の安否確認や避難をしてくれる人（近所の方）の登録をしたが、もし、今後災害が起きたとき、どのような手順でどのようにすればよいか、どこに問い合わせをすればいいのかのマニュアルはない。市町村、県、警察、学校などと自分たちの間でどのようにすればいいのか知りたい。
IX-4 余震にいらだっていた。いつ余震がなくなるのかと、繰り返し聞いてきた。

（男 14 ノム）

I-3 水道管が破裂したため、長期間断水したこと。周りのスーパーが休んだため、食にこだわりがあるため、食料の確保が大変だった。
III まだ感覚遊びが主体となっているため、放射能のセシウムが高い地区のため、外遊びに対する不安が強いです。土遊びをしていて、気が付くと口が黒くなったりと、まだ異食があり困っています。

（男 16 ノム）

I-3 見通しが持てなかつたこと（電気をはじめとするライフラインの復旧）。
III 日中、一時支援などの福祉サービスを利用したくても、どこも受け入れてもらえなかつた。幸い仕事を休むことができたので、一緒にいたが、休むことができなかつた場合にどうしたらいいのか？これから先が不安です。避難が必要とする災害が起きた場合、必要な支援が届くのか。
IX-3 言いたいことを上手に伝えられない
IX-4 余震や停電をいやがる

（男 14 ノム）

I-3 情報が停電の間、無になつたこと。
III 内陸部のため、停電のみが大変だったと思ひますが、いざ内陸部分に大地震が来たときの福祉避難所は今後大切な課題になると思ひます。障害者と健常者の区別がなくなる大震災、非常時は、心にゆとりもなく、「皆同じ」で話が終わり、苦労したと聞きます。やはり日ごろからの啓発、地域活動が本当に大切だと痛感させられました。
IX-3 チック症状がひどくなつた（音性）。
IX-4 祖父母や周りの人の心配や気使うことが少しできるようになつた。祖母（仙台市）たちの家へ初めて戻つた時の、室内の様子や町、港、好きな店舗の様子を作文におこして本人なりに感じ取れる程、周りの見え方が以前より成長して見えました。津波もすぐ前まで來たことや、建物の被害状況を、祖母に聞いたりして、自分なりに地震のことを理解し、今の生活にも、節電や人の気持ちを理解しようと、いかしてるように見えます。

（男 16 ノム）

I-3 ガソリン不足（灯油も）。スーパーから物がなくなり、自閉症の息子と2人で、並んで買い物をしなければならなかつたこと。児童デイも、学校も、ガソリン不足で、お休みになり・・・ガソリンって（いかに交通は大事か）ありがたいんだと思ったこと。
III アンケートの結果は必ずお知らせください。私たちのところは、岩手でも内陸部だったので、数日の停電とガソリン不足、物不足を我慢すればよかつたので、まだ良い方だったと思ひます。協会として何かできることがあるなら、すぐにでも呼びかけ、そして困っているご家族には長期的にも何かお手伝いをすべきと思います。
IX-4 地震の時も、その後も、全く変化がないようで、とても落ち着いていましたが、高等部に進学したときに、怖いものは何ですか？の問い合わせに、「地震」と書いて驚きました。

（男 14 ノム）

I-3 停電。内陸なので、ほとんど、災害はありませんでしたが、ガソリンスタンドの長い列を見ると、逆に不安になりました。

III 今日は大きな揺れでしたが、自宅で生活することができたので、困ったことはありませんでした。しかし、避難所生活になつたら、他の方々の目もあり、やはり一緒に生活することは難しいと思います（わが家は認知症の母親もいるので）。市町村単位でも良いので、障害のある人たちのみの避難所があると良いと思います。

IX-4 毎週ゲームセンター通いをしていましたが、震災でお店が閉まってしまい、行けなくなりました。これはすぐに納得し、今では行かないことの方が当たり前になり、申し訳ないのですが（他の方々には）、助かっています。

(男 16 ／母)

I-3 ガソリン不足

III 内陸で被害が少なかつたため、情報不足、ガソリン等の不足は一般の方々と同じでしたし、家族を家で過ごさせたので、本人は特に不安定になることはなく過ごせました。被害の多い地域の家族、本人は本当に大変だったと思います。

高等学校

(男 17 ／父)

I-3 妻、父が亡くなったこと。食事と薬、ガソリンを買えなかつたこと。

(男 16 ／母)

I-3 3月11日の15時30分が、精神科の受診予約だったので、薬が4日分しか残っていなくて、1日2回を1日1回にして、過ごしたので不安でした。その上、停電で、テレビやCDなど安心グッズも使えず、大変でした。

III 今回の震災で自宅は無事でしたが、子供が多動なので、ストレスがたまり、大変でした。薬も残り少なくなつて不安でしたが、病院が少し遠く、ガソリンも残り少なかつたため、すぐには通院できませんでした。また、避難所で生活している自閉症のお子さん（多動）が周りの人びとに理解されず、家族も大変だったと聞き、とても不安になりました（もし、自宅が壊れたら・・・と余震が怖かったです。）

IX-4 興奮して暴れることが多く、壁を蹴破り、穴をあける反面、不安で親や先生の側を離れなかつたり、登校を嫌がつたり、不安定になつてゐる。本人だけでなく、学校の他の子供たちの行動も震災の影響を受けていて、それが本人にも影響しているように思います。

(男 16 ／母)

I-3 当日、家族がバラバラになり、3日後に再会した。たまたま、施設に短期入所していて本人は安全に過ごせた。帰宅後、停電、断水と落ちつかない日々を送つた。学校も休校となり、日常生活が大変だった。

(男 15 ／母)

I-3 ガソリンや食料がなかなか買えなかつたこと

III 東北といつて内陸なので、困つことと言えばガソリンと食料が手に入りにくかつたことぐらいです。

(男 19 ／母)

I-3 ライフラインが復旧するまで、食事やトイレが困りました（自閉症児の娘が生理中だつたこともあります）。

III 来春に就労予定ですが、就労先に考えていた所は定員いっぱいで行けず、他の事業所に通う予定にしていますが、子供に本当に合つているのかどうか、迷いがあります。この半年は卒業後の不安のためか、子供自身、不安定で、よく泣いたり騒いだりしていて、職場実習先でも、よく泣いていました。それでも、周りに方々の配慮で何とか実習も終えることができました。今は、どこの事業所でも、定員ぎりぎりのところが多く、なかなか「選ぶ」という状況ではありません。様々なタイプの事業所が増えてくれればと思います。

(男 16 ／母)

I-3 停電（灯り、ヒーター、ポ이라ー不可）。ガソリン不足（学校が遠方で登校させられなかった。車がないと生活がむずかしい）。

(男 18 ／母)

IX-3 出かけたがらない

(男 17 ／母)

I-3 停電、断水

(女 16 ／母)

I-3 パニックを起こされたこと。大声で叫んだり泣いたりしたこと。見通しがまったく立たないこと。

III 余震がくるたびに怯えた。人生初となるであろうライフライン全般がストップ。電気がつかないのに怒り、トイレが流れないのに怒り、今しばらく収まっていた自傷行為がまた始まってしまい、物も手に入らず、どこにも行けず、ストレスなのか、はたまあ、何が原因なのか、見通しも全くメドがつかず、大変でした。

(男 18 ／父)

I-3 停電とガソリン不足

III 今回の震災では、自宅に居れたので、特に問題はなかった。家族6人同じ部屋で過ごし、停電、余震に対応した。現在、困っていることはありません。もし、避難所であれば、周りに気を使い居れないと思います。

(男 19 ／母)

I-3 利用する予定だった施設が、震災のため建物に損害があったり、電気、水道、ガス、物資、ガソリンの確保ができないと、3月下旬まで休みになってしましました。本人の生活リズムが崩れた。親も用事を足せなくなりました（物資確保ができない）。

III 身体、自閉症、知的と障害をもっており、重度障害児です。母も病気を持っており、体の状態が安定しないため、施設に入所を希望しましたが、近くの施設は重度の人は受け入れないとか、定員一杯とか、その他の理由で断られ、今は隣の県の施設で週5日のショートステイをさせています（父親の実家の方なので、将来、そちらに行くことを考えると、それもしょうがないこととも思いますが、実家からも1時間以上離れた場所です）。交通費もかかります。が、冬の雪が降る時期は、母は運転に自信がないため、父親の送迎になります。週2往復（片道2時間半）してもらうのは、体力的にも大変なことだと思います。

IX-3 赤ちゃん、子どもの声に反応し、その子に囁き付いたり、引っかいたりしようと/or;自分の腕を噛む。

(男 17 ／母)

I-3 ライフラインとガソリン、灯油の不足。

III 次に大きな地震が来た場合、自宅以外の場所で避難生活を送ることになったとき、本人の居場所の確保や物資の供給が十分か不安だ。今回の地震、津波で、沿岸に住んでいた障がいのある方が、内陸の施設に入られたため、今後、内陸の施設を増やすことを考えてほしい。

IX-3 気持ちを表現して伝えられないため、辛い状況を我慢してしまっている。

(男 17 ／母)

I-3 停電のため、テレビが見られなかった。仕事に出かけなければならなかつたので、一緒に連れて行き、車の中で待たせた。

III 我が家は、家が一部損壊ですみ、家にいることができたので、それほどパニックにならずに過ごすことができたのは、幸いでした。薬も前月に2週間分をもらったばかりだったので、助かりました。自閉症というのは、いくら理解があっても、人がたくさんいる避難所での生活は難しいので、福祉避難所の拡大と充実を望みます。今回の震災があって、福祉避難所の存在をしりました。

(男 17 ノ 母)

I-3 震災で宮古市は、交通、ライフライン、停電等、生活する上でしばらくの間、不便な生活が続いた。食料についても、手に入りにくい日が続いた。仕事も、再開するにも燃料等の不足により大変だった。

III 震災とは直接関係無いことですが、病院に通うことになった時、歯医者等の通院は多動ということもあり、誰かの手助けをしてもらわないとならない。今年、てんかん発作で鎖骨を折り、数日間サポーター生活で本人のストレスがたまり、固まったり、唾を吐いたり、物をたたく、服を脱ぐなど問題行動に大変困った。結局、手術となり、その間いろいろな面で大変な思いをした。今年は高等部になり、生活の変化に対応できない中で、起きた事故で秋（11月くらい）まで以前の生活に戻るまで時間がかかった。

在宅

(男 36 ノ 母)

I-3 地震により、お風呂のボイラーが壊れたこと。

III 3. 11の地震、津波を見るのが生まれて初めてなので、ただ驚いているところです。

(女 17 ノ 母)

I-3 災害で娘に関して困ったことはありません。むしろ、災害時、娘は家財と家族の生活を守るために、八面六臂の大活躍をしてくれました。

IX-3 災害の前も、後も、変わることなく、自分が生きる意味を見出せない。

(男 20 ノ 父)

I-3 停電、本人の嗜好品が入手しにくくなつた。道路が寸断され、病院や施設に行けなかつた。

IX-3 施設が避難所となつてゐるため、満足な支援が受けられるか心配である。

一般就労

(女 25 ノ 母)

I-3 寒さ（灯油、ガソリン不足、停電）。本人は落ち着いていました。

III 年頃になり、異性への興味から結婚したいといいます。自分が病気という意識がない。こだわりでは、弟をかわいがっているつもりだと思うのですが、支配的で弟が辛そう。止めさせようとしても直らない。今回の地震で避難所生活は（していないが）大変だろうというのは強く感じた。障害をもたれている方との集まりには物足りなさそうで行かない。かと言つて、健常者とのコミュニケーションも難しく、行き場がないように感じる。

IX-3 弟に対し支配的

(男 36 ノ 母)

I-3 私どもは家の中が少し物が壊れただけで、あまり災害はありませんでしたが、外に出る時に、いつまた、地震がと思うことが不安なだけでした。

III 地震についてはあまり被害はなくて、助かりましたが、今まで親が若かつたので、何とかしてきましたが、親が年老いていくと、兄弟姉妹（私どもでは姉）にどの程度委ねることができるか、不安です。特に今回の震災のようなときは、姉は嫁いでいますので、地域の方々の理解を願うばかりです。

福祉的就労

(男 19 ／ 父)

- I-3 津波により自宅が全壊。避難所に直接入らず、自家用車で一晩すごした。本人や、周り一般の人に配慮したため、この後の避難所生活（約3週間）も、2～3箇所を転々とした。今回のようなケース（震災）では、一般の人のように、公共性を保ち過ごすことはむずかしいと実感。
- III 市より一般の避難者より優先して高齢者、障害者の居る世帯に対し、仮住まい的な場所の募集があり利用した（一般に仮説住宅が出来る前）。しかし、共同アパート程度であり、プライバシー、その他、利便性の良いものとはいえないかった。しかも、仮説住宅扱いとなるため、その後の建設された仮説住宅には入居できないとのこと。上記のアパートのような所は、あくまでも弱者に対する避難所と位置づけるものであり、仮説住宅とはなり得ないと考えます。行政（市町村）の柔軟かつ上記弱者への十分な配慮の検討がもっとほしかったと思います。この方たちは、意見、クレームを簡単に言える人じやないのですから。
- IX-3 外出時の奇声（ややであるが）

(男 40 ／ 父)

- I-3 3日間停電になり、テレビが見られない、照明がつかない、で停電恐怖症になった。職場が休業して10日ほど自宅待機。ガソリンが不足して、町はひっそりと静まりかえって、やることがなくて困った。
- III 今までに最も苦労していることは、休日中の世話です。外食したり、旅行したり、何か行事を作つてやらなければならぬこと。今回の震災で、電車や自動車が止まって、ガソリン、灯油、食料が内陸にも届かず、地震による直接の被害がなくても、2週間ほど町は職場が休業したり、ひっそり静まりかえって、本人はどこにも行けず、暇をもて余して困った。

(女 20 ／ 母)

- I-3 水、電気、ガソリン等
- III もし自宅が被害を受けて住めない状態のときに、家族・本人が障害のことを気にすることなく時間を過ごすことができる場所があると安心します。

(男 21 ／ 記入なし)

- I-3 子供の見たいテレビが見られない。食料品（子供のこだわりのもの）等。電気が止まり、いらだち。水が止まりお風呂に入れない、トイレが流せない、手が洗えない。
- III ショートステイが少ない。親が泊まりの時に預けるところが常にいっぱい。作業所の仕事が少なく、やることが無い時もあります。子供たちの楽しみがないので、旅行とか、ボランティア付きであると助かります。ディズニーランド・シーの企画お待ちしてます。
- IX-3 災害のため行きつけのビデオ、本屋、フィギア屋さん等、店を閉めているので、イライラと怒りは思い出した時にあります。

(男 36 ／ 母)

- I-3 岩手でも内陸部のため、地震による被害や被災地（津波）との関係で、生活全般が不便となつた。停電のため、テレビが見れない、交通手段が被害により休日など不便、スーパーなど閉店により買い物ができない、生活パターンが変わつたことへの不安。

III わが子にとっては、不便や精神的不安などあったものの、沿岸（津波）の方々に比べれば、恵まれていることに申し訳ない気持ちでいっぱいです。一番に思ったことは、会員の皆様はどうしているんだろう？何かお手伝いをしたい！あせりました。残念ながら、私の姉が津波に遭遇したこと意外、安否確認に一週間かかりました。ましてや、今はプライバシーの関係で、会員名簿もない状況も重なり、かなり後になって仲間の一部を知りました。やはり、非常時の体制作りの大切さを痛感しました。そんな中でも世界中から多くの援助を受けたこと。私たち一人ひとりが感謝をして今後も自分でできることを続ける・・・この積み重ねが大事だと強く気持ちを新たにしました。協会の皆様には、一つでも多くの情報発信をお願いしたいと思っております。

(男 19 ノ 父)

- I-3 3か間の停電、寒かったです。車のガソリン不足が、生活介護施設を2週間休み、本人は自宅で過ごしました。家族も職場を休み自宅で過ごすことになりました。
- III 自閉症支援施設「虹の家」の生活介護にお世話になっていますが、様々な細かい所まで配慮していただき、必要な情報もたくさんいただいています。お蔭様で、当面、困っていることはありません。施設と自閉症に詳しい職員の皆様に感謝しています。
- IX-3 興奮、苛立ちで、電気器具等をたたいてこわす行動。災害以前も以後も同じようにあります。
- IX-4 昨年の夏、本人が楽しみに行っていた陸前高田市の高田松原（海岸の海水浴場）が全滅したため、楽しみが減りました。

(男 23 ノ 母)

- I-3 内陸に住んでいるが、大きな被害もなく、2日間の停電だけだったので、本人も家族もあまり困ったことはないです。ただ、ガソリン不足、食料不足のため作業所が1か月休みだったので家で過ごすことが、本人暇だった様子でした。
- III 震災後、もしもの時、避難場所をどこに行けばいいのか・・・人の笑い声や話し声が苦手なので、一般の人と避難することはできなく、1か月、2か月もどこで生活すればいいのか。いろいろ考えさせられることばかりで、少し不安になりました。地域の人との関わり方も、今は避けるように生活している状態なので、もしもの時は本当に困ってしまいます。

(男 19 ノ 母)

- I-3 長く続く停電と、地震の揺れにより、本人はもとより、親の私の方もこれからどうなるのか、不安が続いて大変でした。電気がつかず、テレビが見られない、通所施設が休みとなり、日常の生活ができず、混乱して落ち着きがなくて大変だったと思います。
- III 我が家は被害がなかったので幸いでしたが、沿岸の方では、家を失い、家族をなくしたり、避難所に身を寄せるなど、大変だったと思います。日常と全く違う生活になじむ自閉症児はいないと思うので、避難所で暮らすことができたのか、本当にご苦労されたことと思います。

(男 23 ノ 母)

- I-3 災害により、ケアホームと通所施設が1~2週間休みになりました。私は仕事をしていたため、どうしたらよいか困りましたが、たまたま大学生の兄弟が避難して帰ってきたため、自宅と一緒に居てもらい助かりました。それから子供と二人だけの場合、食料品やガソリンがほしくても、長い時間並ぶこともできず、困りました。それから、服薬している薬がなくなるのがとても心配でした。

III 普段ケアホームや通所施設を頼りに生活している私たち親子は災害によりそのどちらも頼れない状況になった時、どこを頼っていいのか非常に困りました。夫は沿岸に単身赴任をし、他の子供たちも別の場所に住んでいて、普段、私一人しかいないので、大変心細い思いをしました。ちょうど薬もなくなる頃で、このまま薬がなくなり、本人の状態がひどくなったらどうしようなどと悪いことばかり考えてしまいました。実際、津波にもあっていない内陸に住んでいる我が家でさえこんな状態ですので、沿岸の方々のご苦労は、計り知れないほど大変だったと思います。

(男 23 ／母)

- I-3 停電になったことで、日常生活が一変し、規則正しい生活をどうにかして保つことができ、照明、給湯、暖房等の便利さが本人には痛かった。仕方が無いとあきらめて、ロウソクの火、石油ストーブ（旧式反射型）、ラジオの生活も落ち着いたが、授産施設に通えないこと、ガソリン不足でドライブができなかつたこと。
- III 内陸では被害はあまりなく、停電が2日間でした。それでも、余震が半端なくあり、本人にとっても心穏やかでない日々が1か月くらいは続きました。ガソリン不足でバス等、交通の便があまりなく、一時期は街も近辺もゴーストタウン化した気配でした。地震を怖がる子供にとっても、自宅が安息の場になって心地よく逆に風化してしまうのが、どうしたものかと思うくらいです。東京以西の人にとって、この震災の状況には、温度差を感じられるこの頃です。
- IX-4 災害時のニュース、映像は特に注意して聞いたり観ている。

(男 35 ／母)

- I-3 通所施設が閉鎖となって、2週間、息子と2人きりで、電気、灯油、ガソリンのない生活を強いられた。
- III 精神病院で入眠剤をもらっているが、何を相談しても分らないと言われ、怒りさえ覚える。医師の不勉強が一番の差別だ。通所の無い休日、余暇をもてあまして、ボーッとしている息子を見ているのが辛い。
- IX-3 嬌声めいた独語と、貧乏ゆすりがセットで現れ、原因が分らない。

(男 19 ／母)

- I-3 停電により、ビデオ、DVD（本人が日常的につけっぱなしにしている）が、利用できなかった。品不足により、本人が食べられる品物（極端な偏食）が置いてなかつた（買えなかつた）。
- III 今後、大きな震災が起こり避難所へ行かねばならない状態になつても、絶対に無理だと思う。テレビ、ビデオ、本等、心の安定剤をすべて持つていけて、なおかつ、他人の目（視線）が気にならない。話し声が聞こえない空間が必要と思うと、ホテルの1部屋じやないと無理かも知れない。世の中の景気が良くなり、人びとの気持ちに余裕が持てるようにならないと、障がい者への理解は進まないと思う。田舎に住む人ほど、人目を避けて生きているのは、今も昔も全く変わりないと私は思います。苦労は尽きません。
- IX-3 過度の偏食
- IX-4 地震のたびに停電になるのではないかと、不安がります。

(男 27 ／母)

- I-3 停電、断水、情報の断絶などで、日常のすべてが失われ、本人は混乱し、対応に困った。
- IX-3 地震時、余震のときなど、ひどく抵抗して非難しようとしている。

(男 20 ／母)

- I-3 テレビが見られなかつたこと。
- III 現在は家族と住んでおりますが、祖父母も高齢になり、介護の問題が出た場合の、ショートステイ先、ケアホームが充実してくれることを希望します。
- IX-3 お風呂で遊んでいて、なかなか上がってこない。家の中をピョンピョン飛び跳ねている。

IX-4 災害後、毎日のドライブに変化はないが、道路の陥没のため、1時間のドライブが15分になった。

(男 34 ／母)

- I-3 停電になったこと、ガソリンが不足、食料が不足。
IX-3 こだわりが強く、協調性がない。

(男 22 ／父)

- I-3 本人が不安定になった。通所施設の送迎がストップした。プール等の利用ができなくなった。
III 安定した場所の供給がほしい

(男 23 ／父)

- I-3 4日間停電したことと、食料の買出しで、雪の降る中並んで買ったこと。
III 避難所に避難したとき、周りの人たちとうまくやっていけるのかどうか心配です。

(男 19 ／母)

- I-3 電気、水道などのライフラインが止まったこと。
IX-3 言葉は話すが、自分の言いたいことばかりで、こちらの質問にうまく対応できない。

(男 23 ／母)

- I-3 3日間の停電で、家電が使えず、寒かったこと。灯油、ガソリンが買えず大変だった。食品もなかなか手に入らず、大変だった。
III 震災直後は、食料やガソリンを買うのに長時間並んで待っていなければならなかつたが、その間、子どもを見ていてくれる人がいればいいと思った。
IX-3 震災とは関係ないが、興奮、苛立ち、自傷、こだわり、人への攻撃性。

(男 37 ／母)

- I-3 本人が、働いているところが、バスと電車を乗り継いでいく遠方にあるため、信号の止まった道路は危険で迎えに行けず、ケアホームに一応迎えに行って待機していた。数時間後に職員が同じ方向の青年たちを車で送っていました。自宅までは信号の無い真っ暗な道路を車のライトを頼りに帰宅。電気も水道も無い状態で数日過ごした。
III 盛岡市は震度5強で、場所によってはかなり家が傾いたり、家具が倒れたりと、大変なところもありましたが、幸いわが家はほとんど被害はありませんでした。息子がどうだったか、無事に帰れるのか、それだけが心配でした。もちろん電気は即止まり、電話も不通、そのうちに水も止まりました。職場の職員の方々のご尽力で、夜遅くに無事帰宅。ヒーターの無しの寒い部屋で、ローソクの灯りで何とか食事をしました。幸い水は確保。プロパンガスでしたので、店で長い列に並び食物も確保できました。本人は、本人なりに理解し、3日間断水、停電の中で静かに暮らしました。もちろん、力持ちですので、給水場からの水の運搬、買い物等、大変助かりました。
IX-3 言葉によって表現することが不得手。仕事は好きで楽しいらしいが、気持ちが伝えられない。

(男 30 ／母)

- I-3 停電。物流が悪かったこと。
III 時に今回の震災による影響とも思えませんが、人ごみ、2階以上に上がると不安（パニック）になり、大好きだった新幹線にも乗れなくなり、職場、家族等の旅行など行けなくなっていることが残念に思っています。社会の楽しいこと体験させたかったのですが・・・。
IX-3 地震等による災害よりも、本人の過去の不安だったことを思い出し、それが現在の生活に影響し、自傷やこだわりにつながっている。

(男 24 ／母)

- I-3 停電であることを理解できないので、夜、けがをしないようにできるだけ注意した。盛岡市は停電以外大きな被害がなかったので、本人は比較的落ち着いていました。通所福祉施設も給食は1週間ありませんでしたが、ガソリン不足にもかかわらず、送迎バスが運行していたので助かりました。
- III 発語が全くありませんが、毎日いやがらずに作業所に通っています。てんかんの発作がいつくるか、わからないので、不安なこともありますが、指導員の先生方と協力しながら、生活しています。親がまだ健康なので、いまのところ問題がありませんが、今後、私たちが死亡した後、本人がどうなるのか心配です。グループホームで生活するのも難しいし、施設も一杯ですしどうなるのでしょうかね・・・。

(男 21 ／母)

- I-3 停電のため、ゲームやビデオが見られないことが理解できず、パニックになった。ガソリン不足のため、通所施設の送迎がなくなり、通えなくなつた。見てくれる人がいないので、家族が買い物にも行けなかつた。
- III 現在は特に困っていることはありませんが、私たちが住んでいるところも放射線物質汚染の重点調整地域に指定されました。そのことが心配です。
- IX-4 停電でも困らない余暇の過ごし方を見つけました。先日、強風のとき、震災以来の停電がありましたら、ランタン等をつけてあげたら、いつも通りビーズで遊んでいました。

(女 20 ／母)

- I-3 家族の安否の確認をすること。
- III 災害時、家族がバラバラにいたので、安否確認を早くしたかった。家族に会えるまで、心配で心配で皆が無事だとわかつたときはほっとした。
- IX-3 言葉がほとんど話せない。

(男 23 ／母)

- I-3 5日間、停電が続いたため、情報が得られにくかった。寒さ対策に苦労した。福祉施設の送迎に車を使っているが、ガソリンの供給が少なく、ガソリンスタンドで数時間待ちで入れ、とっても大変だった。
- III 災害になって、障害を持っている人たちは、避難場所には行けないと感じた。特に自閉症（重度）の場合は、本当にどうしたらいいのかと思ってしまいます。説明しても、受け入れてもらえないし、パニックになるばかりです。安心して障害者を受け入れられる場所を望みます。

(男 不詳 ／父)

- I-3 水、電気、燃料
- IX-4 夜間に起きて騒ぐ状態が続き、精神安定剤を服用した。

施設入所

(男 44 ／母)

- I-3 電気がきれて困った。オール電化なので何もすることができます。

(男 23 ／母)

- I-3 通信手段
- III 就労を目標に実習先を探している矢先でした。震災後はさらに困難な状況です。東北に一日でも早い復興を！障害者にも働ける場所を願います。
- IX-3 日常生活で、優先順位を考えることは、本人にとって大変なストレスになっている。

(男 41 ／父)

- I-3 土、日の自宅への帰宅の際、ガソリン入手困難につき、電車、タクシーの乗り継ぎ（2週）

(男 36 ノ 父)

- I-3 停電、ガソリン不足、食品不足。
III 親の死亡後について
IX-3 言葉による意思表示がない

(男 41 ノ 父)

- I-3 食物、水がなかった（3日間ぐらい）。停電によるトイレ（あと始末）、夜間の過ごし方。衣類不足。
III 仮設住宅がせまくて、外泊させたいができない。自分が軽い脳梗塞のため、自宅（仮設）へ連れてくるのが心配。早く自分の家がほしい。
IX-3 少しストレスがあるようです。

(男 25 ノ 母)

- I-3 停電で暖房が使えず、寒かったことです。また、電気が復旧しても、施設の落下物のため、3週間も戻れず、両親とも仕事のため、家でみるのが大変でした。地震のため、仕事を休めずに。。
III 土、日、祝日は、施設から帰ってきて家族と過ごしていますが、出かけると、他の人がじろじろ見るのがいやでたまりません。また、親が先になくなりますと、その後が不安です。
IX-3 外に出る機会が少ないことです。

(男 30 ノ 母)

- I-3 水道、電気が止まったこと。水が出ないことで、本人が混乱した。
III 停電、水道が出ないことで、本人がパニックになった。今は落ち着いているので、ホッとしている。
IX-3 下痢、便秘など、便通がよくない。

(男 24 ノ 母)

- I-3 電気がダメだったこと。そのため、トイレが使えないこと。ガソリンがなくなり、移動ができなくなること。
III 親も年をとり、父親が倒れ、母親も調子が悪かったりする時があり、子どもは一人で生きていけないし、親がいる内に、安心して過ごせる所があればいいなあ。

(男 26 ノ 母)

- I-3 ガソリン不足で施設に居る子どもに会いに行けなかつたこと。
III 急に大声で叫んだり、壁や床を叩いたりして興奮することがある。

(男 33 ノ 父)

- I-3 特に被害がなかつたので、特別感じていない。

(男 40 ノ 母)

- I-3 寒さと移動のためのガソリン不足
III 大した被災も受けなかつたので、あまり言えないが、もしもの時は、いつもと違う状況を我慢できず動き回り、周囲にも迷惑かけたと思う。
IX-3 前住所に「誰がすんでいるのか」「どうなっているのか」を知りたいらしく、知らないうちに出かけて、相手に怒られている。自分のものと、他人のものを区別しようとしている。勝手にしようとする。

(男 24 ノ 母)

- I-3 ライフラインの復旧に時間がかかつたため、週末に帰省する子どもとの生活にかなりの支障が生じたこと。
III わが息子は、震災当日幸いにも施設にいたため、職員の働きかけにより、パニックを起こすことなく、無事に過ごすことができました。もしも、これが、帰省時だったら、相当なストレスを与えていたことと思います。今回は、家屋が無事だったので、避難することはませんでしたが、もしも、避難所生活を余儀なくされた場合のことを考えると、不安でいっぱいです。

(男 31 ノ 母)

- I-3 暑がり寒がりでもあるので、暖房がないので、寒がり怒る。衛生面でもトイレ、風呂、手洗いが十分出来なくて心配舌。本人はトイレの使用がいつもと違い、嫌がったので、苦労した。夜になると、電気がつかなく、暗くて怖がった。
- III 常と異なった状況をきらうため、ストーブがなく寒さに耐えられなくパニックになる。電気もつかないので、暗がりを怖がる。トイレもいつもと違う使用方法なので、ギリギリまで使用しようとせず、漏らす。臨機応変の対応ができず、一つ一つの対応に苦労した。
- IX-4 トイレを我慢して漏らすことが度々ある。

(男 27 ノ 母)

- I-3 電気が使えないこと（10日間）。食料がなかったこと。
- III 災害の後（当日）、家に連れて帰りました。夫と私と子どもと3人で、サバイバルの生活を10日間しました。息子はあまり動搖することなく七輪でご飯を炊いて、小さい小屋で火をたいて、電気がつくまで待ちました。家は無事だったので、本当に良かったです。もし、避難所だったら、どんな風に行動したかわかりません。自分たちが生きている間は全力で息子を守っていきますが、いなくなったらどうするんだろうと、考えています。もと、もっと、自閉症の子どもたちの施設と安心して住める場所を確保していただきたいと思います。
- IX-3 今、一番困っているのは、発作が起きることです。今まで無かったので、今年に限ってどうしてかと思っています。

(男 22 ノ 父)

- I-3 ライフラインが止まったことです。

(女 32 ノ 母)

- I-3 施設に入所してましたので、安否確認。生活面では安心できました。
- III 災害後、施設に入所している時で、よかったです。自宅にいたら同じように対応できたか分りません。

(男 28 ノ 母)

- III 親も年をとってきて、これからのが、いろいろと心配です。現在は施設に入所し、週1回は帰宅していますが、いつまでこのようにできるのか・・・。

(女 32 ノ 母)

- I-3 入所施設にいましたので、施設で対応していただきましたので、安否確認は翌日の朝になりました。その後、電気、ガソリン、食料等の調達が難しい状態との話が施設側からもありましたので、自主的に自宅待機を10日間しました。
- III 今、入所施設にいますが、施設での生活を楽しみながら、作業にも取り組み、目標であったダイエットも効果が生きてきて良い方向に進んでいます。今の状態で安定した生活が今後、年齢を重ねながらも続けていけたらと願っています。
- IX-3 まれに時々では在るが、人への攻撃性と自傷行為があり、アザを作ってしまうこともある。

(男 18 ノ 母)

I-3 沿岸の家族の安否確認

III 小学のころまでのパニック、フラッシュバック。思春期の頃の学校に行きたくない、それゆえの家出等。色々大変でしたが、施設2年目の今年は、生活に慣れたようでもあり、また、男だけの集団生活でいろいろと楽しみもあるようで、かなり落ち着いて生活しているようです。震災のときも、施設でがっちり支援してもらえたので、保護者としては安心できましたし、心強く助かりました。

IX-4 森岡は災害時、地震や停電はありましたが、被害は少なく、また、ショックを与えないよう災害の様子をあまり詳しくは伝えないようにしたいたので、上記の質問に、「災害以前にもあったが災害後、少なくなった」と答え項目が多いのですが、うちの子供の場合は、災害の影響より、施設2年目で慣れてきたことと、年齢的に落ち着いてきたという感じです。、

(男 32 ノ 母)

I-3 停電

III 親が老いてくること

(男 27 ノ 父)

I-3 電気が通らなかつたこと、ガソリンが手に入らなかつたこと。

III わが家は内陸部であり、津波等の被災は無かつたのですが、大地震が発生して避難所生活ということになった場合、おそらく相当な迷惑をかけるものと思われ、避難所ではなく、テントか避難所の近くで車での寝泊りとなるのはとも思つたりしておりますが、これらの対策は、行政側もこれから課題であり、どのようにきめの細かい支援をしていったらよいかということを、考えているといったところです。

(男 30 ノ 母)

I-3 食料が不足したこと。スーパーが全部閉店し、何も買えなかつたこと。ガソリンも買えなくてバスで通つたこと。電話が通じなくて、子どもの安否がわからず、施設でも食料が不足しているのではと、とても心配でした。

IX-3 夜尿がずっと続いている。

IX-4 少し不安定でしたが、今は落ち着いている。

(男 31 ノ 母)

I-3 電気、水道、などのライフライン。自動車に必要なガソリンの統制。生活物資（電池、食料）の不足。

III 施設での、自傷、他傷行為に悩まされている。慢性疾患（高血圧症、慢性腎炎）があり、内科の服薬を始めて21年になるが、今の処方箋が本人にとり、一番あつてゐるようで、現在は軽作業をしながら、普通の生活ができるが、将来、薬が効かなくなってくることも予想されるので、本人の疾病も含め、行く末が心配である。最悪な状態に陥らなくするために、主治医との連絡、コミュニケーションが欠かせない。

(男 28 ノ 母)

I-3 施設に入所しているので、本人に電話不通で、家族の安否を連絡できなかつたこと。本人と毎日電話していることができない状況が、停電等で20日位できなかつたこと。

III 震災発生後、すぐライフラインが停止。停電のため、固定電話不通、携帯電話の不通、20日以上で、施設入所の本人との直接電話ができず、人を介して家族の安否の連絡を依頼することにしました。その後、ガソリンの不足もあり、決まった帰省日にも、迎えに行くことも難しく、本人がどのような状況にいるのか、とても不安でした。施設職員の適切な支援で生活できていて、有難く感じています。

IX-3 施設入所しているが、災害発生しても他の利用者と一緒に避難という事はとてもできるとは思えないでの、そのような状況になつたら不安だ。

IX-4 地震に敏感になり、帰宅時に避難警報が出て、2時間弱、車で避難した際、安心できる場所がなく、すぐ家へ帰ると言つて大変な思いをした。

その他

(男 37 ノ 母)

I-3 ライフラインが全てストップのため、3度の食事がとれなかつた。また、ガソリンがなく、10時間並んで10リットル位しか給油できなかつた。スーパー、コンビニ等に品物もなく、長い時間並んでも、何も買えない日が何日も続いた。食べることが大好きな息子は「ガマン、ガマン」と頑張ってくれた。

III 重度の自閉症ですが、37歳の今では、10人家族の食事の世話や洗濯等をこなし、日中は福祉施設へ通っております。様々な場面にも騒ぐことなく指示に従って行動できます。

(男 16 ノ 母)

I-3 子供との生活の中で、車は本当に必要なものなので、ガソリンの無かつた期間（約3週間）は移動はバス、タクシー、電車でした。どれにも静かに乗れる子供ですが、やはり、便利な車は必要ですし、経済的です。

III 子供は自閉症の障害はありますが、今まで私たちは障害も考えまた社会性も考えて、生活体験をたくさん普通に考えて育ててきました。その結果、子供は私たちを信じて生活をしていると思います。息子は音楽が好きです。兄弟たちが、上の子3人が音楽教室に行っていたこともあり、生活の中にそれらがありました。そのことも良い方向に向いたのだと思います。この震災で、私たちが生活を重視した育て方が正しかったと確信しました。息子の自閉症の障害も軽かったのかも知れませんが、生活体験をたくさん経験するって生活年齢を上げることにもかかわっているので、たくさん様々なことを経験することは良いことだと思います。あとはやっぱり家族の愛ですね。子供を信じる愛ですね。家族を彼が信じれば、次の扉は開かれると思います。私のまわりにもいろんな方がいます。障害は個性だと考えて、子供とこれからも楽しく過ごしていきたいと考えています。

(男 32 ノ 母)

I-3 電気、水、ガソリン

III 震災前は、2事業所のショートステイを利用していたが、震災後利用できず、不便であった。ちょうどこの時期に葬祭があつて、家族で時間の調整などをして対処しました。我が家はなんとかなつたのですが、震災を理由に、うまく利用できなかつたとも伺っています。2箇所以上の事業所との契約を今後するべきとも考えるのですが、本人にとって、果たして良いものかと悩んでいます。障がい者歯科が30分圏内になく、地域の障がいに理解の歯科に通院健康診断、ブラッシング指導をしていただき、いざ、治療には医大の歯科で治療は何かと不便を感じています。阪神大震災も東日本大震災等でも、感じたことは、支援してくださる方、特に、先頭きつて関わっていただく消防署員、警察の方々に、障がい別の支援のあり方の研修・啓蒙をしていただきたい。各施設の向上と質を高め、また、統一されたサービスを受けられるためにも、施設のランク付けをしていただき、利用するときの目安に出来たらと考えます。

IX-4 震災前、3年間、問題行動、こだわり等で困っていましたが、震災後、コミュニケーションも取れるようになります。うそのように落ち着いています。

(男 39 ノ 母)

I-3 申し訳ありません。内陸だったので、地震の被害はほとんど無く、停電、水道が止まる。ガソリン、灯油、食料、日用品、など、入らない時期もありましたが、津波や原発、家屋の被災の方々とは比べようもないくらいです。

III 本人は精神状態が思わしくなく、入院させておりましたので、地震、停電の中、無事すみました。本人が在宅だったら、パニックになり大変だったと思います。困ることは退院後どうしたらよいかです。

(男 25 ／ 父)

- I -3 停電中、断水でお風呂に入れなかつた。電気、水道の復旧を気にしてパニックを起こしそうになつた。
- III 周りで多くの方が生活をなくしています。生きていることに感謝しています。

(男 36 ／ 母)

- I -3 通常の生活ができなかつたこと

(男 18 ／ 母)

- I -3 震災から、3月いっぱい休暇が続き、食材入手困難、ガソリン不足、大好きなプールが休業、買い物のためのスーパー、コンビニがしばらく休み、又は品薄。
- III 長期休暇の期間の個人のヘルパーさんが、いてくれたらどんなに助かつただろうと思います。

不詳

(男 33 ／ 母)

- I -3 停電で水がでなかつた。食糧が買えなかつた。ガソリン不足で、並んでも買えなかつた。反射式ストーブがあつたので暖を取れてよかつたです。プロパンガスだったので、煮炊きもできました。東北道が災害用車のみしか通れなかつたため、仕事が（主人、息子）休みだつた。母はスーパー勤めだつたので、毎日、入荷したものを並べるという普段ではない生活でした（震災の次の日は店頭販売等でした）。
- IX-3 以前からあつたことですが、施設の若い女の職員におっぱい等いやがる言葉を話し、相手の反応を見て楽しんでいるように見られること。水に固執し、流しを独り占めしづつと出している（今はじか水道なので電気代ですみますが、市水道になると、いくらになるか見当がつきません）。家では食べ過ぎるほど食事で食べますが、施設では1食のみしか食べないです。何か悪いことした時、「お前食事抜きだ」と話していることから、こだわりにしてしまつたと思われます。
- IX-4 施設からの単独帰省の許可が出ず、車での送迎となつた。10日からようやく電車での単独帰省ができるようになった。帰省は本人の固執で、母がいつも車で送っています。

(女 23 ／ 母)

- I -3 停電のため、暗闇をとても怖がりました。余震を怖がり、毛布をかぶつて動きませんでした。断水もあり、生活全般に介助が必要になりました。

(女 35 ／ 母)

- III 親が亡くなった後のことが心配です

【宮城県】

幼稚園・保育園

(女 5 ／ 父)

I -3 本人が通園する幼稚園が休園となって、生活のリズムが崩れたのが意外に震災後の混乱した状況下でも、適応できていた様子。一番大変だったのは食糧とガソリンも調達が困難だったことにつきます。

III 生活物資を調達するため、「行列に並ぶ」という行為が困難。周囲の理解は非常事態にあり、普段以上に得難く「教育が悪い」「しつけが悪い」という目にさらされ、結局、行列を離れて、欲しいものが買えない、手に入らないという状況でした。ライフラインは1週間で復旧しましたが、ガソリン、日用品は4月上旬くらいまで不足が続き、私も妻も、本人のランダムな行動で振り回されていたように思います。

IX-3 偏食

(男 4 ／ 母)

I -3 自宅で生活できなかったのは、震災発生の日から翌日昼までの短い時間でしたが、マンションの狭い共有スペースで、夜になっても独り言や大声を出してしまうことが止まず、周囲にとても申し訳ない気持ちがしました。当時、本人は4歳でぎりぎり「小さい子供」ということで許してもらえた感じです。翌日、幸いにも電気が復旧、家の中が散乱してしまいましたが、自宅に戻れたことは、本当に幸いでした（あの状態が長く続いたら、大変だったと思います。）。

III 我が家は、震災時、本人が4歳、自宅で生活できなかったのは、丸一日も無いという恵まれた状況でした。それでも、買い物事情などはなかなか改善せず、買い物は控えてしましましたが、どうしてもというときは母が2時間待ちといった状況でした。父は3月14日から普通に出勤し、母に仕事が自宅待機となり、買い物のときは普段から通園している本人の障害に理解のある保育園に預けられなかつたらと思うと、家から出ることができなかつたと思います。こうした本人の預かりや、買い物、ボランティアなど、あればよいと思います。

IX-3 家族をたたく。無視しても、注意しても効果が無い。注文すると激しくはないが泣く。他の人にはしないが、家族は困憊している。本人が大きくなつて力が強くなつても止まなかつたらどうしようと不安。

(男 6 ／ 母)

I -3 本人の偏食がひどいので、食べられるものの確保が大変。店が再開しても、食べられる食品が安定して出回るようになるまで、ハラハラドキドキでした（特定メーカーのジュースやお菓子）。）

小学校

(男 10 ／ 記入なし)

I -3 ガスが1か月ほど止まったままだったので、寒い中風呂になかなか入ることができず、疲労がたまつた。ガスが復旧した後も、体調がしばらく良くなかった。本人は留守番ができず、買出しに一緒にいったため、待ち時間が長くつらかったと思う。

III 寒い中、本人を何時間もかかる買出しに連れださなければならないのは、可愛うだった。学校（小学）が予定よりも長い期間休みになつたため、母も疲労がたまつた。

(男 12 / 母)

- I-3 母方の祖父母が1週間、安否不明で生死がわからなかつたため、不安定になつた。大泣きした。生存がわかり、電話で祖父母と話したあとは安定した。
- III 母方の実家（岩手県沿岸）が津波で被災したため、それを本人にどう伝えるか戸惑つた。かかりつけ医には、反対されたが、本人がどうしても行きたいといって聞かないので、事前にテレビや写真集を見せてから、被災地である実家に連れて行つたところ（6月）パニックにはならなかつた。自宅に帰つてきてからは、図書室で地震のしくみについての本を借りてきて、自分なりに理解しようとしている姿をみて驚いた。また、7月末に避難所から仮設住宅への引越しも手伝いに行くことができた。

(男 9 / 母)

- I-3 息子は近所のコンビニが大好きなのですが、災害でお店もなかなか再開せず、お店にいけないことで、少しパニックになりました。理由を言つても聞いてくれず、落ち着かせるのに大変でした。
- III 私どもの地域は、地震の被害はありましたが少ない方で、そのまま自宅に住むことができました。しかし、親せきの方々の避難を受け入れたので、一時期4家族で生活しました。息子は生活が変わつたので、少し心配しましたが、息子は大人数での生活を楽しんでいるように見えました。子供の新たな面を発見できたように感じました。

(男 11 / 母)

- III 石巻支援学校に17日間いました。障害や本人（6年生）について、理解のある先生方が対応してくださつたのでよかったです。寄宿舎があればと思いました。偏食の子供のために備蓄していた食料も、家に水が入つてなかなか引かず、近づく（家に）ことができず、役に立ちませんでした。今は車に積んでいますが、車で逃げて亡くなつた人もいるし・・・。
- IX-4 偏食が改善され、肥満も改善された

(男 10 / 母)

- I-3 停電（10日観）、断水（2週間）とガソリン不足（1か月）と食料不足（1か月）。何をするにも行列なので、待つのが苦手な自閉症児と1歳の誕生日を迎えた赤ちゃんを抱えて、生活するのが本当に大変でした。主人と8歳の弟が給水に並んでくれたりして助かりました。水8リットルもらうのに2時間半ならびました。ガソリンは3週間後に3時間並んで手に入りました。
- III 周りの人も誰もが少なからず知り合いをなくしています。自分の無力感を強く感じます。住んでいる市は、48%が津波で浸水しました。地震後、ずっと家の近くの体育館にたくさんの遺体が運び込まれていました。ヘリコプターが旋回していて、何回も飛び立っていました。しかし、食料品は全く配給はありませんでした。近くの国道にボートと立っていると、素通りしていく悲しくなつたのを覚えています。
- IX-4 震災後、停電、断水、食料不足、学校の休校、などの状況を理解し、かえつておりこうさんになりました。わがままを言わず、留守番もしてくれました。「電気がつきますように」と願いごとを書いて枕元に置いて寝ていました。

(女 10 / 母)

- III 災害にあった場合、通信手段も何もなく、皆さん（周り）がどうなつてゐるかわかりませんでした。福祉避難所や普段利用している場所で人の目を気にすることなく過ごせる居場所がほしいと思いました。子供を連れて買い物に並ぶことも困難でした。常に災害のことを頭に入れておかなければいけないと思いました。
- IX-3 自傷があり続いている。（震災前から続いている）

(男 12 ノ 母)

I-3 水と食料の確保

III 3年前内陸地震があり、そのとき水と缶詰、パンを災害用に用意しました。3月11日の地震の時は、家族の安否確認と危険物の片付けでたちまち夕方になり、電気も無いため明るいうちに食事をとろうとした時、とても役立ちました。しかし、電気は1週間止まり、水道が10日間もとまるという、これまでの予想をはるかに超えた長期にわたるライフライン停止に、食料への危機を感じました。今は何があってもいいように、食料を常に揃えています。家が壊れ、避難しなければならなかつたら、どうなつていただろうか?障害を持つ家族がいるので、その場にいれるかどうか不安です。

IX-3

IX-4 学校も公共施設も被災し、いろいろな予定が狂ってしまった。予定も立てることが出来ず、本人に正確な情報を伝えようとしても、前日にならないと分らない状況が続いた。そんな状況の中、一生懸命対応しようと本人も頑張つたと思います。

(男 10 ノ 母)

I-3 私(母)の勤務先が津波被害にあい、子供(小学生)を迎えて行けなかつた。日が暮れる前(午後5時前くらい)に、水の中を歩いて迎えにいった。自宅へ戻ったときは明りが一切なく、家具すべてが倒れ、ガラスも散らばつていたので、懐中電灯も探すことができず、夕食もなしで、とにかく家族が重なつて寝た。食料買出しは早朝5時くらいから2~3時間並ばなくてはならず、子供と一緒に無理であり、家へ置いてくるのは、余震がとても心配だった。子供の安否は、下校した後なのか、学校に待機しているのか、連絡がとれなかつた。小学校避難も少し考えたが、障害のある子が体育館や教室で見知らぬ人の集団の中に入るのはとても無理でした。

III 震災直後は、ただただ夢中で、片付け、水、食料に追われる日々でした。仕事の方も、保育所勤務ということで、3月12日もとりあえずは子連れで出勤し、津波のあのドロやひっくり返った車、下までおりてきている電線、盛り上がつたマンホールや割れ目の入つた道路などに、本当に言葉を失いました。そんな中、家族全員が無事だったことは、本当に幸せに思います。次男(障害児)は震災後しばらくしてから、心のケアが必要となりました。でも、病院、発達支援センターは予約がとても混んでおり、3か月後といわれ、どうにもならない、どうしたら伝わるのか、渦巻いて空虚の中の生活が続きました。震災後は、放課後デイサービスをもっと使って、悔し泣きを毎日していた長男のケアをした。

IX-3 今は落ち着いてきましたが、周りからの言葉が嫌で、争いになることが、多かつた。

IX-4 内服(リスピダール)が始まった。

(不詳 11 ノ 母)

I-3 ライフラインの途絶

III 幸いにも自宅はほとんど被害がなかつたが、それまでの日常を失つたことで、本人のスケジュールに空白が生じ、そこを埋められないことが苦しかつた。偏食があるので、非常食を受付ない。冷たいものは冷たく、温かいものは温かくしてたべることができないことを理解させることができなかつた。今回の地震が予想もつかない凄まじさではあったが、セーフティネットが作られていないと感じた。

IX-4 地震との関連性はわからないが、3か月後くらいから、自傷と奇声が出始め、混乱も激しく現在に至る。11月から、抗精神剤を服用し自傷は減る。

(男 12 ノ 母)

- I-3 自閉症のわが子は（もう6年生で体がおおきいのです。男の子です。）地震の揺れは怖がりませんが、いつもと違うまわりの様子が不安でこわくて、家から飛び出し、一度飛び出すと2時間は外をひたすら歩き、感情のコントロールもいつもの薬が効かず、どうしようもなく、力づくでも家の中にはほとんどいられずに、1日4～5時間は外をこだわり行動をしながら、歩き回り、家族もそれにつきあっておりました。昨年、スニーカーの底に丸い小さな穴があき、靴下にも穴があくくらいに歩き回り、1か月後、ガソリンが手に入るまで、車が使えるようになるまで、3足もスニーカーの底に穴があいてダメになりました。ホント辛かったです。
- III 震災時、いつも利用していた日中一時支援利用施設に電話がつながっても、「外部の人間は受け入れられません」と、全部断られ（どの施設も、物資、人手がないので・・・）、ガソリンが手に入らないので、仙台の病院に薬をもらいに行けず、支援学校も自力で避難して来れる人たちの支援しかしてくれませんでした。とにかく辛かったです。地域の施設も人たちも、まず、自分に余裕がないと他の人たちがどんなに困っていても手をさしのべることができない事を知りました。子供を必ず助けてくれる地域の人や施設が必要です。どんなに多動でも受け入れてくれる場所はないですか？支援学校は2か月休校でした。
- IX-3 急にスイッチが入ったように危ないことでもやってしまう。コントロールがきかず止められない。
- IX-4 食欲が落ち、体重が減った（学校が始まるまで食欲がなかった）。

(女 11 ノ 母)

- I-3 食品等の買出しに、子どもを連れて並ぶことができなかたので、そこが一番苦労しました。
- III 家族、家、車など、大丈夫でしたので、我が家は特に避難に苦労はしませんでしたが、家や車が使えなかつたらと思うと、やはり、避難の様子は見ましたが、とても、自閉の子たちが安心して居れる場所ではなかつたと思います。福祉避難所の必要を感じました。

(男 8 ノ 母)

- I-3 地域自体が「避難所」ということに慣れていない（環境が整っていない）、寒さしのぎや、食べ物が大変でした。周りの人たちの行動などを見て、食料配りをしているのを知って、あわてて並びに行ったりと、取り合いというか早い者勝ち的な空気間だった。
- III 地震後は、ほとんど津波の状況などがわからず、避難しました。息子のことも、環境の場に対してものすごい心配、不安はありました。当時自分が通っていた小学校への避難だったので、想像以上に落ち着いて、2泊3日の避難生活送られました。ただ、また、同じような大きな地震が来た場合に、自分の地域の避難所がわからないので、きちんと決めて、統一してもらいたい。みんな自分のことで精一杯で、他の人のことなんて考え、理解できない、状況かもしれないけど、障害者・児が、肩身の狭い思いをしないようにしてほしい。うちは今回たまたま、息子が落ち着いていてくれたが、次もという保証もないし、周りでどうせ、辛い思いをするくらいだったら、避難しない方が良いと思って考えている人もたくさんいます。
- IX-3 困っているというか、地震が起きると、耳を塞ぐようになった。最初、無反応だったことから、地震に対して、少し本人の感じるものが出てきたのかなと思う。

(男 9 ノ 母)

- I-3 電気、ガスが止まったこと。当初、物資不足で、食料を買うために何時間も並ぶ日が1週間近く続いたこと。
- III 地震直後、避難所で、自宅に帰ってから、1週間後、1か月後、その時々によって、苦労は違いますし、誰もが大変な思いをしたいると思いますが、やはり余分にストレスを感じます。

(男 8 / 母)

- I-3 津波により家が流失したこと（現住所の家を新築中だったため、貸家を借りていて、そこが津波により全て流されました。現在は、新築中の家が完成し、こちらに住んでいます）。避難したのが母の祖母の家でした。他の家族も、避難してきたため、障害を理解してもらえるのが大変でした。
- III 協会の片から、義捐金をいただいたこと、大変ありがとうございました。感謝しています。要望や困っていることは特にありません。ただ、一日も早く、復興が進んでくれればと願っています。
- IX-3 避難訓練、津波の映像、地震などにより、フラッシュ・バックが起きること。
- IX-4 震災後に反抗期がおわった。（気に入らなかったり、やりたくないなつたりすると、暴れて泣いて大騒ぎだったのが、ぱったりでなくなった。地震関係以外は、まるで「そんなことしている場合ではない」と悟ったかのようでした。）

(男 12 / 母)

- I-3 余震が多くたことで、落ち着きがなかったです。
- III これからまた、自然災害があった時、今回のようにすぐ引き取りに行ければよいが、そうとも限らないので、自宅や学校以外で一人で災害にあった時のこととも考えていかなければいけないと感じています。また、本人が大人になったときもどのように行動したらよいのかなど、難しいと感じます。

(女 13 / 母)

- I-3 食品を買うこと。幸い、水は出ていたので良かったが、食べ物を買うのに4時間、ガソリンに6時間並んだこと。
- III 障害のある人を受け入れる避難所があればよいと思います。
- IX-3 時間が止まればいいのに、と言っている。

(男 6 / 母)

- I-3 食料、燃料の調達。
- III 社会性、協調性に乏しいため、周囲とうまくいかず、母としても肩身が狭い。子どもとも、私の思いや気持ちが届いている実感が極めて少ないので、むなしさを感じる時が多くある。子どもから子どもへの支援（本当に受け入れてくれる）
- IX-3 人のものを勝手に横取る。順番が待てない。
- IX-4 災害が関係しているのか分りませんが、6月に発作が起き「てんかん」と診断され服薬中。

(男 8 / 母)

- I-3 食料品の買出し。ガソリンの給油など、長時間並ばなければならないところに並べず不便でした。
- III 買出し、給油に並べない（主人が休みの日に行く。レスパイト再開したからいくなど何とかなったのですが）。また、学校が休みになってしまい、放射能の心配から、外遊びもさせず、子どもとずっと家にこもっている生活が少し辛かったです。普通のお子さんの家庭では、お互いの家を行き来して遊んだりしていたようで、障害のある子がいると、災害時、不便なんだなど、どんよりした気持ちになりました。幸い、自宅に被害がなく、避難生活しなくて大丈夫だったので、他の方々に比べればずっとずっと楽だったのですが・・・。

(男 9 ノ 母)

I-3 ライフラインが止まってしまったこと。

III 息子は地震と一緒に、スイッチが入ったかのように、扱いやすくなり、今までの困った行動をほとんどしなくなった上に、母親からも離れることがで、祖父のひざの上で過ごしました。おかげで主人と私は長時間の買い物の列に並ぶことが出来、食料を調達することができました。地震から時間がたつにつれ、元の息子に戻ってきました。息子なりに、全力で親に協力してくれたと思っています。

(男 13 ノ 母)

I-3 42日間も学校が休みで、以前、毎週日曜にヘルパーさんとお出かけしていたのが、できなくなり（外出先が被災）、毎日家で過ごしたが、本人は出かけたいのにできないのが理解できずに、そのやりとりが大変だった。ガスが不通で、一月お風呂が使えなかった。

III 今回は自宅で過ごせたので良かったが、今後避難が必要になった時に、福祉避難所を切望する。現在通っている支援学校を指定避難所にという要望を出しているが、先日、気仙沼、山元の支援学校の関係者の話を伺ったところ、実際に被災してみて、生徒と家族でさえ支援学校より他の避難所に移らなければならない状況で、今回のように長期間になると、福祉避難所としては、学校再開を考えると難しいということだったので、重度の自閉症児を持つ家族にとっては、どこに避難したらよいのか不安な思いです。

IX-3 しつこく確認する回数が多すぎて困る。

IX-4 災害のため、父親が仕事で帰宅できず、不安になり『お父さん仕事』と一日に数十回口についていた。ひと月して帰宅できるようになると落ち着いたのか、何度も確認するしつこさは継続していて、今の困りごとです。

(男 10 ノ 母)

I-3

III 今回の震災では、直後からご近所4世帯（ご主人が全員同じ職業で、震災後しばらく仕事で帰ってこれなかった）で行動しました。車中泊も一緒に。その後も食料を持ち寄って煮炊きし、2週間くらい、共同生活をしました。そのため、息子も良く知る友達と遊んで過ごせて、良く知るお母さん方と生活できることで、安定して生活することができました。ライフラインも比較的早く復旧し、食べ物にも特に困らず、避難所へ行く必要性も感じなかったが、もし、私たち家族だけだったら、・・・そう考えると、とても怖いです。もう二度と起きてほしくない震災ですが、もしも・・・のときのために、どんな支援があって、どれを利用したいか、どんな準備をしておくべきか、考え、調べておくべきだと痛感しました。今回、一番の助けはご近所の”友人たち”でした。

(男 13 ノ 母)

I-3 5日間、電気が止まり、通常の生活がおくれなかつたこと。思わぬ春休みが長すぎて、暇つぶしに何をさせたらよいか、大変困りました。テレビも見れないし、ガソリン不足で外へ出れないため、買い物にも行けず、原発のことも知らなかつたので、近所を散歩して気を紛らわせていました。

III 我が家は、テレビで映っているような大きな災害にはあいませんでした。ただ、今回は、たまたま家族が近くにいたので、何の心配もなく、子どもたちをお迎えに行くことが出来ましたが、4月から、自閉症の彼が支援学校へ通うことになり、同じようなことが起きるとあちこちへ迎えにいくため、100キロ近くを行き来しなくてはなりません。地元の学校であれば、近所の方にお願いできることを、遠くまで通うということはリスクがあるので、日頃から家族と話をする、また、地域の方々とのかかわりは、とても大切なことだと思います。障がいというリスクだけでも親は大変ですが、日頃から無理しない程度のかかわりは必要です。ここに僕がいるということを発信する必要があります。

中学校

(男 13 ／母)

- I-3 電気が使えないことで、本人の好きなこと（ビデオ、CD、テレビ等）ができなくなってしまったこと。
- III 今回のように電気がダメになると、私たち以上に本人が混乱してしまいます。その他一般の方も電気を必要としている中で、発達障害児だけに支援するというのも大変かと思います。でも何らかの方法で、支援の必要な子に優先的に支援していただけたらと思います。

(男 15 ／母)

- I-3 停電で寒く、水も使えず、買いたいものも買えず、それよりも、今の状況がどうなるのかわからず、不安なことが一番つらかった。子供が余り騒がなかつた、落ち着いていたのが一番よかつたことです。
- III 今回の震災は、ライフラインが止まってしまい、不便で大変でしたが、家で生活できたので、それだけは助かったです。避難所での生活はとても考えられなかつたので、またもう一度大きな震災がきたら、どう動いていいのかが心配です。いろんな所で障害者の支援の方法が出されているようですが、私たちには、一番良い方法、アイディアというものがまだ出でていません。

(男 15 ／母)

- I-3 一時、連絡がとれなくなった。
- III 震災時は落ち着いていましたが、今になって自分の頭をたたいたり、急に泣き出すことが多くなりました。ちょっと揺れると「地震だ」と言うようになりました。
- IX-3 急に泣き出したり、頭をたたくこと。

(男 14 ／母)

- I-3 自分たちは幸い車中（泊）で過ごしたが、いつまでこの状況なのか不安であったことと、ガソリン不足と都市ガスが止まり入浴に困ったことです。特に身体は拭けても髪が洗えないのは大変でした。
- III あのときを思い返して・・・本人の状態を振り返り、母もある意味、息子と同じく向かい合えた時間だったように思います。日常のやらなくてはならない事ができない状況、その中で、ゆっくり、必要最低限のことをやっていったので、それが息子にとっても、私も、不安はあっても落ち着いて過ごせ、家の中での余暇にもつながったように感じます。災害により、一時的に今までやってきたことができない状況になり、多少、本人もその状況に「何で？」と思ったようだが、ある意味、色々（テレビ、学校、友達等）な刺激が減り、ほとんどの時間を、母と息子で過ごし、落ち着いていたので、いかに現状の環境が興奮、いらだち、落ち着きのない状況にさせる刺激の多いことが要因なのかなと思いました。

(男 14 ／母)

- I-3 情報が欲しくてテレビ等を見ると、災害の映像を本人も見てしまうこと。「震災から〇〇月」などと特番のCMで津波の映像など見る気もないのに、見てしまうこと。見せないようにするのに苦労した。
- III 避難所へは行けないので、食料等の備蓄が役立ったが、あんなに長期間ライフラインが断たれてしまうと、やはり、福祉避難所が欲しいと痛切に思いました。食料を買うのも、ガソリンを入れるのも、本人と一緒に並び（母子家庭のため置いて行けず）、本人に大きなストレスを与えてしまったと思います。当時は私も必死で、いつまで続くのか不安で、長時間並んでも買おうと思ってしまいましたが、今思うと買いすぎでした。物資は不足しない、大丈夫という情報（安心感）があれば、本人に必要以上のストレスを感じさせなくとも良かったかも・・・と反省しています。
- IX-3 困っている、嫌だ、などの気持ちを、失禁して表わしてしまう。
- IX-4 中学3年生なので、個室で寝始めた頃に、震災が起きてしまい、また家族と一緒に寝るようになってしまった。

(男 15 ノ 母)

- I -3 給水車に並んだりする時、一緒に並ぶと、飽きてしまうので、上に子と留守番させてました。並んでいる間も、地震が心配でした。停電でテレビが消え、納得するまで時間がかかりました。
- III 地震の時は、幸い子どもたちは家にいました。家も高台のため、津波被害もありませんでした。地震直後、家にいた方がいいのか、避難した方がいいのか悩みました。結局は、家にいましたが、この子を連れて避難所は難しいと思いました。今後、福祉避難所ができ、何かあつたら、そこへ行けるという安心がほしいです。今回みたいに、ガソリン不足も予想されるので、歩いて行ける範囲にあると助かります。
- IX-4 少しでも揺れると、「地震だ！」とテーブルの下にもぐります。揺れに敏感になりました。

(男 14 ノ 母)

- I -3 本人が状況を理解できないため、買い物に行ったりお風呂に入りに行ったり、日頃していない行動することに対して、反応が難しかった。ライフラインの復興に時間がかかり、以前の日常生活に戻るのに時間がかかった。強い余震が多かったため、家族全員、落ち着かなかった。
- III 震災時学校にいたので、先生の指示に従い、避難することができたけれど、登下校時や成人し就労したときのことを考えると、日ごろからある程度対策を考え、訓練することが大切だと思いました。みんな同じ状況なのは分るけれど、自閉症児を連れて買出しに行き、3時間待ったりするのは大変なので、できれば障害児者向けの配給や店があるととても助かると思います。学校が避難所となつたため、自宅で過ごしていたのですが、自宅以外で過ごす場がなかつたので、活動できる場所が必要だと思いました。災害後、余震が多く、強く揺れるなど予測がつかないため、PCに緊急地震速報のプログラムを使用したら、目に見えるからか、だいぶイライラや不安が減ったので助かった。本人は「アラームが鳴らなくても地震はくる」ことは理解しているので、PCを使用していないときに揺れても、以前よりだいぶ落ち着けるようになつた。

(女 14 ノ 父)

- I -3 安心して避難できるところがない。
- III 今回の震災に当たり、自宅もある程度の被害を受け、また停電など、全てのライフラインがストップした。ご近所においては、学校等に避難された方もいるが、娘をかかえて集団生活をするのは、到底無理があり、自宅で過ごした。また、父親も仕事の関係上、震災対応が必要であり、ほとんど家族のケアができなかつた。正直、一般の方から見れば、贅沢と思われるかもしれないが、避難するにしても、個室が確保されなければどうにもならないと思った。

高等学校

(男 18 ノ 母)

- I -3 ライフラインが長期にわたり滞ったこと。障害を持った子がドライブのこだわりがあるので、ガソリンがなかなか手に入らず、車内泊を2度5、6時間待ちの行列を3回ほどして、スタンドに並んだこと（寒くて凍え死ぬかと思いました）。自宅の中だけで過ごすことができないわが子は、学校も休み、放課後ケアも利用できず、家族で何とか交代で面倒をみておりました。その時々の合間に姉兄が協力して食品の調達や飲料水の確保にも困りました。必ず一人は障害を持った次男を見ていなければならないので。

III 街のど真ん中でしたので、津波もこなく、家も幸いにもひび程度で済みました。ただ、とにかくライフライン全てが戻るまで、時間がかかりました。夜はローソク・・・意味が理解できないわが子は、誕生日のケーキのろうそくしか知らないので、吹き消そうとしています。しかし、月日とともに消してはいけないということを学んだようです。ただし、地震というものは今だに分っておりません。トイレの水流し、お風呂は何日も10cmくらいの中で・・・・。最も遅かったガスの復旧のせいで、カセットコンロガスボンベを買うために、毎日家族総出であちこちの店に手分けをして並びました。ガソリンは母親である私が一手に引き受け、その間、父が面倒をみておりました。疲労困憊です。とにかく、今できることを、家族で協力してやったと思います。

IX-3 社会的に見れば、やってはいけないことが、どうしてそうなのかということの理解が全く無い、最重度の自閉症の子（者）なので、自傷、他害、物損、水へのこだわり等々、上げると切りがないほど困っており、てんかんも伴うので本人が一番辛いと思います。

(男 19 ／母)

I-3 電気が止まつたこと。買い物で何時間も並ばなければいけないので大変でした。

III また、あの大きな地震がきて、交通機関が止まつたら、学校へ通っている息子がどのようになるのか・・・とても心配です。息子は自立で行つてますが、パニックになるのではないか、と、私も連絡がとれなくなったらどうしよう・・・と不安でいっぱいです。なので、JR、地下鉄、バス会社で、そのような状況の時に、支援してくださる係りの人がいてくれたら、とても心強いと思いました。例えば、一時的に保護してくれたりすると安心だと思います。

IX-4 7月末に、てんかんの発作を初めて起こした。（地震と関係があるかは分りませんが）

(男 17 ／母)

I-3 子供をおいて買い物に並ぶことも出来ず、家にも置いて行けないので、水や食料を手に入れるのに大変だった。

III 障害のある子が安心して気兼ねなく診てもらえる総合的な医療機関があればいいと思う。

IX-3 災害とは関係ないが、気に入らないと自傷のほかに、つばを吐いたりする。

IX-4 災害後、顔色が悪くて、やせて表情もあまり無くなっていたが、現在は元に戻った。

(男 16 ／母)

I-3 長い休み（春休みも含めて）の間、本人を家で過ごさせるかが大変でした。最初から避難所には連れて行けないと思っていました。

III 地域の公立小学校は、仙台市の指定避難所になっており、震災後、定員の倍近くの人びとが利用したので、自閉症の息子は連れて行けないと覚悟しました。車で30分くらいの所に私の実家があり、母が一人暮らし（82歳）をしているので、そちらも心配だったので、3月11日夜から、夜は実家に家族で行き、皆で夕食を作り食べて泊まり、翌朝は自宅に戻り、家中を片付け、余震に備えるため準備し、夕方にまた実家に行き、泊まりました。今はやはり、福祉避難所が一番必要だと思います。特別支援学校の先生方も子どもたちを受け入れたいが、市の指定避難所になれないため、備蓄品等もらえない現実です。

IX-3 頭髪を抜くくせ

(男 18 ／母)

I-3 息子が3月11日以後、神経性の下痢が続き、整腸剤が手に入らなくて大変でした。息子は、仮設トイレ使用をいやがり、困りました。

III 震災で生活のあり方を考えさせられた年でもありました。当たり前と思っていたこと、一つ一つが、本当は大事だったということを、ライフラインがストップして気付かされました。宮城県は以前から、地震が来るだろうと言われていたので、個人で、食料品、日用品とかは備蓄しておきました。全く水洗トイレが使用できなかつたので、簡易トイレはとても役立ちました。ただ、おしつこには紙おむつ、尿とりパッドの方がよかつたと思いました。病人がいなくても尿とりパッドは必要だと思いました。こだわりがあると、食料品も配布されたものでは食べないので、各々がその子に合ったものを備蓄しておくべきではないかと思いました。

IX-3 皮膚の感覚が以前より敏感になった。味や舌ざわりも以前より敏感になって、食べられないものが増えた。

IX-4 第一志望大学が、福島大学から他見の大学に変わった。

(男 16 ／母)

I -3 食材の調達

III 仕事をしているので、震災時は休めたが、休めない場合等、子どもを預ける場所に悩みます。

(男 16 ／母)

III 地震直後は、ガス（1か月）も止まり、大変でした。季節的に夏だったら、お風呂のない生活は子どもにとって考えられません。また、地震時、親子一緒にいられたので良かったですが、別々だったり、特に通学時、通勤時であつたら・・・と考えると不安です。避難所には行かずにつみましたかが、もしも・・・と考えるとブースの確保や、並べない子のための食料配給の仕方等、他の人にもわかるように設定しておくべきだと思います。

IX-4 地震の揺れを感じると、机の下にもぐる。テレビの速報をつける。

(男 19 ／母)

I -3 この状況を本人が納得できるまで大変でした。また、一人で留守番はさせておけないため、配給や情報を得ることが難しかった。

III 以前から避難所生活は無理と思っており、いざというときは自宅か車の中と思っていました。いざ起こってみると、自宅にいれる状態だったので、何よりだとホッとしたことを思い出します。ただ、その分、情報等がまったくつかめず、孤立した感じで、不安な日々でした。安否確認の連絡をいただき有難く思いましたが、その後はまったくなしで、数ヶ月過ぎてから、他から耳にすることもありました。情報や様々な支援が避難所にいる方だけとか、通所している方だけとかではなく、全員に流れていくといいなと思います。大地震から少し時が経つてからの連絡（ほしい支援がないかどうか）があると嬉しいかと思います。薬に関しては近くの総合病院で出していただけたので助かりました。ただ、こちらも、みなさん集中していたのものすごく混み、中では待てないため、外で待っていました。もう少しスマーズな受け取りもあるといいのですが。とはいって、皆さん大変な状況の中、連絡をいただいたので、有難く思っています。

IX-4 地震には少し過敏になり、不安げな顔をする。時々、思い出したかのように、「地震、津波おしまい」と言うことがある。

(男 17 ／母)

I -3 人ごみが苦手、大声を出す等のこだわり強く、はじめから避難所に行くことはあきらめていました。自宅が一番落ち着くのですが（本人）、避難所に物資等を取りにいなければ、買出し、水汲みも、子どもを置いて出かけることは不可能でした。ガソリンがなく、いつ発作が起きるか不安でした。電気がこない、テレビを見れない、ご飯がたけない、1日2食でした。

III 福祉避難所に高齢者が集まっていて、障害児者が行ってもベッドが並んでいて、自分たちの子どもがいられる場所ではなかったです。自分たちが行ってもいい所だということも、後で知りました。3. 11のときは、息子の足に自転車が倒れ、裸足に出血があり、パニック状態で、自分が体を張って落ち着かせました。ガソリンも少なく、病院にも行けず、シップを貼って何とかしました。後で、A I Uから、電話がありましたが、医療機関に診て貰わないと保険がおりないのは仕方ないです。でも、行きたくても行けなかつたし、どこの病院も開けてませんでした。買い物をしている間に息子を見てもらえる人がほしかった。

IX-4 余震のたびにジャンプして、頭をたたいてしまう。おかげを食べなくなつた。ご飯にふりかけと、鮭フレークのみ、という日が続いた。電池を集め始め、単3が53本あります。ゲーム機のためにスーパーに行くと、単3の電池を、私の買い物カゴに入れてしまいます。

(男 15 ／母)

I -3 停電、特に暖房。

在宅

(男 17 ／母)

I -3 家族を亡くしたこと

III 父親を亡くしているので、本人をどのように育てていくのか自分一人の手に委ねられている。プレッシャーが強い。介護の問題も迫っており、荷が重い。自分に何かあつたらどうするのか・・・後がないだけに重い。また、フォローワー体制が仮にあっても格差ができる。公平なフォローがほしい。また、実情（ニーズ）とかけ離れていることが多い。

IX-3 こだわり（確認的質問多数）があり、いちいち巻き込まれ、復興の歩みに水をさされてしまう。

IX-4 自分でやらなければならないことが増えたが、ぐずりながらもやりとげられることができるようになった。と同時に、新たに依存しようとするのを本人自身が作り上げ、押し付けようとしている。

(女 23 ／母)

I -3 ライフラインが長期間止まつたこと。通信の手段が全て止まつたこと。

III 今回は自宅にいることができたが、自宅が災害にあった時、大勢のいる避難所に行くことは難しいと思っている。自閉症に理解のある避難所があるとよいと思う。

IX-3 津波による被害者の心配から始まり、今は原発での方々の心配をし、いずれ自分にも起こるのではないかと心配している。図や言葉で説明して理解はしているようだが、まだまだ、自分の中で解決できないようで、苦しんでいるようだ。

IX-4 日常生活については、震災以前に戻っているように見える。しかし、余震、テレビの情報などにはとても敏感になっている。テレビは地震以降ついていると、スイッチを切り、本人はテレビをみないようになった。

(男 37 ／母)

I -3 電気が消えた。商品の買い物に店が閉まつて困った。家の中の家具、食器、等が壊れて、足の踏み場がないくらいだった。

III 家の中がメチャメチャで後片付け。風呂は最近やつと直した。家の壁に亀裂が入つて（周りもそうです。）、古い家ですので、何とかしなければなりません。古い家を求めているがありません。

IX-3 突然あはれるときがありますが、止めようがありません。1時間くらいすると落ち着きます。それ待っています。

(男 35 ノ 母)

I -3 ライフラインが全てストップになり、水道、電気、ガスのない生活に子どもは理解できなく、不安やいらだちに不満があったようです。震災になる前に痔の手術をうけていることもあり、お風呂に入れなかつたこと、痛みもあったと思います。ガスは1か月半頃、やっと使用できました。1か月半のうち2回ほどしかお風呂に入れなかつたです。温泉に行くにも、大勢の人と共に3時間待つことは無理でした。親類がすべて津波で流され、行くことはできませんでした。子どもは穏やかな性格なので、大きなパニックには至らなかつたです。幸いでした。

III 言葉がないと、自分からのサインがないので、病気、けが等でどこが痛いのかわからぬので大変である。親亡き後はどう対応してもらえるのか、不安は尽きない。全ての病気を検査、診療してくださる総合病院（障害者でも安心して）があるといいです。お見舞金いただきました。皆さんのお心遣いありがとうございます。

(男 41 ノ 父)

I -3 地震の怖さや危険をなかなか理解できない。危険が迫っていることがわからない。電機がつかないことに腹を立てる。水がない、順番が待てないなど、普段の生活と違うことになじめない、その他いろいろ。

一般就労

(男 20 ノ 母)

I -3 自宅マンションが全壊認定される位（住めているが）、家具は全滅だったのに、仕事には行かなくてはならない。母の実家は大船渡。そちらも大変なのに、情報もままならず・・・ライフラインもだめで、大変だった。

III 息子は一般就労しております。生協で働いております。巨大地震の際、すぐに帰宅させられましたが、私とは連絡もとれず、マンションに入ることもできず、隣人に助けられ、小学校に避難。しかし、会うことはできず、一晩、家族3人別々に過ごし大変しました。職場では私が迎えに行くまで置いてくれてもよかったです？と思いました。現在、息子は元気に働いています。

福祉的就労

(男 20 ノ 母)

I -3 停電になっていつもの行動ができなくなった子供たちがぐずっていた。（パニックまでにはならず良かった）

III 我が家は幸いにも住める状態だったので、避難所にも行かずすみ安心しました。通所している施設の機械も地震でこわれ、いつ復帰できるかわからぬ常態でしたが、いろんな方面的助けがあり、2週間くらいで通えるようになりました。本当にありがたかったです。ただ、通所途中のバスの中や一人で歩いているときに災害にあつたらどうしようと、これから心配はまだまだつきません。

IX-3 突発的な興奮で兄弟喧嘩がものすごい。母親ではなかなか止められない。

(男 24 ノ 母)

I -3 障害のある子供が、親戚の家にも留まることなく、「家に帰ります」とばかりの行動で仕方なく自宅にいる。

III 被災したとき、たまたま施設の行事で親たちも施設にいたので、子供と一緒に帰宅することができたことが、一番の安心でした。別々だったらと思うとぞつとしました。施設でも検討中ですが、何かあった時、子供たちが安心して過ごせる場所を自宅以外の所がほしいと考えています。少し落ち着いてきた6か月後頃から、レスパイント（宿泊、日中活動）再開させました。本人も何か感じたのか、以前より今は落ち着いて過ごしています。そういう場所をもっとほかにも増やしておきたいと思いつつ、場所がない現状もあります。

IX-3 災害とは関係なく、朝起きた後や、日中、窓をたたきながら大声で騒ぐ
IX-4

(男 23 ／母)

- I-3 室内の被害は、ガラス食器の破損、ガラスだらけの状態。片付けに時間がかかった。息の抜き場のない状態。ライフラインは電気のない状態（ガス、水）。家族の安否は、現在施設側でマニュアルを作成してあり、安心です。
- III 息子は大きな災害にもかかわらず、心理面での影響もなく過ごしております（生活の場がかわらなかった）。災害後すぐは、私たちも一日何をしていいかわからない時間を過ごしましたが、いろいろな物資を準備しておりましたので、比較的困ることが少なかったように思えます。一番被害がなかったのが、息子の部屋だったので、電気はつかなくても、ラジカセ（電池）を聞いたり、CDをかけたりと、自分のペースを保ってくれました。余震がきても、グーグー寝ている頼もしい姿にホッとする日々でした。思ったより手をかけなくても息子は生活していました。

(男 20 ／母)

- I-3 ガソリンを買いに行けなかったこと。飲料水を確保できなかったこと（給水車の所までもいけなかった）。食料品を買いに行けなかったこと（障害者の好きなものを買うことができなかった）。障害者と2人だけだと身動きがとれない。
- III 親亡き後の生活の場が、地域・地元にないことが不安である。この町の福祉はどうしても高齢の方ばかりに力を入れているようである。しかし、若い障害者も弱者にはちがいないと思うのだが、なぜに高齢者ばかりが目立つかわからない。障害者は一人では生活ができないので、親といるのであって、もう少し障害者にも目配り、気配りがあつてもいいのではないかと思う。お年寄りは、近所との交流があるが、障害者はそうゆう交流の場にすら一人で行くこともできない。親がいなければ、何もできない障害者がいることを知ってほしい。一番思うのは、親亡き後、障害者が安心して安定した生活を送れることを希望するとともに、そのような場が地元にほしい。
- IX-3 本人が思っていることを意思伝達ができない。

(男 24 ／母)

- I-3 停電でビデオが見れなくてパニックになった。施設が津波で流されたので、休みになってしまい、何で毎日家にいるのかわからず、パニックになって大変でした。
- III 震災前から不安定だったのが、震災で施設が流れてしまつたため、自分の居場所が見つからず、人の声にもかなり反応するようになつてしまつて、建物の中に入れないことがあるので困っています。震災前にも、中に入れなくて、一年ずっと外に立っていて、やつと個室を与えられて、中で過ごせるようにホッとしていたのに、震災でまた逆戻りしてしまつて心配です。
- IX-3 人の声に異常に反応し、建物の中に入れなくて外に居るときがある。
- IX-4 施設が流されたため、仮の建物なので、中に入れなくて外に居ることが多くなつた。

(男 24 ノ 母)

- I-3 ライフラインが1か月以上閉ざされたこと
III 息子が通っている施設は、自立=給料、という具体的な考えを持っていると思われます。息子も仕事をしてお給料をもらうことに喜びを感じている様子です。残念なことに、利益追求に傾き、ケアが足りなくなっているのではないかと私は感じています。仕事の内容も最初は豆腐作りもあり、創造する喜びもありましたが、需要が足りず、止めることになり、今は環境整備のみで、手荒れ、革かぶれで苦しんでいます。それでも仕事に行きたいと思っているので、毎日がんばっているのですが、息子の仕事は、掃除しかないのかなど、残念でなりません。災害後は、職員が足りなくて、程度のひどい利用者、息子もその一人ですが、悪循環で、指導ケアがたりないよう思います。親の手伝いも多く買い物も買って欲しい要望が多くくるようになったと思います。
- IX-4 施設の形態が少し変わり、人手がたりなくなったり。施設の仕事が忙しくなり、落ち着きのない職場になっていると思う。

(女 22 ノ 母)

- I-3 特にありませんでした。幸い、本人も落ち着いており、電気、水道、ガスのない生活も我慢できました。親はガソリンの調達と食料の購入に苦労しました。
- III 現時の職場の再開が早かったので、通常の生活にもどるのも早かった。仕事は忙しく、本人も疲れてよくねむれ、充実した日々を過ごしている。テレビで津波の映像を見ると、「流された」とか「水かぶっている」と反応する。自分は直接津波をみていなくても、この反応・・・。実際経験されたお子さんは、さぞショックだったろうと思います。
- IX-4 以前の職場が海沿いにあり、数ヶ月後、車で通りかかった。あまりの変わり果てた様子にその夜は、疲れなかった。やはり見慣れた景色のあまりの変化にショックを受けたようだ。

(男 39 ノ 母)

- I-3 電気、水道、ガス、電話等のライフラインが壊滅だったこと。一週間は何とか食料も工夫しながら生活ができるが、それ以上となると、買出ししないと生活できなかつた。
- III 特に困っていることはありません。震災当日は帰宅途中だったため、1時間半くらい歩いて帰ってきました。パニックもなく暮らしていましたが、3月末まで自宅待機だったので、2週間過ぎた頃から、仕事はいつから行くのかと毎日聞くようになった。
- IX-3 まだ余震があるたび不安がっている
- IX-4 被害が最小限ですんだので変化がない状態です。

(男 24 ノ 母)

- I-3 幸運にも家には大きな被害はなかつたので、ずっと家で過ごすことができました。停電の3日間の間は、寒くてずっとダウンを着たまま、家の中でも過ごしました。ライフラインがなかなか復旧せず、スーパーに子供を連れて何時間も並んだことが大変でした。
- III 全国の皆様からの暖かいご支援、本当にありがとうございました。被災地とはいえ、内陸部だったので、沿岸部の方々のような大きな被害はありませんでした。それでも、もし、家が住めない状況だったりとすると、多動の子供をかかえ、どうしたものかと、恐ろしくなります。本人は今は落ち着いて、元の生活に戻っております。物がなくなつて、スーパーなどに長時間ならばざるを獲ないような状況を経験して、日ごろからの備えを十二分にしておく必要性を痛感しております。

(男 28 ノ 母)

- I-3 ライフラインが断たれたことです。いろいろな場所で、お風呂に入れるようになったのですが、子供は一人では入れず、親と分れては何もできなかつたので、しばらく入れずに、かわいそうなことをしました。
- III 障害者で特に自閉症の人たちは大勢の中ではストレスばかりで、おとなしく居ることができません。他の方には迷惑になります。避難所の中に障害者だけのスペースをぜひ確保してほしいと思います。そして、そういう情報をしっかりと発信してほしいと思います。その後で、ライフラインが断たれたことでの大変さがあったように思います。
- IX-3 通所の施設に通っていますが、休みがちで困っています。

(男 23 ノ 母)

- I-3 ガスが一月近くこなかつた
- III 割と思ったほど興奮することもなく過ごせたことがよかったです。家がもしなくなつたらと思うと、避難所などで過ごせるかと不安である。友達が避難所に行けないと我が家に3泊ほどしたが、顔見知りだったこともあるのか、落ち着いて過ごせた。
- IX-3 目をつぶることが多い

(女 27 ノ 母)

- I-3 ライフラインがストップしたため、水、食料の確保等で、長時間並ばなければならなかつたが、自閉の娘には、それができなく、余震の中、置いて出たこともあつた。
- III 成人してからの方がこだわりが強く、人への攻撃等も出て、対応に困る。大きな災害を体験して、最初は異常な状況におとなしくしていたが、1週間後には、いつもと違う状況に我慢できなくなり、泣いたり怒ったりパニックを起こし、家族もその対応に疲れた。現在は、ほぼ、在宅状態。ショートステイも行かなくなり、今は、家以外は安定していないようだ。家族との関わりもいやそうで、弟との関係は、地震後ひどくなつた。
- IX-3 夜、寝なくて何度もトイレに行く。こだわりが成人になってから強くなつた。人への攻撃がある。
- IX-4 通所している施設を休み勝ちだったが、今はまったく行かなくなつた。現在、在宅に近い状態。

(男 23 ノ 母)

- I-3 施設に入所している息子（重度の自閉症児）に1か月間、合えなくて心配でした（電話で施設の職員からは、元気に過ごしていますと連絡していただきました）。4月18日の夜、初めて大きな発作を起こし、今は薬を飲んでいます。
- IX-3 幼い頃にこだわっていた、道やお店に、さらにこだわりが強くなつてしまつた。
- IX-4 不安な気持ちが強くなつてしまい、買い物時、自分のおかしや、飲み物を選ぶときも、母親の隣に居て自分から離れないでくださいと話すようになつた。

(男 19 ノ 母)

- I-3 長時間並び1日2回の買出し。震災により、祖母も同居をすることになり、生活リズムが変わつたこと。自閉症の子だけではなく、祖母の介護が加わり、心身ともに疲れます。
- III 震災後、通所しているコペルが比較的早く通えるようになったことが、唯一救われることです。ただし、その通所先も、家族もなにもかも、震災の影響で忙しさ（ぴりぴりした雰囲気）があり、自閉症のわが子は敏感に反応してしまいます。周りの皆の一生懸命が逆に彼の落ち着かない心になつているように感じます。
- IX-3 食事に対するこだわりが、とても多くなつた。自分の食事をものすごいスピードで食べ、他の人の食事を取る。

(男 24 ／母)

- I -3 いつ、余震が来るかを事前に話してあげられないことです。
- III 本人の不安をどうやって取り除いてあげられるか？でした。（日常が一変し、ライフラインも断たれ、施設にも通えず、余震に震える日々でした。）
- IX-3 出かけると必ず「地震があつたら？」と聞き、側から離れない。
- IX-4 寝ていて、避難訓練と言って玄関から出て行く、風呂から裸で出て、避難訓練と言って玄関から出て行く。

(男 22 ／母)

- I -3 同じ市内にいる祖父母の安否確認ができない（携帯をもっていないので）。買い物をするとき、本人を家に置いておくのが心配（といって、何時間も列に並ばせるのも・・・）。交通機関やライフラインが、復旧に時間がかかり、本人に納得させるのが大変だった。
- III 我が家はそれでも大変運がよく、自宅マンションが免震構造でほとんど被害無し、就労先（作業所）が被害少なく翌週から受け入れ、送迎バスを回してくれた、要援護者に登録して民生委員さんに挨拶にいったばかりで震災後声をかけてもらえた、徒歩圏内にスーパーがあり、並べば物が変えた。それでも、いつもあるものがなくなったショックは、本人にしてみれば大変大きく、今でも「地震で地下鉄とまりました」「水族館のラッコなくなりました」など繰り返しています。それにしても、そこまで考えずに決めたことでしたが、「免震」と「店が近くに数件ある」と、何より、作業所が当日真っ暗な中、夜の10時に職員の方が車で本人を自宅に送り届けてくださり、次の日は炊き出しを持ってきててくれた。施設をすぐ開けてくれたので、大変助かり居ました。良いところを選んだと思いました。

(男 30 ／父母)

- I -3 自宅は危ないので、小学校の校庭に車で（主人出張中で帰らず）、子どもと犬と私だけここにも入ることもできない。
- III 年齢が増しても、いろいろな問題が起きてくる。暴力が少なくなっても、口数が多くなり、言動での攻撃。ノイローゼになる（父親より）。人に対して挨拶をしたり、同じ人にしつこく言葉がけをする（施設、バスの中など）。
- IX-3 しつこく人について回り、同じことを繰り返し言う。
- IX-4 災害後、引越しをしたため、全てが変わった（同じ泉区内にしたので、通所施設は変わりません）。

(男 42 ／父母)

- I -3 最少被害だったのですが、重度自閉症（42歳）の息子と両親が高齢（78歳と76歳）だったので、それらに関することが大変でした。
- III 入所施設を増やしてほしい。8月下旬ごろ、全国の同じ自閉症の子どもを持つ皆様からの義捐金をいただきましたことに大変ありがたいことでした。同じ障害を持つ子どもを持った皆様のお気持ちが大変ありがたかったです（我が家はクオカード5000円でした）。この配分に当たった役員の皆様にも頭が下がります。うれしかったこととしては、揺れがひどいときに私は足腰が悪くて、杖を使用しているので、夫の腕にすがって外へ飛び出し、ボロ家が倒れてきそうな思えて、庭の中央部分にしばらく立っていましたが、耐えきれず大きな鉢の中へドスンと尻餅をついてしまいました。その後、2軒となりのご主人が（3か月ほど前に越してこられた方です）大丈夫ですか、とのぞきにこられて、声をかけてくださったのです。このあたりも近隣のつながりが少ないので、本当に隣り近所とのつながりが大事とおもわれました。
- IX-3 うまく会話ができないこと

(男 29 ／母)

- I -3 通所施設が休みとなつたため、日中過ごす場所まで家族が送迎しなければならなくなつた。

IX-4 災害が原因と考えられる本人の変化はない

(不詳 不詳 ／ 記入なし)

I -3 水関係

IX-3 時間へのこだわり（時間で食事、風呂）。特に、朝起きるのが早い。周りが大変。

(男 21 ／ 母)

I -3 水道、電気は比較的早く復旧したが、ガスは1か月以上復旧せず、町内で入浴施設などはあったが、夫が不在のため、自閉症の息子と一緒に入ってくれる人がいないため、しばらく入浴できなかった。食料品の買出しなど5～6時間並ぶのは当たり前だった。兄弟が頑張ってくれたが、在宅避難の支援システムが全くないのは不安。

III 公的な支援システムの確立。避難所の確立（避難所自体のすみわけ、同じ避難所でも空間的すみわけ）。情報をきちんと周知させる。在宅避難の支援（ヘルパー事業所、児童pay、民生委員）支援や動けるように行政がバックアップするシステム。グレーゾーン、どこもつながっていない世帯の支援。

(男 27 ／ 母)

I -3 高齢の母と障害者といったため、避難所を利用することが難しかったこと。作業者を長い間休まなければならなくなってしまったこと（生活のリズムが乱れ、落ち着かなくなった）。

III 相変わらず、余震が続いている現状、今後また同じような地震が、津波がきた時は、どのように安全を確保したら良いのか不安（今回はたまたま家にいたり、作業所にいたりと、安全が確保されました）。

IX-3 独り言が多くなった（困っているという程でもないが）。

施設入所

(女 49 ／ 父)

I -3 被災前と同様の生活パターンの維持ができず、代替場所・方式を試行しながら行動した。（地震、津波で外部施設・交通機関が被災し、利用できないことが多かった。）テレビ、ラジオなどの状況報道に敏感に反応しやすくなつた。外出の機会が減少したが、疲れやすくなつたようだ。

III 被害発生時の関係者の安否の確認・連絡方法を今一度作り直す必要がある。町内会・区役所、その他公共団体の各々の横のつながりを今一度見直し、確認できる体制・組織作りが必要と感じた。都市部では特に町内会員同士の顔が見えなくなっていた。

IX-4 こだわりの行為対象が、紙類から衣料品に広がったのではないか。

(男 41 ／ 父)

I -3 施設に入所していますが、当時、電話が不通や停電で、ラジオ、テレビがアウトで、大変な状況なはずだと、ただただ心配しました。

III 今回は、施設入所中だったことから、家族に手数もかかることなく、また、すべて施設へ任せていることでも、本当に安心できました。ただし、電話などの連絡が取れなくなつたときは、本当に心配しました。私ども両親が、健在のうちは安心もできるけど、不在になつた場合を考えると、心配でなりません。入所施設解体の話題があつたけど、とんでもないことと、今回の地震で意を強くしました。

(男 39 ノ 母)

- III 大変な災害でしたが、施設でしたので大変助かったです。施設の方も水、電気など、しばらくの間、大変な生活のようでしたので家の方に連れて帰って1か月位生活をしました。我が家は被害は少ない方でしたので助かりました。自閉症のため、避難所生活をしなければならない状態だったらと思うと・・・。入所施設は必要だと思います。あづけることもできるのではないかでしょうか。
- IX-3 災害に関係なく、日常で時々大声で騒ぐなど
- IX-4 災害が少ないためか、あまり変化が見られない。

(男 39 ノ 母)

- I -3 ライフラインの途絶によること。水汲み、ガソリン、灯油の確保、食料の確保。

(女 30 ノ 母)

- I -3 本人は入所で特に避難はなかったが、ライフラインがうまくいかず、生活習慣が変わり、なかなかそれに慣れなかつたようだった。行事の中止、レストランや雑誌の休みや作業の変更。少しの揺れにも敏感になり、落ち着かなかつたらしい。家族の方も、ライフラインの不備で、施設にお願いして帰宅したのは、しばらくしてからだ。
- III 我が家は入所させて8年になり、それなりに生活しているが、こだわりが強く、なかなか急な変更ができにくい。今回は、施設で対応し、帰宅しないですんだが、施設がだめになったとき、自宅でもうまく対応できないので、福祉で受け入れてくれる所が必要かと思う。また、障害者に対する社会の理解と支援を要請します。
- IX-3 周囲とあわせられずパニックになる
- IX-4 落ち着きがなく、苛立ちが見られる

(男 36 ノ 母)

- I -3 電気、水道、ガスが使えなかつたこと（2週間）。ガソリン、灯油もなかなか買えなかつたこと。1週間は食料があつたが、それ以降、買出しがたいへんだった。
- III 当日は帰宅する日で、幸い迎えに行け、後は施設に帰らず家で1か月近く過ごせ、食器が20個ぐらい壊れただけの被害でしたが、ストーブ、カセットコンロもあり、1週間ぐらいは食料もあり、どうにか過ごせましたが、それ以降は買出しやら、水運び等いろいろ大変でした。本人は、「地震」と言って、余震がくると、怖がっていましたが、割に落ち着いていました。施設では、1か月まで1日2食で、お風呂も入れず、大変でした。生活が落ち着いたのは、連休明けころでした。幸い津波や原発の被害もなく、現在はすっかり元の生活に戻りました。

(男 38 ノ 母)

- I -3 毎日、家の中での生活になり、本人は散歩に行きたいやでもガソリンがなくいつも行っている公園まで約20～30分（車で）。行けず、タクシー会社へ電話してもダメで、時間を過ごすのに大変でした。お風呂にも約1か月は入れず、これも大変でした。
- III 38年間いろいろ大変なことはたくさんありました。楽しいこともいっぱいあったように思います。それでもやっぱり、心配は親が亡くなった後です。考えると夜も寝られず、朝になったことが何度もあります。（他の人の手を借りないと何もできない子ですから）
- IX-3 自分の目に入ったところ、場所、気になるとハサミの先、コンセント他を使ってガリガリ削ってしまうことです。

(男 37 ／母)

- I -3 電話がつながらず、数日（3日ぐらい）後に安否が確認された。
- III 宮城県の自閉症親の会で立ち上げた「みづきの郷ひかり苑」に入所させていて本当に良かったと思いました。日ごろの災害訓練がいかされたかは分りませんが、集団で指導員の誘導に何とか従えたこと、落ち着いていたことを聞かされ、涙がでるほど嬉しく思いました。つくづく自閉症の親の思いを生かして作った施設にいられて良かったと思いました。テレビで避難所生活を見るにつけ、施設以外の自宅にいた障害児（者）は、どんなに不安な毎日、不便な生活を強いられていただろうと思うと、かわいそうで仕方ありませんでした。パニックを起こされたら・・・という不安な日々、どんなすうに乗り越えられたのでしょうか？

IX-3 自閉症特有のこだわり

(女 22 ／母)

- I -3 水汲み

(男 28 ／母)

- I -3 報道等で自閉症（児）の父親が、どんなにせまくともいいから、空間がほしいと訴えていました。切実だと思います。
- III 施設の方がライフライン等が安定していて、親としては入所施設がありがたかった。施設職員には感謝あるのみです。

(男 28 ／母)

- I -3 家族の安否確認。障害のある長男へ自宅流失のため、帰省できないことを伝える手段。施設も家（家族）もライフラインの無い生活が続いた。生存するための食べ物、寝具、防寒、排便の場所。家が家財を失ったことで、親自身が冷静な思考、判断力を失った。その後、本人が、生活不活発になった。
- III 震災直後、彼なりに勝手な行動を謹んでいるように思います。震災とは関係なく、29歳の長男が働く場がほしいと思います。趣味があればいいなあと思います。環境の違うアパートに引っ越ししてから、母親の指示待ち状態で、トイレにも自主的に行こうともせず、失敗もあり、悲観しました。言語能力も低下し、被災した上に、子どもの生活能力低下に心痛めました。ライフラインの復旧とともに、以前の施設に戻ってからは少しずつ震災前のレベルに戻ってきたように思います。行政関係ですが、本人の被災証明書がほしいです。以前、支援法の実施に伴って、本人のためということで、親と住民票を別にしました（入所施設と同じ住所に）。親が被災（全壊）し、本人の家財なく、本人が帰る家がありません。でも、施設が無事だったため、被災証明や支援ももらえません。

IX-3 自傷、足のかかとの皮をむく。

IX-4 自主的な行動。親や家族への会話がさらに乏しくなった。親の家がなくなつて、近隣のアパートに住むようになりました。住環境の変化、近所の方との面識も無く、本人に戸惑いがみられました。狭いアパートなので、独語も度々制止したせいか、親子でイライラしたこともありました。今はアパートに慣れてきたようです。

(男 35 ／母)

- I -3 ライフライン（電気、ガス、水道）
- III 施設と同じような生活を心がけておますが、家に戻ると目が届かなくて、困ります。自由に動き回るので、夜、起きだして、冷蔵庫の中の食べ物などを食べる。調味料など隠していますが、見つけると飲んでいるので困ります。

(男 29 ／母)

- I -3 水、ガソリン、食料品の確保。災害に備えて3日分は自宅にありましたが、長期間、店が再開できず、遠くまでリュックを背負い、買出しに徒歩で行きました。

III 子どもがまだ地震のストレスから立ち直っていない。心のケアが必要。一人で休めない。2階にいけないことが多い。食料品の買出しは家族でできたが、今後、私と2人の場合、困難なので、子どもをボランティアさんが見てくれる助かる。洗濯が大変だったので、入浴や洗濯ができる入所施設利用ができたら、良いのでは。情報がほしい。ガソリン確保。災害用備蓄。

IX-3 食事後も食べたがり、物を投げ回る。

IX-4 以前もあったが、不眠が多い（薬服用しているが）。

(男 36 ／母)

I -3 水道、電気が止まつたこと。ガソリン、食料品が買えなかつたこと。

III 目前に迫つてゐる親亡き後の心配、不安です。

(男 37 ／母)

I -3 入所施設との連絡がとれなかつたので、安否確認に時間がかかつた。

III 子どもは自閉症施設に入所して10年以上になり、震災時は施設で被災しました。その時の状況を施設側に聞くと、パニックも起こさず、職員の指示に従つて、避難訓練通りの行動ができたようです。その後の不便な生活にも長年の指導がしっかり見についていて、乗り切ることができました。施設が責任を持って手厚く支援してくれたおかげで、親はガソリン不足の中、安心して親族の安否確認や食料の確保などに動くことができたので、大変感謝しております。このような大災害時には、支援を希望する家族等が利用できる施設が絶対必要だと思います。入所を利用している私たちは、大変な思いをされたご家族に申し訳ないという気持ちが強くあります。

(男 30 ／母)

I -3 ライフライン。煮炊きする、暖をとる石油ストーブ。

III 息子は施設で地震にあいました。この日は、家に連れて帰る日だったので、主人は出先より施設に迎えに行きました。いつもより、3倍くらいの時間を要し、途中、余震にあいながら、暗闇の中、家に着きました。私はその間、連絡も取れず、息子はインスリーン依存の糖尿病なので、低血糖を心配しながら、不安に待ちました。3日間、自宅にいましたが、私たちの言うことを聞き、寒さにも耐え懐中電灯の明るさで食事をし、万一の備えに、防寒着で寝て過ごしました。息子が混乱無く、過ごせたので、私たちも助かりました。3日後、また施設に連れていきました。職員は忙しく、寒くないようにと倉庫から毛布など出して、「安心して」と言われ、信頼して任せられました。

(女 45 ／母)

I -3 ガソリン不足で移動できなかつたこと。

III 親亡き後の子どもの生活です。

(男 41 ／父)

I -3 災害時、ユーティリティの欠如。

IX-3 ものごとになかなか集中できること

その他

(男 41 ／母)

I -3 水道、電気が止まつたこと、蛇口をひねっても水が出ず、夜はろうそくの灯りで、風呂にも入れず、トイレも流せず、雪が降つて寒い中、オール電化の生活で、石油ストーブもガスもなく、親は何とか我慢してしのいでも、この子がどんな状況になるのか、おつかなびっくりでした。しかし、40歳を過ぎて少し落ち着きがでてきたのかすべて我慢して、パニックも起こさず過ごして本当に助かりました。

III 町の福祉センターでおにぎりが配給されると役場で聞き、家族3人で行きましたが、真っ暗で人がいっぱいの異様な状況に息子はすぐ「おうち」に帰るのサインを出して、居られなかった。安否確認と、何らかの支援を町の方でしてほしかった。

IX-3 自販機の売り切れランプ、品物が補充してランプが消えるまで何日でも通う。それが遠くても近くても、親が連れて行くことになる。

(男 30 ノ 母)

I-3 自宅（マンション）は、10階だったので、家の中がメチャメチャで入室が困難。停電・断水のため、片付けも困難で、一時、実家に避難したが、車のガソリンが手に入らず、帰宅もできなくなってしまった。食料もなかなか手に入らず困った。避難所に行かなかったので、特に支援は受けず家族でさえた。

III 通所している施設で被災したため、一晩皆さんと過ごして朝に送っていただけたので、感謝しております。一人で通所途中だったらと思うと、ぞっとします。施設が開所しても、交通機関がなかなか通常にもどらず、通所できなかった。週1回でも送迎サービス等あれば良かったと思います。

（ガソリンがせめて施設に配給してもらえば・・・。）

IX-4 生活不活発病だったのか、地震3日後から1か月ほど歩けなくなって、少しずつ改善していった。毎日買い出しに行かなければならず（買い物する商品がないため）、親が動きがとれず大変だった。

(男 39 ノ 母)

I-3 一旦、避難所へいったものの、すぐ自宅へ戻りました。その後、二度と自宅以外へは行きたがらず、かなり抵抗しました。、

III 私のところは、比較的災難が軽い方でした。通所施設も同様でしたが、ガソリンが手に入らず、通うのに難儀しました。自転車で30分かけて通いました。2往復は疲れ、クタクタになりました。

IX-3 以前と変わらず変化ありません

IX-4 こわれた屋根や修復中の家を見ると、地震でなったと思います。いまだに、青いシートで覆われた家屋を見ると少々気になります。

(男 20 ノ 母)

I-3 自宅や入所施設に被害がなかつたので、息子の障害のことはあまり影響がなく、一般の方と同じように、電気や水道が使用できないことが一番大変でした。次に買い物が普通時と違い、時間がかかったり、思うように品物が手に入らないことでした。

III 震災あまり被害はありませんでしたが、避難所に行ったときに、障害のある方も避難していて、その人のうわさ話をしている人たちを見かけました。自分の息子がもし避難することになれば、同じようになるのかと胸がいたみました。今、通所している施設は、福祉避難所にもなる所なので、何かあつたらそこに行けばいいと思いましたが、市の要請があつてから、避難所となるそうで、まずは指定の避難所に行かなくてはならないそうです。支援学校も避難所にはならなかつたと聞きました。本人が慣れた場所に避難できるように行行政も対応いただけないでしょうか。

IX-3 災害とは関係が薄いのですが、食事量が少なくて困っています。

IX-4 災害前から食事量が少なく、医者に行っていましたが、災害時は増えました。しかし、日常が落ち着くとまた少なくなってしまいました。

(男 4 ノ 母)

I-3 息子がなかなか言うことを聞いてくれず、また、外で遊んだりすることができなかつたので、精神的に疲れた。周りの家族が息子のことを理解できないので辛かったです。

- III 息子の発達障害がわかってから、周囲の目が気になり、自分でも受け入れることができませんでした。一番は、何回同じことを言っても、ダメなことを分つてもらえないことです。怒っても意味がないとわかっていても、イライラしてしまい、つい手がでることがあります。頭で分つても、気持ちがついていきません。そして、この震災があつて、息子も家に帰れないことが嫌で、すごくストレスだったと思います。静かにしなければいけない場所で、走り回ったり、大きな声で笑ったり、親としてはとても疲れました。きっと周りの人が息子のことを分つていれば少しは違っていたと思います。自閉症と言う言葉は、最近ではよく知られていると聞きますが、私はほんの一部の人しか本当のことを知らないと思います。発達に障害のある人はやっぱり周りの人の支援があつてこそ生きていけるのではないかと思います。将来、一人になっても支援してくれる方や施設が多くあれば頑張って生きてほしいと希望がもてるような気がします。
- IX-3 テレビを見ていると、自分が面白い場面を何回も繰り返し見たいようで、そのために、巻き戻しを何回もさせられるので疲れる。「後1回だよ」と言うと、終るのでいいのですが、毎日毎日なので面倒です。
- IX-4 災害後は、我慢というのを覚えたようで、少し成長したようです。災害時では、食べたくても食べられず、遊びたくても遊べなかつたので、そのたびに「我慢」と言う言葉を使っていたので、もしかすると分つてくれたのかなと思っています。

(男 20 ノ 母)

- I-3 水道は大丈夫だったが、電気は4日後。都市ガスは1か月後に回復しました。物資（ガソリン、食品など）が手に入らないのも大変でしたが、一番は電気、ガスだと思います。
- III 自分も被災者ではあるけれど、重大な被害がなかったのに、多くの方々に心配していただきました。物資やお金も大変ありがたいことですが、心を寄せてくださることの有難さを感じています。電気、ガスが止まつた数日間に感じたのは、ご飯が炊ければ何とかなる、ということでした。アルファー米やビスケットが少しあつただけでは、5人家族では困つてしまいますが、カセットコンロと鍋で炊いたご飯のおかげで、空腹にならずにすみました。
- IX-3 食べすぎ。自分の分だけでは満足できず（地震前から）、他の家族の分までほしがる。

(女 23 ノ 母)

- I-3 ライフラインの停止。特にガスは、復旧まで1か月以上もかかり、入浴ができなかつた。ガソリンがなく、給水所まで行くことができなかつた。食料、紙おむつ等の調達。
- III 自宅だったため、食料や水の調達が大変だった。周りの情報も入らなくて、子ども（重度自閉症）がいるので、長時間並ぶ買い物は無理。普段利用している作業所をレスパイトも、何日間も利用できず、子どもがストレスがたまるのが不安だった。自宅避難にも物資の供給をしてほしい。日中過ごす場がほしい。ガソリンの優先給油があればよかつたと思う。相談、困りごと等の情報提供。
- IX-3 災害に関係なく、こだわり。
- IX-4 異常事態を察してか、ライフラインが停止し、いつものことができない状況でも、我慢し、頑張っていた。

(男 32 ノ 母)

- I-3 ガスが1か月止まつたので、お風呂に入れず、他のお風呂にも行けないので、家の中、お湯をカセットコンロで、沸かしての行水風にしての体洗いが大変でした。

(男 30 ノ 母)

- I -3 食料の入手。こだわりの果物やサラダ、パンが手に入らず、いつものメニューが出来ず、イライラした様子があり、いつ、大パニックになるかと不安だった。自傷がひどくなり、あちこち、血だらけになるので。
- III 我が家の場合、あの大変な揺れの中、築30年以上の建物は、何とか持ちこたえ、家具等もストッパーをつけていたため、ほとんど被害はありませんでした（仏壇、茶碗数枚は壊れた）。水道もガス（プロパン）も止まることなく、電気も3日目に通じ、他の方々に比べれば本当に恵まれた状況にあったと思っています。ただ、食料とガソリンの入手には大変な思いをしました。ガソリンは車を使わなければ何とか過ごせたのですが、食料は何時間も並び、ほんの少ししか手にはいらず、かえって避難所の方が手に入りやすかつたのかと思つたりしました。今は、地震前の状況に戻り、本人も落ち着いて、通所できています。大好きな果物も毎日食べられるようになり、気持ちも安定しています。

(女 28 ノ 母)

- I -3 知的障害を伴う自閉症と、聴覚障害もあり、なぜ以前と同じ生活ができないかということが理解できず、自傷行為が増え、奇声が増え、私もイライラがつのり、夫が災害後5日目、仕事に出かける前に私に「俺のいない間にXX君の首絞めたりしないでね」と言ってから出かけ、はつとした。その夜、娘を寝かせるとき、隣で顔を見つめていると、娘に心の中で話しかけているうち、涙がでてきた。それを見た娘が、普通の生活ができないんだと理解したのだと思う。翌日からは、奇声をあげなくなったり。
- III 今回の地震で、体の不調を感じて、死を感じて、徐々に死を迎えると思っていた死が突然来ることがあると思い知らされる出来事で、今まで、自分の体が動かなくなるまで、まだ時間的に余裕があることなのでゆっくり、あせらず、活動をしていけばいいと思っていましたが、自分が病気になったとしても、ショートステイが現実にできない状態（特に女の子はベッドの空きがない状態で、3か月前に頼んでも断られ、枠が1人なので）、入所施設が新たにできないのなら、重い障害の人でも、グループホームやケアホームで暮らせるように、生活の補助を（援助してくれる人やお金）大都会の人でなくても、地方の人でも同じような支援が欲しい。それを形にするには、「こうしなさい」みたいな具体的、アドバイスがほしい（近道の、時間がかかる方法）、実現する方法）。

(男 34 ノ 母)

- I -3 今から考えてみると、地震後通所施設にいる息子を迎えに行くことが、一番大変だったと思います。状況も見えないし、電話も通じない、家族とも連絡ができず、右往左往していました。車も大型スーパー立体駐車場に止めていたので、出すことが出来ず、どのようにして息子を連れてかえるのか！と頭が真っ白に。幸いに主人が街に出ていて急いで施設に迎えに行き、途中、奇跡か、私を見つけて一緒に帰ることができました。自宅は幸い被害はなかったので、ライフラインが止まって大変でしたが、避難所に行くことも無く、色々苦労はありました（食料、ガソリン、医薬品等）、何とか家族全員で過ごすことができました。

- III 私も子どものころ、新潟地震を体験しました。以前から「宮城沖地震は必ず来る」と言わっていましたが、今から思うと、飲料水、缶詰め程度しか用意しておらず、安易だったと思います。体験してみると、とても考えられないことがわかつてきました。幸いにしててんかんの薬は3月はじめ1か月分もらっていて良かったです。もし足りなかつたら、ガソリン給油も困難の中、遠い病院へ行くことは大変だったと思います。震災後は病院の方も配慮してくれ多めに出してくれるようになりました。報道でも避難所の様子を目にしましたが、それは大変な様子でした（障害者の家族等）。まだまだ理解してもらえません。今回は自宅で過ごせましたが、もし避難所だったらどうなつていたのか。自宅の前が小学校ですが、この地域の避難所になっています。3月11日の夜は体育館の中は一杯の人、人、人で、座る場所もない状態でした。以前から避難所は絶対無理だとは思っていましたが・・・・。本当にあまりまわりの人びとに気を遣わないで過ごせるような避難、待機所の設置を希望しています。この地震、津波、原発で大変な思いをされている人びとがたくさんいらっしゃいますが、幸いに被害もなく、普段どおりの生活ができることに感謝しております。
- IX-4 本人は、表現できないのですが、地震後少し大きな余震が（周りの人が騒ぐと）あると、それなりに不安なのか、「大丈夫」「あぶない！」と不安がることがあります（以前はなかったのですが、やっぱり大地震を経験したのが、それなりにわかっているのか。）。

(女 30 ノ 母)

- I-3 食料の買出しや、水、ガソリン、灯油の確保。
- III 震災時は、ガス、水道、電気がストップしてしまいましたが、幸い建物や人的な被害はありませんでした。今後、避難所などで、生活しなければならないという状況になった場合、一般の人の中では無理なので、自閉症という障害をもった子どもに空き教室を使用できるとか、プライバシーが保たれるようなことを考えてほしい。また、その家族によって支援してもらいたいことが、それぞれ違うと思うので、ボランティアについても、どこかに連絡すれば手伝ってもらえるようなことを、考えてもらいたい。
- IX-3 こだわりが増えた。夜、布団に入って眠り、その後目が覚めると、居間に行き布団に戻らず、居間で再眠するようになった。

(男 19 ノ 母)

- I-3 仙台市内でも、西部で山の方なので、被害は少ない方だと思いますが、3日間の停電と断水。もっと困ったのは、電車がしばらく不通で通勤に苦労したり、ガソリン不足で、車が使えなくなる不安やお米をはじめ食べ物を買うのも大変で、並んで買い物をしたりしました。
- III 震災直前の3月4日に、支援学校高等部を卒業しました。小、中学校時代は、落ち着きが無く、衝動的にいなくなったり、物を壊したりするため、周囲から受け入れられず、小学4年になる年に転校をしたり、その頃は力になってくれる方が少なく、大変苦労しました。今は困ったときに相談できる方がいるのと、本人も成長し、落ち着いていられるようにもなりましたが、高3、就労目前の実習でストレスに耐えられず家出したり、これまでと違った心配が出てきて、なかなか安心できません。＊社会性や人と上手く接することが出来ず困っています。震災ストレスは新聞やテレビで自分なりに理解し、今は普通に生活しているため、それほど感じません。

(男 31 ノ 母)

- I-3 5日余り電気が通じず、ローソク、懐中電灯で生活し、食料や灯油、ガソリンが並ばないとなかなか手に入らず、食べ物にもこだわりのある本人だったので、とっても困りました。でも、尋常でない状態であることは少し理解してくれ、受容していたように思います。1か月あまり、4月中旬ころまでは、わかつていただけでしたが、少しずつ世の中が落ち着いてくるにつれ、不安定になってきて、理解できず、パニックが続きました。（もともとパニックを起こしがちで、人や物への攻撃性のある人です。）

- III この大きな災害にあって、一番思ったことは、保護者が二人とも64歳、71歳と高齢なことです。今回は何とか動けて自宅も大きな被害もなく、何とかしのぐことができましたが、今後また、自然災害があった場合、本人は集団の中に避難することは、情緒面（大声を出して動きも大きく、すぐ不安定となるので）でも、とうてい、出来ないことです。無理なことです。車の中での生活も長くは無理ですし、それを考えると、一時的にでも、障害者を受け入れてくれる避難所が充実していたらと考えています。それが、今おもつてていることです。
- IX-3 物投げ（手当たり次第のときもある）や他者への加減の無い攻撃性です。でもこれは以前より大きく不安定のときあることですが。
- IX-4 少しの揺れにも顔色が変わって、反応が強いことです。怯えて不安定になります、言葉を繰り返したり（本人のこだわりの単語）することができます。でも、12月に入ってだいぶ落ち着いてきたので、余り騒ぐことはなくなっています。

不詳

（男 16 ／母）

- I-3 飲み水や食料の確保
- IX-3 いつもイライラしているようで、自分の思いが伝わらないとすぐに手を出してしまう。自分の腕を噛む。半年ぐらい傷が治らない。

【福島県】

就園前

(男 6 ノ 母)

- I-3 子供を不安にさせないようにすることが大変でした。当初3日は停電になり、余震もあったので、なるべくいつも通りの生活を心がけました。放射能の影響で外遊びができず、夏休みもプールが使えず、本人はとてもイライラしており、対応が大変でした。
- III 自主避難したいと考えましたが、初めての環境に対応できず、パニックになるかも知れない、また、学校のこともあり（転校）、決断できませんでした。外で思いっきり遊べないことも不満です。子供向けの屋内施設などできましたか、自閉の子には、向いていないようです。家で静かな生活を送るしかありません。避難区域ではありませんでしたが、万が一避難となつても、一般の避難所では生活できません。
- IX-4 余震が続いたときに、不安で泣き続けたときがありました。

幼稚園・保育園

(男 6 ノ 母)

- I-3 避難所に行けなかつたこと（子供の特性で）。水がなくて確保するのが大変
- III 健康に影響がでないか心配です（原発の問題）。外で遊ぶことができないの

(男 6 ノ 母)

- I-3 災害後に、頻繁に起こる余震に子供たちが恐怖感を感じ、不安になつてい
- III 外で好きなだけ遊べない。室内で遊べるところも少なく（定型の子と一緒に

(男 6 ノ 母)

- I-3 避難所に避難しようにも、初めての場所だったりなど、情報が本人になかなか伝わらず、自宅待機していました。また、原発の問題で、家の中で過ごす日々があつたので、ストレスがたまっていました。

- III なかなか発達障害児の理解は世間は厳しいと感じています。周りの理解は私たち親にとっても課題です。自閉症の特性をどのように伝えたら分つてもらえるのか、といつも思っています。また、原発の影響で、外遊びをなかなかできず、中（家）の遊びも限界があり、ストレスがたまっています（本人）。定型の子と一緒に遊ぶことは、周りの理解があった場合には可能ですが、なかなか現実は厳しいです。障害を持っていても遊べる場所があればいいと思っています（災害後、特に厳しい状況だと感じています。）。福島県だけなのか・・・日中一時支援などの事業所が少ないとと思いました。

IX-3 突然的に外に出て行ってしまう

IX-4 入学（小学校）と同じ時期で本人に伝えていた予定がずれて、苛立ちがひどかったです。また、地震がくるたびにとても怯えることがあります。

(男 7 ノ 母)

- I-3 近所の避難場所が学校の体育館だったものの、自閉症の子どもを連れて、その環境に避難することは無理でした。

- III 放射能の影響が続いている、外で遊ぶことができない。遊ぶ場所がなくなっているので、「ふくしまっ子」の企画のような障がい児用（親の金額負担も少ない）企画があると嬉しい。

(男 5 ノ 母)

- I-3 地震直後、携帯がつながらず、安否確認に時間がかかったこと。断水が2週間ぐらい続き、子どもをつれ給水所に行くのが大変だったこと。

III 今回のことを通して感じたことは、もし、避難所にいかなければならぬ状態になつたら・・・、発達障がいがある子どもたちに対する配慮は・・・どのようにしていただけるか・・・とても不安に思いました。突然の変化が苦手な人が多いので、本人が安心できる場所の確保をとても大切なことだと思います。

(男 6 / 母)

I-3 地震をこわがり、夜やお風呂が嫌いになってしまい、パニックに毎日泣いていた。買い物も出来ず、ガソリンを入れるのにも、待てなかつたことです。

III 私の住んでいる所は、ライフラインがすべて大丈夫でしたので、夜は電気もつき暖かく過ごせましたが、余震のたびに子どもは震えていました。とにかく、水、車を動かしたくても2~5時間待ちのガソリンを入れることは不可能で、相談してもダメでした。もっともっと障害者の気持ちを理解していただきかったです。『障害』を持っているからって何でも優先にはならないんだって言われたときは悔しかつたです。

IX-3 おしゃべりが止まらない時が多い

IX-4 家の中にいたくない時もあります

(男 6 / 母)

I-3 子どもが幼児のため、必要な情報を伝えることが難しかつた。特に、外遊びが大好きな子に対し、福島原発事故のため、外に出ないよう理解させることができた。放射能が目に見えないため、危険を伝えるのが難しかつた。

III 両親が共働きのため、災害時に障害のある子供の側にいることができませんでした。こんな時こそ、自閉症専門の事業所が開所し、適切に絵カード等で情報を伝えてくれれば助かるのにと感じました。急な災害時は、誰もがパニックになり、幼稚園の先生は対応できていませんでした。事業所が壊れて使えない場合、集会所等に専門スタッフがいてくれたら、対応も早く、心のケアもできたのではと思ひます。

IX-4 手に持てる小さなぬいぐるみが離せなくなつた。寝るときに気に入ったぬいぐるみをベッドにたくさん置かないと眠れなくなつた。災害時に家族がいなくて寂しかつたのか、ぬいぐるみをいつも抱っこするようになった。

(男 6 / 母)

III 子どもたちが外で遊べないので、夏休みなどに子どもが遊べるようにと、キャンプやリゾートホテルなど広告がいろいろ出ていましたが、障害がある子どもも参加できるという呼びかけが欲しいなあと思いました。避難したくても、変化が苦手な子どもだし、被曝したとしても、将来有望でもないし、あきらめました。

(男 5 / 母)

I-3 外に出ることが出来なかつたため、かなりストレス（多動や独語が多く出ました）。

III 障がい児が安心して遊べる場所（一般的の施設だと定型の子どもは遊べるが、障がいを持っている子どもは入場できない）。

(女 4 / 母)

I-3 施設が休みになったことと外遊びができなかつたこと。

(男 6 / 母)

I-3 郡山は地震自体の被害は、それほど大変ではなかつたのですが、いわきに親族がおり、津波や原発の影響で地震発生の2日後から2週間ほど、3DKの我が家に避難してきました。狭い家にたくさんの（家族4人以外に、大人5人＋中学生）が出たり入ったりして、本人の逃げ場も無く、大変なストレスだつたと思います。私も親族の世話を追われ、ガソリンや食料の調達が優先で、おばあちゃんや本人の姉にまかせきりだったので、あの地震以来、木が揺れただけでも、怯えるようになつてしまつた。

- III 地震だけだったら、郡山は割りと復旧も早く、我が家は断水だけだったのでそれほどのダメージはなかったと思います。やはり、多くの福島の方が思っている「原発事故さえなければ・・・」は私もよく思うことです。本人だけなら、このまま福島でひっそり家族で暮らしていくべきいいと思えるのですが、小3のお姉ちゃんもおり、本人がいなければ、福島からでれたのに・・・という思いが全く無いとは言えません。他県の方から、お休みの間に避難してくださいとお誘いを受けても、遠すぎたり慣れないところで毎夜「帰りたい」と泣かれることを覚悟して行くのもどうかと思ってしまい、姉のことを思う気持ちと本人を思う気持ちで、心が引き裂かれそうになります。今はまず親がストレスで身体を壊さないようにし、また、子どもたちに出来る範囲で気をつけるようにさせ、私も子どもたちに出来る限り影響をうけさせないように気をつけながら生活しています。親自身の気休めと言い訳に過ぎないと思いつつですが・・・。
- IX-4 地震後に自然現象に敏感になり、雨が降っているだけで、外を気にして不安になる。室内に居てぱっと外を見たら、雨が降っていたときの本人の驚きは相当で、泣き出してしまうこともあります。また、地震時の携帯の警報の経験から、私の携帯は必ず本人が音が鳴ってあまり影響のない場所に常に置くようになり、私が使ってそのままにしていて気がつくとそこに戻っている・・・という感じになってしまいました。

小学校

(男 10 / 父)

- I-3 原発事故のため、養護学校の後のデューサービスが受けられなくなり、家族の対応が大変だった。
- III 被爆の検査が全く出来ていない。10月に3月の行動調査があっただけで、対応が遅すぎる。原発事故から今までの被爆量がわからない。特に食物からの内部被爆がまったくわからない。対応が遅すぎると、本当のことがわからなくなる。いつまで震災後の不安な生活を子供に強いなければならないのか。
- IX-3 今は安定している

(男 7 / 母)

- I-3 12日に13時間かけて埼玉の実家に避難しました。子供のことを祖母には言っていましたが、今まで年2回ほどしか会っていなかつたため、長期でお世話になるには、何かと気を使いました。転校先の小学校もいとこと同じにならないよう気を使いました。
- III 以前住んでいた大熊町、双葉郡は、療養がさかんな所だったようです。小2の息子は、週2回程度、軽度の子供たちの療養プログラムを受けていました。しかし、埼玉はあまりそういったところがないようです。今は特にどこにも通っていません。また、たまたま小学校で上手に対応していただいているため、特に大きな問題もなく、今まで過ごすことができました。しかし、今回の被災で自閉症協会に入っていて良かったとしみじみ思いました。というのは、埼玉の自閉症協会の方から連絡をいただき、いろいろと相談にのつてもらえたからです。埼玉のことはよくわからなったので、とても心強く、また、助かりました。
- IX-3 宿題が多いときなど、なかなかとりかかれず、イライラするようです。
- IX-4 太りました

(女 11 / 記入なし)

- I-3 余震が多く、なかなか恐怖から落ち着かず、少しの物音にも反応していた、知人宅に避難中も、自分の居場所がなくとても混乱していました。いつも緊張している状況で疲れました。

(女 10 ／ 母)

- I-3 原発事故の影響で、毎日、放射能の心配に悩まされています。
- III 震災後、学校は1か月近く休みを取り、放射能の影響等でずっと自宅に缶詰めの状態にせざるを得なかった。先が見えない状況下で本人に見通しを持たせることに配慮した。震災直後、断水になり、トイレの水が出ないことに、本人は一番の不安を感じていたようです。
- IX-4 地震に敏感になった。

(男 9 ／ 母)

- I-3 息子が外で遊ぶことができず、ストレスがたまり、家族にストレスをぶつけていたことが辛かった。
- III 外遊びの制限があり、まだストレスがたまっている現状を少しでも早く改善してほしい。もし、私たち親に何かあって死んでしまった場合、この子は普通に暮らしていくんだろうかと、地震が頻繁な時期はとても不安がよぎりましたが、親が不安になると子供たちにも影響するので努めて普通どおりに子供に接するように努力しました。
- IX-4 サッカーや自転車のりなどが放射線の関係で制限されてしまうので、人へ言葉での攻撃が以前より増えてきたようだ。 (多動な子には、苦痛な環境だと思っていますが、仕事をやめることができないため、そのまま福島市にいるのが現状です。)

(女 9 ／ 母)

- I-3 障害者が二人いたため、個々のパニックに対応できなかつたこと。姉は親戚宅で初日にパニックを起こし、少しづつ慣れ落ち着いてきましたが、妹はいつもと違う環境に不安を感じ、5～7日に大きなパニックを起こしました。
- IX-3 外で遊ばせることがあまりできない
- IX-4 木草が好きなのですが、触れてはいけないことを理解できていない。

(男 8 ／ 母)

- I-3 1か月間、家から出られず、精神的に参ってしまった。放射性物質対策でマスクをしたり、長袖を夏まで着たり大変だった。今でも県内産の野菜は遠慮がちになっている。
- III 放射性物質を気にせず生活を早く取り戻したい。除染を早くやってほしい。

(男 12 ／ 母)

- I-3 子供のオムツとオシソナップがなくなった
- III 子供が土を食べてしまうので、学校の校庭の土入れ替えを4月から言っていますが、まだやってもらえない。ガラスバッジが、11月15日からでしたが、情報が入ってこなくて、わからなかった。

(男 11 ／ 母)

- I-3 犬が嫌いなのに、犬と一緒に生活したこと (旅館の4日間)
- III 自宅や学校の環境が変わり、ストレスから、てんかん発作を多発しました。幸い、自宅は無事だったので、今では安定しています。3月11日の日は、津波が来て、地元の小学校へ避難しました。多人数と大きな音にびっくりし、避難所の中をかけまわっていました。幸い友人から連絡があり、その友人宅にお世話になることができ、ほっとしたことを覚えています。あのまま避難所で暮らすことになったら、と思うとぞっとしています。福祉避難所の整備を心から願います。
- IX-3 学校での屋外活動がすくなくなっていて、運動不足のようです。そのせいか、災害前より食が細くなりました。
- IX-4 他校が避難てきて、今までより児童数が増えて新しい友達ができたようです。思ったより時間がかかるかも、対応できることがわかりました。

(女 12 / 母)

- I-3 ライフラインが止まったこと。ガソリンがなかったこと。
III 幸い、避難することなく自宅に住めるので、今は元の生活に戻って、本人もほぼ安定しています。心配は子供たちへの放射能の影響ですが、原発から50キロメートル離れているので、本人の安定を考えれば、避難はとても考えられません。

(男 12 / 母)

- I-3 アスペタイプで、過去に夫からのDVなどがあったため、子供も不安になると暴力が出ます。十分穏やかに暮らせるようになっていたのに、そこに震災がありました。外に出られないストレスは大きく、イライラ、暴力により、入院しなければならなかつことと、そのことを「あなたのやり方がまづいからだ」「放射能から逃げる前に親子関係をどうにかしなさい」と、言われたのは辛かったです。自閉症協会はそう考えるのですか？（うまくいかないことに対して）
III 先にも書きましたが、家は元々障害が分ったのも小3の時、夫のDVもあり、言葉に遅れの無い陽気な子供と思っていたので、特に、不穏時はイライラ、パニック、暴力と大変なことになります。そのたびに、考え、相談し、いろいろやれる限りをしてきたつもりです。そんな時「何も分っていないようだから言うけどさ、2年連続で入院するなんて母親のあんたのやり方がまづい以外ないのでは。放射能から逃げるなんてする前に、親子関係どうにかしなさいよ。」と言われて困りました。うまくいかないのは、私のせいだと、他の協会員の方も思うのですか？また、そういう家庭は非難してはいけないのですか？

(男 7 / 母)

- I-3 子供の学校や施設の予定が変更になったこと。テレビ番組も引越し先の工期が遅れたこと。
III 子供の預かり施設が一つなくなつたので、仕事をしている身としては、それが一番困っている。

(男 7 / 母)

- I-3 学校が休校になったこと。水が止まつたこと（3日くらい）。ガソリンがなかなか手に入らなかつたこと。
III 夏休み、冬休み、春休みの時、日中、一時支援事業所さんの朝のはじまり時間が遅めのため、仕事に行くのに遅刻をしていかなくてはならないため、もう少し8時半くらいから、始まつてほしい（事業所さん）。

(女 7 / 母)

- I-3 水道が止まつたので、1日に数回水を汲みにいったこと。子供連れで行かなくてはならなかつたため、行列に並ぶのが大変だった。
III 地震前後とも、特に変わりはないので、何もないです。幸い何の被害もなかつたんですが、もし、家が壊れて、避難所生活だったら・・・と思うとゾッとしています。

(女 12 / 母)

- I-3 ガソリン給油。食料調達（日用品も含む）
III 知的な子を車に乗せて何時間も給油するのに待てなかつたので、ひたすら家に戻るしかなかつた（食べ物等の買い物も）。障害者の避難先の確保は必要だと思います。防災マップがあればよかったです。
IX-4 学校もデイサービスも休みになつてしまつたので、生活リズムが崩れ、発作が多くなつた。兄もいたので、ストレスが増し、怒ったり、自傷、他傷が出た。

(男 12 / 母)

- I-3 情報があまり入ってこなかつたこと。テレビや新聞では放射能について大丈夫、安心するように、外で子供を遊ばせても健康に影響が無い、の繰り返しだが、自分で調べた結果、将来的には、影響がある可能性もあることがわかつた。でも、そこにたどり着くまで時間がかかった。政府の公表もコロコロ変わり、それが一番困った。
- III 避難しているが、いつかは福島に戻らなければいけないが、まだまだ、線量が高いので本当は戻りたくない。自分と子供は避難したが、主人を福島に残しているのが辛い。本当は住んでいてはいけないくらい線量が高いのに、政府は非難区域にしてくれないので、将来的には、子供たち（福島や関東の線量の高いところでも）に影響ができることがわかっているので、それが辛い。全員に出るわけがなくとも、たとえ少なかったとしても、子供の命を一番に考えてほしい。福島には避難したくてもできない人がたくさんいる。例え、5年後に何でもなくとも、10年後、20年後・・・一生、放射能と向き合っていかなければならぬ。そして政府は、事を小さくしようと必死で、まだ経済を優先させていることに、本当にがっかりしている毎日。
- IX-3 地震や津波はもちろん、火事や人が亡くなったニュースに敏感に反応するという状態なので、質問攻めに合うことがある。
- IX-4 次に地震が来るのはいつか？原発は落ち着いたのか？この土地は放射線は低いか？など、よく気にするようになった。

(女 12 / 母)

- I-3 原発事故後、避難したかったが、いろいろなことを考えて、避難することができず、結局、郡山で暮らしている。将来、子供たちに何かあつたら・・・と思うと、避難しなかつたことを後悔し、自分自身のことを責めそうで辛いです。
- III 子供が4人いて、しかも自閉症の本人を抱えて避難するのは難しい。いろいろと受け入れてくれるところはあるけど、一歩が踏み出せないのが現状。
- IX-3
- IX-4 災害前は、一人部屋に寝ていたが、地震後、余震もあったので家族でまとまって寝ることになり、気が付くとイヤーマフが外せなくなってしまった。家族で出かけても、車から降りれず、そんな状態が長く続いたが、ようやく最近はイヤーマフが外れ、出かけ先でも車から降りられるようになった。

(男 12 / 母)

- I-3 放射線が高く、子どもの身体への影響が不安。自主避難による経済的な打撃。
- III 放射線のため、外での活動もままならず、心身ともに大きなストレスを抱えての生活があまり改善されず、10月末、自主避難しましたので、親子とも解放され、今は安心しています。そのかわり、経済的負担の大きさが、一番の問題です。夫は福島に残り、二重生活です。思った以上に大変です。
- IX-3 外に出られない時期が長く、家で安定して過ごしていたが、外に出なくともよくなり、外出を少し面倒くさがるようになった。
- IX-4 野菜など、これは放射線ある？と気にする。

(女 9 / 母)

- I-3 地震の影響で断水しただけで、放射線の値が高いだけだったため、自主避難しか方法がなかつたこと。
- III 発達障がいというのは、少しずつではありますが、法的な枠組みはなされてると思います。しかし、実際に学校、社会での困り感には、何もしないに等しいと言ってよく、本人と家族が努力して周りに合わせられるようになることが、重要というのがほとんどです。経済的に許すかどうかに関わらず、自主的に何とかしろでは、発達障がい者及び家族は社会の一員として、認められていないのだと、ただただ無念です。

(男 11 ／母)

- I-3 小学生の男の子ですが、父親とお風呂が入れないので、公共のお風呂が入れないで困りました。
- III 特別支援学校なのに、小学校低学年から、教室不足のために、合同学級となり、自閉症の児童が7～8人一つの教室に入れられ、先生を加えると、12名ぐらいの人数でさらに、教室を2つに区切り、別の授業を行なっている。高等部になると、グレーゾーンの子どもたちが多数入学して100名を超えて、中学部からいる子どもたちが、様々な理由で、登校拒否になったりしている。自分の子どもが高等部になるころはもっと人数的にも増加すると思います。早急に高等学校を別にするとか、地区ごとに学校を二分するか、グレーゾーンの子どもたちが入れる学校の仕組みを考えてもらいたい。
- IX-3 母親の姿が少しでも見えないと、家中さがしまわる。お風呂を一人で入らなくなつた。
- IX-4 災害後、外遊びがあまりできなくなっているので、肥満傾向にある。

(男 13 ／母)

- I-3 放射線の不安から、外遊びやレジャーが気軽にできなくなったこと。洗濯物や布団を外に干せない。窓をあけられない。草むしりや庭の手入れ、犬の散歩が出来ないのがストレス。
- III 原子力事故によって、価値観がひっくり返ってしまったようで、これを子どもに伝えなければいけないかと思うと悲しいです。土に触れ、風を感じ、木や植物や多くの生き物から、プラスのエネルギーを受けてほしいのに、それを、すすめられなくて、森林浴も楽しめません。
- IX-3 不器用で動作がおそいので、周囲に合わせることができない。
- IX-4 小学校は集団登校していたが、中学に入り放射能の不安から車で送迎するようになり、あまり歩くことがなくなってしまった。

(男 12 ／母)

- I-3 地震で被害はほとんどないが、放射能での避難を1か月ほどしました。今現在も不安で、今度引越し予定。
- III 今後、原発で引越しを予定しているが、中学校の対応やイジメの問題がとても不安である。

(男 12 ／母)

- I-3 食料の確保。原発事故への不安。
- III もし、また震災などが起きた時の備えをしつかりしておこうと、思っています。今回は自宅が無事で助かりました。避難所の生活は、障害児を抱える家族には非常に厳しいのではないか・・・(テレビや経験者のお話を伺うと)。有事の際、自宅で過ごす選択を出来る限りとりたいと、現時点では考えています。そうした、自宅にとどまっている家族に①食料の買出しサービス(長時間スーパーに並ばなければならなかつた)、②福祉情報の迅速な提供、があればとても助かるのではと思います。

(男 8 ／母)

- I-3 震災後すぐに水道が止まってしまった(7日間)。水分の確保が大変だった。食糧も手に入れにくかったし、余震も続き、めまいがした。その後は、放射線量が高く、子どもが心配だった。
- III 当時は、水と食料の確保が大変でした。祖父と息子と3人で暮らしており、食料も水も1時間以上並ばなくてはなりませんでした。子どもを連れて行く枠にもいかず、祖父にみてもらつたのですが、帰つてくると、すごい騒ぎでした。家に届けてもらえるシステムがあればと思いました。ガソリンも何時間並んでも手に入らない状態でした。障害者には、優先的に分けてもらえたると思いました。学校が休みになってしまい、ずっと家にいる始末。預ける先があつたらと思います。放射能の情報も、全然入ってきませんでした。当時かなり線量が高いとき、平気で外で遊んでいる子もいました。今、考えるとぞつとします。

IX-4 放射能の影響で、千葉県に引越しました。今年は異常に暑がりになってしまい、何度も服を脱いでしまい暴れるようになってしまいました。

(女 10 / 母)

- I-3 今も続いていますが、原発の放射能がどうなのか（本当に安全なのかどうか）わからないので、避難している点です。主人のみ、福島にいますので、家族がバラバラな精神面と、金銭的にも大変です。自閉の子は、学校も生活も変わりましたので、精神的に周りの家族も大変です。
- III 避難先での放課後の活動がなかなか広がりません。避難先が雨が多いこともあり、外でばかりも遊べず、毎日の普通の生活がなかなか普通にできないことが困ります。、

(男 9 / 母)

- I-3 福島県郡山市在住です。幸い、地震での被害は少なく建物（自宅）、ライフルインともに無事で、食べ物にも困りませんでしたが、原発のためのストレスが大きかったです（外に出ない生活、県外産の食材探し、除染、この先への不安など）。
- III 夏休みの間だけでも、県外の母実家へ行き、少しでも長く滞在しようと思っていました。しかし、実家の生活は、本人にとっては思っていた以上に負担で、結局、3泊で戻らざるを獲ませんでした。環境の変化が苦手な自閉症児にとっては、避難生活そのものが、致命傷です。正直、被曝する方がましと思えるくらい大変でした。また、避難するなら親戚の家より、借り上げ住宅のようなところの方が向いていると思います。生活パターンのちがい、他人との生活が一番辛かったです。とのかく、我が家は夏休みの避難生活を少し体験し、ずっと自宅で生活する決意を固めました。
- IX-3
- IX-4 1学期頃は不安定だったので、やるべきことのレベルを下げて、楽に過ごせるように配慮したのですが、今も、そのまま面倒なことはしたくない、好きなことだけしていたいというスタンスで、どう元に戻すか、対応に苦労しています。

(男 7 / 母)

- I-3 1週間の断水。物流のストップ（納豆が手に入らない）。ガソリンが手に入らず、学校を休まなければならなかった。
- III 原発事故後、福島から脱出する車の列を見ながら、こすりすぎて目を開けられなくなってしまった子供を眼科につれていましたが、うちも怖いから避難したかったけど、避難所に入るのなんて無理だし、どういうところで受け入れてくれるのか分らなくて、きちんと考えておかなくちゃいけないなあと思いました。
- IX-3
- IX-4 落ち着きが無く、目をこすりすぎて目が開けられなくなって、眼科に駆け込みました（3月と8月の2回）。

(女 12 / 母)

- I-3 原発事故に対する温度差、意識の違いが大きく、全て自分の力で判断、行動しなければならず、手探り状態の中で、新しい環境を整えること（子どものフォロー）が必要。今後どうすべきか見えない。
- III 原発事故により自主避難中です。環境の変化、心のケア、等に、配慮することはもちろん、てんかん発作時の受け入れ先（病院）や学校さがしなど、やるべきことが多すぎます。日常生活をおくりつつ、新しい環境を整え、さらに、今後のことを考えていかねばならない。心身ともに疲れきってしまう状況です。避難を強制的に指示されている皆さんも大変ですが、自主避難については周囲との意識の違いなどもあり、別な意味での苦しさがあります。半殺しです。
- IX-4 リハビリに通えず、たたみ中心の生活になったため、歩くのが下手になり、転びやすくなつた。東電に娘の歩く姿を返してほしい。

(男 13 / その他)

I-3 地震の後は、子どもも学校が休みとなり、親も原発の事故で、会社が休みとなりました。家族と一緒にいられたことは良かったのですが、停電で水など使えなかったり、ガソリンがなくて食料買出しに困ったり、食料の調達ができなかったりの生活全般です。原発の事故の内容がわからず、外にいる時間が多かったことが、あとで考えると恐ろしく思います。

III

IX-3 震災に関係なく、クラスの中に大きな声を出す人がいなくなって、大声は出さなくなった。落ち着きのなさが目立つ。

IX-4 放射能が怖いと言って、外に出て遊ばなくなつた。

(男 11 / 母)

I-3 本人は予定していた映画が観に行けなくなつたこと、テレビの番組がすべてニュースになってしまったこと等が、とても辛かったです。パニックがおさまるまで、時間がかかりました。家族としてはガソリンが手に入らなかつたこと（入手の見通しが立たなかつたこと）。

III

ガソリン等についても、避難所についても、障害者は弱者として後回しなのだと実感しました。

IX-4 地震が怖いというよりも、それで生活のスケジュールが変わってしまったのが、辛そうでした。3月11日以降、しばらくは家族全員が外に出ることなく、家で過ごしていたので、家族の行動にこだわりの強い息子は、むしろ安心していた様子だった。何がプラスになるか、分らないものですね。

(男 7 / 母)

I-3 水、電気、食料、ガソリンの不足。

III

日常生活の変化がかなり大きいので（外出時服装、マスク・・）、ストレスがたまっているが、発散できる場所も、支援も福島にならうに思われる。避難したくても、障害のある子を連れて、理解の得られる学校をさがし、母子だけで避難するのは無理！変に情報に敏感になりすぎて、「放射能」と聞くだけで怯え、外に出なくなつてしまつた時期もあつた。

(男 8 / 父)

I-3 水道がしばらくでなかつた。ガソリン、灯油の確保。

III

風評被害。「福島」というだけで何でも嫌がられる。

IX-4 弟（1歳）の面倒見が良くなつた。

(男 13 / 母)

I-3

本人があまりに以前と変わらないので、一体、どのくらいのダメージを受けているのか（いないのか）見当がつかない。2年3年とたつて何かあったとき、地震のせいと言えるのかどうか？2～3か月に1度、ドクターとお話をしているので、大きな不安はないが、本人の口から何も語られないので、気持ちが聞けたらと思う。

(男 7 / 母)

I-3

母、本人、妹2人で、親戚の家に行ったので、家事手伝い等もあり、本火1人への対応がうまく出来ず、本人も環境の変化により、落ち着けないストレスがたまりやすい状況でした。

III

今まで誰も経験したことのない災害にあり、全ての人がいつもと違う状況にあるとき、混乱しやすい本人に対して、安心できるような適切なかかわりをしてあげることが出来ず、かわいそうだったと思います。視覚支援は有効であるようですが、気をつけないと本人を押え付けることになってしまい、どう伝えればよいのか悩みました。現在は従来どおりの生活で、落ち着いているのでホッとしています。

(男 13 ／母)

I-3 放射線の心配

III 他の地域に比べて被害も少なく、自宅で過ごしていますが、もし、避難所で過ごすような災害にあったとき、・・・と考えると、不安です（本人が、共同生活をすることに困難を感じます）。

(男 8 ／母)

I-3 東京電力の原発事故で放射能の線量が高いこと。

III 災害のとき、障害児を連れて、役所に水を配給してもらうため、半日くらい皆と一緒に列に並ぶこと等、とてもできない状況だった（今考えると、放射能も浴びていたと思うが、今さらです。）。そんな時、配慮や理解より、我先にという状況が目に見え、騒いで並ぶこともできない子がいては、水も優先してもらえないし、そういうとき何とかしてほしかった。避難でクラスの人がいなくなり、相談相手がいなくなったこと。

IX-3 服を脱いで全裸になってしまう。

IX-4 外で遊べないことが、不満となり、何をして良いかわからないので、不適切行動になる。

(男 8 ／母)

I-3 車のガソリン供給。原発事故による放射線被曝の不安。

III 要援護者として登録していたのに、震災時、何の対応もされず、登録した意味がないと感じてしまった（3年前に登録）。

IX-3 緊急地震速報のアラーム音でパニックになる。

IX-4 指示されなくても地震の時、机の下に移動したり、防災頭巾をかぶったり、自分の身を守る行動がとれるようになった。

(男 10 ／母)

I-3 被曝しないために、子どもたちを親戚の居る札幌まで避難させたこと。経済的負担が大きかった。

III 放射能で汚染された土地で、食料や水に心配する生活を続けていかなければならぬことが不安です。

(男 12 ／母)

III 外での活動が自然と制限されてしまうことが、今一番困っていることです。屋内での活動には限りがあり、体力を使うことも少なくなり、睡眠時間になんて、なかなか寝つけないこともあります。

IX-4 余暇の過ごしが、ゲームに偏ってしまいました。寝ても覚めても・・・という感じで、他にもっと目を向けてほしいのですが。

(男 11 ／母)

I-3 断水でお風呂に入れない、トイレを流せない（10日ほど）。水、ガソリンの補充。子どものこだわり、決まった飲料水、食品の確保（品不足）。

III 福島市内も3月11日以降、多くの放射能が飛んできたにもかかわらず、避難の判断ができなかった。自主避難するには、やはり、親類をたよったりするわけですが、やはり普通とは違い、なかなか、お世話になる勇気がなかった。実家が避難区域のため難しかった。子どもが安心、安全な場はこの家しかないと思った。9か月たった今も、避難する人もいるが、内部被害がこわいが、ここを離れるのはこういう子どもにとって並大抵のことではないと思う。

IX-3 壁紙を破る。ダンボールを細かくちぎる。外のアスファルト破片を見えないところに隠す、側溝に捨てる。

中学校

(女 14 ノ 父)

- I-3 自閉症の娘（中学3年）は、福島県富岡町の原発事故による警戒区域内にある施設に入所していたので、3月11日に避難したが、電話連絡が取れなくなつて、数日間どこに避難しているのか分らなくてとても心配した。現在も福島県から千葉県に避難中で、いつ帰ってこれるのかわからない。
- III 入所施設が原発の警戒区域内にあり、何十年も戻れない。現在福島県から千葉県に避難しているが、いつになったら施設が復活できるのか見当がつかない。一日も早く、福島県内に戻り、学校生活を送らせたい。
- IX-3 元気がなく言葉が少なくなった

(男 16 ノ 母)

- I-3 ガソリン、水、通勤・通学手段

(男 14 ノ 母)

- I-3 断水前に濁った水がしばらく続き、お風呂にも入れず、水も使えなかつたのが大変でした。
- IX-3 今はとても落ち着いていて、生活も大丈夫なようだ
- IX-4 急に地震のときのことを話したりしていた。今は落ち着いている。

(男 不詳 ノ 母)

- I-3 高校入試の発表が伸びてしまい、その後のオリエンテーションなどの予定がたたず、予定がわからぬことをすごく気にして、しつこくなつていた。ガソリンが手に入りづらく、いつ底をつくか心配で、あまり出かけることができなかつた。
- III 地震のあとの様子では、特に大きく困ることはなかつた。本人なりに状況を理解し、いろいろ我慢をしてくれて、えらかつたと思う。
- IX-4 特に災難になつての変化は感じない

(男 16 ノ 母)

- I-3 偏食が激しいので（本人）、食品の確保が大変でした。幸いにも主人が役場職員でしたので、食べ物がどこで入手できるかの情報があつたので、コンビニに入荷する時間を持って買い物に行きました。水道が止まり、水汲みも大変でした（一週間）。ガソリンが半月くらい入荷が厳しく、夜並んで買いに行きました。
- III こだわりが強く、路線バス通学をしていますが、一番早くバスに乗りたい、決まった席に座りたい、気になる女の子に近づいておしゃべりしたい、それが危ないから～。いつも決まった場所は空いているわけではない。高校生なので、女人に近づきすぎてはいけない。全否定されてしまい、時々バスに乗れなくなつてしまします。学校では、トラブルがあるわけではないので、バス乗車の時だけみたいです。今は、本人がバスに乗れない時には、学校に送迎しています。そろそろ服薬も考える時期にきてるのかなあ？と、思つてしまします。視覚的指示も役立っていないようです。
- IX-3 路線バスに乗れなくなつてしまう。

(男 14 ノ 母)

- I-3 原発事故の放射能が怖かったので、外に散歩に行くことができず、家の中で過ごすことが多かつた。春休み中（1か月観）、長期だったため、親子で体力的に落ちたし、家にばかりいると、食べる増えて太ってしまった。
- III 学校でも、外で運動することがないので、せめて家に帰つてからは、少しでも体を動かしたいと思い、一万歩くらいは毎日歩いています。こういう生活があと何年続くのか。中学2年で体力的にも一番体力つけたい年齢なのに、残念です。除染をして、学校で以前のような生活をしてほしいです。
- IX-4 頻繁に地震が起こることが、揺れることが地震だと学習したらしく、1人で安全な所（家の中なら廊下に行くこと）に行って、地震がおさまるまで、待つことができるようになりました。

(男 15 ノ 母)

- I-3 自宅の車が壊れてしまったので、地震直後に居場所がなかった。雪が降り、寒いので車の割れた窓をビニール袋やガムテープで塞いで、前の座席に本人を避難させた（後部分はつぶれ、ガラスが飛び散っていた。）。食べ物にこだわりがあり、2日程度、おかしのみで過ごした。トイレの問題。夫とも連絡がとれなかつた。近所に避難したが、本人への理解も配慮もなかつた。それどころでないという感じ。とにかく居場所がなかつたこと。食べ物もなかつたこと。
- III 原発事故に伴う人的災害への不安。毎日、外出・公園に行くが、大丈夫なのか？本人は不登校、引きこもり、自宅で母と過ごしている中、災害に合う。進学はあきらめ、過敏さに対応できる福祉事業所もないため、移動支援20人で過ごしている。このような状態の中、他県に避難もできず、元来、体が弱いところがあつたので心配。
- IX-3 余震に対しての反応。小さな地震が例えれば夜眠る前にあると、声を出して騒ぎ寝ない。
- IX-4 ちょっとしたことでも、吐くようになった。毎晩のように吐いているので心配。

(男 13 ノ 母)

- I-3 水、食料品、ガソリンの確保
- III 今回は、自宅で過ごすことが、出来たので良かったですが、原発などで、避難が必要になったとき、一般とは違つた避難場所があつたらよいと思います。」

(男 15 ノ 母)

- I-3 ライフラインの停止。我が家では、水が10日間ほど出なかつたので、食料、飲料などの最低限のことしか水が使えなかつた。風呂に入れず、選択はできず、洗面も変則的になつた。放射能を今後も長期間浴び続けなければならぬこと。
- III 非常事態にも、安定に生活できるよう心がけて子供を育てていくことが大事と思いました。偏食の問題が以前にあった子供ですが、ここ数年で改善し、今回のことでは、いつもと違う食事でも、何ら困難を覚えることがありませんでした。これからも、いろんな状況を想定して、子らが困らないよう日常的に取り組んでいきたいと思います。
- IX-3 震災とは特に関係ないが、知的に低く、コミュニケーションがうまくとれない。
- IX-4 給水や買い物で長い時間行列するなど、いつもと異なる体験があつたが、よく対応できることがわかつた。本人もいろいろ手伝わされ、あてにされて、自信や満足を感じた面があつたようだ。

(男 15 ノ 母)

- I-3 飲料水がなくて困りました。外に出られなくて困りました。混線のため、電話通信がパニックになつた。
- III 放射線量がどこでも高いので、外で思いっきり遊ばせることができなくなつたことに困っている。

(男 15 ノ 母)

- I-3 自閉症の子は男の子で、中学生で体がおおきい。それなのに、お父さんは避難の行動は一緒でなかつたので、お風呂、トイレを利用するときに、一人で大変だった。常にプライバシーのない生活は、余計な気をつかうのでひどかつた。
- III 今も、家族がバラバラの場所で生活しているので、避難以前のように、家族一緒に暮らせる場所がほしいです。現在、息子は私と二人だけでアパートに住んでいるので、病気をした時など、病院に通院等、苦労しています。

(男 15 ノ 父)

I-3 ガソリン、灯油の確保

III もう、過去に戻ることはできない。国、東電、はじめ、関係者はそれなりに努力していると思う。ただ、被害者意識で他人の支援を待っているだけでは我々もよくない。一般の住民レベルでも、各自で出来ることを無理せず継続して、福島の復興につなげていくことが必要である。

IX-4 一回り成長した。家事の手伝いやアルバイトへの意欲など、積極性がでてきた。

(男 14 ノ 母)

I-3 地震がいつまで続くのか、放射能の影響がどのくらいなのか、また爆発するのではないか、と予想できないことばかりで、子どもがとても不安になり、混乱していました。どう説明してよいのか、わかりませんでした。

(男 14 ノ 母)

I-3 物理的には、断水中の日常生活、外出時の制限（ガソリン不足）、食料品などの購入にかかる時間（スーパーなどでの行列）。精神的には、放射線の影響、余震・原発事故の深刻化などで避難をしなければならなくなつてもいろいろ困難が予想される、外出があまりできない子どもにストレスがかかってくる、等のいろいろな不安。

III 震災後すぐに、防災ハンドブックを取り出しました。不安でいっぱいだったので、目を通すことで、少し落ち着くことができました。今ここで自分にできることをまずやっていこうという気持ちになりました。今回、私たち家族は、全員無事、自宅に過ごすことができましたが、今後、親亡き後の息子の将来をもっと真剣に具体的に考えて行動に移していくかなければという思いを、震災を機に強くしました。

(女 13 ノ 母)

I-3 一人で居ることができなくなった。自宅で一人でいることができなくなり、トイレに一人で行くことができなくなった。

III 自宅で一人でいることができないため、仕事をしている間、実家の祖母に預けている。他人といふことができないため、他人の支援を受けることができない。他人と接することができないことから、病院での検査、診断が受けられないため、自閉症と医者から言わわれてはいるが、本人にどのような支援ができるのかわからない状態である。本人がパニックを起こさないように配慮しているだけである。

IX-3 他人と会話をしない。中学校へ行くことができない。

IX-4 テレビで地震などのこわい番組は「疲れなくなるので消して」と言う。現在も言う。

(男 14 ノ 母)

I-3 自閉症なので、人がたくさんいるところへの避難ができないので、場所を探すのが大変でした。

(男 15 ノ 母)

I-3 断水が一週間つづき、給水車がきても、並んで順番を待つことが苦手な子どもを連れて行けない。

III 福島県は放射能の問題があり、子どもたちの屋外活動が制限され、親も心配で外での活動を自粛しています。夏休みなど全国の自治体から子どもたちの受け入れがありました。障がい児に対して配慮してくださるところは少なく、結局、障がい児はどこにも行けず、自宅で過ごすしかないという現状です。

IX-4 「地震」や「津波」の言葉にとても敏感になり、テレビなどで出てくると、何度も同じことを聞いてくる。

(男 14 ／母)

- I-3 電気、ガソリン、食料品などの不足（1週間）。本人は落ち着いて、水、食料を購入するのに長時間並んでくれました。
- IX-3 こだわりが強くなっている。

(男 15 ／母)

- I-3 子どもが体調を崩したこと。
- III 緊急時準備避難区域が解除されたので、家へ帰ってきましたが、線量計がなかなか手に入らず、2～3週間経って、やっと手に入り、家の庭を計ったところ、1.1マイクロシーベルトあり、家の中も0.6マイクロシーベルトあるので驚き、子どもがいますので、とりあえず祖父母の家に行きました。祖父母の家も同じ区の中にありますが、自宅より少ないからです。それでも、庭は0.7マイクロシーベルトあり、中も0.3～0.4あり困っています。子どもは、仮設アパートは苦しいと言うので、戸建ての貸家を探していますが、なかなか見つからず悩んでいます。
- IX-3 つばが口の中にたまつたままになることです。
- IX-4 突然の来客などがあると、押入れなどに入って、しばらく出てこないです。

(男 16 ／記入なし)

- I-3 ガソリンが手に入らなかった

高等学校

(男 19 ／父母)

- I-3 断水

(男 17 ／母)

- I-3 ガソリンが手に入らなかったこと。携帯電話が使えなかったこと。
- III 学校その他において、自閉症を本当に理解してくれる人が少ないと。

(男 16 ／母)

- I-3 停電になって風呂を沸かせず、入浴できないことで、パニックになった。懐中電灯で夕食をして、多少混乱させた。別宅の祖父母が避難していて11日同居、通常と違うことで、混乱、徹夜をしたり、興奮、自傷行為で爪を剥がした。養護学校が長期休業になり、ずっと自宅に居て、時間をもてあまし、落ち着かなくなってしまった。失禁が出現、長引いた。
- III 家の倒壊等で、家にいられない時、安心して避難できるところを確保、認識できていると安心です。かかりつけの病院が遠いので、近くで手に入れられると安心（今回、近くの薬局、何件も問い合わせましたが扱っている所がなかった。）。福祉コーディネーターの訪問があれば、いろいろ相談ができるありがたいと感じました（電話）もしばらく不通だったので、こちらから連絡できず）。

(男 18 ／母)

- I-3 停電2日間。食料、ガソリンが買えない。

(男 不詳 ／母)

- I-3 地震、原発事故により、学校の休校が続き、始まる日が決まらず、見通しが持てないことが不安で、本人に説明するのが大変だった。いつも買い物に行っていたお店も閉まったままで、いつから行けるのかわからないことを、わかつてもらえるのが大変だった。原発事故で外出を控えなければならないことを説明するのが大変だった。

III 特別支援学校に通っていますが、学校が避難所として使用されていましたり、始業の見通しがたたず、本人は混乱していました。もっと学校からまめに連絡をしていただき、先生から説明をしてほしかった。休みの間、何のフォローもなかつたので、残念だった。今回は、自宅で過ごすことができたが、避難しなければならなくなつた時のことを考えると、とても不安です。体育館のような避難所では過ごせないので、障害のある人のための避難所は必要だと思います。

IX-4 地震に敏感になった

(男 17 ノ 母)

I-3 障害者本人の生活。本人中心の生活になってしまい、下の子に怒られた。辛い思いをさせた。

III 震災の後、学校も日中一時支援もしばらく休みになり、先の見通しがなく、本人が別人のように、暴力的になった。実家に避難させてもらったが、家が壊れるくらい暴れ、とても不安定になった。実家の母のことを殴ったりもした。外が好きな子だったので、福島県に戻ってからも、散歩できず（放射能）、非常にこまった。今でも困っている。

IX-3 儀式行動が多く、長時間続く。

IX-4 他傷行為が増えた

(男 16 ノ 母)

I-3 家族バラバラだったところに、地震がきてしまったので、それぞれに連絡がとれず、安否確認がとれなかった。障害がある息子が、人にヘルプを出すことができないので、一番心配であった。ああゆう時は、みなそれぞれ、自分のことでいっぱいなので、声をかけてくれる人もいなく心細かったと思う。

III 高2の息子（自閉症）と小3の娘がいます。小3の娘のことを思うと、少しでも施設から離れ、休みの日はできるだけ、遠くへ行き外で遊ばせたりしています。しかし、それに対し高2の息子は、毎日それに付き合うのが苦痛でしかたありません。しかし、地震後は、一人で留守番することもできなくなり、仕方なくつきあってくれています。しかし、そのストレスがたまってきていています。どこかに避難したくても、息子の通う養護学校あるか、下の子の学校は近くにあるが、二人の学校を連れて条件の合う場所があるか・・・etc・・・悩みはつきません。それに加え、悩んでいるうちに、自主避難の支援も打ち切りだとか？すべてにおいて福島は捨てられた感じがします。

IX-3 こだわりのため、妹とのケンカが多くなった。つい私もイライラして怒ってしまうことが増えた。

IX-4 一人で留守番ができなくなったため、私が仕事を止めなくてはいけなくなった。

(女 17 ノ 母)

I-3 地震により落ち着きがなくなったこともあり、目を離せない日々が続いたとき、原発事故が起こりました。家族で何度も話し合いをして、結局、一時避難をきめましたが、情報が曖昧で、本当に不安な日々でした。娘を抱えながらの、この毎日、放射線におびえながらの毎日、悩みながら過ごしています。

III まだ私たちの中では、大地震は終っていない気持ちでいます。源発事故後、結局、自宅へ戻りましたが、事故後も情報が本当にはつきりせず、国の対応もはっきり言って失望することが多かったです。一番やりきれないのは、後になって、「実はこうでした・・・」という話ばかりで、もう信用できないことばかりで、不安でした。正直、現在もこれからも、何か大事なことを隠されているようで、不安です。娘をこのままここで育てていいのか、今から移転を考えた方がいいのか、悩んでいます。でも、こんなにもろい不安定な原発というものに頼り切っていた私たち。安全神話を信じきっていた私たちは、やっぱり、オメデタイのかも知れません。

(女 15 ノ 父)

- I-3 放射能の問題。この先いつまで続くのか?
III 原発事故で福島県全体が影響があるかのように思われている。
IX-3 言葉に出して、自らの気持ちを伝えられない。

(男 16 ノ 母)

- I-3 水とガソリンがなかったこと
III 今、高等部の2年生です。卒業後の進路についてが、やはり心配です。長期の休みを利用して、作業所の実習をさせてもらっています。

(男 18 ノ 母)

- I-3 余震が続き、少しパニックになった。
III 地震の大きさにも驚いたのですが、それ以上に、原発の事故により、今まで見慣れていた景色、自宅の周り、庭までも、違ってしまったような気持ちになり、本人はもとより、親である私の方が、不安な態度をとってしまって、子どもに対して申し訳なかったと反省しています。国や県は、当然のことながら、東京電力も障害のある人に対してもう少し温かい対応をしてもらいたかった。国が何もしてくれない・・・というより、できない（野党も含めて）ことがよくわかって、改めてがっかりしています。

(男 16 ノ 母)

- I-3 幸いライフラインの災害はなく、助かりましたが、子どもの日課（こだわり）のためのドライブ用にガソリン調達に苦しました。2台徹夜して並び、翌朝1000円分でした。
III 高2の自閉症ですので、進路に不安があります。今年5月下旬から9月末まで、府中市の小児医療センターへ治療入院させ、突発性衝動性をなくしたくて、最後の望みかけとしましたが、やはり薬ではなく、環境作りが一番必要であったことを再確認し、現在は18歳前なので、要援護の制度を利用し、成人施設入所の準備を始めています。しかし、施設は待機者が多いのが当然で、今の子どもの状況を考えると、治療入院（県内）させながら、本人の楽な環境を見つけてあげたく、施設を作らない方針、福祉職員の不足を早急に検討していただきたいです。
IX-4 一人にしておけない突発性衝動性より、そのため成人施設の職員人数では見守りしてもらえない。これまで、3度、夜、施設より脱走しており、いずれも無事で助かっています。

(男 18 ノ 母)

- I-3 先の見通しが立たないと、とても不安になる子です。でもいつまで余震が続くかとか、家にはいつ戻れるか、など、親も見当がつかないことばかりで、本人の質問に答えてあげられなかった。しつこく聞かれると、こちらも余裕がないので、怒ってしまう。とても不安だったろうと、申しわけなく思っています。

(男 18 ノ 母)

- I-3 ガソリンがなくなりそうになり、車で出かけられなくなりそうだった。朝早くスタンドに並び給油した。近くにスーパーがないので、車にガソリンがなくなりそうになった時、食料品を買いに行けるか不安になった。
III 子どもが大人になった時、原発事故による人体への影響が心配です。
IX-4 動作が止まって、時間通りに動けなくなること。

(男 17 ノ 母)

- I-3 原発事故のため、本当にとるものもとりあえずの避難でした。当然、避難となれば、集団行動です。大勢の人の中で、こだわり、聴覚過敏等がある息子が過ごせるかどうかが、不安で仕方ありませんでした（これは現在も続いています）。当然のことながら、人ごみを避け、車の中で過ごすことが多く、3月の寒い時期、本当に大変でした。

- III あまりにも突然で、現在もまだ現実を受け入れられず、毎日を必死に生活しています。発達障害があっても、息子には明るい未来があると信じてきましたが、正直、今は、将来が見えず、暗い気持ちです。長男はアスペルガーの特徴が強く、「数学」の能力が高く、高校もその成績が認められ推薦で入学することができました。しかし、この震災で転校し、現在は通信制に通っています。本人が何よりも好きだった『数学』の能力を伸ばすことができず、残念です。そのため、進学については非常に困った状態です。しかし、本人は「数学」の能力が自信にもなっていた反面、プレッシャーでもあったようで、親や先生の期待が重かったようです。今はマイペースで学習することができて、楽な様子です。そのため、落ち着いているのでと感じます。なお、現在も通院は続けていて、この非常事態にも主治医からのアドバイスがあり、助かりました。
- IX-3 表面的には、困っていることは無いように感じます。ただ、内面的なところはわからない状態です。
- IX-4 環境の変化を一番嫌うはずの長男でしたが、避難所でも、特に不満を訴えることも、パニックになることもなく、現在に至っています。それなりの状況に馴染んでいる様子に驚いています。また、自分なりに、一日のスケジュールに忠実に行動しています。まだまだ収束のめどがつかない原発事故。これからも先の見えない生活が続きます。長男もこれからどのように成長していくのか、見守っていきたいと思います。

(男 18 ノ 母)

- I -3 余震が1日に何度もあり、疲れなかつたり、原発事故で外に出られない日が続き、不規則な生活が続き、本人（息子）は大きな声を出したり、奇声を発したりして、いました。幸いなことに、自宅で生活することができたので、良かったですが、「避難をしなければならなくなったらどうしよう」と主人と心配でした。本人はじつとしていることが出来ず、いつもウロウロ歩いたり、体をゆすったり、大きな声を突然出したり、問題行動が多いので、他の人と一緒の場所にはいられない。テントでも借りて生活するしかないのではないか、と考えていました。ガソリンは無い、日用品も、食料も無い、親類にカップめん送ってと頼んでも宅配が福島には行かないで送れないと言われ・・・。
- III 3. 11のようなことは、生きているうちにはないと思います・・・思いたいですが。あのようなときに、うちの息子のように問題行動の多い人が、生活する場があると良いと思います。じつとしていられない、ウロウロする、大きな声を出す。今回の震災のようなことがあると、生活が不規則になり（体を動かせない、運動できないことも加わり）、夜、寝ないので、他の人たちと一緒に生活するなど、とてもできません。迷惑はかけるし、他の人たちから白い目で見られるでしょう。買い物にしても、水の確保にしても、ガソリン、灯油を買うために並んでにしても、とても大変です。普通の他の人たちも大変なのですから、皆さんはきちんと列に並んでいても息子はウロウロするので、列に並ぶのも大変です。
※このアンケートがもっと早くきていたら、もっときちんとしたことが書けたかな？と思います。

(男 16 ノ 母)

- I -3 電話が通じなかつたこと。交通の渋滞で、帰宅に6時間近くかかったこと。いつ余震で崩れるかわからない自宅で、3ヶ月生活しなければならなかつたこと。
- III 子どもの遊び仲間が不足していること。成長するにしたがって行き場を失っていくことへのくやしさ。子どものやりたい、したいが、実現にくくなつていていること。大衆レベルでの理解不足。
- IX-3 自分の思いや気持ちが相手に伝わらないので、どうしてよいのかわからなくなつて苛立つてしまうこと。

IX-4 自分の気持ちを出来る限り相手に理解させようと非常に努力していることが、こちらに伝わるようになった。それがうまくいかないと、上記のようなことが起きるが、震災時にどうしなければ、どうなってしまうのか、何をしてもらうには、どうしなければならないのかを学んだのではないか。震災があって、突然それが出てきたのではないかと思うが。

在宅

(男 23 ノ 母)

I-3 当たり前の日常生活が送れない。入浴や休日の行き場、日中の活動内容がいつもと違う。

III 安心できる居場所と、本人が集中できる作業等のすることがあるということが、どんなときにも必要と感じた。非日常はいらないと思った。

(男 28 ノ 母)

I-3 震災以前に父親が亡くなり、この先の不安。

III 実際よりも見かけの（言葉、知識など）方が高く見えるので、逆に周囲からきちんと理解されにくい面があり、これからどうしたらいいのか、どう動いたらいいのか？主人が亡くなつてもう少しで1年。自分のことも少しずつ考えなくてはいけないし、不安、心配、私自身、息子のことでカウンセリングを受けていますけれども、落ち込んでいるわけにはいかないので、今出来ることをしています。

IX-3 就労は難しく、デイケアは内容によって行く。週3～4日はいってほしいのに、週1～2日だけ。

(女 7 ノ その他)

III 放射能の関係で、父親と家族がはならばなれに生活していますので、一日も早く放射能の少なくなることを望みます。

(男 40 ノ 母)

I-3 買い物に行っても、行列、水汲みに行っても行列なので、待つことの苦手な息子は難しかった。一人で留守番する事も心配で、できませんでした。

III 私の住んでいる郡山は被害が少なかった？ようですが、これ以上だと、ゾッとした。避難所での生活は絶対難しいと思います。ラジオではいろんな情報が流れていたのでホッとすることもありました。

IX-4 2週間くらいは落ち着いて生活できた。少し過ぎてから、原因がわからないが、落ち着かないときがあった。

一般就労

(男 36 ノ 母)

I-3 アルバイト先が休業となつたこと。その後、土曜日が休みになつたこと（本人のみ）。逆に片づけ等協力してくれました。

(男 19 ノ 母)

I-3 水が止まつたこと。ガソリンが手に入らなかつたこと（要介護の母を介護するために、とても困つた）

III 直接の被害は少なかつたですが、今後の地域の状況が見えない（国や行政）。方向性が見えず、ここ福島市は本当は避難が必要だったのではないかと思う。食べへの不安、自分で判断できない子の健康への不安はあります。将来への不安があります。震災、原発事故への公的資金投入のため、税金、年金、医療費等で生活費が圧迫されそうで、この先、子供たちの将来の生活が心配です。福祉の予算も縮小されるようですし・・・。このような災害時のこの子と会社でのマニュアル、サポートセンターと本人のマニュアル等がなく、全て家族が動かないと本人の安全、行動が滞ります。親がいないとどうなる？とつくづく思つてしましました。

IX-4 地震が起きるとすばやく安全な場所へ移動する（敏感になつた）

(男 28 ／父母)

- I-3 家が流失、全壊し、世帯が3分割になったので、周りに大変気を使ってくれました。
- III 震災前に比べて、パニックを起こす回数が増えた。最近は少し落ち着いてきたようだ。
- IX-3 散歩してきた時に、どこに行ってきたか？など問いただすとパニック。食事の量が十分か？と聞くとパニック。小さなことでパニック。
- IX-4 仕事内容が変化してきているので、1日の流れがパターン化して、夜遅くに2時間も入浴することもあります。アパートなので、パニックを起こすと大騒ぎ。祖母にも言葉でつらく当たる。

(男 36 ／父)

- I-3 家の修理。生活の物資不足（水、食料、灯油）。

(男 30 ／父)

- I-3 電気、水道等のインフラがすべて止まったこと。
- III 障害者への理解と配慮

(男 37 ／母)

- I-3 生活サイクルが変わったことでの心のケア（移動のための車のガソリンが手に入らなかった。原発事故もあり、家に缶詰め状態だった。）。
- III 県外の自閉症会員の方より、安否確認をいただいてうれしかったです。息子がストレスがたまり、パニック状態だったので、お電話いただいたことで、息子も安心した様子で助かりました。
- IX-3 こだわり
- IX-4 毎日ウォーキングをしていたが、原発事故後、外に出なくなつたため、ウォーキングに出かけなくなつた。

(男 21 ／母)

- I-3 本人が、地震に対し敏感になり、一人でいることができなくなつた。店等が開いておらず、本人が希望する物や、活動ができなかつた。ガソリンが無く、買い物に行くことができなかつた。
- III 放射能の正確な情報が入つてこないことに怒りを感じる。行政の対応遅れ、判断の甘さが目立つ。子どもが勤務している会社の仕事が減り、給料、待遇が変わつた。他の職場の検討もしている。

福祉的就労

(男 30 ／母)

- I-3 てんかんの薬がなかつた。薬局、かかりつけ医院が休診したため。
- III 福島県では、福祉避難所がなく、多くの自閉症の方が、居られないことを聞きました。特にショートステイのある施設にも入れなかつたと聞いています。物資（特にガソリン）が入らなく、作業所が休みの所がほとんどで、在宅している方が多かったです。

(男 36 ／母)

- I-3 買出しに時間がかかつたり、物によっては品物が少なかつた。
- III 物事へのこだわりが強く出てきて、人の注意は聞き入れてくれず、よくパニックがあり、もう少し落ち着ければ親たちも年老いてくるので、接しやすくなるのではと思います。
- IX-4 部屋の電気が止まり、3日間掃除ができず、客間だけ何とか過ごせたので、皆でコタツのまわりに寝たら、すっかり身についてしまい、今は自分の部屋にやっと床を敷いて寝ることができましたが、すぐ身についたことに対しては、なかなか取れなくて困ります。

(女 24 ／母)

I-3 家族との連絡がとれなかつたこと

(男 25 ／母)

I-3 断水してしまい（1週間）何もできなくて、水を並んでもらいに行つたこと。スーパーに食べ物がなくなってしまったこと。幸い家に食べる物があつたので良かったです。

III 今回は家も大丈夫でしたので、避難することはなかつたのですが、自閉症の子供が避難所で過ごせないと思います。福祉関係の避難所が必要かと思います。

IX-3 父親を叩いたり蹴ったりすること。格闘になつてしまふ。

(男 29 ／母)

I-3 自宅で過ごせたので、普通の生活ができました。

III 今は何とか落ち着いた生活ができていますが、これから親の亡き後、生活をしていく施設があればいいと思っています。

(男 34 ／父)

I-3 障害を持つ本人にライフライン（電気、水道、ガスなど）の使えないことを納得させること。

III 被災してライフラインが止まっているときに、水を求めて列に並んだ場合、当人が不安になるので、列に残してトイレに行けないことなど。後ろの人々が、場所を確保してくれることで、列を離れられた。

(男 23 ／母)

I-3 ガソリン不足や物資（食材）不足のため、日中活動利用施設が休みとなり、家で過ごす時間が多くなったこと。灯油も不足になり、お風呂を1日おきにすることを納得させるのに、時間がかかりました。

III 幸い、地震や津波・原発の影響が少ない地域に住んでいたため、生活に困ることはありませんでしたが、もし、住居に被害がでて避難しなければならなくなつた時のことを考えるとぞつとします。障害の理解がないと避難所も難しいだろうし、何しろ、本人が環境の変化をどう受け入れてくれるのか心配でした。

(男 22 ／母)

I-3 水が出なかつたこと。通所施設も休みとなり、テレビも同じ場面で、本人が落ちつかなかつたこと。

III 親なき後の本人の生活が心配です。自閉症に理解のある入所施設は必要なのに、何でも地域へと考えた国の政策が不満です。老人には老人ホームを作るのに、障害者には障害者ホームを作らない、親にばかり負担をかけようとしていること。原発事故も心配。

(男 21 ／母)

I-3 水が1週間くらい出なくて、飲み水はペットボトルを7箱ほど買い置きしてあつたので、それでご飯を炊いて、皿に袋をかぶせて、使つたら捨てる。割り箸や紙コップもたくさん用意してあつたので、それですませましたが、トイレの水はお風呂の残り湯をバケツで大のときだけ流すようにして、入浴は我慢して、3日目に温泉にいきました。並んで入つても、お湯も出なくて、ガソリンも心配で遠出もできず、我慢あるのみでした。

IX-4 地震のときは、父が入院中で、病院がこわれて退院しましたが、毎日通院になり、私も働いてながら送迎したり、そのうちまた入院になり、細かくかまつてあげることができませんでした。夜に備えて、私と子供4人は、1階に皆でかたまつて2か月くらい寝ていました。いざという時に、起きれるように支度をしたり、ペットボトルや紙コップ以外にもトイレットペーパー類、袋、レトルト食品、カセットガス、電池、ろうそく等、余分にないと嫌で、ガソリンも地震の後すぐに入れに行つたのでどうにか間に合いました。

(女 29 ノ 母)

I-3 作業所が休みになったこと。テレビ番組がなかったこと。

(男 24 ノ 母)

I-3 震災当日、本人が通う施設まで迎えに行くことが、通行止め、迂回、渋滞、停電、信号の消えた道路。つながらない携帯、本人の居場所を知るためのナビが、一番使いたいときに使えないこと等で、本当に大変でした。

III テレビのこだわりがひどく、震災で臨時、緊急の番組が増えたこと。新聞の番組通りに期待した番組が放映されないこと。デジタル化で、「アナログ放送がしゅうりょうします」のテロップが、現在住んでいる地域は3月までテレビの画面に流れづけていることなど、変更が多すぎて、とても混乱している様子です。デジタル化されたテレビからは、多すぎる情報が深夜にもかかわらず流れ続けていて、安心して眠ることもママならない様子。何が良いのか悪いのかと、テレビ放送に困惑しています。

(女 19 ノ 母)

I-3 電気、水道が止まること。食料、ガソリンが手に入らなかつたこと。

IX-4 震災後しばらくは余震のたびに、玄関に向かっていつでも外に出られるように行くのが、習慣になった。それほどこわがらないので助かるが、反面、理解できないのか・・・との思いもあり、親としては少々複雑。

(男 42 ノ 母)

I-3 授産施設が始まるまで行く場所がなかつた。

III 授産所も休みとなり、毎日行くところもなく、うろうろ自転車で行ったきり帰つてこない。デパートやマーケットでなく、障害者が小一時間でも安心して過ごせる所があればよいと思います（休日に）。

(男 20 ノ 母)

I-3 食品、ガソリンがなくて大変だった

III 災害後、時間がたち、現在は原発の今後の状況がとても気になり不安です。また、私たちよりも苦労している方もいると思うと心が痛みます。

(男 24 ノ 母)

I-3 物資がない、水が1か月以上でなかつたこと。

III 不安を早く取り除いてほしい（原発）。

IX-3 水が無い。施設がずっと休んだこと、避難したこと等、毎日おしゃべりが多くなってきました。

IX-4 家の中にいる時間が長くあり、やることが無く、マスタベーションが多々あり、変なクセを覚えてしました。

(女 20 ノ 母)

I-3 下の子と連絡がなかなかとれず、車で迎えに行くこともままならず、最終的には本人が歩いて夜9時過ぎに帰宅してきたときは心配しました。断水が続き、水を並んでもらって来ることや、店が閉っていて、家に食糧もなく、ガソリンもないでの、遠くに買い物に行くこともできず、家族で少しづつ食べていました。友人が米を持ってくれたときは、家中で喜びました。

III 本人はまったく言葉を話さないので、呼びかけに返事をすることもできないので、一人になることはないのですが、災害時、近くに皆ないてくれて良かったと思います。

(男 39 ノ母)

- I-3 電話が通じなく、地震の中、職場へ迎えに行くのは不安でした。家が半壊になりました、工事が5月～8月までかかりました。まだ、来年工事予定です。おばちゃん、私と体調を崩したこと。水道管がこわれて、水なしになったとき心理的にダメージを受けた。放射能もれで心配し、ストレスとなつた。子どもの職場が再開まで、1か月休みになり、行く場所にいかけず、家で寝て過ごしていること。さびしかったです。辛かったです。
- III 祖母が76歳で、私がみているので、気遣いがあり、疲れる。子どもをいろいろ連れて行きたくとも、祖母を置いていかけず、思うように行動できないこともあります、子どもにも我慢させることあり・・・。家が壊れて工事も大変でした。疲れて医者にかかりてしましました。職場の方に面倒見てもらい、今は生活リズムができる、助かり、感謝している毎日です。
- IX-3 仕事から帰ってすぐに室にはいらず、立ち止まり（玄関）、夕食も早く食べずに、風呂も早く入らず、布団に入る時間も早く入らず（自分で決めた時間があるのかも？）、遅くてこまる私たちです。朝も起きてくるのが遅く、起きてこだわりをおわると、次々と早めにやるのですが・・・。怒らずに様子を見て、流れに（本人の）している現在です。
- IX-4 休日にウォーキングをしていましたが、原発のため歩かなかったので、運動不足。”地震こない”とか、”来年くる”とか、言葉に出して連発するので、よく言って聞かせる。

(男 24 ノ母)

- I-3 3週間に及ぶ断水。そのため、給水制限（3月15日時、1人当たり5リットルだけでした。その時並んだ人々、前に100人、後ろに100人いて、毎日のことでヘトヘト）、入浴できなかつたこと。ガソリンスタンドの閉鎖（3月）20日頃、やっと供給との報道がラジオから得られて、早朝6時頃から並んだものの、4時間後、1台当たり20リットルでした）。スーパー・マーケットの食品不足（3月20日時、やっと2店舗のみ開店。早朝6時から並んだが、長い行列で、10時開店したが、1人20点のみとの制限。ガスの供給も止まっていたので、火を使わない食材に集中、カップラーメン、パン、惣菜加工品、ハムなど、瞬く間に売り切れてしまいました。）。屋内退避、ガソリン不足で仕事にも行けず、原発の不安も在り、特に3週間の間は世の中から取り残された感じで心細く不安も大きかつたと思います。
- III 被災者という立場になったのは、生まれて初めてです。それくらい「いわき市」は、暮らしやすい地域でした。したがって備えの甘さがありました。人の優しさ、勇気、絆の強さ・・・に感動することが多かったです。障がい者を安心して預けられる場所や人がいたなら・・・。爆発の危険があった時、余震がひどかったとき、大きな不安がありましたが、家から離れることは、できませんでした。集団行動生活は無理だからです。本人は「揺れ」に非常に敏感になりました。毎日情報チェックし、地震があると落ち着かなくなり、苛立ちます。PTSD。もう大きな地震はこないのか、と何度も尋ねます。また大地震が来たら、パニック間違いなしです。
- IX-3 いつ起こるとも知れない地震という恐怖体験に遭遇。そのことにより、断水、停電、食品不足、ガソリン不足、屋内避難など、の状況を体験してしまったので、これまでにない不安感をもつてしまつたことです。増幅させ不安になると、言葉使いが荒くなり、物に当たったりすることもあり、不安になります。
- IX-4 これまでの被害データをインターネット上で検索し、保存に余念がない感じで、特に雷音を何度も何度も繰り返し聞いたりしています。余計に不安になると思うのに、どうして怖い場面を見るのか不思議です。興奮しながら見ているので・・・。このような状態は悪いだろうなと心配になります。パソコン大好きなので、次から次へと見つけては興奮し、離れません。

(男 25 ノ母)

- I-3 断水、ガソリンの不足、物資不足。作業所が休みだったので、生活のリズムがとれず、ストレスがたまっていた（本人）。

(女 19 ノ 母)

- I-3 自宅に被害がなかったため、思ったより本人の混乱もなく過ごしました。万が一、自宅が住めない状況だったと思うと、ぞっとなります。電気があったから良かったです。ガソリンがなく買いに行くのに支援がほしかったです。
- III 今回、私たちは、それほどの被害はありませんでしたが、集団で生活する福祉施設は被害にあうと大変だと、つくづく感じました。いつもは理解、支援してくれる方も、自分が大変で余裕がないと、心ない言葉だったり、態度になってしまうのも仕方ないと。親亡き後の生活の形態まで考えさせられました。要望としては、宮城の被害のあった施設のように集団移転しなければならない時に、受け入れ施設を予め自閉症協会の方で事前に全国各地に声をかけていてもらうと、そこまでは、自宅からでも何とかして行きますから・・・。
- IX-3 以前から、自傷、他害に悩んでいます。
- IX-4 一時は混乱もありましたが、思ったより柔軟に、状況に適応できる部分もあり、成長を感じます。ほんの少し、愛着が強くなつたような気がします。

(男 27 ノ 母)

- I-3 災害時、携帯がつながらず、家族3人とまったく連絡がとれませんでした。本人は作業所、母親（私）は買い物中、父親は10キロほど離れたところで仕事をしていました。私が夕方6時頃自宅に戻ると、本人が帰ってきており、一安心、作業所の方に乗せてきてもらったそうです。父親とは、夜、公衆電話から無事の知らせ、夜遅く帰ってきました。停電にはならなかつたが、夜から断水になり20日間くらい不便な生活でした。本人は約1か月くらい作業所が休みだったのですが、落ち着いて行動できました。
- III 私の家は何の被害も無く、家族が無事だったことが、今は幸せに感じております。知り合いの方には津波で家が流され、また、家族を亡くされた方がいました。何と言葉をかけていいのか・・・。4か月過ぎて生活面での不便はありません。まだまだ、原発問題が一番ですが、私の住んでいるところは、比較的数値が低いので、避難もせず、生活できています。本人も震災後は変わりなく元気に作業所に通っています。自閉からの支援物資等、色々とお世話になりました。

(男 23 ノ 母)

- I-3 原発事故後、2週間あまり、家の中に閉じこもるように、生活していたこと。避難したい気持ちもありましたが、父親は会社に休み無く勤務し、母親が一人で息子を連れ公共の乗り物を乗り継いでいくことも大変だと思いました。結果的には避難区域にならなかつたので、助かりましたが・・・。私たち恵まれていました。
- III 今回の震災で、いろいろな物を失つた方々の苦労を考えれば、私たちは本当に幸運でした。当時は原発事故のパニックの中におりましたが、テレビで知る障害者の方々の苦労に比べたら、申し訳ないほどだと思いました。いつもと変わらない日常生活を過ごせることが、子どもには一番の幸せだと思います。原発事故後、近所の方々が避難されました。子どもの楽しみは、プールだけでしたが、何ヶ月もの間、プールが使用できず、4ヶ月ほどして外出支援が受けられるようになりました。ボーリングを試してみたら、結構できたので、ひとつきっかけにはなりました。

(男 21 ノ 母)

- I-3 通所施設が休みになったこと。灯油、食料品などの買い物が困難だったこと。
- III 放射能をなくし、安心して住めるようにしてほしい。福島県から原発をなくしてほしい。
- IX-3 人の変化に特に敏感である。
- IX-4 通所施設に利用者が増え、何かと落ち着かない。

(男 35 ノ 母)

- I-3 地震がいつ起きるかと、常に聞かれ、本人は不安の中にいました。
- III 地震の回数もだいぶ減り、落ち着いてまいりましたが、地震のたびに反応しています。とりあえず、自宅で生活できましたので、皆さんのように環境がかわらず、良かったのかなと思っています。地震直後、ひんぱんに起こるため、3日目くらいから食べては戻していましたので、東京の姉の家に避難しましたが、環境がかわり、そこも落ち着かず、1週間ほどで自宅に戻りました。
- IX-3 ほぼ平常な生活ができます。
- IX-4 地震に対して敏感になっている。「今のは震度いくつ」と聞く。大きい地震時は外に出て行き、テレビで震度を確認してから眠る。

(男 20 ノ 母)

- I-3 1週間ほど水が復旧せず、お風呂に毎日入れなかつたこと。本人（長男）は毎日風呂掃除と入浴が日課だったので、本人が断水を理解できず、当初混乱した。本人が、毎日飲んでいる牛乳が品薄で手に入りにくかつたこと。
- III 直後は大きな余震が続き、自宅（マンション2階）に戻れず、住人は集会ホールに集まっていたが、息子を連れて入ることは出来ず、車内にしばらく過ごしました。情報が入らず、不安な時間でしたが、幸い家族4人は一緒にいたのは何よりでした。障がいのある家族が避難できる避難所（政府が認めた、指定した）の情報があると助かります。また、今回は家族で対応したが、この先、本人だけになったとき（親亡き後）のことを思うと、災害時の支援の充実を願わずにいられません。

(男 31 ノ 母)

- I-3 ライフライン、電気、水道が断たれたこと。ガソリンが無く、移動できなかつた。
- III 当日は電気が止まったため、情報をとるのが、手回し式のラジオをぐるぐると充電を何回もまわし、寒かったので布団に入り聞きました。真っ暗い中、大変なことになったことが分ったけど、次の日、テレビの映像でもっとすごいことだった。幸い私の家は荷物が倒れたりしたが、住むことができ、自閉症の子どもが避難生活をしなくてすんだのが救いです。東京の自閉症協会の方々や、その他の方々から作業所などへ支援物資などをしていただき、とても感謝しています。今は、放射能の影響があり、この先どうなるのか心配です。車のガソリン、灯油は空にならない内に（半分ぐらいにならぬと補充）入れないとダメだと思いました。私たちも断水が続き、余震が続いていたので、1か月位は服をきたまま寝ていました。

(男 19 ノ 母)

- I-3 放射能（原発事故）の情報が少なく、風評被害が大きくなり、福島県に物資が入ってこなくなったこと。水道水を飲むしかないし、逃げるにもガソリンが給油できない。放射能の危険を感じての生活を余儀なくされ、どの説を信じていいのか分らない。
- IX-3 将来もこの地に住んでいられるのか不安になっている。チェルノブイリのようになってしまうのではと、心配している。

(女 28 ノ 母)

- I-3 災害により、ケアホーム、通所施設が利用不可になり、自宅待機になったこと。
- III わが子に関しては、中学卒業後、作業所設立から法人施設へと無我夢中で走ってきました。娘の通所施設を確立し、安定したところで、自立も可能と思い、ケアホーム設立に関わり、入所することができました。家庭で過ごすことも可能な娘ですが、親の会のメンバーの見本になればと、行動した部分もあります。これから親御さんの生活設計の中に、私の行動、娘の生活が組み入れられたらと思います。それが私のお手伝いと思っています。
- IX-3 言葉がないため、思いが通じない。

(男 25 ノ 母)

- I-3 断水。ガソリンがなかなか手に入らなかつたこと。
III 住んでいる家も、通っている施設も被害は比較的少なかつたので、じきに元通りの生活に戻ることができました。当時は少し落ち着かなかつたけど、今は落ち着いて生活することができます。将来、放射能が健康に影響がないか心配です。

(男 26 ノ 母)

- I-3 ガソリンや物が手に入りにくかつたのは、言うまでもありませんが、自閉症の子どもが地震によって、周りの環境の変化にどう対応していいのか分らない状況になり、それをどう支えていいのか、対応できない家族や周りでした。
III 市にたくさんの方が避難されてきてますが、大きな声を時々出す息子のことが理解できずに、やはり苦情がでます。ご近所ではなく、レストランなどですが、本人が行きたくても行けません。

(女 24 ノ 母)

- I-3 原発事故等のため、しばらく自宅から出ることができなかつた。
III 原発事故の情報をどこまで信じられるかわからず、どうしたらよいのか分らなかつた。食材とか、食べさせられるのか、どうなのか?の説明がなかつた。不安から、夜の睡眠不足が続いた。

施設入所

(男 19 ノ 父)

- I-3 子供が施設入所中で、津波で自宅が流出したため、仮説を認識してもらうこと。
III 地元で生活できる環境。作業所、グループホーム。
IX-3 車で音楽を楽しみますが、仮設のために、近くに停車できない。

(男 32 ノ 母)

- I-3 原発事故の状況がよくわからなかつたこと。飲料水がなかつたこと。食料の買出し。
III 避難場所が県外になつてるので、会いに行けなかつたこと。子供がどんな暮らしをしているのか分らなかつたこと。
IX-3 避難所の帰りにあとを追つた(9か月も帰ってきていない)

(男 36 ノ 母)

- I-3 余震が多かつたこと。放射能の不安。断水。ガソリン、灯油の不足。施設までの道路の通行止め(ガケ崩れ)。
III 入所しているので、心配ではあります、安心感はあります。自宅にいたら、停電、断水など、パニックになつたと思います。体育館などで過ごすのは難しいと思います(動き回る、自分の居場所がわからない)。障害者が安心して過ごせる居場所が欲しいです(この地区には、ここというふうに普段からわかつていれば・・・)。
IX-3 停電が理解できない

(女 34 ノ 母)

- I-3 ガソリンがなかつたこと。娘が何を感じているかわからぬこと。
III 震災前日の夕方、具合が悪くなり、通院して自宅にいたので、あまり困つたことはなかつたが、2か月位たち、夜、寝なくなり、生まれて初めててんかんの発作をおこした。その後は一度も無いが、心配はつきない。
IX-3 こだわりは何が本当なのかわからぬ。言葉があるが真意は分らない。

(男 35 ノ 父)

- I-3 上下水道、トイレ、浴室、電話、ガソリン、食料（水は43日でなかつた）。
- III 障害者が行く場所。食料、水、病院。

(女 36 ノ 母)

- I-3 子どもたちと連絡が取れなかつたこと、長女親子は避難が決まらず、1日は車にいて連絡つかず。二女は、一応施設入所だったが、携帯が通じず、お互い連絡つかず。長男は職場として移動して、15日まで、携帯が通じなかつた。
- III 子どもにとって帰れる家がないことです。この子に仮設は少し辛いと思います。隣人への気遣いが一番大変です。普通にカセットがかかって、ビデオも見れるのにそれができない。親も子も町も、すべてが、変わつてしまつて、何をすればいいのだろう？ドライブや旅行でもできれば、お互いに少しあがまぎれるのだろうと思ってもしない親になつてしまつた。私もストレス？うつ？親は失業中です。
- IX-3 地震にはすぐ反応するようす。
- IX-4 月1回は必ず家に帰ることを楽しみにしていましたが、今は、「お家」とは言わなくなりました。自身と津波と原発事故で、家にかえれないというのが分つているようです。8月頃許可をもらって一時帰宅して目に映つた物がショックだったようです。悔しい限りです。この娘は、自分の住む部屋がもうないので、この子に精神的苦痛代は、入金にはならないのです。仮設生活をする親は、もっと辛いのです。この娘に何もしてやれないから。

(男 27 ノ 母)

- I-3 ライフラインが崩れたこと。原発により、先のことが見えず、予定の提示が難しかつたこと。
- III 今後、原発事故の正しい情報がほしい。この先、本人がどのような生活をさせるのが良いかを決めかねてしまう。自宅あるいは、地元に戻つて、体に影響がないのか、生活の基盤がしっかりできるか何もわからない。、
- IX-4 いつも通つていた道、遊びに行つた場所が通れなかつたり、壊れてしまつたり、納得させるために、その場に行き見せて確認させました。それからは、「原発で通れない」「津波でガタガタ壊された」などという言葉で何度も確認を求めます。

(男 7 ノ 母)

- I-3 避難所など逃げ場に障がい児を連れて行くのは難しい。自宅にいるしかなない。携帯がつながらず、安否確認ができなかつた。

その他

(女 5 ノ 母)

- I-3 子供の食べたいものが売つていなかつたことと、ガソリンが全く手に入らなかつたこと。
- III 新聞やテレビで自閉症の子が避難所にいけないことを知り、自分がもしその立場だったらどうしていたんだろう、という不安を覚えました。安心して行ける避難場所がほしいです。

(男 8 ノ 母)

- I-3 偏食が強い子供なので、食べれるものを確保すること
- III 子供が自閉症で、かつ、私も児童デイサービスを運営しています。保護者も子供たちもとても不安定です。「よかれ・・・」と思って行なつてゐるイベントが、逆に「変化への不安」を増長させてゐるよう思ひます。さらに、避難訓練などが強化され（学校）、子供たちはフラッシュバックを起こしてゐます。福祉の立場として、こんなに頑張つてゐるのに、相変わらず福祉へのお給料も低く、スタッフのモチベーションも下がつてゐます。、
- IX-3 おそらく、不安な気持ちを表出できず、体の症状（頭痛）として出ていると思う。さらに、不安定になつてゐるお子さんから他害を受け傷ついてゐる。

IX-4 年度末で担任が代わり、学校の校舎が使えなくなり、児童デイサービスの利用中止となり、日中いつときも使えなくなり変化が大きすぎた。現在は、地元の児童デイサービスを利用できているが、頭痛が週に何度もあり、今月末にCTと脳波をとる予定。

(男 26 ノ 母)

I-3

III 原発事故の影響で、施設が突然休みになったのが困りました。仕方のないこととはいっても、本人には伝わらず、かなり不安になりました。何日たっても行けないことがわかると、昼過ぎまで寝ていることが多くなり、生活のリズムが来るつてしましました。買い物に行っても、いつも買うお菓子がないことにショックを受けていたようです。いろいろな変化にも不安定ななりながらも、何とかできたのも、自宅が無事だったからだと思います。もし、非難しなければならない状況になったらと思うと心配です。

(男 35 ノ 母)

I-3

避難所で、目線が気になり、時々パニック（家に帰りたいと言って）になり、夜通し歩いて、人目を避け車にのったりと、人がいっぱいいるところでは、気疲れし、親戚でも気疲れにも限界で、何度も移動決断しました。

III 今は親切に、家を探していただいたのですが、障害ある私たちには、借り上げ住宅で、隣にも気を使わないのでよいのですが、古い家でトイレも汲み取りで、虫が家の中に入ってくるので、我慢して住んでいます。この先、長く避難生活をしなければいけないと思っています。

IX-4 今は家には帰れないことを説明。一事帰宅をさせ、家に帰るのは困難であることを体験させている。

(男 6 ノ 母)

I-3

普段、母一人で自閉症児2人をみているので、どうやって子供たちを守つたらいいか、体力的にも精神的にもきつかった。主人は、仕事で不在。誰かと一緒にいてほしかった。放射能のせいで、外に出られなかったこと。

III 自閉症児をかかえていると、普通の子供さんのようにはいかないので、自由に出歩くことも出来ず、ただ家にこもるしかなく、孤立してしまい、特に精神面きつかった。ガソリンもなく、買い物も行けず、地域の自閉症協会の方に買い物で助けていただいて、非常に助かった。家族は同じ市内にはいるが、そちらの方にも、避難の人が来ていって、手一杯で、母一人で子供をみなければならず、きつかった。余震が多いときは、夜も眠れず、日中は子供たちの世話を追われ、休まらず、とにかくヘトヘトだった。自閉症児を育てるということは、災害抜きにしても非常に大変なこと。せめて、話を聞いて少しでも一緒にいてくれるサポートがほしかった。自閉症児を理解することは、家族の苦労を理解するということ。平常時でも、このようなサポート、受け入れ可能な施設の充実は必要。

(男 31 ノ 母)

I-3

なすすべのないことを、実感させられました。今まで通っている事業所やケアホームの職員の方が唯一の相談相手なので助かりました。それらの事業所をケアするボランティアや指導者（アドバイザー）がいたらもっと助かったと思います。

III このような状況下の中で、本人にどうやって理解させたらいいのか、地震への恐怖よりも、今の生活・活動のスケジュール等が変わってしまうことが、本人にとっては、不安定さを感じ取ってしまっている。また、このようなときの相談機関が現実には無いに等しい状態なので行政から各事業所を介して、アドバイス相談業務のボランティアを増やしてほしい。こんなとき、すべて事業所職員に丸投げしているのではなく、行政の方からの手助けがあつたらと、切実に感じております。

IX-4 災害自体を理解するのが困難なため、なぜ避難しなければならないのかわからず、混乱したままで、集団行動していた。表面的には、指示に従って無事避難できてはいるが、本人の中では納得いかなかつた様子あり。

(男 19 ノ 母)

- I-3 震災直後は断水。その後は放射能への不安。
- III 特性を理解してもらえる仕事に出会えない（見つからない）。特性とそれによる苛立ちや不平不満、そして不安が、思うようにいかない就活と相まって抜け出せない。気持ちが穏やかになってほしい。病院の予約に1年以上待ちで、療育費が高く負担。
- IX-3 人には求めるが、本人は応えないこと。「お互い様」がないから、生きにくいだろうなと（社会から受け入れてもらえないだろうと）。

(男 34 ノ 母)

- I-3 ガソリンの入手が難しく、外出ができず、家にこもりきりだったこと。
- III このたびの震災でライフラインがストップすることなく（水道は止まりましたが井戸があったため、困りませんでした）、日常生活をすることができたため、本人は安定した生活をしていました。通勤している施設（通所更生施設）が休みとなても、通常とは違うと感じて、おとなしくしていました。テレビを見ていても、同じことの繰り返しであっても、落ち着いた生活をすることができたのはびっくりしました。

(男 33 ノ 母)

- I-3 水道の停止。ガソリン不足で、自動車に乗れなかつた（外出ができなかつた）
- III 放射能の影響（数値が本当はどこまでが安心なのか心配）。本人は身体に異常があったとしても、伝えることができない。

(男 40 ノ 母)

- I-3 断水による生活の不便さ。トイレットペーパーの不足、断水によりトイレ、入浴、食事などが、困難を極めた。災害が理解できなかつたので、独り言が増え騒々しかつた。

(男 21 ノ 母)

- I-3 ガソリンの給油が大変。車での移動が不安だつた（災害直後）。
- III ここ郡山は、公共施設もあちこちで利用できない場所が今も複数あります。道路のあちこちで段差ができたり、ひび割れしたりで、復興はまだまだと思っていますし、一番の災いは、原発事故の放射線問題です。今まで食事は地物野菜をおいしく食べていたのに・・・洗濯物を外に干せない・・・人口の減少・・・私たちはここで生活してこそ、本人が安心、安全で生きていくのですから！避難を余儀なくされている方々は本当に困難の連続だと思います。本当にひどいことです。いま、思うのは、当たり前のことが、当たり前にできる、前と同じような気持ちで生活できるようになりたいですね。本人については、事業所への通所は2週間はお休みになりましたが、その後は、通常の活動で支援していただいています。毎日元気に通所できているのでうれしいです。
- IX-4 本震の後の余震が頻繁で揺れると顔をこわばらせて、固まることもあり、やはり自分を守る行動はできないのを改めて思い知らされました。しかし、幸いなことに現在は以前と同じ生活パターンで過ごせているので、行動、体調ともに安定しています。

(男 40 ノ 母)

- I-3 3月11日当日、施設（通所）にいて、電話不通のため連絡がとれず、状況がわからない。迎えに行くが道路混雑のため、夜7時過ぎになってしまった。本人も我慢の限界だったらしい。

III　　自宅で過ごせたからよかったが、避難所へ行っていたら、長くはいられないかったと思う。周りの雑音で、パニックになったと思う。障害者だけの避難所があつたら安心なのにと、つくづく思いました。薬も、病院が津波で閉鎖になってしまい、関連の病院でもらうことは出来たが、その間、一般病院で処方箋を持参し、処方してもらったが、専門でないそうで、入手できづらいと言われ、親の方が不安になりました。

(男 30 ノ 母)

I-3　　自宅全壊の片付け、取り壊し費用など。余震、原発の不安の中、本人を見守りながらの片付け。手続きは遅く疲れる（避難先から通って）。

III　　自宅の再建が難しい（宅地がつかえない）ので、公営で安い賃貸住宅を建設してほしい。買い物、本人の登園に便利なところd。

IX-3　　常同行動、とびはね、壁を爪でたたく、などで、騒音苦情あり（仮設の壁が薄いため）。楽しそうに飛び、ステップを踏んでいるときには止めづらい。

IX-4　　車中、一泊車庫で3泊したので、あたたかいご飯、お風呂、お布団、e t c..。普通のことが幸せに感じられる、バスに乗っていつも通り登園できることも。

(男 22 ノ 父母)

I-3　　原発事故に対する情報が多くあり、その情報をどこまで信じていいのか、知識がないので、判断に苦しました。生活の激変を本人が理解できないので、両親で彼を守るために何ができるのか、何がベストなのか、選択に苦しみました。

III　　テレビで避難所の様子を見るたびに、息子がそこにいることは100%無理だと痛感いたしました。車の中に居ることになると思いました。今回、親類宅へ避難いたしましたが、彼のこだわりに（音に敏感なこと、人の中にはいられない）等で、日中は車でドライブをしておりました。私たち親も年をとっております。息子の今後がとても気になります。老人介護のようにショートステイ、デイサービスなど、老人介護みなみに質量とも充実することを願っています。現在、週5日通所しています。幸運だったと思っています。

IX-3　　音に敏感で、食器の音、電気製品の音、車の音、人の声、音楽等でパニックを起こすことが多々ある。

(男 30 ノ 母)

I-3　　病院が津波の被害を受けて、2週間、息子に面会できなかったこと。

III　　息子は長期療養型病院に入院しておりました。病院は、津波の被害、原発事故でパニックになり、思うような医療行為ができなくなり、孤立しました。テレビ等で救援など訴え、自衛隊に救出され転院しました。震災から約2週間は家族の面会は、許されず、電話だけの確認で息子の容態がどのようにになっているのか、心配で眠れない日々でした。2週間ぶりに対面できたが、やはり顔色は悪く元気もありませんでした。しかし、病院のスタッフ（避難した人もいて人手不足）もあの状況下で精一杯の手当ではしてくれたと思います。その後、順調に回復していたと思っていたが、容態が急変し、6月に亡くなりました。息子は言葉を発することはできませんでしたので、親の面会が無いところで、どれだけ心細い思いをしたかと思うと涙がこぼれます。震災がなかつたら、もう少し生きていてくれたかも知れません。残念です。

(男 41 ノ 母)

I-3　　断水で、仕事場も自宅も、公会堂に4時間も並んで、マスクもせず、帽子も被らず今思うと情報不足を残念に思う。

III 父親75歳、母親72歳、年老いて、子どもの面倒を見てくれる所を探しております。土地や建物などのハード面よりも、職員やボランティアなどソフト面の充実が望まれます。特に自閉症の子どもは、扱いにくく、面倒をみてくれる施設がありません。どうぞ理解ある、自閉症の専門家（ジョブコーチなど）を育成してください。横浜や仙台は進んでおりますが、福島は遅れているようです。どうぞ、障害者だけでなく、広く一般の人にもご指導ください。

(男 27 ノ母)

I-3 毎日の細かな生活の流れ全てがうまくいかず、不満が爆発したこと。水道が出ない、水が飲めない、入浴できない。停電・・・暗い、ラジオが使えない。通所施設が休み。

III 事故以後、通っている通所施設が通所可能になる10日間は、それは大変でした。子どもはいつもと違った環境でパニックを起こし、大荒れの毎日でした。助けを求めるところも無く、私と二人で、荒れるままに、家の中ではじっと過ごしました。外出できず、買い物、通院、水汲み、灯油買いなど、大変困りました。ここに困っている人がいますという発信を受けて対応してくれる組織があるとよいことを、切実に感じました。パニックを起こすのは環境が変わるとすぐなので、早目の対応がほしいです。

IX-3 自分の思いが通らなかつたり、新しい場面に身をおくと、イライラし、物や人へ攻撃的になる。外出することもできない。

IX-4 父親が震災後、復興の仕事に携わり、単身赴任の状態になり、それに慣れるまで、イライラが続いた。イライラを少なくするため、日課を変更した。

(女 22 ノ母)

I-3 ガソリンの不足、食料の不足、また、地震がいつくるかと、昼夜続きの不安。

III 福島県の南部、白河市に住んでおります。いわき市では0.1、当たり前の放射線量なのに、白河市はいつも0.39~以上と高い日々です。なのに、わざわざ手当金を出さないとのこと、ふざけ過ぎている。せめて、2倍、3倍と手のかかるこの子たちには家族なり本人に出すべきだろう、と思います。

IX-3 前から、昼夜の逆転をたびたび繰り返し、夜一緒に付き合っていると、疲れてしまう。

(男 28 ノ母)

I-3 父親の仕事ができなかった。長い間の室内での生活。断水。

III デイサービス利用できず、母子ともにストレス。ショートステイの難しい状況。

IX-3 時々ふらつきがあり、病院で相談しています。

IX-4 家庭でも、デイサービスでも、寝ているわけでもないのですが、布団へ行くことが多い。

(男 37 ノ母)

I-3 ガソリンがガソリンスタンドになくなり、車で出かけることができなくなりました。そのため、通所施設でも送迎ができなくなり、1週間お休みとなりました。原発の事故により放射能が郡山も高かった（何も知らせがなかったので、わかりませんでした。）ため、タンクローリーや輸送車が福島県には入ってこない状態がつづき、食料品などが品不足になり、食材を手に入れるのに店に朝から1~2時間並んで購入していました。

III 私たちの住んでいるところは、地震は震度6弱という、生まれて初めての長い地震と、放射能の被害にあいまして、夢中で毎日を過ごしておりました。事故当初は、放射能については、何の状況が知らされなくて、うわさで、放射能で窓を開けるな、換気扇をまわすな、洗濯物を外に干すな・・・テレビ等では、直ちに健康に及ぼす害はないというような、長崎大の教授が言われておりましたので、どちらが本当であるか迷うことが続いておりましたが、ここ9か月になって、この頃言われていた大学教授の言っていたのは、何だったのでしょうか。福島県の現在は、大変、お米が、野菜が、果物が、・・・食べてよいと言われ、食料品店で毎日購入して食べていますが、心配が残ります。時々、福島県以外の食料品を購入していますが、全体から言うと3分の1くらいになります。燃料、食材、着る物と今は落ち着いている生活をしておりますが、放射線量とまた原発が爆発するのでは、という心配はあります。12月17日の新聞には、事故収束宣言が出されましたが、私たちは早すぎのではないかと感じています。残っているのは、周りの除染作業です。気の遠くなるようなことが、今後何十年かかるか分らないことが、これから、始まります。

(男 25 ノ 母)

I-3 1か月間も自宅待機と、その後も週5日から週3日の通所変更になり、活動の場が少なくなったことにより、日常生活の変化によって、いろいろな不適切な行動が増えました。

III 避難所に行かず、家出生活できてはいても、自宅待機、通所が週3日になる、ガソリン不足で外出できないなど、日常生活の変化は、本人にとっても、とても不安で居心地の悪いことで、不適切な行動が増えても対応することが出来ず、本当に困ってしまいました。息子が家にいるので、母の行動も限られ、アルバイトもできなくなり、母子でイライラがつわり、ぶつかることも増えました。9か月が経って、やっと通常の週5日の通所となりましたが、震災前には戻りません。地震、原発、水害、いろいろあった一年でしたが、家にいてもこれだけ大変だと、何があっても避難することは絶対避けたいと思いました。

IX-3 家族の行動を確認するのに、何度も部屋をのぞきに行く。服を破る。

不詳

(男 17 ノ 母)

I-3 電話、水道が止まり、寝室が2階で、余震がひどく、茶の間で家族で寝るという生活であり、もし、避難指示が出たら、子供が避難所で集団生活が出来るかどうかが不安だった（震災直後～2週間くらい）。ガソリンが手に入らず、食料や日用品も不足していて、特に子供はこだわりでトイレットペーパーを多く使うので困った。一番というのはなく、全般的に困った。

III 原発の問題が解決しないと、福島県の復興はないと思う。しかし、復興のみに目がいってしまい、経済的な負担も大きいこともあります。弱者に対する支援が後回しになってしまふのが困る。

(男 18 ノ 母)

I-3 被曝を少なくすること

III 除染が進まないこと。家の周り等、自分でできることをやっても、なかなか線量がさがりません。春休み中のため、ほとんど外出しないで過ごしましたが、これから長く続くと思うと不安です。

IX-4 自分の身は自分で守ること。余震があったら、すぐヘルメットをかぶる。比較的放射線量が高いので、必要以外の外出を控える。

(男 16 ノ 母)

I-3 震災直後は、断水、余震、ガソリン、食糧不足、原発事故、ライフラインが寸断され、自閉症の長男を抱えて身動きをとることができず、この先どうなるのか？という精神的な不安が大変でした。

III 震災直後は避難所へ行こうと思ったが、自閉症の息子のことを考えると、本人の負担や他の人の迷惑がかかると思い、無理だとあきらめて。災害時に、自閉症の人や家族が利用できる避難場所と情報発信の拠点があるといいと思う。ちなみに、県の発達障害支援センターは何の機能も果たせませんでした。今住んでいる福島県は原発による放射能汚染が深刻です。夏休みには子供対象の避難ツアーも随分と企画されていましたが、自閉症の人や家族は参加しづらいと思うので、自閉症の人でも安心して参加できるプランがあるといいと思いました。現在、外出も制限されているので、自閉症の人が室内で活動できる場所もほしい。（多くの公共施設は震災後まだ使えない状況なので））

(男 6 / 母)

I-3 放射能汚染で、外に出れなかったことです。4歳と6歳ですが、一番、公園等で遊びたい時期なのに、行動が制限され、ストレスがたまります。（太ってきました）

(男 25 / 母)

I-3 断水。自宅待機による
IX-3 思いが言葉でうまく表現できない

【茨城県】

幼稚園・保育園

(男 6 ／ 母)

- I-3 当事者が幼かった（6歳）ため、状況が理解できず、パニックになった。遊ぶにも放射線の影響やガソリン不足により、車の使用も制限。電灯もテレビもパソコンも使えず。本人のストレスがたまり、かんしゃく、パニックがひどかったです。
- III 東日本大震災で被災された方にお見舞い申し上げます。我が家は家屋の一部破損程度で、避難所に行くこともなくすみ、助かりました。また、日ごろから近所付き合いを密にし、当事者である息子の理解もあったため、災害時もお互い協力体制をとることができたため、助かりました。ただし、もし我が家が被災し避難所となつた場合、やはりいくことをためらうと思います。同じように障害者・児を抱えた家族が避難できる福祉避難所の設置、また本人が安心して生活できる家以外の場の確保が重要だと、今回の震災で実感しました。
- IX-4 断水したため、トイレの小を外でしたことがあり、それが楽しかったのか、普段の生活に戻っても、外（道路、学校でも）で小をしてしまうことが続いている。

(男 7 ／ 母)

- I-3 二人の子供が、二人とも自閉症だったこと！避難所に長男が居られなかつたこと！暗いところを怖がること！水をもらうのに、自閉症の子供を連れてならぶこと（1分と並べない）！決まったものしか食べられない！
- III 行政、周囲が思っているより、実際に障害児のいる家庭は大変だということ！親子での時は死にたくなった！
- IX-4 揺れに敏感で、寝ていても揺れを感じて起きる。揺れると「ジシーン」「ジシーン」と喜んでいる（遊びのようになっている）。

(男 3 ／ 母)

- I-3 多動、指示が通らない、などのために、普段から買い物が困難だが、物資が不足する中で入手するのは、さらに大変だった。
- III 今回、本人は3歳でしたので、状況を飲み込めていないため、何ら、困ったことはありませんでした。震災時、本人は幼稚園の通園バスの車内でした。無事戻れたものの、いろんなことを覚悟して待ちました。たいした被害のない我が家ですらこうなので、被害の多い地域の方は大変だと思います。一番大切なのは、居場所、そう思います。

(男 4 ／ 父)

- I-3 通勤経路が地震により交通止めになったこと。ガソリン不足のため、通勤等が困難になった。
- III 身辺自立の困難（特に排便）。こだわりが強くなってきてていること。奇声をあげること、そして、そのことを周囲から非難されることがあること。療育についての情報不足。家族への支援不足（療育方法の研修ができる機会が少ない）。
- IX-3 身辺自立の困難（特に排便）
- IX-4 本震時は睡眠中だったので、状況の理解不十分だと思われる。余震時にも、怖がる様子は見られない。

(男 6 ／ 母)

- I-3 避難所で過ごすと、皆さんの迷惑になってしまうことがわかっているため（パニックなど）、始めから無理と考え、親戚の家で数時間過ごし、明りも水もない自宅に戻り、子どもを落ち着かせながら、真っ暗な中で過ごしたこと。また、情報が入ってこなかったこと。

- III 今回のような震災などがあった時の発達障がい児を受け入れてくれる避難場所があるととても助かります。また、受け入れてくれる方の障がい者への理解と対応がもっと広く、深いものになっていくことを希望します。
- IX-3 イライラしていて、暴力的になったこと。
- IX-4 「地震でママが死んでしまって、幼稚園に迎えに来たのはママのお化け」と、2~3日思っていた（地震直後）ことなどがあり、何かが動いたり、音がすると、すぐに「お化けだ」と怯えてしまう（ママは生きていると理解するのに3日くらいかかった。）。毎日毎日、「まま、ギューってして」とハグを要求するようになった。

(男 6 / 母)

- I-3 水道、電気などのライフライン復旧に時間がかかったこと。

(男 5 / 母)

- I-3 水道が何日も出なかつたこと。電話がなかなか通じなかつたこと。
- III 自宅が損壊なく生活できたので、ほとんど避難せずに自宅で過ごせたが、避難生活を強いられていたら・・・と考えただけでも、ぞっとなります。自宅で生活していくも、不安定になつてたので、慣れない環境で騒いだり、他の方に迷惑かけただろうなあと・・・。保育園が早くから再開してくれたので、慣れた場所、（とは言つても、違う教室で過ごさねばならなかつたので、本人は大変だったでしょうが）、先生で、まあまあ安心して働くことができました。

小学校

(男 13 / 母)

- I-3 水道、電気が止まつたので、息子が大好きな水遊びもできず、ビデオも見られず、何度も蛇口をひねつたり、テレビのボタンを押していた。納得するまでに時間がかかり、こちらもイライラした。
- III 水戸は、震災後2~3日でライフラインが戻りましたし、家も被災しなかつたんで、居場所はありました。しかし、東北の方のように体育館などに避難しなければならない状況になつたら行きたくない（息子が周りに迷惑をかけるので）、車の中にいるしかないと思つています。周りの無理解も厳しいですが、当事者同士の助け合いの気持ちが薄い水戸の状況も厳しいと思います。

(男 8 / 父)

- I-3 一日中、目を離せない自閉症の長男と、保育所が休業となつた3歳の次男がいるため、私が仕事に行くと、妻はまったく外出や用事を足せなくなり、積極的に情報を得ることができず、孤立感を深めた（日中、給水にも行けなかつた）。
- III 災害・非常時こそ、1~2時間でも良いから、短期レスバイト兼療育サービスをして欲しかつた。小学校も休みで、本人が普段落ち着くための主な手段であったDVD鑑賞、ドライブも停電とガソリン不足で不可能となり、肛門ほじりなどの不適応行動が始まつた（暇をもてあまして始まつたような気がします）。
- IX-3 母の気を引こうとして、いたずらばかりしたこと。
- IX-4 最近ようやく無くなつたが、肛門ほじりをして、大便を持ってきたり、壁にぬりつけるなどの不適応行動が半年続いた。

(女 7 / 母)

- I-3 断水が数日続いたので、トイレに行くことが大変でした。
- III ライフラインが断たれてしまつたら、パニックが増大していたと思う。
- IX-3 余震が続いていた頃、一寸したことで外へ飛び出すことがあり、言い聞かせて落ち着かせるのは大変でした。

IX-4 4月に転校を探していたので、中途半端な学期を迎えることとなり、新学期が心配でした。いつ普通の生活に戻れるのか、本人はもとより家族も見通しが持てなかつたので、パニックが多くなっていました。

(女 12 ／ 母)

I -3 断水による水不足。ガソリン不足。

III 震災直後は、地震、原発事故について詳しい情報が分らなくて不安であった。余震も続き、こわかった。現在は、生活もほぼ元に戻り、大きな不安はない。

(男 12 ／ 母)

I -3 人工透析が必要な家族があり、ライフラインや交通機関網が断たれ、命の危機を感じました。

III 小学校卒業を目前に被災し、ドタバタと落ち着かぬまま中学校情緒級へ入学しました。中学校の様々なハードルの高さに親子ともどもめげているこの頃です。

(男 8 ／ 母)

I -3 断水のため、トイレ、入浴が不自由だった。水を手に入れるため、給水車に並んだこと。

III 当日は地震の揺れに大変怖い思いをしました。幸い、子どもとすぐ合流し、自宅で待機することができました。水道のみ、しばらく止まりましたが、他は、ライフラインも止まらず、水も買い置きや水汲みでやり過ごすことができました。今後、最悪のケースも考慮して、非常食や避難場所のことを考えなければならないと思っています。今は、情報集めしています。

(男 11 ／ 母)

I -3 日中のためバラバラで、なかなか連絡が取れなかつたこと。

III 発達障害も様々です。まさに健常でもなければ障害としての支援も少ないという中途半端な子どもたちは、これからどうすればいいのかと、いつも、いつも、いつも不安です。学校にも居場所がない、社会にも居場所がない、病院では「ひとつの個性と思って」と言われます。けれど、その個性を許される場所など、今の社会の中にはどこにもありません。何人の友の子どもたちが社会に傷つけられて不登校やイジメにあったか・・・発達障害の末路は、これしかないのでしょうか? 災害には関係ありませんが、今一番感じていることです。今回の地震では、私たちの住むところは被害も少なかつたですが、もしももっと大きな被害があった地域に住んでいたなら、息子への影響はもっと大きなものだったのではないかと思います。

(女 9 ／ 父)

I -3 子どもの世話をしなければならなくなつたため、水、食料、ガソリンなどの調達のため、自由に動くことができなかつた。

III 今回の震災では、幸いにも避難せずにすみました。ただし、もしも避難することになつても、実際には自閉症児には避難所での生活は難しいと考えます。今は、災害に備えて、自力で何とかできるように少しづつ防災グッズをそろえています。

(男 8 ／ 母)

I -3 自閉症の息子が停電に怯えていたこと。

III 将来のこと。自立身辺のこと。

中学校

(女 19 ／ 母)

I -3 断水が10日ほど続いたため、水の確保、ガソリンの確保

(男 13 ／母)

- I-3 食糧の確保ができないまま、仕事を続けなければならなかつたことで、子供が空腹ではないかと心痛も重なり、仕事の体力的疲労とでヘトヘトだった。
- III まだまだ一般の方の理解が乏しく、変な目で見られることもありますが、学校などでは先生方が以前に比べて理解してくださるようになり、あとは生徒のみなさんが少しでも理解が深まれば、学校生活が過ごしやすくなると思います。
- IX-3 災害と関係のない対人関係で不登校になること

(男 15 ／父)

- I-3 ライフラインが長時間止まってしまったこと。家族が休校になり、一日中家にいたこと。

(男 16 ／母)

- I-3 電気、水道が使えず大変でした。食料の確保。

(男 不詳 ／母)

- I-3 ガソリン不足。そのまま春休みになり、でも、デイサービスなどの施設も使えなかつたり、夏はプールに入れなかつた。行く所がない。
- III 県立・市立・公立など、色々な施設の復旧工事がなかなか進まず、優先順位もあり、子供の体力発散の場を考えるのが大変。
- IX-3 一言の注意で大荒れになることがある。デイサービスなどの迎えの時間の変更ができない。

(男 15 ／母)

- I-3 断水

- IX-4 地震に敏感になり、どんなに小さな地震でも、反応するようになった。

(男 16 ／母)

- I-3 水が止まってしまったこと（約1週間）。ただし、電気・ガスが使えたので、避難せずに自宅で生活できました。ガソリンがなかなか手に入らなかつたので大変でした。

(男 16 ／母)

- I-3 水、電気、ガソリンが入れられない

- III 小さい女の子等に近づいて仲良くしようとする。

(女 16 ／母)

- I-3 当日の安否確認がとりにくく、迎えにあちこち回って、夜になってしまった。帰宅して最低限の片付けをしてから、やっと子供たちの様子を見ることが可能になったが、気持ちが動転していたので、後から思えば、もっとやるべきことがあったと反省した。子供がいつものテレビ番組が見れないことに文句を言い続けた。

- III 今回の地震では、家の一部が被災しただけですから、避難するほどではなく、それほど大変な思いをしなかつたと思います。しかし、テレビ報道などで、拝見した被災された障害者家族のご苦労は、明日はわが身と心に深くきました。やはり、避難生活をしなくてはならない状況で、自閉の子供たち、大人たちがどれくらいその環境に耐えられるのか、とても不安です。通っている養護学校で障害のある人と家族が避難生活することができれば良いのではないかと感じました。

- IX-3 月に1回の頻度で、興奮、苛立ちがあり、「死んじゅう」「死んじゅう」と死に対する不安を口にする。しかし、これは、災害後はじましたのではなく、祖母やおじの死を真近に体験したせいかと思われる。

(男 14 ／母)

- I-3 震災当日の連絡がとれなかつたこと

- III 本人が落ち着いていられる場所がどうしても必要であることを感じます。
1, 2日なら親も対応可能ですが、1週間以上になると、親の方も参ってしまうので。ライフライン（特に水）の確保も大変でした。
- IX-3 震災のために困った状態にはなってはいません。

(男 15 / 父)

- I-3 通学中で、学校との連絡（電話）がとれず、本人の状況が不明だった。一度、家に入ると地震で外に出なければいけないが、出ようとしない。泣きわめいたが、無理無理連れ出した。避難場所に行こうとせず、自家用車の中で待つしかなかった。
- III 発達障害児者への理解、配慮。本人が安定する場。

(男 15 / 母)

- I-3 震災に関しては、地震の揺れは今まで経験したことのない大きさでしたが、棚の物が落ちた程度で、大きな被害はありませんでした。断水も1日だけで停電もありませんでしたので、その後の生活に大きな変化はありませんでした。

III 当日は中学部の卒業式で式終了後、数家族とファミリーレストランにいました。親子一緒にいたため、安否について心配することはありませんでしたが、改めて、有事の際の対応について明確にしておかなければならぬと痛感しました。一人で外出したときなど、どうすれば良いのか、具体的な内容で、日頃から確認しておきたいと思います。被災地において、被災直後は行政等も混乱していると思うので、被災地以外に相談できる場があるとよいと思います。何か支援できることがないか個人で把握するのは難しいので、ニーズに対する支援のマッチングができるシステムがあるとよいと思います。

(男 14 / 母)

- I-3 水、電気
- III テレビで見られるほどの被害はなく、瓦等の修繕費用が出ないこと。本人はおにぎりが食べられないで、非常時に困ること。

(女 15 / 母)

- I-3 原発（福島第一）事故の影響で、できれば不用の外出は控えるべきときできえ、子どもの退屈を何とかさせねばと（車がないので）仕方なく、街中を歩き回ったりしなければならなかつたこと。子どもはマスクも鼻は外してしまうので、全く意味なしで・・・。それはなんとなく、今も続いています。
- III そんなふうに言って頂くと、もうたくさんあり過ぎて。例えば、娘を産んでから、様々な生きづらさの連続。ほんの一つ。今、特別支援学校高等部に在学中で、また、卒後の進路の話し合いが、学校の先生や施設、作業所の方たちと持たれることがあります。10年ほど前は、就学で（それ以前も幼稚園など様々あった）市の教育委員会の方たちやその担当の役所の係の人びと、それから、背広を着た年配の人たちの集団の中に、私一人のような場面が何度かあり、入学してからも、いろんな困難（私対学校の先生、校長先生のような構図）は日々ありました。高学年になってから、特別支援学校に移りましたが・・・。こういう子を抱えて生きるのは大変で、もう疲れました。歳も歳だし・・・。障害児の親は、交渉ごとが多いので、代理人というか、ケアマネージャーのような役割の人がいるといいかなと思うことも。一人だと大変だと思うことがあります。低学年の間は近隣の普通の小学校に通っていました。特別支援学校の最初の校長先生は良かった。2度目の先生（校長先生）からは、圧力がかかりました。付き添っていましたけども。特殊級の先生も様々です・・・。

IX-3 以前からソファー（ぼろぼろの）にいることが多かったが、今は小3～5年頃のように、写真ののっている情報や広告などを手ではじいたり、ページをぼろぼろになるまでめくっている（ソファーに座って）。外出も減り、退屈をまぎらわす仕方ない状態なのか？本人の部屋や机もない。本人のスペースが居間の片隅になってしまっていることも、この繰り返し行動の因か。音楽は好きで、聴いたり、幼児番組を見たりするが。それから、ここ1年弱、大便をこねたり、身体に擦り付けたりして遊ぶのに閉口しています。始末がとても大変で・・・。

(男 15 ／母)

- I-3 ライフラインの復旧に時間がかかったこと。電気、ガスは5日ほどで復旧しましたが、水道は約2週間かかりました。飲料水の買い置きは多少ありましたが、生活水と6人分を、本人、母、弟の3人で確保するのに苦労しました。通電までは、ラジオの情報だけが頼りでした。私の住む市は、本震が震度6強でしたので、余震も規模の大きいものが何日も続き、特に夜は、子どもたちを両脇に抱き、不安にさせないよう過ごしました（でも、今思えば、子どもたちの底力のおかげで乗りきれたようにも思います。）。
- IX-4 近郊の余暇施設が暫く再開できず、休日の過ごし方が大きく変わりました。現在もランニングコースやプールなど、再開の見込みの立たない施設もあり、苦労しています。

(女 15 ／母)

- I-3 水道が5日間ほど止まってしまったこと。
- III 今年度、高校へ進学したが、将来について不安と感じている（手帳は昨年非該当となり、現在は持っていない）。夫が娘（自閉症）の療育に対して協力的でない。

高等学校

(男 16 ／母)

- I-3 断水
- III 今回の震災は、家族全員で学習できました。そもそも備蓄は整っていた方だと思う。プロパンガス、石油ストーブ、水も一応2箱、があった。Coopの宅配はきちんときた。震災時学校に居た本人を適切に避難させていただいた先生に感謝。余震の中、家に帰り、暗くなる前に割れた食器等の片付け、風呂にいっぱい水を張り、3食の支度、震災の夜に、みそ汁、炊き込みご飯、野菜炒めを作りました。次の日は父親と本人が支所に5時間並び水をゲット。次の日牛乳を求めて3時間スーパーに並び、買えずに、ペットボトルのジュースで我慢。並ぶなんて震災でないと学習できない。それをやれたこと。水は頭数で1人2リットル配給なので、本人が戦力になった。トイレの水はため池で父親と一緒に汲み運びました。観察力に優れている本人もきっと学習したことは忘れないでしょう。こんな大きな震災はもう起きてほしくないけど、本人の生きている間に、また遭遇してしまったら、きっと今回と同じように乗り越えることでしょう。
- IX-4 年齢的な成長なのか？落ち着きが増した。

(男 18 ／母)

- I-3 子供がとても興奮して、はだしで外を駆け回り、地震があるたびに同じ行動をして大変でした。落ち着くのに1か月以上かかりました。今も地震があると興奮します。
- III とても情報の少なさにびっくりです。福祉（市）の方も、あまり積極的でなく、私の方から行かない限り、情報をくれることなく、不満を感じます。
- IX-4 地震があるとおびえてしまう

(男 16 ／母)

- I-3 電気と水がとまったこと
- III いろいろと子供のことが心配で子供より先に死ねない

- IX-3 学校の行事が理解できなくて、不安がる。何十回もろいろ聞いてくる。うちには、約10年間、子供と一緒に何度も避難訓練をしてきたので、子供は落ち着いて、大人の言うことを聞くことができました。防災頭巾をかぶること、缶詰めを食べること等、何年もかけて教えてきました。
- IX-4 地震というものを覚えた。テーブルの下に上手に身を入れることができるようになつた。

(男 17 ／ 母)

- I-3 食料品を購入するためには、店に並ばなければならず、なかなか購入できませんでした。停電のため、本人が不安定でしたが、ロウソクを使っていました。
- III 夫は会社員ですが、震災当日も夜まで会社にいました。真っ暗な中、本人の不安もありましたので、帰宅して助けてほしいという思いも、正直ありました。翌日、近くの公園へトイレ用の水を汲むため水道に並びました。このあたりまでは本人も頑張っていました。家にある食料がなくなってきたころ、マーケットは長い列ができていて、とても並べるような状況ではありませんでした。夜、夫が帰宅した後、コンビニで買えるものを購入しました。本人を連れていかなければならないような時に、少しでも早く店に入れるようご配慮をいただければ、どんなに有難いかと思いながら何も購入できず、そのまま帰ってきました。結局その後、実家へ連絡をして、2時間かけて食料を運んでもらいました。

(男 15 ／ 母)

- I-3 水がしばらく出なかつたので、トイレが流せず、本人がずっと水が出るかどうかを気にして、水道の蛇口をさわっていました。
- III 今回、避難はせずにすんだのですが、やはり他の人と一緒に生活するのは、とても大変だと思います。もう少し発達障害児への理解が広まってくれば、親としては、大変助かるし、嬉しく思います。今度地震があったら・・・と思うと心配です。

(男 18 ／ 母)

- I-3 本人の安否確認が、3時間後だったこと。（災害時、自宅で留守番）
- III ライフラインの復旧の予定がわからず、説明できなかつた。学校は休みでも、仕事が休めなかつたため、一人で留守番させたため福祉サービスを受けていなかつたので、預ける所がなかつた。食料品等、好きなものが手に入らず、いらいらしていた（本人）。余震で不安になり、テレビのニュース映像などでフラッシュバックになり、不安定になつた。
- IX-3 感情の表出が、以前より激しくなつた。
- IX-4 一人で出かけて、買い物をコンビニでするようになった。一人でも、食料調達ができるように、考えて行動できるように話し合つた。

(男 17 ／ 母)

- I-3 学校が休みになつた上、施設（日中支援）利用できず、家に閉じ込めたままでも、本人も落ち着かなかつた。
- III 災害があつて避難しなければならない時、どうしたらよいか、実際に避難された方々の話をテレビ、新聞等できいて、心配しています。車の中で何日も過ごしている・・・普段のわが子の様子から、きっと我が家もそうであろうと思えます。自傷があつたり、大声がでたり・・・普段から、居場所を見つけるのが大変なのに、大きな変化があつたら、本当に大変だと思います。何かあつた時、安心していられる場所を何とか作つてあげたいというのが、一番の要望です。

(男 17 ／ 母)

- I-3 食料の確保に娘とスーパーに並んで買い物。娘は毎日、洋服を着替えて、夜はパジャマに着替えた。水道が4日で復旧したからよかつたが、洗濯物の山になった。これが1週間以上続いたらと思うとぞつとする。

III もし、自宅を離れ避難所生活になったらと思うとぞつとする。きっと、避難所には入れず、車中泊になるのだろう。そのようなことにならないために、福祉避難所があるのなら、知りたい。自宅にいられるのなら、買い物のボランティアがいてくれたらと思う。

(女 16 ／ 母)

I-3 ライフラインの寸断。どんな状況なのかまったくわからない。情報が入ってこない。聞いてもわからない。電機がつかないことで、テレビ、DVDが見られず、パニックするのではと心配でした。とにかく、何でも伝えて、伝えて・・・の連発でした。

III 一番先にどうすればいつののように過ごせるかと思った。障がいのある方だけの部屋などを用意してもらえたから、避難所へ行くこともできたと思う。友人を探しに、避難所へ行ったときに、「我が家は無理」と思い、自宅で過ごすことだけしか考えなかつた。非日常的なことの連続の中、よく耐え、頑張ったと思う。電気がつかない夜、ローソクの火の明かりを「お誕日お目でどう」と消しまくっていたことが、家族の笑いをさそい、緊張がほぐれたひとときでした。本人もいろいろと違うことを察し、いつもよりわがままを言わず、我慢していた様子です。

IX-4 何でも「地震」と言ってくる。ドン！と音がしただけでも。

(男 17 ／ 母)

I-3 水の確保。地震発生から、連絡が取れるまで4時間かかったこと。息子が学校に残っているかどうかの確認が取れなかつたこと。私が迎えに行っていることが伝わっているかの確認がとれなかつたこと。

IX-4 学校からも歩いて帰れるようにと親が迎えにいく道、息子が帰ってくる経路の確認及び取り決め

(男 16 ／ 母)

I-3 ガソリン。本人の薬。買い物（特に本人がいつも飲んでいるジュースが買えなかつたこと）。

III 抗てんかん薬を飲んでるので、薬の不足には不安を感じました。買い物はどこも混んでいて、開店前に並ぶ、レジに並ぶ等、障害児と一緒に行かなければならぬ方は大変だと思いました（うちでは、他の家族が見ていてくれたので大丈夫でしたが）。

(男 16 ／ 母)

III この子がこういう子に生まれたのは、何か意味があるのだと思う。どんな状況にあっても、道は開けると信じている。信じたい。信じるしかない。一番気がかりなのは、親亡き後のこと。住んでいる地域で良好な人間関係を作つておきたい。（震災とあまり関係なく恐縮です）

IX-3 食べた直後に吐くことがある。食べすぎなのだろうか？

(男 17 ／ 母)

I-3 養護学校が長期間休みになり、旅行の予定もキャンセル。普段がんばっている、スイミングやスペシャルオリンピックスの練習も長期再開せず、本人の行き場、活動の場がなくなってしまったこと。大きな災害のときは、障害者のこと、特に余暇活動などは後回しになつてしまふのだとわかつた。しかたのないことだと思うが、本人も家族もつらかった。

III 息子を一生懸命育ててきて、少しづつ社会に出られるように頑張つてきました。ささやかですが、習い事など、余暇活動の場を広げてきましたが、今回の震災で、その活動がほとんどストップしてしまいました。しばらくして、元には戻りましたが、「今まで頑張ってきたのはなんだつたんだろう？」というむなしさを感じ、落ち込みました。被害はほとんどなかつたので、ぜいたくな悩みだと自覚しており、気持ちのぶつけようもありません。「息子とともに頑張っていく」ためのモチベーションがすごく下がり、未だに上がりません。

(男 16 ／ 母)

- I-3 家族にけがもなく、家屋も無事でしたが、停電、断水が続き、学校が休みになり、いつもと違う生活が続くことで、本人のストレスが多くなり、てんかんの発作が起きるのではと、心配だったことが、精神的に大変でした。
- III 今回の震災では、家族がいなくなることはありませんでしたが、もし、家族が死んで、本人一人だけになってしまった時に、本人から助けを呼ぶことは難しいです。そんなときに安否確認をしてくれるシステムが早くできることを要望しています（市へ要望はしています）。

(男 17 ／ 母)

- I-3 被災したとき、本人は学校でした。普段30分で行ける学校まで迎えに行くのに1時間30分かかりました。被災当社はかえって落ち着いていた本人ですが、今でも落ち着かないのは原発問題についてです。テレビや新聞で、原発のことを目にすると、「僕は東伝を信用しない」や「東電はつぶれた方がいいと思う」などと、言い出します。また、津波などの映像を見ると、不安、恐怖が大きいようで、すぐにテレビを消します。「思い出したくもない」と言います。本人の心の傷が大きいことが（今現在では）一番大変です。
- IX-3 原発事故に対する不安があり、ニュース、新聞等で見聞きすると、不安定になります。
- IX-4 災害前はテレビのサザエさんが苦手でしたが、災害直後は気にならなくなりました。どうしてか聞くと、「こんなときだから」と言っていました。他に、苦手だったマクドナルドも平気になりました。ただ、気付かぬうちに幼児番組が苦手になったり、違う苦手を作っていました。

在宅

(女 36 ／ 母)

- I-3 水、電気、ガソリン、乾電池、家の片付け、屋根瓦のシートかけ、家の補修。
- III いやなことは忘れるようにして、前向きに考えたいと思う。いつまで生きられるかわからないので、できるだけ自分の手で面倒を見てやりたいと思う。
- IX-3 災害の前と変わらないので、災害で困っているというわけではない。
- IX-4 入浴中に災害にあったので、それまでは何度も入っていたが、1度になった。

(女 34 ／ 父)

- I-3 薬の確保、通院
- III 本人が非日常に対応できない

(男 37 ／ 母)

- I-3 何度も起きる地震のために、子供がパニックになってしまい、毎日不安な日々でした。
- III 今回は特に困ったことはありませんでしたが、外出が嫌いな子供のため、家を離れなければならぬ状態の時は、どのようにすれば良いのか不安です。
- IX-3 水に対するこだわりが、以前より強くなり、いつまでも手や顔を洗っている。
- IX-4 地震に対する不安が特に強く、少しの揺れに対しても、不安がる。毎日、テレビの地震情報を気にしています。

(男 36 ／ 父)

- I-3 障害を抱えた息子と一緒に住むための終のすみかとして、全財産を注ぎ込んで筑波山ろくに移住しましたが、原発の爆発により、住居を放棄せねばならないかと心配のストレス（父70歳、障害の息子35歳）。約1か月愛知県の親戚に親子3人が身を寄せたが、受け入れの3人が70～90歳の老人であり、気を遣ったこと。親戚の者の負担が大きかった。

III 私たちが居住している所は、津波の心配も無く、地震そのものによる建物の被害は大きくありませんでした。しかしながら、東電福島第一原子力発電所の爆発は厖大な量の放射線物質を筑波の地に撒き散らした。東電、行政の発表は信頼のにおけるものは何一つ無し。若年者に及ぶ放射能の被害は計り知れません。これに対する自己防衛等の実行とストレス（放射能に対する直接的恐怖とそれを起こした企業と官僚供への怒りのストレス・・・やり場の無い）。

（男 26 ／ 母）

- I-3 電話が通じなくて、安否がわからない。
III 近くに病院があると助かる。本人のために合う支援がない。

（男 43 ／ 母）

- I-3 全く情報が入らず、また、こちらからの情報も発信できなかつた。
III 当日、幸いにも一緒に仕事をしている時に地震が起きました。年齢も高くなり、通常の生活ならば一人で行動することも多くなっていましたが、他人に助けを求めるという考えは、今だにほとんどないので、一緒のときで本当に良かったと胸をなでおろしました。高齢の親と中年の息子が助け合って生きる生活が続くことを願っています。
IX-3 一騒ぎしないと人の話が聞けない。
IX-4 少し融通がきくようになった。

（男 22 ／ 母）

- I-3 家の崩壊か所が多く、土足で出入りするようになってしまった。息子（1～2週間）は仕事がなくなり、収入減。生活も大変でしたが、支援物資のおかげであたたかい気持ちになりました。引越しすることになってしまい（2回）今の住居に来て1か月で、やっと落ち着いたようです。
III 自尊心が高いので困っていることを言うと『黙ってて』と逆に怒る。自宅中心の生活なので、こだわりも偏り、家族との調和、社会とのかかわりは避けているようです。通所等も拒むので、どこにも通うことができない。感情のコントロールが苦手なため、モヤモヤしたり、嫌なことを思い出すと、物を壊すことがある。入院も考えていますが、逆効果になるようなことを、医療関係者から言われている。インターネットゲーム中心なので、日本でも脱ネットのカリキュラムを組んでいるところがあれば、知りたいです。弟が兄をこわがる薬は、断固飲まない。
IX-3 人に不審者と思われ、何度か警察に通報されていることもあります、外出は控えているが、部屋、身支度等、きれいにするのが苦手。
IX-4 健康オタクのところがあるので、食べ物を自分で買って食べるが、家族からみてかたよりがある。

（男 37 ／ 父）

- I-3 電気、ガス、水道の遮断と食料の調達。
III 破損している家の修理。放射能の測定、除染。
IX-3 本人が仕事につきたがらない。

一般就労

（男 28 ／ 母）

- I-3 当日の家族の安否確認。本人の職場再開までの期間の処遇。
III 3月11日の晩は、余震よりも携帯の充電が切れたことが、気になっていたようですが、家族全員が帰宅できない中、よくがんばって家にいてくれたと思います。しかし、その夜、常磐線開通まで20日あまりを要したため、月末近くなると落ち着きがなくなり、その頃にはガソリンも流通しなったので、いろいろと連れ出したりしました。その後、通勤できるようになり、ほっとしました。その後の関心は、震度やMの数字のようです。今は、職場がありますが、今後万が一、東海原発に何かあれば、避難になります。それは絶対に避けたいことです。

(男 34 ／ 父)

- I-3 災害による常磐線の不通で、通勤が不可能になること
III 親の亡き後の生活全般について不安がある。どこで誰と暮らすのか、経済的なこと等。
IX-3 放射能による汚染を気にして食べない食品がてきた。

(男 43 ／ 母)

- I-3 会社再開までの間の生活リズムの変化に対応するのが大変だった
III 今回の災害では、不幸中の幸いで、本人、家族とも家も身体も無事でした。でも、例えば、体育館等に避難していたとしたらどうであったかを考えました。本人には”ひとりごと”的ななくせがあり、多くの人びとの中で暮らすことは、周囲の普通の人たちには理解されないと感じます。皆それぞれに、いっぱいいいっぱいの気持ちの時に受け入れられず、居場所を失うということが起きると思います。親が健在であれば何とかできるかもしれませんのが、今後一人になってしまって、同様の災害があったらと思うと・・・せめてグループホームは閉鎖しないでほしいと・・・。

(男 40 ／ 母)

- I-3 電気・水道の止まり、お店も閉まり、本人の好きなテレビやラジカセが使えず、出来ることが何もなくて困りました。3月11～13日以降、本人が水汲みを始める。
III 当日、ピアノのレッスン日でしたが、電話が不通で、本人の所在がわからず、とても心配しました。幸いちょうど先生のお宅へ伺った玄関で地震にあい助かりました。グループホームで生活していますので、常に不安な思いを抱えながら過ごしております。
IX-4 母親が病気中だったため、いろいろ手伝ってくれました。特に水汲みはボリタンクに汲み、運ぶことが仕事になり、近所の人びとにはめられ嬉しそうでした。どのような時も、本人のやるべきことがあることが大事だと思います。

(男 37 ／ 母)

- I-3 娘一家が宮城県岩沼市に在宅、4日間連絡がとれなかたことです。お蔭様で無事でした。息子（障害者）は自閉症ですが、お蔭様で特に問題なく落ち着いた生活ができていました。
III 学校など節目、節目で大変でしたが、学校関係、また周囲の方々の協力と善意により、何とか乗り越えることができました。日々感謝の気持ちで一杯です。現在、息子は一般企業ではたらいております。困っていることは、やはり、親の亡き後のことです。今ある生活をどこまで続けるられるか？（息子が現在の仕事に生きがいを感じており、それを、維持するために息子の性格、状態から家庭からの通勤がどうしても必要と考えられるため）

(男 47 ／ 母)

- I-3 本人にとっては初めての経験でしたので、停電と断水が一番大変でした。
III 今は元気に通勤しております。

(男 23 ／ 母)

- I-3 家族の安否確認（携帯メール）ができなかったこと。義母、親戚が宮城県におり、安否確認に非常に時間がかかったこと（10日くらい）。
III 茨城県内でも地域によって被害に大きな差がありました。被害の実状の調査と支援をする必要があるでしょう。

(男 34 ／ その他)

- I-3 水道が何日も使えなかつたこと。（水道局の方への不満をもらしていた）

福祉的就労

(男 22 ／ 母)

- I-3 お風呂に入れない、着替えの回数が減った（選択ができないので）。でも、我慢できました。ずっと家にいるので、ストレスがたまつたと思う。施設にも水がでて、落ち着くまで行けなかつたのが困りました。
- III うちちは被害が少なかつたのですが、水が10日くらい出なかつたので、風呂に入れず、我慢していました。震災時はパニックになることもなく、おとなしかつたので助かりました。家にいられたからだと思います。このような子は、避難所には行けないなと思いました。障害者が安心して避難できる場所があつたらよいのですが。

(男 21 ／ 母)

- I-3 震災後、家族は別々の所に居て、会うのに時間がかかり、心配だったこと。
- III 今回の震災では、幸い避難所に行くことはありませんでしたが、知り合いには避難所に行きたいが、迷惑をかけてしまうと思って行かなかつた方がいました。障害者のみを受け入れる福祉避難所があればよいと、必要性を感じました。

IX-3 予定の確認がしつこくなり、頻繁になって対応に疲れる。

(男 26 ／ 母)

- I-3 通所する作業所がしばらく通えず、自宅待機があつたこと。する事もなく、出かけることも、行く先もなかつたこと。
- III 息子が親離れしたくなつても、思うように利用できるガイドヘルプなどが見つからなかつた。この時期を家族だけで乗り越えることは、とても大変でした。現在は何とか生活していく位に落ち着いてきたが、周りを見ると、相談するところもわからず、苦労している人が多いことがわかつた。子供の尊厳にもかかわることなので、どこでも話せることではないが、とても辛いと思う。特に片親だけの家庭の方々は本当に大変です。

IX-3 災害とは特に関係はないが、こだわりや興奮などは、常に悩みの種です。

(女 18 ／ 母)

- I-3 障害者本人が環境の変化に不適応。非常に不安定になつたこと。災害により通所作業所が1か月閉鎖。養護学校卒業後の通所2日目のこわい体験で、強く不安になつたこと。情報が、ガソリンがなかつたこと。断水1か月。
- IX-3 余暇活動の停止、親が連れ出せないことから、個室ベッドでの便いじり（口にしてしまう）がしばらく続いた。

(男 20 ／ 母)

- I-3 電気、ガス、水道とも使えず、今までの生活が急に大きく変わらざるを得なかつたこと。
- III 障害者に対する理解は深まっているが、自閉の人に対しては、まったく良くなつていな。 「自閉なので」と言っても、だから何だというんだという態度です。自閉とはこういうことですと、テレビや新聞で広報するような方法を考えてほしい。それも1度や2度ではなく、長く続けていくことが必要だと思う。

(男 20 ／ 父)

- I-3 本人は、通所先が被災、父が迎えに行って近くの子とともに帰宅。道路も交通手段の確保、その前の安全の確保。そういうことが、重要と思いました。連絡する方法が難しい問題と感じます。
- III 社会的に厳しい状況になればなるほど、障害児者には、大変な社会環境になるのでは？と不安があります。

(男 33 ／母)

- I-3 長時間の停電と一週間に及ぶ断水
III 幸い作業所がすぐに再開してくださったので、大変ありがたかったです。停電が長くなると落ち着かなくなるので、発電機を購入しました。
IX-3 震災の影響があるのかないのか分りにくいです。こだわりは昔から強いです。

(女 21 ／父)

- I-3 自閉症の娘自身が、震災時の状況を理解すること。避難時において、生活（食、寝等）が変わったことの対応。行動が制限されたことへの理解のむずかしさ。家族の安否確認。
III 養護学校、福祉作業所（施設）の「福祉避難所」の指定の強制化（市の怠慢の重い腰が上がるよう！）。要支援者名簿への登録の強制化（同）。A S Jでの自閉症の理解、啓発と厚労省との連携（このたびの防災ハンドブックの周知は感謝）。ガソリンの確保（「福祉運動」として指定）。救援物資の「仕分け」をボランティア、社協、市職員ではなく、専門業者へ委託すること。

(女 30 ／父)

- I-3 停電、断水、余震
III 今回は、私たちは大きな被害にはあいませんでしたが、宮城、福島等のような大きな被害に合うと、①本人が安定できる場所の確保、②外出時の連絡方法の確保（今回はたまたま自宅にいて、ラッキーでした）が、第一次的に必須である。

(男 29 ／母)

- III 被害が小さく、特に困ったことはありませんでした。

(男 20 ／母)

- I-3 特に大きな問題はありませんでしたが、水道が止まった2～3日、お風呂に入りたい、とずっと言われたことぐらいでした。
III 息子も21歳になり、それなりに成長して、体力的、精神的にも落ち着き、大分楽になりました。世間の理解も、地域性があります。まだまだ、理解を得られず、悲しくなるときもありますが・・・。困ることは、医者嫌いで、おとなしくできないことです。医者もいろいろですので・・・

(男 49 ／母)

- III 高等部卒業後に入った宿泊月訓練所でのイジメ、その次に利用した更生施設でのイジメのフラッシュバック。早朝3時頃から2時間くらい止まらないこと。団地の1階在住のため、横、上の住人への気兼ね。3月からジプレキサを1日1.5mg服用している。しかし、早朝のフラッシュバックは止まらないこと。
IX-3 震災に関係なく、受障後は（1）～（6）があり、（3）のみ、10年くらい前より影をひそめている。という訳で今も日々（1）～（6）で困っている。

(男 27 ／母)

- I-3 電気、水道が止まること。道路が通行止めになり、また、ガソリンが購入できず、父親が仕事場に行けなかったこと。
III 今は家族と生活していますが、今後、両親に健康問題などが起き、ともに暮らせなくなるであろう近い将来のことが不安です。

(男 37 ／母)

- I-3 施設に通うのに利用していた鉄道が回復の見通しが立たないような状態になり、バスを使うと片道1800円で通うことができなくなりました。

- III 施設の方に相談したくても、忙しそうだったり、はたして職員の方々がどの程度、障害についての知識を持っておられるか、つい遠慮し相談できない。タバコを何とか止めさせたいが、施設の職員の方々も座れるので、一層むづかしいように感じる。施設に対しては、要望や苦情は利用者は言えないし、家族も苦慮してしまう。施設への指導、監督をお願いしたい。将来への不安は、筆舌に尽くしがたい。体重の異常な増加があり、施設でのストレスがあつたことを知り、以前の施設に戻してもらった。
- IX-3 お金の管理ができない。身ぎれいにできない。食べすぎ。
- IX-4 災害後、施設でアルバイトへ通うことが実家からは大変なので、一人で生活しているが、食事、洗濯、掃除、全て心配で、親が週に1度は行くようにしている。

(男 27 / 母)

- I-3 生活に必要な水がないので、近所の方の井戸水を家へ運んだ。ガソリンをなかなか手に入れることができず、買い物が大変だった。
- III 災害時当日は、通所している作業所の降園の時間と重なり、運よく作業所の皆と近くの高校の体育館へ避難することができました。職員さんが最後の一人まで面倒を見ていて、私が子どもを迎えに行った時間は夜の7時半頃になってしまったのですが、子どもたちを安全に、そして、安心できるよう心使いしていただいたことに感謝しております。今では、通常通り登園し、災害前とはほとんど変わらない日々を過ごしています。これがもし、帰宅途中の出来事であったらと思うと、心配でなりません。障害者に対する配慮を行政にお願いできたらと思います。

(男 23 / 母)

- I-3 ガソリンの手配

(女 32 / 母)

- I-3 ライフライン復旧が比較的早い4～5日だったので、何とか生活できました。
- III 災害時、暗い中でも、比較的落ち着いていたので助かりました。幸い避難するほどの被害が今回はありませんでしたが、万一、またこのような災害に見舞われた場合、一般の避難所に娘が生活できるとはとても思われません。私どもが所属する「常陸大宮市手をつなぐ育成会」では、このような災害が起ころる5、6年前より、福祉避難所設置の要望を市行政に対して提出しています。震災後も2度にわたり福祉課と話し合いの場を設けてはいますが、一向に話は進展していない状況です。
- IX-3 一時は大げさではなく、一日の大半を、トイレ通いに費やしていましたが、現在はお蔭様で落ち着きました。その間、自閉症協会の相談機関に何度もお世話になりました。ありがとうございました。

(女 20 / 母)

- I-3 液状化による道路の崩壊で当日は家まで車で帰ることができなかった。職場（作業所）から家まで、40分のところ5時間かかった。ガス、電気、水、電話が不通。家屋半壊。水汲みは5月末まで。下水道（トイレ、風呂）は6月上旬まで使えなかった。本人は災害の理解はできないのか影響はないようで、環境の変化を受け入れる不便な生活もあまり苦痛を感じていないようでした。作業所の復帰がいつになるかわからず、自宅待機となったことも受け入れてくれた。

III 日本自閉症協会より10月に2回も金銭でご支援をいただき、ありがとうございます。精神的にも大きな支えとなっております。もし、家に住めない状況を予想すると、我々は①どこに避難したらよいのか。可能な限り同じ境遇の友人と一緒に同じ場所で一緒に助け合いたい②食料、飲料水、衣類、トイレの確保など、生活はどうなるのか、③医療サポートはどうなるのか?個人でできることは限られてしまうので、どうしても、国、県、市、町村の行政に頼らなければならない現状だと思いますので、貴法人のますますのご活躍、ご発展を心より願っております。

IX-3 作業所の復帰まで2週間でした。自宅で祖母と兄と室内で過ごしました。テレビ、お絵かき、塗り絵、パズル。ゴロゴロしながら、過ごしました。週に2日くらい、母の実家に洗濯やお風呂に行ったりしました。トイレは自宅のトイレに紙おむつをしきつめ、用をたしましたが、受け入れてくらました。仮設トイレには入れませんでした。自宅は液状化ですみましたが、傾きは少なかったので、自宅での生活が可能でした。避難は考えませんでした。絶対むります。

(女 38 / 母)

I-3 プロパンガスを利用できましたので、食べ物にはあまり不便を感じませんでした。電気も3日後には利用できるようになりました。まだ季節的に寒い日が続いていた時期に水道が10日くらい利用できませんでしたので、並んで水をもらい、水洗トイレについては、川から水を汲んでトイレに流していましたので、大変でした。

III 今までに無い地震に見舞われ、普段何気なく利用していました通信、電気、ガス、水道等が、大変になるということを痛感いたしました。また、日立の場合、これからも大きな地震がくるのではないかと言われている地域、常に微弱な地震が続き、先日も5弱が起こったりしていました、やはり、これからどうなるのかと、不安はあります。放射線の影響も出ていますので、心配しております。

(男 24 / 母)

I-3 停電、断水が長期間続いた。

III 3月11日はもちろんのこと、その後の余震でも驚く様子は全く見られない。危険から身を守ることができるのか心配である。

(女 32 / 母)

I-3 水道が使用できなかったこと

III 今回の地震では、幸い大きな被害もなかったのですが、これから先、災害にあい、避難所にお世話にならなくてはおけなくなった時、どこまで我慢せられるか、周りの人の理解を獲られるか心配です。

(男 21 / 母)

I-3 水が使えず、トイレの水を確保するのが大変でした。また、1か月くらいから、本人の様子がおかしくなり、対応に困った。その後、半年ほど続いた。

III 22歳という年齢を迎え、そして震災を体験し、通っていた作業所へ通うことが出来なくなっています。震災前より、本人の様子に変化があったことは私も感じていたのですが、震災をきっかけにして、本人の生活もガラリと変わってしまったようです。震災直後は、まだいつもと変わらずに生活していました。停電や断水など、不便な生活の中、よく我慢していると思っていたが、1ヶ月たった頃、大パニックを起こしてから、落ち着きがなく、いつもピリピリしているようになり、家族も1日の終るのが長く感じていました。ここにきてようやく落ち着きを取り戻してきたように感じますが、いつまた思い出してパニックを起こすのではないかと、ビクビクしてしまいます。

IX-3 震災後、あることで父親に注意を受けたことで、父親に対する受け入れが出来なくなっている。部屋を分けて生活しています。

IX-4 休日にとにかく買い物に行って、おやつをごっそり買ってこないと気がすまない。

(男 21 ／母)

I-3 地震時、家族がバラバラだったので、安否の確認がすぐにできなかった。停電。

III 被害が少なく、支援を必要とするほどではありませんでしたが、もし、避難するような場合になった時は、福祉避難所がぜひ必要だと感じました。薬を服用しているので、薬の確保（医療の支援）が必要。震災当日、彼は「避難訓練」と何度も繰り返していました。職員さんの指示で、スムーズに避難できたのは、日頃の訓練によるものだと思います。普段からの訓練が大切だと感じました。

施設入所

(女 42 ／記入なし)

I-3 離れて暮らす（施設入所）子供のことが一番心配でしたが、停電、断水、ガソリン不足、道路破損のための渋滞や遠回り、食糧難、寒さ対策、家屋の傷み、部屋の散乱など、どれ一つでも不自由なのに、一度に全部きて、一次は大変でしたが、施設職員も自分たちと同じように被災者なのに、本当によくやってくれたので（地域の協力もありました）、自分たちの大変さだけに専念でき本当に助かりました。一部破壊はありました、建物の倒壊がなかつたので、施設側で子供をしっかり受け止めてくださったので、大変なことを上げれば切りがありませんが、子供の心配をしなくて済んだので大変ではありませんでした。

(男 45 ／母)

I-3 施設入所している息子は、職員が守ってくださいましたが、施設全体の安全について（水、食料、その他の心配）は、役員としてかかわっていることもあり、自宅と施設の両方の安全（自宅には90歳の母親を守りながら）に気を配ることが、疲労を重ねることになりました。

III 施設に入っている息子と、時折施設の側に待機してお手伝い等ボランティアをしていたときに地震があったので、息子はじめ子供たちと一緒に「大丈夫、大丈夫」と言いながら、職員の方々とともに子供たちの様子がうかがえ不幸中の幸いでした。しかし、もし子供たちが帰省中だったらと思うと、無事に過ごせたかどうかとても心配でした。もし、パニックを起こしたり、親も不安定な状況のときに、地域で情報を知らせるネットワークがあつたらと思いました。電池式のラジオとかで避難所（特に障害に詳しい人がいる避難所等）を知らせてもらえると安心だと思いました。

(女 35 ／母)

I-3 停電、断水、家の設備故障、ガソリンの不足。施設に世話になっている娘の心配。

III ガソリンの不足で、施設職員の通勤に困難をきたしました。施設での手厚い配慮により、利用者を最優先に考えていただきましたが、職員の方々の苦労は大変なものだったと思う。大きな施設で、外への避難をすればパニックになつて、走り出す人もでてくると思う。逆に外への避難を拒む人もいたようです。（職員の数がたりません）

IX-4 1日おきに福島方面へのドライブを要求するこだわりがあったが、「地震で行かれなくなつた」と説明（言い聞かせ）したら、あきらめることができた。しかし、他の方面へのドライブでは、少々不満の様子がある。

(女 37 ／母)

I-3 水道が出なかつたこと。ガソリンが買えなかつたこと。食料品が手にはいらなかつたこと。電話が通じなかつたこと。

III 大変申し訳ございませんが、入所施設の中で被災しましたので、職員の方は想像を絶するご苦労があったと思います。その後、様子を伺いながらさすがに異常事態は感じることができ、職員誘導に従い、服を着たままごろ寝だったようです。衣食住すべて、心配はつきませんでしたが、子供どころでない我が家では、手元にいない子供に施設の有難みをひしひしと感じた次第です。できましたら、直接、職員の方にお尋ねいただければ幸いです。

(男 26 ／ 母)

- I-3 連絡がとれにくかった（携帯がつながらないため）。ライフラインがとだえたので、日常生活が大変だった。
- III 災害にあったことが初めてだったので、本人も家族も驚いて、どうしてらいののかわかりませんでした。離れて住んでいるので、安否が確認されるまでは心配でした。
- IX-3 こだわりが多い

(男 38 ／ 母)

- I-3 本人は施設に入所しておりました。翌日行ってみましたが、良く対応していただきました。家は水道、電気、ガス（プロパン）が停止、食料、ガソリンが不足しましたが、特にひどい状況ではありませんでした。
- IX-4 災害前後に、全体的に特に変わりはありません。

(女 32 ／ 母)

- I-3 長女が他見の小学校に避難し、その後交通（電車）がストップのため、東京の知り合いに電車が動くまでお世話になりました。また、自宅では、ガソリンが入れられず、食事のストックも無く、店に2～3時間並んでも菓子しか買えない状況で、子どもが家にいたら食事もできなく、パニックになると思いました。（水も市役所に並んで7～8時間かかりました。）
- III 本人は施設にお世話になっていて、震災の時は親といて何か（水とか食料とか不足しているだろうと思い）用心して行きたかったが、自分の方で備蓄が何も無く、ガソリンも不足で入れられないという状況ではがゆい思いをしました。

(男 33 ／ 母)

- I-3 電気が止まったこと。水、食料の確保。ガソリン不足。放射線に対する不安（食品を含めて）。
- III 施設入所中のため、職員の方々のご努力とご苦労により、多少の不自由はあったと思いますが、混乱もなく、過ごせたと聞いております。ただ、感謝あるのみです。

(男 30 ／ 母)

- I-3 当日に家に帰れなかつた者1名、帰宅できた者2名も夜遅くなつた。次の日からは、電気、水道が使えず、数日後からは、品物を行列してもらったことと、ガソリンが買えなかつた。たいへんでした。
- III 本人は、入所施設において、建物はほぼ被害がなく、心の中は不安だったと思うが、表面上は、本人も他の利用者も支援員の指示にしたがっていた（たまたま私も施設にいた）。重度の人が多く、パニック、他害等が通常あるが、当時は不穏になる人もおらず、暗闇の中、非常食で我慢してくれました。本当に施設は安心して預けられ、有難いと思いました。本人のことを心配せず、家の片付やらできました。施設の方は、食材確保や水、電気、ガソリンの確保が大変でした。福祉施設は優先してほしいと思います。

(女 21 ／ 母)

- I-3 家族と連絡がとれなかつたこと（車で安否確認に出ても、津波で通行止めになっていたり、橋が渡れなかつたり、信号が停電で渋滞だつたり、ずっと家族とあえなかつた。）。

III 施設に入所して間もなくのこと、親として安否が一番の心配であった。何時間もかけて様子を見に行つたが、大きな余震が続く毎日の中で職員の対応が万全とはいえず、市の福祉課もきちんとした対応には時間がかかった。といつても、今回、娘は入所していて個人でいるよりは恵まれた環境にあったと言える。友人宅では避難所に行ってもパニックで大声をだすからいられず、半壊した水の出ない、トイレも使えず紙おむつを使用しての生活を1か月以上していた。自閉症の子どもを持つ親にとっては、避難所で辛い思いをするよりは不便でもううするしかないことを理解してほしいと思う。そんな家庭のために福祉の充実を願うばかりです。

IX-3 ストレスがたまると、人に攻撃的になる。突然押してしまったり、叩いてしまったりする。

IX-4 笑うことがなくなった（前に比べて表情が乏しい）

(男 41 / 母)

I-3 停電、断水（築にトイレ）

III 激しいパニックがあり、とても気を遣いましたが、年を重ねるごとに少なくなり、現在では、自分をコントロールすることを覚えたのか、ほとんど見られなくなりました。施設の先生方の適切な接し方、そして成長した息子にとてもうれしく思っています。本人は施設入所です。

(男 40 / 母)

I-3 基本的な生活では、水が出ない3日間が精神的な不安状態。

IX-3 寝具のカバーを外す、敷布団、マットのカバーも同様。ズボンはベルト付きを好み、トレパンやゴムのついた物を好む。

IX-4 飲料水を多量に求める

(男 16 / 母)

I-3 直後から施設への電話がつながらず、3日目にやっと連絡がとれ、無事を確認しました。通常ならば、週一回の帰省をしますが、道路事情も悪く、2週間後に自宅へ帰省しました。ガソリンが不足していたのも大変でした（食料品の買い物等も）。ライフラインの復旧のも、数日かかりました。

III 今回の災害では、一般の方々も混乱した部分があり、弱い立場の方々への支援が機能していたのかどうか、よく検討していただきたいと思います。息子は入所施設により、支援員の方々に大変お世話になりましたが、今回より大きな災害が起ったとき、支援員の方々も被災者となり、守るべき家族がいらっしゃると思うので、「想定外」の言葉で片付けられないよう、危機管理の徹底を、国や自治体にお願いしたいと思います。

(男 25 / 母)

III 以前は家庭で（20歳まで）療育していましたが、20歳のとき、入所し、その後は家庭と施設なので、安心して生活できている。最重度の自閉症なので、施設入所は大変良いと思い、今回の災害も無事乗りこえられた。

IX-4 お陰様で、施設のハード、ソフトともによく機能、災害に対応してくれたので、本人は災害以前とかわらず生活している。

その他

(男 27 / 母)

I-3 子供の安否確認。家族との安否確認。水の確保。食料品の確保。

III 子供の通所先の長期のお休みで、子供がずっと家の中だった。たまたま、父親も休みだったため耐えられたが、母子2人だったら食糧の確保やガソリンを入れるために並んだり、水を確保に行つたりは、出来なかつたと思う。

(男 19 / 母)

I-3 お風呂。1か月近く断水だったため、浴場に行くにも主人が仕事で遅くなると連れて行けなかつた（息子なので）。震災後、すぐに祖母が亡くなつたため、息子を預けることができず大変だった。

III 小さな頃は不安や困っていることばかりだったが、今は特にない（あったとしても、こんなものだと割り切っている）。ただ、私たちが年老いた時に、どうなるのかという不安は在ります（兄弟には負担はかけたくないと思っています）。

(男 34 ／母)

I-3 大きな被害はなかったので、特にありません。

(男 40 ／父)

I-3 水、電気が止まったこと。ガソリン不足。ケアホームの居室が壊れ、1か月以上使用できなかったこと。

III 父親自身が、療養中であったため、ケアホームにいるこどもたちにかかるませんでした。

(男 35 ／母)

III 現在はケアホーム（石岡市・しろがね苑）に入っておりますので、特に困ったことはありません。

(男 21 ／母)

I-3 水、電気が止まること。身体障害者も居たので。障害者二人、お世話になつたので気を使つた。

III 自宅にいたは何も情報が分らなかつた。車での放送も全く聞こえなかつたので、知人宅に避難した。障害者のための避難所があれば良かった。

(女 38 ／母)

I-3 水道、電気が止まってしまったので、トイレ、お風呂で困ってしまった。

III 親なき後の生活の場をどのようにしようか模索中です。

(男 39 ／母)

I-3 幸いに直接の災害はごく少々で本当に助かりました。離れた所の施設内ケアチームに入っている息子が（また仲間も）そのときどうしているかが、自分の目で確かめる以外、音信が止まってしまったことでは大変でした。水、電気、ガソリン、灯油、食料品、etc。これまでの日常が一変したことは、いかに施設内でも苦慮したことかと、心配ばかりしております。職員の皆様に頭が下がりました。

III 今回の震災による経験といつても、何からどう準備するかということではない程、どうしてよいかわからないことでした。このような時、障害の子が、過程と一緒に居たとしたら・・・と思うと、現実は施設にお世話になつたので、助かりました。全国の逆の立場の方々の大変だったことを思うと、本当に見舞い申し上げたいと思います。そして、その後のことにも心配です。私たちの県も原発事業所がある県です（すぐ近くです）。常に心配は付きまといます。まだまだ、余震がある毎日です。早く終つてと願うばかりです。

(女 11 ／母)

I-3 電気が使えなくなったこと。テレビが大好きで番組の進み方で生活のリズムを保っていたので、見られなくなりパニックになった。

III 特別支援学級に通っていたが、小2の7月から、突然行かなくなり、現在（小5）も不登校中です。学校に行けなくなつた当初も大変ショックでしたが、将来のこと（これから先のこと）を考えると不安になります。引きこもりなので、一人にさせることも出来ず、どこにも出かけられません。

IX-3 災害には無関係だが、引きこもり&不登校が続いている。本人は家にいたいので困っていないが、家族が困っている。

(女 28 ／母)

III この災害で初めて福祉避難所の必要性を感じた。わが子も2泊の公共施設での宿泊で様々なことを経験した。2泊している間、自閉の仲間たちはどうしているかと思い巡らし、家庭の方は体育館やホールなどではとても大変だろうと「避難」をしてはじめて肌に感じた。実感した。母子が離れることができず、家の片付けも父親一人でやってもらった。わが家の状況は軽い方だから東北の方々のその後、また、本人の状況はどうだろうか?と心配するばかりで、何をしていいのか・・・よくわからないまま、すごしてしまっている、「福祉避難所」の設置を進めていくべきと思いは強くある。

(男 35 ／母)

I-3 摆れるので家事中止が多くかった。停電が少しあった。
III 家族の突然の入院の時や手術の時に預ける場所やデイサービスの事業所での預かり時間延長に苦労。頼み込んでやっとで大変な思いいつもしています。
IX-3 洋服の取替えが頻繁。洋服、下着のタグをすぐ取る。

(男 21 ／母)

I-3 停電のため、一切情報が入ってこなかつたので、今回の地震がどこで起きて、どのくらいの大きさか、など、翌日までわからなかつた。電話が一切通じず、当日子どもが帰ってくるのかどうか、わからなかつた。ガソリン不足で行動が限られてしまった。
III 当日はすべての連絡が取れなくなってしまったことが、一番困りました。子どもは事業所にいる時間だったので、職員さんの判断に任せようという気持ちでまつっていました。そして、夜遅く、真っ暗で大渋滞の中を家の近くまで職員さんが送ってきてくださり、やっと携帯電話がつながったので、お迎えに行くことができました。その夜は余震も続いていて、ほとんど眠れなかつたです。家は大した被害はなかつたのですが、なにより、事業所を5日目から開けてくれたので、普段のペースを変えずに過ごせたのが、一番助かりました。しばらく仕事はなかつたようですが、カラオケをしたり、利用者が明るく過ごせるように、配慮してくれました。お蔭様で、とても落ち着いて、むしろこの震災を通して成長したように思われます。ただ、ガソリン不足で家の遠い人は1か月近く自宅で過ごしていたようで、それが残念です。
IX-4 今回の地震は、本人にはかなりショックだったと思いますが、回りの大変さを見て、むしろ成長したように思います。今までの問題行動もいつのまにか、少なくなっていたり、静かにゆったりと過ごす時間が、増えたように思います。

不詳

(男 17 ／母)

I-3 水道が使えなかつたこと。食料品がなかなか買えなかつたこと。ガソリンが手に入り難かつたこと。

【東京都】

福祉的就労

(男 34 ／母)

I-3 水が1か月くらい出なかつたので、なかなか自宅にもどれなかつたこと。避難先(娘の家)で、自宅になかなか戻れなかつたので、落ち着けなかつたこと。
III 障害者雇用の会社に就職したのですが、結果、いじめ(体にアザなど多数)にあい、現在は福祉作業で働いています。なかなか一般会社で働くことは、できないです。

【不詳】

福祉的就労

(男 27 ノ 母)

I-3 水道が 10 日間止まったこと。

(不詳 不詳 ノ 母)

I-3 上下水

IX-3 パニック

(不詳 不詳 ノ 本人)

I-3 電話がつながりにくかった点

(不詳 不詳 ノ その他)

I-3 ガソリンが 10 日ほど入手できなかった

3 防災・支援ハンドブック

作成された内容の一覧は、本人・家族編が資料3、支援者編が資料4である。改訂前の本人・家族編が資料1、支援者編が資料2である。平成24年3月に完成、刊行の予定である。また、資料として、「防災・支援ハンドブック」の本人・家族向け編と支援者向け編の冊子を全ページ掲載してある。

作成された「防災・支援ハンドブック」は、企画案通り構成や内容、情報の提供の仕方で改訂前の「防災ハンドブック」から変更しており、次のような点についても変更がされている。

- (1) 内容の変化として、構成が災害前、災害時、災害後に整理されている。
- (2) 自閉症の人々への理解としては、障害特性の理解を得意な面、苦手な面双方を表記し、支援については、今回の災害の中で実際に自閉症の人が様々な場面や状況でどのような配慮が必要であったか、一方、工夫や環境の調整等により不安や混乱が軽減されていたかについても記載されている。
- (3) 被災地の現状の情報の提供を多く取り入れ、今回の災害における対応、今後に繋がる課題を取り上げている。ただし、被災地の多くの中から集約した意見、あるいは課題としてまとめたものではない。
- (4) アンケート調査の結果の一部ではあるものの、被災の状況や災害前の状況、災害後の状況、本人の状況等を数量化した結果と、個別の意見等により、現状が分かることを提示している。
- (5) 災害への必要な備えについては、防災教育、防災訓練、要援護者名簿への登録、福祉避難所の設置、防災リュック、サポートブック、助けてカード、防災マップなどで、都道府県、市区町村、学校・就労先等の各機関、地域、家庭、本人のそれぞれのレベルでの備えが掲載されている。自閉症の人が災害時に対応できるような支援のためのツールになるものを用意して持参しておくことが掲載されている。
- (6) 災害時の支援や対応では、家庭、学校・施設等での対応の仕方、支援する方に避難誘導や危険の認知等自閉症の人が支援を受け容れやすい方法や障害の特性に応じた支援の仕方が様々な場面や状況で取り上げられている。
- (7) 災害後の必要な支援や対応では、避難所での生活上の配慮、避難所の現実、車中泊等での生活、心のケアについて取り上げられている。
- (8) 復興と支援の継続については、被災地からの大震災の経験、教訓について、また、被災地から復興、支援の継続に向けての課題、前回の「防災ハンドブック」から復興に向けての課題が掲載されている。

なお、作成された防災・支援ハンドブックは以下のとおり、公表され、配布される予定である。

公表、配布

- (1) 作成部数 本人・家族向け編 16,800 部、支援者向け編 5,000 部
- (2) 配布先 会員、各関係機関、支援機関等
- (3) HP 日本自閉症協会のHPに掲示することで広く情報提供
- (4) メディアへの紹介

資料1 防災ハンドブックー支援する方へー（平成20年7月10日発行）

自閉症の人たちのための防災ハンドブックー支援する方へーの内容

頁	内容
表紙	まえがき～理解から支援に～
1	だれにでも安心な街づくりを～自閉症の人と共に
2~3	自閉症への理解を
4	災害時、救助にあたる方へ
5	「要援護者名簿」と地域の助け合い
6	特に気をつけていただきたいこと
7	災害によるP T S Dに注意
8	避難所では
9	避難所に専門スタッフとして入って
10	具体的な生活の配慮を
11	福祉避難所が必要
11	就労している自閉症の人に配慮を
12	避難所に行けない人たちもいます
13	やむを得ず車中泊
14	新潟自閉症協会災害時の会員ネットワーク作りの提案
14~19	災害の現場からQ & A
20	復興に向けて
21	自閉症の人と家族への心の支援を
22	防災教育・訓練を～関係機関と力をあわせて
23	阪神・淡路大震災を経験して～日常の活動が全てを決める
あとがき	
裏表紙	チェックシートを活用しましょう
裏表紙	チェックシートを活用しましょう

資料2 防災ハンドブックー自閉症のあなたと家族の方へー（平成20年12月9日発行）

自閉症の人たちのための防災ハンドブックー自閉症のあなたと家族の方へーの内容

頁	内容
裏表紙	はじめに「学んで災害から命を守ろう」
2~3	災害のいろいろ～地震・洪水・災害・竜巻など
3	災害がおきたら自閉症の人は？
4	災害がおきたらこうしよう
5	家族の方へ～練習していないことはイザというとき役立たない！
5	要援護者名簿に登録しよう
6~10	災害の現場からQ&A
11	最近多い次のような災害にも気をつけましょう 局地的豪雨、雷雨、台風、竜巻にも注意
12	避難所とは
13	家族の方へ～ひとりで悩まないで
13	早めに支援を求める
13	自閉症の人と避難生活
14	避難所での生活はこうなります
14	福祉避難所とは
15	「車中泊・テント泊」アウトドアの知恵
16	心のケア 「助かってよかったです」 家族の方へ～災害後の助言
17	心の健康管理 「大丈夫だよ、元気になるよ」 家族の方へ～災害後の心の健康管理
18	復興に向けて 仲間同士の支え合い～新潟の実例
19	日頃からきょうだいへの配慮を
19	被災後の健康管理
20	日頃からの準備を 防災のための訓練を
21	日頃の生活が防災の基礎になる ～阪神・淡路大震災の体験から
21	その時、障害者は弱者でなかった
21	本人の生活を一日も早く日常に戻すこと
22~23	家族で防災会議をしましょう
24	「助けてカード」の作成

資料3 東日本大震災を受けて 防災・支援ハンドブックー自閉症のあなたと家族の方へー
 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブックー自閉症のあなたと家族の方へーの内容

頁	内容
裏表紙	はじめに「学んで災害から命を守ろう」
2~3	災害のいろいろ～地震・津波・原発事故・洪水・災害・竜巻など
4	災害とは 地震はいつも起きてもおかしくない！ 津波＝地震と一緒に津波もくる！ 原発事故
5	日頃からの準備を一まず情報、そして自閉症への理解を 避難する時の注意
6	命を守るために 準備編① 防災リュックの準備
7	命を守るために 準備編② 要援護者名簿への登録 東京都板橋区の例：要援護者のためのワッペン 東京都杉並区の例：情報保管筒とシール
8	あなたの家の備えは大丈夫？ 準備ができているものをチェックしよう 実際の対応
9	災害がおきたらこうしよう～家、学校、施設で 学校では 施設では
10	災害がおきたらこうしよう～海、川のそばにいたら
11	最近多い次のような災害にも気をつけましょう 局地的豪雨、雷雨、台風、竜巻にも注意
12	災害で日常生活は変わります 被災地から：避難生活の実際
13	災害で日常生活は変わります 被災地から：原発事故による避難の現実 被災地から：避難経験からの助言 娘が思わぬ行動を
14	避難所の生活
15	福祉避難所
15	「車中泊・テント泊」アウトドアの知恵
16	避難所での生活はこうなります
17	災害対応のために 「サポートブック」などの活用 本人からのSOSをわかってもらうために
18~19	被災地の方々のアンケートから（調査結果の一部）
20~21	被災地の方々のアンケートから（意見）
22	心のケア 幼児、学齢期の人へ ご家族の方へー災害後の助言
23	心のケア 青年、成人期の人へ ご家族の方へー災害後の心の健康管理

24	心のケア ご家族の方々へ
25	心のケア 福島県の子どもとご家族へ
26	被災後の健康管理
27	復興と支援の継続に向けて
28~29	「絆づくり」は普段から
	「絆を深める」～東京自閉症協会の支援～
	家族で防災会議をしましょう
30~31	発達障害者支援センター一覧表
32	「助けてカード」の作成

資料4 東日本大震災を受けて 防災・支援ハンドブックー支援する方へー

自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブックー支援する方へーの内容

頁	内容
表紙	はじめに～確実な支援へ
1	3. 1 1 を教訓として～備えておくべきもの
2~3	自閉症への理解を
4	災害に備えて 地震防災教育 「災害イマジネーションを高め、繰り返しの体感訓練を」
5	津波防災教育 「まず逃げろ、状況を見て判断。率先避難者となって、人を助ける」
5	防災担当教員全校に～「てんでんこ避難を教える」
6	放射性物質被害対策 原発事故による放射線物質対策について
6	被災地から：災害や事故に対する認識の甘さを痛感
7	要援護者名簿への登録と福祉避難所の設置
7	要援護者の支援が急務～要援護者名簿を有効活用するために
7	被災地から：自閉症の人の避難の場所の確保を
8	災害時、救助にあたる方へ 特に気をつけていただきたいこと
8	被災地から：被災の現実～学校では～
9	避難所では 本人・家族に支援していただきたいこと
9	支援の仕組みの弱い現実、個人での備えを
9	被災地から：被災の現実～避難所では～
10	具体的な生活の配慮を
10	被災地から：避難所での子どもたちの生活は
11	避難所のスタッフとして 本人や家族のニーズに合わせた支援を 孤立させない気配りと人とのつながりを大切に
12	避難所に行けない人もいます 自閉症の人が避難所に行けないのは 「車中泊・テント泊」アウトドアの知恵
13	就労している自閉症の人に配慮を 一般就労の場合：職場との取り決めを 福祉就労・作業所の場合：災害マニュアルを
14	災害時のネットワークづくり 被災地のネットワーク 被災地から：災害時には「相談窓口の早期開設と周知」を
15	災害時の連絡 災害用伝言ダイアルの利用、災害伝言板サービス
16~19	災害の現場からQ & A Q 1 ~ Q 7 (改訂前の防災ハンドブックから選定) Q 8 ~ Q 10 (新規作成：被災地での対応を回答に作成)
20	心のケア P T S Dについて

21	心のケア 自閉症の人への支援
22	心のケア 家族への支援
23	心のケア 本人・家族への支援（原発事故・福島県の場合）
24	大震災を経験して その人に合わせた避難の方法を 障がい者が避難できる場所を
25	復興と支援の継続に向けて 被災地障がい者支援センターふくしま・活動報告 震災：～「安心感」を日常に～
26	復興と支援の継続に向けて～災害を乗り越えて～ 災害時に確かな対応ができるために 復興と支援の継続に向けて
27~28	被災地の方々のアンケート調査から
29~30	チェックシートを活用しましょう
31	あとがき

2011.3.11
東日本大震災を受けて

自閉症の人たちのための 防災・支援ハンドブック

—支援する方へ—

—確かな支援へ—

3.11の東日本大震災は、大地震（M9.0）、太津波、原発事故の3つが重なる未曾有の大災害でした。想像を絶する状況の中で、自閉症の人々は「日常がなくなった」のです。避難先を転々とし、住み慣れた故郷を離れて遠い他の地域に移り住まなければならなかった自閉症の人々は、さまざまな経験をし、混乱に追いやられました。このような状況の中で、自閉症の人々が抱える諸問題が改めて象徴的に浮き彫りにされたのです。

この防災・支援ハンドブックは、厚生労働省の平成23年度障害者総合福祉推進事業の一環として行った調査の結果に基づいて、新たに出版するものです。しかし、原発事故による放射能汚染に対する防災・支援に関する情報は乏しく、今後の大きな課題として残されています。「災害」は日常的な社会システムが機能しなくなる状況です。いざという時に、そして日頃からの自閉症の人々への支援に、この冊子がお役に立つことができれば幸いです。

社団法人日本自閉症協会会長 山崎晃資

社団法人 日本自閉症協会

目次

3.11を教訓として 一備えておくべきものー	1
自閉症への理解を	2
災害に備えて	
地震防災教育	4
津波防災教育	5
学校での防災教育	5
放射線物質被害対策	5
要援護者名簿への登録と福祉避難所の設置	6
災害時、救助にあたる方へ	
避難所では	7
本人・家族へ支援していただきたいこと	8
具体的な生活の配慮を	9
避難所のスタッフとして	10
避難所に行けない人もいます	11
就労している自閉症の人に配慮を	12
災害時のネットワークづくり	13
災害時の連絡～安否確認と情報の発信～	14
災害の現場からQ&A	15
心のケア	16
PTSDについて	20
自閉症の人への支援	21
家族への支援	22
本人・家族への支援（福島県の場合）	23
大震災を経験して	
復興と支援の継続に向けて	24
被災地の方々のアンケート調査から	25
あとがき	27
チェックシートを活用しましょう	31

3.11を教訓として 一備えておくべきものー

2011年3月11日の東日本大震災では、長期にわたる避難が余儀なくされました。自閉症の人とその家族は、「日常の喪失」と「障害の無理解」に苦しみました。その避難体験から災害に対しての「特別な備え」が、自閉症の人にとって大切であることを再認識したのです。

「特別な備え」とは何でしょうか。避難の際には、①避難場所、②避難生活を支えるもの、③障害の理解の3つが重要になります。

まず、第一に「場所の備え」です。福祉避難所はそれぞれの地域に複数必要でした。既存の施設と契約をし、自閉症の人ための避難場所として確保しておくことが必要です。その対象として、支援学級や支援学校が受け入れてくれることを期待しています。

次に、日常を支える「ものの備え」が必要でした。自閉症の人には、どうしてでもなくてはならないものがあります。それにより安心を得られたり一人で過ごせたり、身の安全が守られたりします。例えば、ぬいぐるみやパズルや薬といったようなものがあるといいのです。「こだわりの緊急持出袋」とてもいえるものを備えておくことが有効です。

最後に、最も必要なものは「人の備え」です。あるお母さんの言葉がありまます。「避難先の体育館では、いつも頭を下げていました。こんな状況の時でさえ頭を下げていなければならぬのかと悲しくなりました。でも、この子を訪ねて多くの人が来てくれました。たくさんの声をかけて頂きました。私達は、この子に救われたのです。」

人の存在は困難にも支えにもなります。分かってくれる人の存在ほど心強いものはありません。

想定をこえる災害を経て、新たに必要な「備え」と「対処」がこの防災・支援ハンドブックに盛り込まれました。しかし、マニュアルを超える事態がまたいつか起くるかもしれません。それでもきっと、人々は支え合って乗り越えていくことでしょう。そして、より固い絆の中心には自閉症的人がいるに違いありません。

熊本葉一

岩手県自閉症協会会長
NPO法人いわて発達障害サポートセンター代表

監修 山崎晃資（社団法人日本自閉症協会会長）

自閉症への理解を

自閉症の人には、知的障害のある人もいます。自閉症の特性から生活上の生きにくさをもっていますが、すぐれた記憶力、視覚情報に強い、はじめて一度身に付けた能力は落とすことがないという強さももっています。適切な支援があれば安定した生活を送ることができます。災害時には次のように突発的な状況の変化が読み取れないので、以下のような支援が必要です。

危険が分からぬい⇒避難を促すことが必要

想像力が弱いので

- 災害の怖さや避難の必要性が、なかなか理解できない
- そのためこれから危険性が予測できない
- 「助けて」と言えない人がいる



いつもと違う状況で不安になる
⇒スケジュールや予定を示すことで安定する
変化に対する不安や抵抗、こだわりが強いので、
■スケジュールの変更や場所が違うと落ち着きがなくなる



困っていることが伝えられない
⇒一斉に伝えるだけでなく個別の声かけが必要

災害時の安否確認などでは特に注意
コミュニケーションの困難さがあるので
■話し言葉がない人もいる
■声をかけても反応しなかったり、「オウム返し」だったりする
■興奮したときはその場から離して気持ちを鎮める

痛みに平気だったりする⇒ケガや病気注意 注意するときはやさしく

感覚の過敏・感覚の鈍さがあるので

- 大きな声におびえる
- 子どもの泣き声で耳をふさぐ
- 体に急に触られるなどを嫌う



避難所生活になじめない

⇒避難所などでは、パーティションで自分の空間を作る
お気に入りのものを用意する
対人関係の困難さがあるので
■人と上手に関わることができるにくい
■集団行動がとりににくい



一見、障害があるよう見えなくとも、 災害時には支援が必要な人たちがいます

—知的障害のない高機能自閉症、アスペルガーエンゲル症候群の人たちも自閉症の特徴をもっています。言葉が分かっているように見えてもコミュニケーションや対人関係、生活上の困難さがあります。
災害時には適切な支援をお願いします。



!

- ・一斉に伝えるだけでなく、本人に個別に声かけを
- ・指示や予定は明確に
- ・否定的な言動でなく、肯定的に（走っちゃだめ→歩こうね）
- ・大声で叱ったりするのは逆効果
- ・興奮したときはその場から離して気持ちを鎮める

災害に備えて

日頃の生活が防災教育、訓練と日常の活動の充実を図ることが必要です。



地震防災教育

自閉症の人たちに地震の怖さや避難の方法を知ってもらうためには、避難訓練や起震車体験などを通して、イマジネーションを向上することが大切です。地域との人々や関係機関と一緒に防災訓練をしておくことが必要です。

災害イマジネーションを高め、繰り返しの体感訓練を

東日本大震災の原因となったマグニチュード(M)9.0の東北地方太平洋沖地震を踏まえ、東京大学地震研究所はM7クラスの首都直下地震の発生確率を、従来の30年以内70%から4年以内70%に修正しました。地殻学的に活動度の高い時期を迎えているのが国では、東海・東南海・南海地震などのN8クラスの地震が頻発する可能性が高い状況にあります。保育園の防災訓練では、室内の家具等の配置を改善し固定した上で安全性の高い空間を床にテープを貼って示し、先生や放送の指示があつたら、即、頭を防備しつつそこに逃げ込むように教え訓練しています。できるようになります。次は、小さな子どもたちもわざか数秒間でその後のプロトコルに移行します。自閉症の方たちの防災対策では支援者の災害イマジネーションがとても重要なことです。災害発生時から災害下での生活までを見通し、障害特性を考慮した具体的な支援を考えておくことが大切です。日常とは違う生活になることもあります。

自閉症の方たち自身の災害イマジネーションの向上には、起震車や防災館などで地震を体感する訓練もよいでしょう。私は、e-ラーニングによる防災教育の研究もしていますが、これもパソコンに興味のある自閉症の方たちには有効といえるかもしれません。

(東京大学生産技術研究所教授 目黒公郎)

*e-ラーニングとは：情報技術を用いた学習（出版委員会注）

津波防災教育

自閉症の人たちにとって、津波の怖さと避難の方法を知つておくためには、写真等の映像で理解を図り、防災訓練で率先避難を徹底することです。

「ます逃げろ。状況を見て判断。率先避難者となつて、人を助ける」

岩手県釜石市では、東日本大震災の犠牲者が千人を超えるなか、学校管理下になかつたら名を除き約3千人の小中学生全員が無事避難できました。地域の財産であり、未来への希望である子どもたちが、津波防災教育を活かしあの大津波から生き残ってくれたのです。同市では以前から津波防災教育に熱心に取り組んでおり、危機管理アドバイザーである私が子どもたちにしたのは、「姿勢の防災教育」でした。津波は100回くれば全部違う。固定的な考えは通用しない。主体的に自然と向き合ふ姿勢が何より大事だということを教えています。年間10時間前後を防災教育にあて、子どもたちに、次のことを教えて続けました。「想定にどうわかれないと」「その状況下において最善をつくすこと」「一人ひとりが率先避難者となること」。

今、私は、自宅の位置、震源地、避難の「動く津波ハザードマップ」を作成しています。今回、小中学生たちは、お年寄り、体の不自由な方にも避難の声掛けをして逃げました。くり返し訓練を行ふことによつて、自閉症の皆さんも率先避難者になることを願っています。

(群馬大学大学院教授 片田敏孝)

学校での防災教育

自閉症の人にもわかる防災教育、訓練が望まれます。

防災担当教員全校に一「てんでんこ避難教える」

文部科学省方針

東日本大震災を受け、文部科学省は、「防災教育」を全面的に見直し、宮城、岩手、福島の3県だけで児童・生徒635人が津波の犠牲になつたことを教訓に、指示がなくとも「どうすれば生き残れるか」を自ら判断し、主体的に避難行動ができるることをめざす。国として初の取り組みで、平成23年12月から研修を開始、最終的には、各校に防災の専門知識を持つ教員を一人配置する。

大津波に見舞われたにも関わらず、小中学生約3,000人のほとんどが無事だった岩手県釜石市では、「てんでんこ避難勧告」がでたら、率先して逃げる」とことが学校でも徹底されていた。研修を行う独立行政法人教員研修センターでは、「この研修によって、今後の災害で、より多くの見学者の命を救うことに結びつけてほしい」としている。

(読売新聞平成23年11月15日付朝刊より抜粋)

放射性物質被害対策

外部・内部被爆を避けるための対応と検査の実施を確実に！

原発事故による放射性物質被害対策について

東日本大震災に伴う福島第一原発事故により大量の放射性物質が広がり、福島県では、多くの人たちが避難を余儀なくされました。外部被爆、内部被爆による身体への影響も心配されています。

「外部被爆」は大気などからの放射線を体の外から浴びること、「内部被爆」は放射線を含む空気を吸ったり、水や食品の飲食によりおきます。食品から体に入つたヨウ素は甲状腺にたまりやすく、チエルノブリ原発事故の後には、放射線ヨウ素を含む牛乳を飲んだ子どもで甲状腺がんが増えました。そのため、建物や土、樹木などについた放射線を取り除くことが重要です。また、食品からの内部被爆を避けるために、厚生労働省では、水は10ベクレル、乳児食は50ベクレルなど、新たに基準をまとめ、平成24年4月からは、定期的な甲状腺の検査を生涯続けることとしています。

(注：ベクレル＝放射性物質が放射線を出す能力の強さを表す単位。シーベルト＝放射線による人

体への影響を表す単位、1ミリシーベルトは1,000マイクロシーベルト)

事故を想定した放射線被害対策、避難訓練を地域とともに！

被災地から：災害や事故に対する認識の甘さを痛感

私たちの児童デイサービス事業所は、福島県富岡町にあります。原発から10kmです。それまでは月1回、スタッフと利用児で火災や地震を想定した避難訓練を行っていました。発生から初期消火、第一避難場所までの誘導、というマニュアルにそつたものでした。しかし、あの時私達が何によつて動いたのかというとマニュアルではなく、自分自身の判断でした。小学校へA君を迎えて車中で地震にあつたスタッフは、対向車の人に「津波が来る！」と言われルート変更して事業所に戻りました。続く余震に療育不可能となり自宅へ送りましたが不在。町の体育館へ行き、大勢の避難者の中から小学校の担当の先生を見つけ、引き継ぎをお願いしました。

原発がすぐ近くにありながらその事故は全く想定していませんでした。携帯電話もつながらず情報もない中、現場の判断で行動してくれたスタッフに感謝です…が、その一方で災害に対する認識の甘さを感じました。

(福島県福祉事業協会 のびっこらんど田村 管理者 持詫純子)

要援護者名簿への登録と福祉避難所の設置

東日本大震災を経験して、要援護者名簿の活用や自閉症の人も安心して過ごせる福祉避難所の設置が必要です。

要援護者の支援の対策が急務－要援護者名簿を有効活用するため

災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障害者を把握するための「災害時要援護者名簿」について、今回の東日本大震災では、当協会が行ったアンケート調査でも必ずしも有効ではなかつたとの回答が寄せられています。個人情報の関係で対象者名簿の整備が難航したり、地域とのつながりが薄れ、支援者の確保が困難になつていること、支援対象者ごとの個別支援プランの作成が未整備であること、体制が整備していくても、今回のようなら広域的な激甚災害で機能自体が停止してしまったなどからです。

「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」策定に関わった東京都板橋区の鍵屋一福祉部長は「被災を減らすための事前の工夫や、避難所生活、生活再建まで含めたトータルな仕組み作りが急務であり、地域の特性を考えて避難支援を考える必要性」を指摘、さまざま個人や機関との連携を日常的に作り上げることが重要と提言しています。

(各資料より委員がまとめたものを、鍵屋一福祉部長に監修していただきました)

被災地から：自閉症の人の避難の場所の確保を

仙台市の場合、各区ごとに一つ障害者生活支援センターがあります。災害時には、福祉避難所として、開かれることが決まっています。精神、身体、知的の三障害が対象です。災害時要援護者を受け入れるための三次的避難所です。要援護者名簿は、市の障害企画課に登録するものと、地域で任意で作成するものがありますが、実質的に関係ありません。仙台市内に障害者手帳を持つている人は1万5千人です。間に合いません。他に福祉指定が42カ所決まっています。全てが、老人ホームや老人福祉センターです。要援護者とは、「自分で避難することができる方々」と手引きに書いてあります。が、地域の一般の人々は、「動いて仕方のない人々」が自分で避難することが困難な人々とは思いません。つまり、「行政の用意しているものなど当てにならない」と思つていて、丁度です。災害時には、どう行動するか、日常の場所（支援学校、学級、放課後ケア、通所施設etc）の支援者と場所の確保についての約束をしておくことが大事です。その約束を行政にわかつて置いてもらいう方が確実です。把握してもらえていれば、食料も水も支援も来ます。

(宮城県自閉症協会 目黒久美子)

災害時、救助にあたる方へ

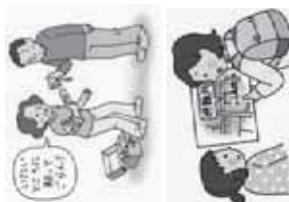
公共機関の皆様、地域の方たちへ次のことをお願いします

■ 安否確認
■ 誘導
■ 連絡
■ 保護
■ 保連



特に気をつけいただきたいこと

- ケガや病気が疑われる場合
ケガや痛みを伝えられない人もいます。
また痛みに鈍感な人もいます。
- ケガをしていないかどうか、よくみてください。
骨折や腹膜炎をおこしても普通に動いている人もいるので注意を
- 自閉症の人は、てんかん発作や持病のある人もいるので注意を
- パニック状態になった場合
急に大きな混乱を見せる時がありますが、それは不安の現れです。
■ 大丈夫だと声をかけ、安全な場所に移動させる
■ 興味をきりかえられるようなものを勧める一飲み物、食べ物、ゲームなど
- 自閉症の分かる専門スタッフに対応を頼む



本人・家族へ支援していただきたいこと

- 福祉避難所の設置と周知を
- 被災障害者相談センターの設置を
- 自閉症支援専門スタッフの配置を

支援の仕組み弱い現実、個人での備えを

東日本大震災では、自閉症の人たちをきかえる仕組みの弱さを目の当たりにしました。昨年末にあつた国の防災基本計画の修正時も、要援護者の中には自閉症が十分に位置づけられたことは言えない。携わったある委員は私に「自閉症などを議論する時間が足りなかつた」と話した。この現状は変えるべきだ。しかし当面は個人で備えるしかないので現状だ。震災時は買い物が起き、自閉症の方や家族はまずここで出遅れる。ある家族がコンビニに着いた時には、食べ物はノリやゴマ塩に至るまでなかつたといつ。避難所生活では少しでも落ち着いてもらうためプライベートの確保が必要だし、寒さ対策も必要だ。ある体育館内では、その西方に対応するために寄付されたテントが使われた。水や食料などの物資、コンパクトで軽量なテント、そうした物資を一つのザックにまとめてすぐ持ち出せる形にしておく。不十分な仕組みの改善を求めて、せめて目前の備えだけでも万全にしておきたい。（朝日新聞 赤井陽介）

被災地から：被災の現実 一学校では—

原発で避難を余儀なくされた。5回も（1日のうち2回のこともある）避難移動させられた。正しい情報と適切な避難指示が欲しかった。＊情報もなく、何のための避難か、どこまで避難したらよいのか見通しがつかなかつた。

辛かつたこと—初期の避難所では、味のないおにぎり一個で、辛かつた。
・長引く避難生活の中で、生活習慣がくすれていつしまつた。
嬉しかつたこと—地域ごとの避難所で、友人、知人だけで、子どもは一緒に遊べてよかつた。
・温かい食事、ボランティアの支援、体操、ドリルなどで教育的支援
・物質的な支援とともに、多くの「心」の支援が伝わってきた。

（福島県立富岡養護学校校長 大関彰久）

被災地から：被災の現実 一避難所では—

原発で避難を余儀なくされた。5回も（1日のうち2回のこともある）避難移動させられた。正しい情報と適切な避難指示が欲しかった。＊情報もなく、何のための避難か、どこまで避難したらよいのか見通しがつかなかつた。

辛かつたこと—初期の避難所では、味のないおにぎり一個で、辛かつた。
・長引く避難生活の中で、生活習慣がくすれていつしまつた。
嬉しかつたこと—地域ごとの避難所で、友人、知人だけで、子どもは一緒に遊べてよかつた。
・温かい食事、ボランティアの支援、体操、ドリルなどで教育的支援
・物質的な支援とともに、多くの「心」の支援が伝わってきた。

（福島県・小学生保護者）

具体的な生活の配慮を

わがままではなく、障害の特性であることを理解してください

■ 座布団や椅子などで居場所を設定 パートション（間仕切り）の設置

大勢のなかでは混乱する人がいます

居場所をわかりやすく指示



■ 簡易式トイレや、洋式便座を用意

こだわりがありあって、洋式トイしゃか使えない人もいます

■ 食べ物への配慮

感覚過敏のため、特定の食べ物しか食べられない人がいます

■ 物資は、個別に配給を

順番を守るということが、なかなか分かりません
子どもを一人にしておけないので、
家族は取りに行けないこともあります



■ 入浴の付き添いを

同性の方、ボランティアをお願いします

■ 情報の連絡も本人・家族に直接情報が届く方法を

■ 本人の発散と親の心身の休養のために散歩や遊びに連れ出してくれれるボランティアを

被災地から：避難所での子どもたちの生活は

避難所の中では情報が入らないことが多いので、避難所名簿にきちんと氏名等を載せてもらうこと、教師は情報収集に努めることなどが大切であると感じた。安定した生活をできるだけ送るために、以下の配慮が必要だと考えられる。

*冬季は寒さ対策とともに感染症対策が必要である。手洗いや歯磨き、洗面、掃除の時間を生活のスケジュールの中に設定する。

*普段使っている本や写真、画用紙等文房具、遊び道具があると情緒の安定につながる。

*子どもたちの状態に応じて、食事の工夫、使えるトイレの工夫をすることが重要である。（しかし、特別扱いでではなくあくまで避難者全員に対する平等な対応の中で考える。）

*日中は体を動かすなど役割分担することが、遊び、積極的な生活につながる。

*避難所となる学校には、ごみ出しなど役割分担するコーディネーターがいるので、相談し避難所生活のコーディネートをしてもらうといい。

（仙台市立高砂小学校教諭 遠藤真利子）

避難所のスタッフとして

自閉症の人が直面することが今回の震災では取り組まれています。
少しでも和らげることが今後の震災では取り組まれています。

■ 本人や家族のニーズに少しでも合わせた支援を

東日本大震災発生と同時に、指定避難所である本校には地域内外の1800人もの人でふれた。学校長の許可をいただき特別支援学級の保護者の希望を聞きながら、体育館内に設置された避難所本部脇の控え室に特別支援学級だけの避難場所を設定した。普段と同様の顔ぶれで生活の流れに沿った。教師は生活の割り当て等）を行つた。保護者同士で話し合いを進めることが必要であった。また、ライフラインが確立次第、シアティフをどこで必要であった。また、ライフラインが確立次第、ルール作り（生活の流れにおける分担、生活空間的に困難で、教師が二つの片付けに行って貰つた。1週間程度で各家庭に戻ることができるようになった。担任教師が4名いたことや学生ボランティアがかかる学級にいたことで役割分担や交替が可能となり保護者や子ども達のニーズに少しでも合わせた支援を進めることができた。

（仙台市立高砂小学校教諭 遠藤真利子）

■ 孤立させない気配りと人とのつながりを大切に

避難所は一般の方々にどつても厳しい環境です。まして、自閉症の人や家族にどつての負担感、不安感は相当なものでしよう。災害に備えて要援護者登録やサポートブック、福祉避難所の整備など準備しておくことも必要かもしけれません。しかし重要なのは、「知つている人や協力してくれる人がいる」という関係性です。家族を孤立させないよう支援者はひとの助け合があります。支援者自身もまた人のつながりによる傾向にあります。在宅で避難生活をしている自閉症の方々や家族への支援が手薄となる場合があります。訪問等で必要な物資やライフラインの状況がわかると感じました。

※支援者自身も被災しながら実際に支援に応じている場合があります。
精神的負担は相当なもので、外部の支援をうまく使いながら、適度に休息し支援に当たってください。
(岩手県宮古署域障がい者福祉推進ネット 相談支援専門員 高屋敷大助)

避難所に行けない人もいます

東日本大震災では車中泊の人も少なくありませんでした。避難所の環境の工夫や配慮、周囲の理解などで避難所で安心して生活できるような整備が課題です。自閉症の人の特性に配慮した福祉避難所が必要です。

自閉症の人が避難所に行けないのは…

- いつもと違った場所、騒がしい音など様々な刺激が苦手
- まわりの状況や他人の気持ち、特に「暗黙の了解」が理解しにくい
例えば、被災時に、避難所で、「共同生活なので譲り合ひながら、お互いの迷惑にならないように、みんな我慢している」などが分かりにくく。
- 本人も苦しいので、トラブルが生じる
例えば、走り回る、急に走りだす、大声を出す、疲れず騒ぐなど
- このように本人にも家族にも負担がかかり、家族も遠慮して、避難所へ行くことができず、壊れた家、車の中で過ごさざるをえない人もいます。避難所の環境の工夫や配慮により、本人の混乱と不安を少なくして避難所でも過ごせるようにすることが必要です。

「車中泊・テント泊」アウトドアの知恵

- 避難所で生活することが出来ず、やむを得ず自家用車やアウトドア用のテントで生活をする場合もあります。アウトドア用品の中には、テント、ランタン、簡易トイレ、シユラフなど避難生活の時に役に立つ物がありますので、シールド以外でも使えるように手入れしておくと、いざというときに重宝します。その際に、忘れがちなこととして気をつけておくことは、次の通りです。
1) 車やテントは周囲の安全を確認して設置する
2) 情報や配給物の確保のため、避難所に定期的に顔を出す
3) 安全や心の健康のため、隣近所と常に声を掛け合う
4) 車やテントに閉じこもらず、出来る限り外で身体を動かす
- また、車中泊で起こりやすい「エコノミークラス症候群」を予防するためには、
1) 足踏みなどをして身体をこまめに動かして、長い時間同じ姿勢を取らない
2) 服をゆるめるなどして、身体を締め付けない
3) 水分をいつもより多めに取る
- 以上のことを実行してください。（くまもと脊盲クリニック 院長 岡田稔久）

☆携帯用充電器、乾電池、食料品、お気に入りグッズなどの準備も忘れずに

就労している自閉症の人に配慮を

就労している自閉症の人が災害にあった時のために、安否確認、連絡方法、避難など日頃から備え、災害後の対応についても考えておきましょう。

一般就労の場合：職場を取り決めを

- 災害直後の安否確認をどうするか……震災直後、電話は通じない。東日本大震災後、最初の通話は息子（31歳）からの携帯電話で3時間後でした。
- 帰宅させるか、会社（スーパーマーケット）に待機させるか……JRの不通、帰宅困難者による混雑状況から、車で会社に息子を迎えたが、交通渋滞のため、普段なら車で2時間のところを約5時間かかった。震災後、会社との話し合いでの、災害時は帰宅せずに上司宅に泊めていたことに。
- 避難訓練と日頃の備え（非常食・水など）……震災当日、避難誘導は会社の災害マニュアルに従って行われ、息子は混乱なく行動できただとのことです。
- JR通勤途中での災害への備え……災害時にJRが不通の場合は「避難所」を利用することや、食べ物・飲み物・身分証明書（障害者手帳のコピーなど）を常時携帯することなどを家庭で折りに触れて確認することに。避難所では自閉症者への対応をお願いしたい。
- 特に影響が大きかった計画停電……来るべき計画停電が来ない。息子はみるみるうちに唇は青ざめ、冷や汗が出て具合が悪くなつた。この停電の説明を丁寧にしてやると、こういうこともあるんだなということも学んだようですが、不調は1回だけでした。（埼玉県・31歳男性の母）

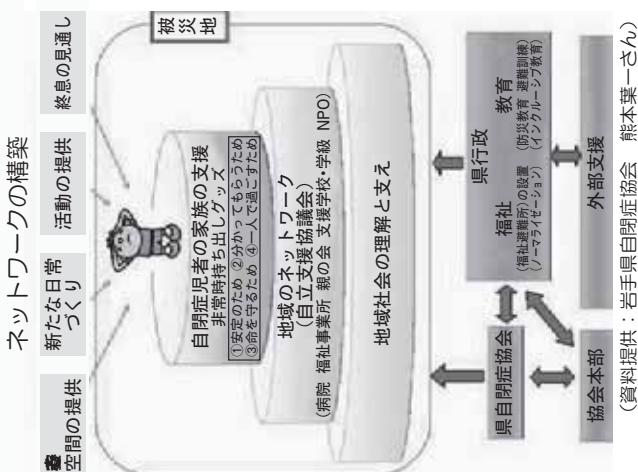
作業所の場合：災害マニュアルと支援者の判断が重要

- 震災当日は、全員の利用者さんをご家族に引き渡すことができました。その後ご家族と一緒に避難所や公園等で過ごすことは非常に困難です。そのため、通所施設である「南村ホーム」が、緊急時の避難所になるよう仕組みづくりが必要だと痛感しました。
- 震災直後よりライフラインが止まり開所が困難な状態でしたので、やむ無く臨時休所にしました。しかし、通信手段は途絶えてしまつたため、ラジオ等に依頼し発信することができますが、全員に伝わった訳ではありませんでした。災害時の通信手段や連絡方法について検討する必要性を感じました。
- 臨時休所の中には、携帯電話やメール等の思い付くあらゆる手段を使い、利用者さん及びご家族の状況確認をはじめ、「C�したすけど」との想いで過ごしました。日頃からの各機関や事業所等のネットワークの必要性を実認識した次第です。
- 未曾有の大震災を体験して考えたことは、「災害マニュアル」の必要性や「避難訓練」の重要性もありますが、その時の支援者の判断がいかに重要かということです。また、支援者が「生命の尊さ」とともに、「使命感」を持ち続けることが最も求められる事だと実感いたしました。

（社会福祉法人みすきの郷のぞみ苑分場南村ホーム 支援課長 千葉はるみ）

災害時のネットワークづくり

災害時の会員ネットワークにより緊急連絡で安否確認を図り、また、被災地からの情報発信で行政や相談支援機関に会員の声を伝えていくことで、関係機関の相談支援体制が確立され、より支援を充実させていくことが必要です。



被災地のネットワーク
新潟県自閉症協会では、新潟県中越大地震の教訓を生かし、2007年の中越中地震で役員・事務局と被災地域役員の緊急連絡により、安否確認ができました。自宅以外の連絡先、会員緊急連絡簿の作成、災害伝言ダイヤルの利用法の周知等も必要です。

右の図は、岩手県自閉症協会のネットワークで、東日本大震災において機能が図られました。日頃からネットワークの構築と機能の確認が重要です。

東日本大震災による原発の事故で、福島県には、震災前に生活していたところから、生活圏域外への避難を余儀なくされた方がいます。生活圏域内の避難であれば、相談するところがありますが、福祉サービス事業所も利用できていたのに、避難支援事業所も知らない、福祉サービスの事業所も知らない土地位してしまっているところは、知り合いもいない、相談しても行政の職員も知らないという状況です。行政に相談しても行政の職員も知らない方も多いと想います。何を頼ればいいのか…。

そこで、被災を受けた障がい者のための相談窓口を開所し、県内の相談支援事業所の協力を得て、避難先の行政との連携をはかり、それぞれのニーズに合った支援体制をとることで、できるようになりました。今後、災害時には、「相談窓口の早期開設と周知」が最も重要なことと思われます。

(JDF被災世帯障がい者支援センターひくしま相談支援室 宇田春美)

災害時の連絡 ～安否確認と情報の発信～

災害時に重要な通信の確保の備えがされています

- 110・119・118番緊急通話

- 災害時優先電話
 - 災害用伝言サービス
 - 特設公衆電話の設置、携帯電話などの貸し出し

NTT災害用伝言ダイヤル「171」の場合

- 「171」をダイヤルし、利用ガイドンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。

- ・伝言の録音方法を確認しましょう。
- ・伝言の再生方法を確認しましょう。

体験期間：毎月1日と15日、「正月三が日」「防災週間」および「防災訓練」

NTT災害用伝言板サービスの場合

- 災害発生時などに、携帯電話を利用して安否情報を登録、人の安否情報を携帯電話やパソコンから確認できます。

- ・伝言の登録方法を確認しましょう。
- ・伝言の確認方法を確認しましょう。

体験期間：毎月1日と15日、「正月三が日」「防災週間」および「防災どがランティア週間」

その他、災害用ブロードバンド伝言板（web171）も使用できます。

さざまな連絡方法の活用

- ・学校・避難所・町内会への問合せ
 - ・ラジオなどの情報網を利用——阪神・淡路大震災のとき、拠点となつた（社福）愛心園では、ラジオを大いに活用し、多くの自閉症・知的障害の人の安全が確認されました。
 - ・車が通れない場合が多いので、自転車、バイクが便利
 - ・町内会や避難所の掲示板の利用など

災害の現場からQ&A

Q3

同じことを何度も聞いてきて、答えても、質問がとまりません。
(ボランティア)

何がほしいのか分からなくて困りました。

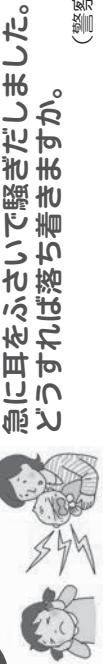


A 話している言葉とは関係なく、不安のあらわれかもしれません。何回でも聞いてあげてください。状況から推測されること（例えばテレビが見られない）を聞いてみることも一つです。また、自分の欲しい答えを自分の決めた言葉で言ってもらいたいだけのこともあるので、同じ質問を返してあげると、答えを言ってくれたり、納得して質問を止めることがあります。

Q1

A 実物（食べ物、飲み物などや下車駅や自宅が分かるための路線図や地図）を見せて聞いて下さい。言葉が不十分だったり、発音が不明瞭でき取れない人でも、字を書いて意志を伝えられる場合があります。何を要求しているか知るために「トイレ」「食べているところ」や「携帯などで電話をしているところ」などの写真・絵のカードの用意や支援カードの活用がされることがあります。

Q4



急に耳をふさいで騒ぎだしました。
どうすれば落ち着きますか。

(警察官)

A 子どもや赤ちゃんの泣き声、体育館などの反響音が苦手なのがもしません。さしあたり静かなどころに移動してもらい、しばらく様子を見てください。刺激を遮断することも有効です（耳栓をつける、ヘッドホンをつけて好きな音楽を聴く、毛布をかける）。

Q2

どうすればこちらの指示をうまく伝えられますか？

例えば座っていてほしい、動かないでほしいときなど、どう説明すればよいでしょうか。

A 「座って」という声かけで座らなかつたときは「椅子」や「座布団」をみせて身振り手振りで示して「ここに座ってね」といつてください。絵カードなどを使って伝えたほうが分かりやすい人もいます。動作ごとに言葉を区切って「立って」→「おいで」→「座つて」のように声をかけてください。



A まず医療スタッフを探しましょう。

また、最寄の病院に問い合わせてください。「サポートブック」や学校の「緊急連絡カード」に処方箋、病院名、調剤薬局名の記載があれば、処方してくれます。また「おくすり手帳」、「処方箋のコピー」があれば見せてください。

何よりも、お薬がなくなる前に早めに相談してください。



Q6

余震が続いたり、避難所での生活が長引き不安が強くて家族から離れられません。
また、災害後もストレスのためか荒れ始めました。どうすれば良いでしょうか。

A カウンセラーや主治医に相談してみてはどうでしょうか。また、野外で体をうごかせる遊びや運動もいいかもしれません。可能であれば散歩などを毎日の日課として行えれば、気分転換にもなることがあります。ボランティアの方に連れ出してもらって本人も発散し、お母さんも休めるといいですね。



Q8

サイレンや警報が理解できず、避難するにはどのようにすればよいでしょうか。（親）

A 自閉症の人にとってシグナルはわかりにくいで、避難訓練などで人に合った避難の指示の把握が必要です。今回の震災でも、「逃げろ」で動かない人も、いつもの活動や具体的な場所への移動を促すことで避難してきた事例があります。（被災地へのアンケート調査から）

Q9

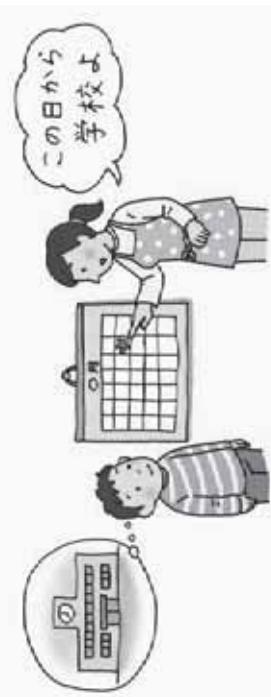
食料等が配布されません。また、情報も入ってきますません。子ども們の不安に対するどのような対処がありますか。（親）

A 今回の震災では、ライフラインや情報が断たれ不安な日々が続きました。親が不安になると子どもに影響するので努めて普段通りにゆっくり日常の必要最低限のことをやついたためか、段々落ち着いて過ごすことができました。（被災地へのアンケート調査から）

Q10

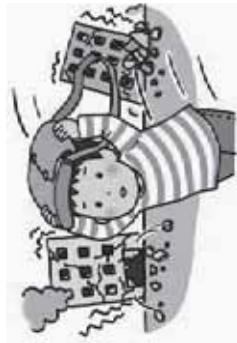
日頃からの地域との連携やネットワークを強めるには、震災を経験して今後どのようなことが課題になりますか。（親）

A 今回の震災では、次のようにいくつかの意見がありました。「災害時ににおける地域の避難マニュアルや行政の柔軟かつ、弱者への十分な配慮が欲しかった。」「自閉症の人が避難できる場所が欲しかった。」「地域の福祉コーディネーターの訪問があり相談できるとよかったです。」「埼玉県への避難では自閉症協会の方々の相談が心強かった。」これららの課題に今後、取り組むことが必要です。（被災地へのアンケート調査から）



心のケア PTSDについて

災害時の情緒的反応のひとつである外傷後ストレス障害(PTSD)に注意し、心理的健康の回復を図つていく必要があります。宮城県における支援の実際に基づく「心のケア」を取り上げます。



心的外傷を生じさせる出来事とは、その人が成長発達の経過の中で獲得した不安に対する対処能力を打ちのめすような出来事である。すなわち、その人間の心の中には、心がその出来事の意味を理解し、処理する閾値を遙かに越えた刺激が氾濫してしまうとともに、自分の心の平衡を守る心的機能の破綻を起こすのである。その結果、実際の出来事が더라도のばかりではなく、自分の内的な源泉から発生していく強烈で圧倒的な不安に対しても傷つきやすい状態になる。PTSDは心的外傷を背景にして、以下の3つの主要症状を呈する場合に診断される病名である。第一には、外傷的な出来事の再体験、例えば、フラッシュバックや悪夢に苦しむ。第二には、類似した出来事に対する強い心理的苦痛と回避行動を示す。第三には、持続的な覚醒亢進症状、例えば睡眠障害、ちょっとした刺激にも反応を示す、集中困難、過度の警戒心、過剰な驚愕反応などを示す。

PTSDに対する治療法には、TF-CBTなどいくつかの技法があるが、PTSDに対するケアの基本は、まずは落ち着ける場や安心できる対人関係を提供することである。その上で、睡眠障害や感情の不安定さなどの症状を軽減するための薬物療法を行うこともできる。日常生活を少しずつ元に戻すことや、他者との関係作りによる本人のサポートネットワーク作りを押し進めることも回復に向けた重要な課題となる。

(宮城県子ども総合センター 所長 本間博彰)

心のケア 自閉症の人への支援

災害による環境の変化が大きいためから、自閉症の人たちへの災害直後の対応や長期に渡る対応が必要な場合もあります。



災害直後は生活環境が大きく変化することや、周囲の人たちの行動が普段とは異なることから、災害直後の見通しの立てない、あるいは憮然とした生活状況は自閉症児・者に混乱を与える。避難所の生活では、大人数の人々の発する音は耳障りな雜音になることが多い、聴覚過敏な自閉症者では耐えがたい環境になる。大勢の人と一緒にする生活は視覚的にも刺激過多となり、パニックの原因になることがある。

災害直後の対応としては、彼らに加わる刺激を減らす工夫が必要になる。可能であれば、カーブマウンスペースを設け、落ち着かないときはその空間で過ごせるようにする。あるいは段ボールなどで一人になれる空間を設けることも役立つ。混乱やパニックがひどいときは、精神安定剤や睡眠剤が有効な場合もある。

避難生活が長引く場合には、慣れていない居住空間での生活を分かれやすくすることが不可欠になる。構造化の工夫が必要で、視覚的に分かるように文字あるいは絵を用いて、行動しやすい空間にすることも必要になる。保育所や学校でも同様で、分かりやすい生活空間にする工夫が必要になる。

災害時はケアや指導を担当する専門職が落ち着きを欠いた状態で自閉症の人と関わることが多い。普段と異なった態度や指示をすることが多くなり、これが引き金となって彼らの問題行動を引き出すことがあるので、担当者や専門職は自分自身の精神的な状態にも気を配りたい。

(宮城県子ども総合センター 所長 本間博彰)

心のケア 家族への支援

家族への支援も災害直後の対応と長期に渡る対応が必要となる場合もあります。



災害直後には、多くの住民が混乱とパニックの状態にあることから、自閉症児・者の家族は周囲に気兼ねをし、孤立することが多くなる。また支援から取り残される傾向にある。よって、このような危機的状態においては家族同士の連携や助け合いが不可欠となるので、平時から他の家族と連絡する仕組みを作つておく必要がある。また、支援する側の課題として、ハンディキャップを抱えた人たちの支援を災害対策の項目として位置づけるとともに、そのようなコーディネーターを養成しておく工夫が望まれる。

災害時に明らかになる問題は、それ以前の時期に十分に取り組めなかかった問題でもある。自閉症児・者を抱えた家族にも東日本大震災は多くの教訓を残した。近い将来、いつ、どこで大災害が起きても不思議はない。家族と共にしつかりと備えをすることが家族に対する最も現実的な支援となる。（宮城県子ども総合センター 所長 本間博彰）

心のケア 本人・家族への支援 (福島県の場合)

地震、津波に加え原発問題のある福島県における支援の実際に基づく「心のケア」を取り上げます。



自閉症の人への心のケアをする時には常に自閉症から考えることが必要です。福島県でも震災後の「心のケア」をする際に「傾聴的・受容的なカウンセリング」や地震や津波に関する「絵を描く」「作文を書く」「皆で話し合う」といった支援がざっとあります。このようない方法が効果をあげることもありますが、逆に不安が高まるこどもあり、リスクについても意識することが必要です。「心のケア」で優先順位が高いのは自閉症の人の不安を和らげることです。もともと自閉症の人は不安になりやすいのです。震災後のようになる生活全般が大きく変わった時には、さらになつていませんから、「心のケア」の支援者が安心できる環境は予測可能であること（見通しがあること）、理解可能であること、安心できる環境です。慣れ親しんだ「物」（ゲームやDVD、本など）や苦手な刺激の少ない静かな環境が必要です。一般の人は、このような自閉症の人特有のニーズを知りませんから、「心のケア」の支援者としておこなうことは自閉症の特性について周囲の人理解してもらうことです。専門家の間で放射能不安についてどう対処するかは難しい問題です。専門家の間でも放射能の危険性に対する認識が大きく異なつており放射能の本当のリスク」は誰もわかりません。福島県で起きていることはまだかつてなかつたことです。「正しい恐がり方」も「間違った恐がり方」も誰も決めることはできません。自閉症の人の中には非常に放射能を恐れる人もいます。そのような恐がり方を間違いだと決めつけず、不安に共感する必要があります。ただし限なく放射能についての話を聞いていると不安がさらに高まることが多いので、本人の好みの話題やゲームなどに促し、自閉症の人の気持ちを放射能から別の何か肯定的な物に移していくように心がけましょう。

(福島大学大学院人間発達文化学類 教授 内山登紀夫)

大震災を経験して

災害に対処することが難しい自閉症に人たちの防災力を高めよう

■その人に合わせた避難の方法を

震災時、私は勤務先の自閉症者支援施設にいました。大きな揺れの都度、利用者さんは中庭に避難しましたが、避難訓練に慣れているせいか行動はスムーズでした。深夜になり自閉症の息子の様子を見に家に戻る妻が「地震の時に校内で体を便直させ、後ろから体を押してもらい、やつと外に出られた」と避難移動の難しさにため息をついていました。どの程度の距離を誰と避難移動するかはその状況によって異なります。以前施設でボヤ騒ぎがあつた時、全員避難する中で2名の利用者さんだけはすぐに移動しませんでした。やむを得ずコーラの好きな△さんに「コーラ飲みましょう」と声を掛けると、すぐ移動しました。また「災なので避難しましょう」と伝えても「災害は起きません」と微動だにしないBさんに對しては「避難訓練です」と伝え方を変えたら「はい」と言いすぐ移動しました。どの方法だと移動できるのかを支援者はは々に応じて把握しておく必要があります。

(障害者支援施設の家サービス管理責任者・岩手県自閉症協会副会長 小川専敬)

■障がい者が避難できる場所を

震災、原発事故での避難の際、避難所に行かなかつた障がいを持つ方がいた。その理由は「避難所では生活できない」「人混みで落ち着いていいる事ができない」という諦めからだった。私の住む郡山市でも福祉避難所はなかつたが、市に障がい者向けの避難所を指定してもらった。そこでは会議室などを活用して、個別対応が必要なご家庭も受け入れることができる。また介助が必要な方にについては、私たちの事業所スタッフが介助にあつた。

今回の経験から、やはり福祉避難所は必要だと感じた。その際にには施設がバリアフリーであることはもちろんだが、ベッド等の備品の整備、個別対応が必要な方に提供できる部屋又は設備、介助者の確保などが欠かせない。まずは、避難所を「障がい者が避難できる場所」にすることが必要ではないか。そして態勢ができたら、それを多くの方に周知し、「避難することを諦めなくていい」ようにしていく事が大事ではないか。それも早急に…。

(特定非営利活動法人あいえるの会自立生活センターオフィスⅡ所長 岡部 聰)

復興と支援の継続に向けて

日々の活動を通して、地域での人の絆をより強めていくことを願って

■被災地障がい者支援センターふくしま・活動の報告

被災地障がい者支援センターふくしまは、東日本大震災直後3月19日に活動を開始する。センターの活動は支援物資を被災した地域の障がい者事業所に配布したり、きょうざらんの方達と一緒に避難所回りをする。福島県でも特に被害の大きかった南相馬市の障がい者関係の事業所支援と在宅障がい者の調査活動を行っていく。昨年の夏あたりから福島県内各地に仮設住宅が建設されたので、ボランティアさん達と一緒に仮設住宅を回って障がい者の所在の確認を行っていく。障がい者にとって原発による放射線被害は大きいので障がい者の県外避難を容易にするための拠点を神奈川県相模原市に設けていく。また県内の被災障がい者の交流を図り、ゆったりとくつろぐことの出来る被災地障がい者交流サロンを11月にオープンして、今日に至っている。センターの地道な活動が認められて今年の1月から福島県からの補助事業を受けることが出来た。(JDF被災地障がい者支援センターふくしま代表 白石清春)

■震災：～「安心感」を日常に～

被災した誰もが安心した日常を送りたいと願っています。自閉症の人々やその家族も同じ思いであり、安心感を提供していくことが復興へ向けての取り組みと言えるでしょう。具体的には、地域内での顔の見える関係性づくり、地域全体での理解協力、啓発活動として研修会や懇談会の開催、本人や家族を孤立させないような柔軟な連携体制が求められます。この良循環を日常の中に作り上げることが自閉症の人々や家族に安心感をもたらし、結果として復興へつながると感じています。これは普段から必要とと言われてきた取り組みであり何も特別なことではありません。この特別ではない、日々の当たり前の支援を私たち支援者は継続していく必要があると思います。

ある自閉症の子どもを持つ父親のコメントを載せておきます。「災害時に自閉症への理解をといつても難しい、平時にできることが災害時にできるわけがない、普段からどう社会に働きかけているかが大切だ」この言葉はどうしても説得力を持っています。

(岩手県宮古園域障がい者福祉推進ネット相談支援専門員 高屋敷大助)

復興と支援の継続に向けて～災害を乗り越えて～

東日本大震災からの復興といまだ不安の続く原発事故に伴う被害に対して、支援の継続が求められます。阪神・淡路大震災、新潟県中越大震災の経験や教訓を生かしていくため、防災ハンドブックからポイントを取り上げました。

災害時に確かな対応ができるためのポイント
一「防災のポイントは日常の活動が全てを決める」一

■障害者施設も地域の拠点

日々の施設のあり方や、積み上げてきたものが重要です。近所付き合いや、「報告・連絡・相談」など、いざという時にも力を発揮します。

■情報発信の基地としての機能—日頃からのネットワークづくりを
施設間、施設ごとに行政、医療機関、保護者等とのネットワークが普段から整備され、また、拠点として食料や飲料水、燃料の備蓄、人的資源・経済的資源・社会的資源の準備が必要です。

■司令塔としてのポイント

一刻も早い司令塔・臨戦的な組織体制の構築——まず、情報の一一本化、安否確認、支援態勢の調整を並行して身近なところから立ち上げていくことと、出来るだけ広く、早く周知させることができます。

(社福・愛心園 福田和臣さんの記述内容の抜粋)
災害後に自閉症の人に対する支援のポイント
一「本人の環境を一日も早く日常に戻すこと」一

■復興対策と同時進行で
一日でも一時間でも早く非日常性を解消し、日常に戻すことが自閉症の人たちには一番だという気がします。

■専門の相談員によるカウンセリングを

日常にもどるまでにすごくストレスがかかり、対応として専門の相談員による本人・家族へのカウンセリングが必要です。
(新潟県自閉症協会 坂内正文さんの記述内容の抜粋)

■成年後見でサーフェイネットを

保護者が被災してしまった場合も十分想定され、成年後見制度、特に法人後見の準備をすこしておくことが安心につながります。
(社福・愛心園 福田和臣さんの記述内容の抜粋)

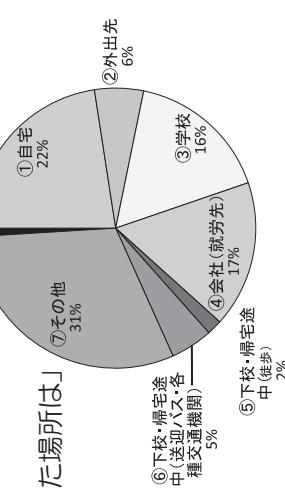
災害への対応では、日頃からの多面的な備えが何より必要で、災害後には、ネットワークを活用して、日常生活ができるようなるべくこどることにより、落ち着いて安定した生活ができる支援が必要です。

被災地の方々のアンケート調査から

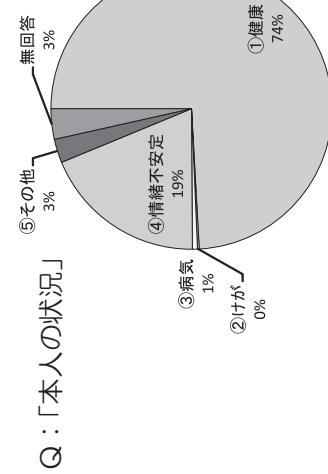
調査について

今回の東日本震災の自閉症をはじめとする、発達障害のある方々の調査結果の一部について掲載いたします。災害時の行動の変化にし、より適切な支援の方法や体制を構築するための基礎とするこことを目的に、アンケート調査が実施されました。被災地の自閉症協会のご協力により、調査対象を岩手県、宮城県、福島県、茨城県の会員の方々にお願いし、調査時点を平成23年12月6日として実施しました。調査事項は、被害や避難の状況、災害前と災害後の本人の状態、要望事項等です。調査結果から今後の備えや災害時対応に役立たせていく必要があります。

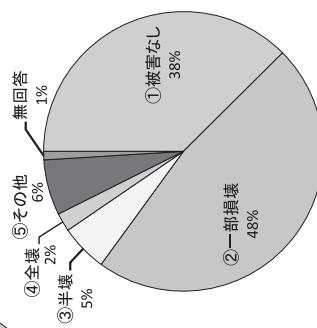
(1) 被害の状況



Q:「3月11日に災害にあった場所は」



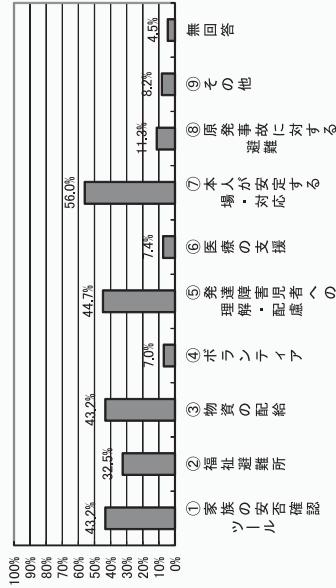
Q:「本人の状況」



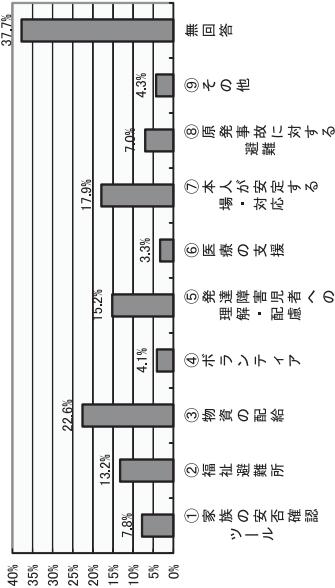
Q:「家屋などの状況」

(2) 支援の状況

Q : 「どのような支援が特に必要でしたか」（複数回答あり）

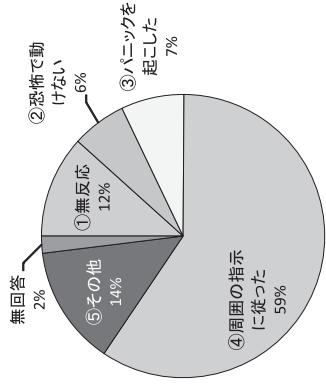


Q : 「欲しくても得られなかつた支援」（複数回答あり）

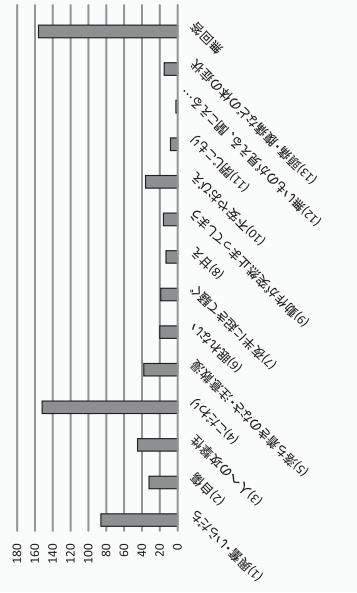


(3) 本人の様子

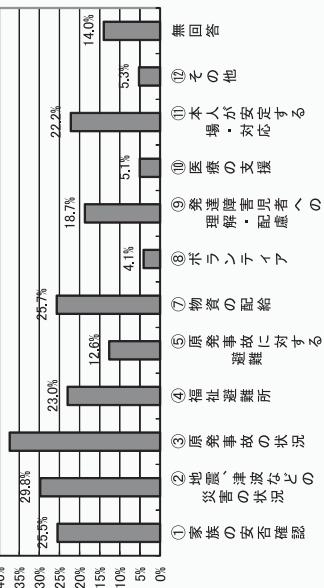
Q : 「災害時のご本人の反応・行動はどうでしたか」（複数回答あり）



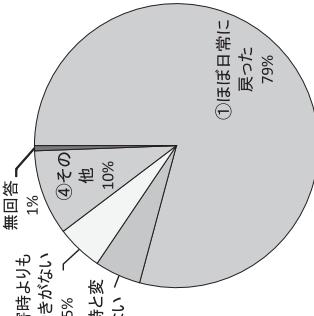
Q : 「一番困っている項目はどれですか」（単位：件数）



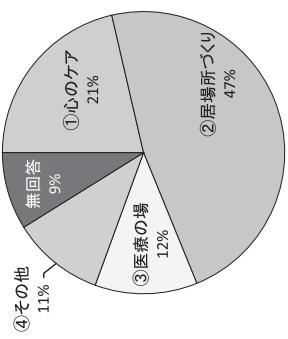
Q : 「欲しくても得られなかつた情報」（複数回答あり）



Q : 「ご本人の現在の様子について」



卷之三

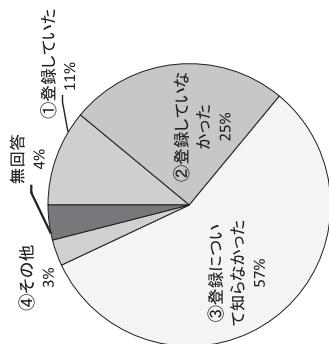


あとがき

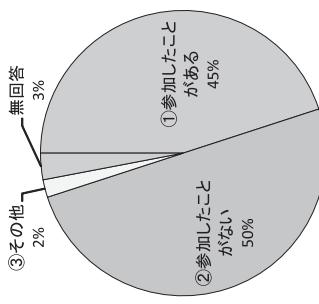
平成20年7月に刊行した防災ハンドブックは自閉症の人たちをとりまく全ての方々に役立てていただきたいという趣旨で作られました。その2年半後の平成23年3月11日に未曾有の東日本大震災で地震、津波、そして原発事故による放射線被害が多く人の命と生活を奪っていました。被災された自閉症の人たちは、現在も過難が続いている方も、また、就労先や学校に通いながら元の日常生活に戻そうと懸命に立ち向かっている方もいます。今回、厚生労働省の障害者総合福祉推進事業の一環として、現地調査、アンケート調査等を踏まえ、新たに内容を構成して、この大震災を受けて、災害への備えや対応について作成しました。ご協力いただきました多くの方々に深く感謝申しあげます。

(4) 事前の備え

◎：「要將這些名譽歸給祂」(太六17)



Q：防災訓練に参加したことがありますか」



平成23年度障害者総合福祉推進事業検討委員会

代 表 者：山崎 晃資（日本自閉症協会会長）

本間 博彰	宮城県子ども総合センター (宮城県子ども総合センター)
五十嵐 康郎	社会福祉法人萌葱の里 (心の保健研究会)
太田 昌孝	岩手県自閉症協議会 (岩手県自閉症協議会)
熊本 熊美	宮城県自閉症協議会 (宮城県自閉症協議会)
酒井 照之	福島県自閉症協議会 (福島県自閉症協議会)
高山 孝信	茨城県自閉症講師・出版委員会委員長 (東洋大衆非営利活動者)
三呂由紀雄	厚生労働省 (厚生労働省)
オザキ一郎	小林真理子 (日本自閉症協議会出版委員会)
協力 委員	森下 尊広 (日本自閉症協議会出版委員会)
白井 和子	阿部 放子 (日本自閉症協議会出版委員会)

集上ノスイ編編集協会編集部(日本自閉症協会出版委員会)、電書千恵子(日本自閉症協会出版委員会)、電書京紀子(日本自閉症協会出版委員会)、電書淳子(日本自閉症協会出版委員会)、電書市村力(日本自閉症協会出版委員会)

自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック - 支援をする方へ-

平成24年3月 第1版第1刷
発行人 社団法人 日本自閉症協会 会長 山崎亮資
〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 織田地622
電話 03-3545-3380 Fax 03-3545-3381
E-mail asj@autism.or.jp URL <http://www.autism.or.jp>
印刷所
株式会社新洋社

厚生労働省平成23年度障害者総合支援推進事業「災害における自閉症をはじめとする発達障害のある方の行動把握と効果的な情報提供の方等に関する調査について」により作成しました。

チェックシートを活用しましょう

——自閉症の特徴に配慮した対応を

行政関係（警察、消防、児童相談所、福祉事務所など）、福祉関係者、企業、学校、福祉施設もチェックシートをせひ作成してみてください。

災害に備えて

- 要援護者名簿の作成をしていますか
- 避難経路の案内は周知されていますか
- 避難所も周知していますか
- 福祉避難所を設定していますか
- 災害備品は十分準備していますか
- 自閉症の理解・支援の研修の実施をしていますか（警察、消防、自衛隊、電車・バス乗務員、民生委員などに対して）
- 自閉症の人にも分かる防災教育をしていますか
- 障害者も一緒に防災訓練をしていますか
- 「起震車」体験は？
- 災害に備えての宿泊体験は？
- タウンウォッキングをしたり、防災マップを作成していますか
- 事前に家庭と打ち合わせをし、本人に確認していますか
- 連絡手段や集合場所は？
- 安否確認の方法は？
- 通勤、通学途中で被災した場合の行動は？
- 届宅地図を家族と共に作成、本人に常時持たせていますか
- 災害直後、本人を帰宅させないか、あるいは家族や支援者に確認した上で帰宅させるタイミングをはかることになりますか
- 災害時には本人には必ず声かけをし、本人に説明・確認することになりますか
- 会社などには飲料水や非常食などを常備していますか
- 万一のときには親に代わる人を設定し、確認してありますか（成年後見制度の活用など）

災害発生！——その時何をするか

あの人には無事かな。

- 要援護者名簿と照らしあわせましたか
- 家の中にひとりで取り残されている人はいませんか
- ひとりでいる自閉症の人との連絡は？
 - 電車やバスに残されていますか
 - 健康状態の確認を
 - 連絡先の確認を
 - 家や学校、所属先に安否を連絡
- ケガなど被害の状況を確かめよう
 - ケガをしていませんか
 - ガラスでの切り傷や、打撲はありませんか
 - 「おくすり手帳」を確認しましたか
- どこに誘導したらいいでしょう？
 - 先ずは最寄りの避難所へ
 - 専門スタッフ（腕章などの目印）に相談
 - 福祉避難所が分かれば、そこへ誘導
- 避難先で支援すること
 - 被災障害者相談センターの設置
 - 自閉症支援専門スタッフの配置
 - 避難状況の確認（在宅や車中泊など）
 - 食事や毛布などの配給リストに漏れはありませんか
 - 車中泊エコノミー症候群など、健康上の注意
 - トイレは？（洋式、簡易式トイし、洋式便座の用意）
 - パーティション（間仕切り）の用意
 - 入浴の付き添い
 - 個別の対応をしていますか
- 本人、親へのメンタル面での支援、心のケアは

分析 · 考察

V 分析・考察

1 現況調査等の結果の分析・考察

平成23年度障害者総合福祉推進事業「災害時における自閉症をはじめとする発達障害のある方の行動把握と効果的な情報提供のあり方等に関する調査について」に検討委員として参加しました。私自身は、福島県の現況調査に参加しただけですが、現況調査報告とアンケート調査から、災害時の当事者とご家族の避難の状況やその後の様子の一端を知ることができました。得られた情報を元に災害時における自閉症をはじめとする発達障害児者への支援の課題を整理したいと思います。

(被災の状況)

今回の大震災で多くの尊い命が奪われました。津波による全壊、地震による半壊、殆ど被害なし、建物被害はないものの原発事故により避難生活を余儀なくされるなど、地域によって大きな差異がありますが、震災によってライフラインがストップし、水道、電気、ガスが止まり、食料、日用品、ガソリン、灯油、薬が入手困難となり、固定電話は無論のこと、携帯電話も一時繋がらないなど、通信手段が途絶え、日常生活に大きな支障をきました。

トイレが使えず、風呂に入れず、炊事もできない。何時間も並ばなければ、水や食料品、日用品、ガソリン、灯油が入手できないなど、被災したほぼ全域で日常生活に大きな困難がありました。避難した家族の多くが、一般の避難所に入れず、車中や被災した自宅で過ごしたり、避難所や親戚宅等を転々としました。避難所でなければ救援物資は支給されず、多くは発達障害児者を抱えながら水や食料品入手するために長時間並ばざるを得ないなど大変苦労しています。今回は避難しないで済んだ人も、もし避難せざるをえないとしたら、一般の避難所に行くことは難しいと考えて、発達障害の人のための福祉避難所を希望しています。

福島県は原発事故による放射線量が高く、避難区域外でも「外で遊べない」「洗濯物や布団が干せない」「窓を開けられない」など日常生活が大きく制約を受け、そのため発達障害児者や家族にとって大きなストレスや不安になっています。子どもへの影響を心配して、自主避難している家族もいます。父親は仕事のために福島県に留まり、母親と子どもが県外に避難するなど、経済的にも大きな負担が生じています。

支援学校や通所事業所が長期間お休みになり、福祉サービスが利用できず、何処も行くところがなく、生活リズムが崩れ、パニックや自傷、他害が増え、目が離せないために、親は片付けや買い物もできないなどの困難が生じました。

支援学校や通所事業所が長期間にわたって閉鎖されたケースが多い一方で、入所施設は24時間の寝食を支えることから、支援学校や通所事業所よりもはるかに困難性が高いと思われるにも関わらず事業を継続しています。原発事故によって警戒区域に指

定され、転々と避難場所を移動し、千葉県に避難せざるを得なかった入所施設が、利用者の生活を支え続けています。そのことに対して、多くのご家族から感謝の気持ちが寄せられています。

(支援課題)

支援学校や通所事業所、短期入所、移動支援、居宅介護等の在宅福祉サービスを利用できないことで、何処も行くところがなく生活リズムが崩れ、行動障害が出現して、目が離せなくなり、親が片付けや買い物ができないなど、早期に在宅福祉サービスを再開することが望まれます。停電、断水等のライフラインが途絶えること、ガソリンの入手困難により、職員が出勤できない。送迎できないなどの課題が想定されますが、今回の大震災で早期に再開できたところと長期にわたって事業を再開できなかつたところがありますので、その原因等についても検証する必要があります。

集団で避難所を転々と移動し、千葉県に避難せざるをえなかつた入所施設が事業を継続しています。ライフラインや職員の確保など、24時間の生活を支えることから、入所施設の事業継続は困難性が高いにもかかわらず、なぜ事業を継続できたのか、入所施設やグループホーム等での生活を維持・継続するための課題についても検証する必要があります。

あらかじめ福祉避難所の指定が殆どなされていなかつたことから、多くの発達障害児者の家族が車中泊や被災した自宅で過ごしたり、避難所を転々とせざるをえませんでした。今回は、避難しなくて済んだ多くの家族も一般の避難所に行くことは難しいと答えていることから、発達障害児者の特性に配慮した福祉避難所の指定が必要です。個室や仕切りで過剰な刺激を制限したり、発達障害児者の特性を熟知した支援者を配置するなど、具体的な支援のあり方についての検証が必要です。

避難所の候補としては、全国自閉症者施設協議会加盟施設、自閉症支援に取り組んでいる知的障害施設、特別支援学校等が考えられます。いざという時のために福祉避難所の存在をあらかじめ周知しておく必要があります。また、車中などの指定避難所以外で避難生活を送らざるを得ない家族に対しての救援物資の支給についても検討する必要があります。

安否確認や情報伝達については、建物の倒壊や停電によって固定電話が使用できませんでした。携帯電話も震災当初は繋がりませんでしたが、安否確認に大きな役割を果たしています。震災後一定期間が経った後は、テレビ等のマスメディアによる情報伝達が有効でした。サポートシートや処方箋などのデータの保存も含めて検証が必要です。

今回の大震災は、巨大地震、巨大津波、原発事故と想定外の規模の震災のため、行政及び関係機関、市民の全てのレベルにおいて、事前の準備が不充分でした。アンケートの中に「発達障害者支援センターが機能を果たせなかつた」というある母親の意見がありましたが、災害時に発達障害者支援センターが各機関と連携し、発達障害児

者の支援拠点としての機能を果たせるように「発達障害者支援センター連絡協議会」で協議して、災害時の連絡・支援体制を検証する必要があります。

また全国レベルでも（社）日本自閉症協会、全国自閉症者施設協議会、発達障害者支援センター全国連絡協議会等の発達障害に関わる関係機関が連携し、災害時の発達障害児者の安否確認や支援ニーズの把握、支援システムのあり方などについて検証する必要があります。

2. アンケート調査結果の分析・考察

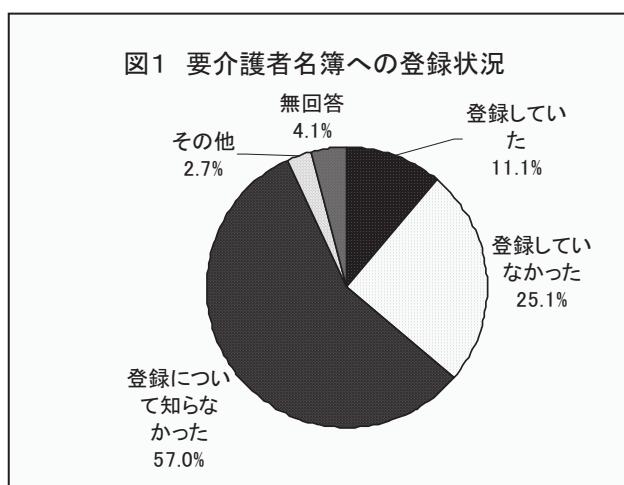
「東日本大震災による自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査」の結果概要を以下のとおり分析し、考察を記述する。

【分析】

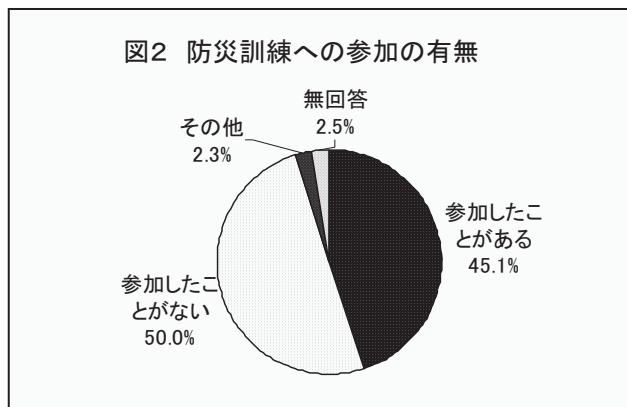
（1）災害時の本人の状況について

1) 本人環境 (IV-4、5、V-2、V-3)

- 「手帳を持っていますか」については、92.4%の人が所持していた。
- 「災害前に薬を定期的に飲んでいましたか」には、52.9%が「有」で、「災害後に薬を手に入れて飲むことができましたか」には、「できなかった」が2.9%であった。
- 「要介護者名簿に登録していましたか」には、「登録していた」が11.1%で、「登録していなかった」が25.1%、「登録について知らなかった」が57.0%であった。（図1）



- 「防災訓練に参加したことがありますか」には、「参加したことがある」が 45.1 % であった。(図 2)



2) 災害時 (V-4, 5, 6)

① 災害にあった場所 (V-4)

- 「3月11日に災害に遭った場所はどこですか」には、「自宅」が 22.6 % で、会社 (16.9%)、学校 (16.5%) などの自宅以外が 76.5 % であった。

② 一緒にいた人 (V-5)

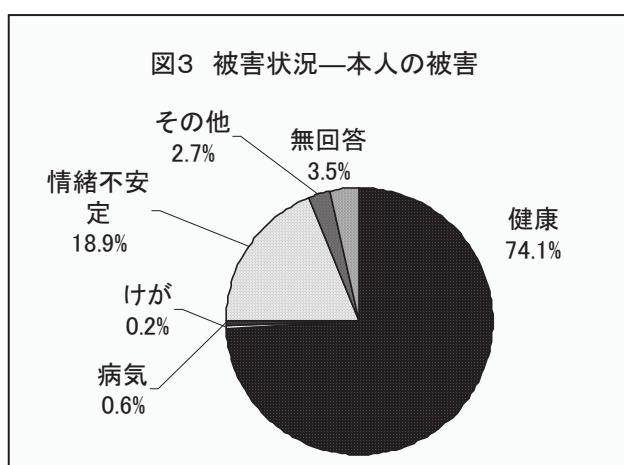
- 「その時、一緒にいた人は、だれですか」(複数回答) には、職員 (49.6%)、家族 (31.7%)、教員など誰かといったと答えた人が 96.7 % で、「自分ひとり」は 2.9 % であった。

③ 本人の反応・行動 (V-6)

- 「ご本人の反応・行動はどうでしたか」には、「恐怖で動けない」、「パニックを起こした」が 13.4 % であり、「周囲の指示に従った」が 59.3 %、「無反応」が 11.7 % となっている。

3) 被害状況—本人の被害 (VII-2-(1)) (図3)

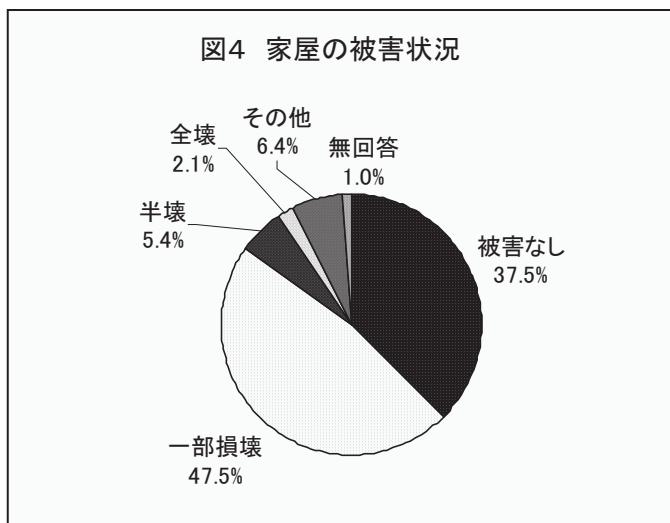
- 「ご本人の状況」については、「健康」が 74.1 %、「情緒不安」が 18.9 % となっている。



(2) 本人をめぐる環境の変化について

1) 家屋の被害 (VII-2-(3)、(4)) (図4)

- 「家屋などの被害状況」については、「一部損壊」が47.5%、「半壊」が5.4%、「全壊」が2.1%であり、「被害なし」が37.5%となっている。



- 本人の「学校、施設、職場などの被害状況」では、「被害あり」が40.8%、「被害なし」が54.3%となっている。

2) 全般的な状態 (VIII-1, 2)

- 「人との関係」では、「何らかの変化があった」23.7%、「特にかわりはない」が75.9%となっている。
- 一方、「言葉について」では、「特に変化なし」、「以前から言葉は無い」が90.6%であり、「一時言葉が無くなり、今は元に戻っている」、「言葉が無くなり今も続いている」2.7%となっている。

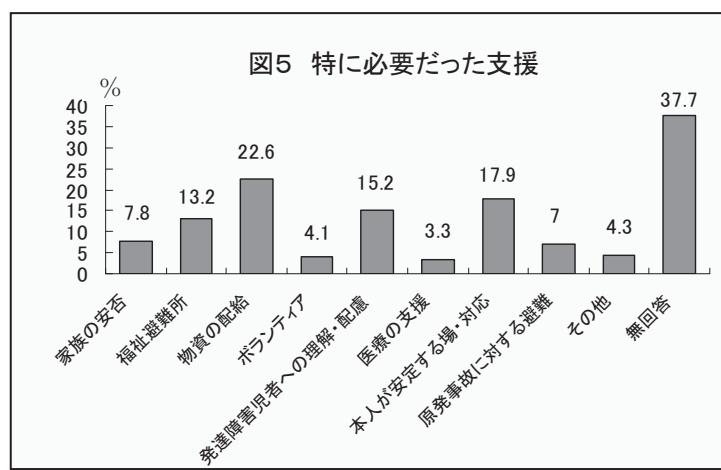
3) 避難状況 (I-1, 2)

- 「何らかの避難をされましたか」については、「避難した」が24.3%、「避難していない」が73.7%となっている。これを、年齢階層でみると、「何らかの避難をした」は「7~12歳」が多くなっている。(統計表1)
- 「災害後の主な生活場所の変化」では、「変化あり」が29.8%で、「変化なし」65.2%となっている。一方、「変化あり」のうちで車での生活をした人が20.9%となっている。

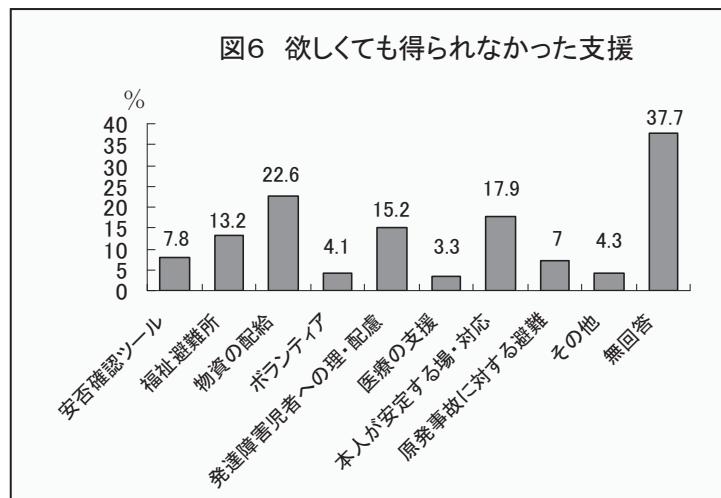
(3) 今後の適切な体制構築のための支援、情報提供のあり方について

1) 災害時の支援 (II-1-(1)、(2)、(3))

- 「どのような支援が特に必要でしたか」(主なもの3つ)については、「本人が安定する場・対応」が56.0%、「発達障害児者への理解・配慮」が44.7%、「家族の安否確認ツール」が43.2%、「物資の配給」が43.2%及び「福祉避難所」が32.5%と多くなっている。これを年齢階層でみると、「発達障害児者への理解・配慮」が若い層ほど高くなっている。(統計表3) (図5)

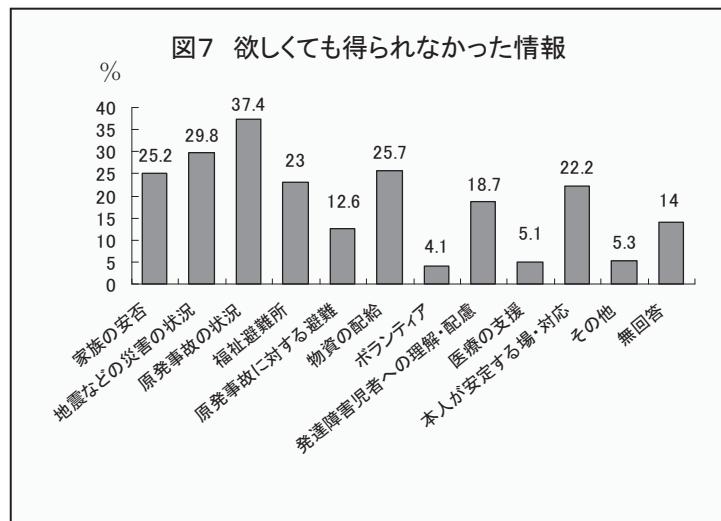


- 「役立った支援」(複数回答)については、「物資の配給」が 16.5%、「本人が安定する場・対応」が 10.7%、「家族の安否ツール」が 7.6%となっている。これを年齢階層にみると、どの階層も「物資の配給」が高い順位である。(統計表 5)
- 「ほしくても、得られなかった支援」(複数回答)では、「物資の配給」が 22.6%、「本人が安定する場、対応」が 17.9%、「発達障害児者への理解・配慮」が 15.2%及び「福祉避難所」が 13.2%となっている。これを年齢階層でみると「発達障害児者への理解・配慮」が若い人ほど高くなっている。(統計表 10 表) (図 6)



(2) 必要な情報 (II-2-(1))

- 「ほしくても、得られなかった情報」(主なもの 3つ)では、「原発事故の状況」が 37.4%、「地震、津波などの災害の状況」が 29.8%、「物資の配給」が 25.7%、「家族の安否確認」が 25.5%及び「本人が安定する場・対応」が 22.2%となっている(図 12)。これを年齢階層でみると「発達障害児者への理解・配慮」、「福祉避難所」が若い人ほど高くなっている。(統計表 13 表) (図 7)



(4) 本人の個々の行動や状態の変化について

1) 質問 IX が設けられた経過

質問 IX を設けた目的は、生活上の困難を引き起こしたり、家族や支援者の対処が必要な行動に焦点をあてて、災害の複合性と時系列との関連で、精神保健の観点から、自閉症などの発達障害の人の行動がどのように変化したかを明らかにすることにある。それに加えて、可能であれば原発事故に伴う放射能災害の自閉症に及ぼす影響についての検討も議論になった。

東日本大震災は地震と津波の衝撃はもとより、原発による放射能の災害を加えると人の心身に対する衝撃は複合的で、甚大である。そして、震災が個々の症状に与えた影響は単純なものではない。個々の症状をみるとその動きは込み入っている。症状の変化を知ることにより、自閉症をはじめとする発達障害の人々へ特化した対策の基礎資料を提供することになろう。この症状に対しては、必ずしも悪く作用するだけではなかった。

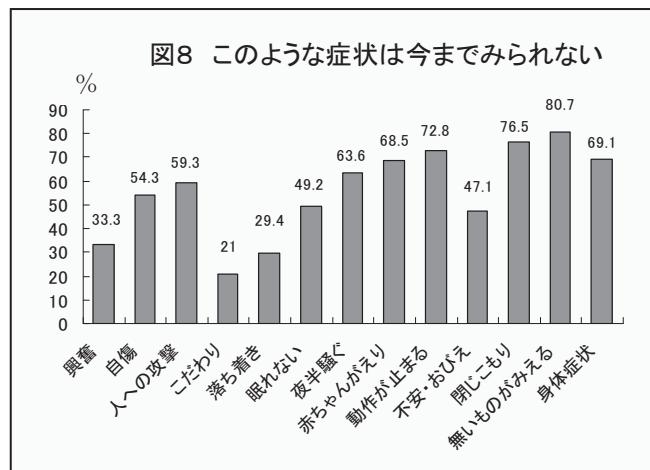
質問は 13 の行動症状よりなっている（以下「IX-1」「X-2」などと記載しているものは「IX-1-(1)」「IX-1-(2)」の略である）。その 13 の質問は、IX-1 興奮やいらだち、IX-2 自傷、IX-3 人への攻撃性、IX-4 こだわり、IX-5 落ち着きのなさや注意散漫、IX-6 眠れない、IX-7 夜半に起きて騒ぐ、X-8 甘え（赤ちゃんがえりなど）、IX-9 動作が突然止まってしまう、IX-10 不安やおびえ、IX-11 閉じこもり、IX-12 無いものが見える、聞こえるなど（幻覚体験）、IX-13 頭痛、腹痛、吐き気、めまい、頻尿、夜尿などの体の症状、であった。

回答の選択肢は、皆同じであり以下のようであった。①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている、②災害以前にもあったが災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）、③災害以前にもあったが災害後は少なくなっている、④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなつた、⑤災害後に新しく

現れたが、現在も続いている、⑥このような症状は今まで見られない、⑦その他、この症状の評価の時点は、およそ震災後9ヶ月の時点での評価である。震災前と震災直後の状態を回顧して比較するように出来ている。なお、パーセントの母数はいずれも項目についても514名となっている。

2) このような症状は今まで見られない (IX-1-(1) ~ (13)-⑥)

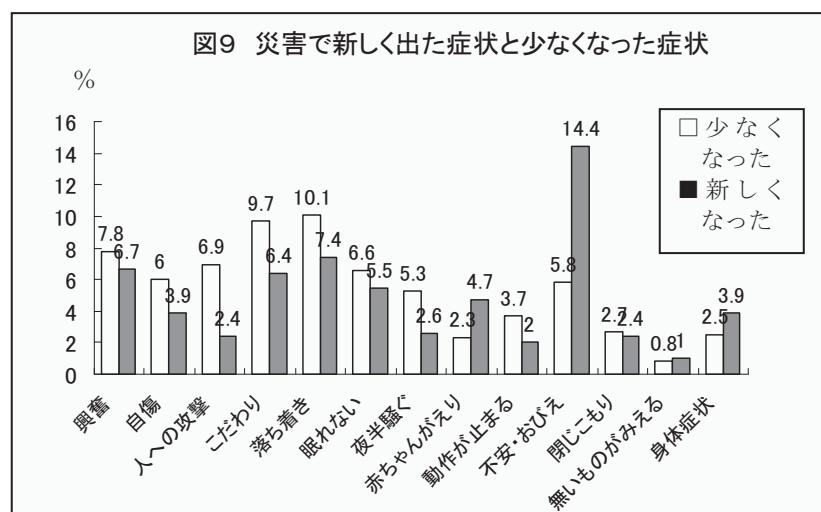
⑥「このような症状は今まで見られない」という項目に対する回答である。IX-12無いものが見える、聞こえるなど(幻覚体験)が一番多く80.1%と一番多く、IX-11閉じこもり(76.5%)と続いていた。これに対して、IX-4 こだわり(21.8%)が一番少なく、IX-5 落ち着きのなさや注意散漫(29.4%)、IX-1 興奮やいらだち(33.3%)IX-10 不安おびえ(47.1%)と増えていた。言い換えると、少ない項目であるIX-4 こだわり、IX-5 落ち着きのなさや注意散漫、IX-1 興奮やいらだち、IX-10 不安やおびえは自閉症でよく見られる症状であると言える。これらの結果は自閉症の特徴的な行動と一致する所見である。(図8)



3) 震災で新しく出た症状と少なくなった症状

新しく出た症状は、①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている、②災害以前にもあったが災害後に強くなり、今は無くなっている(元に戻った)の二つの項目を回答の割合を加算したものである。IX-10 不安やおびえ(14.4%)が最多であり、IX-5 落ち着きのなさや注意散漫(7.4%)、IX-4 こだわり(7.4%)、IX-1 興奮やいらだち(6.7%)、と続いた。

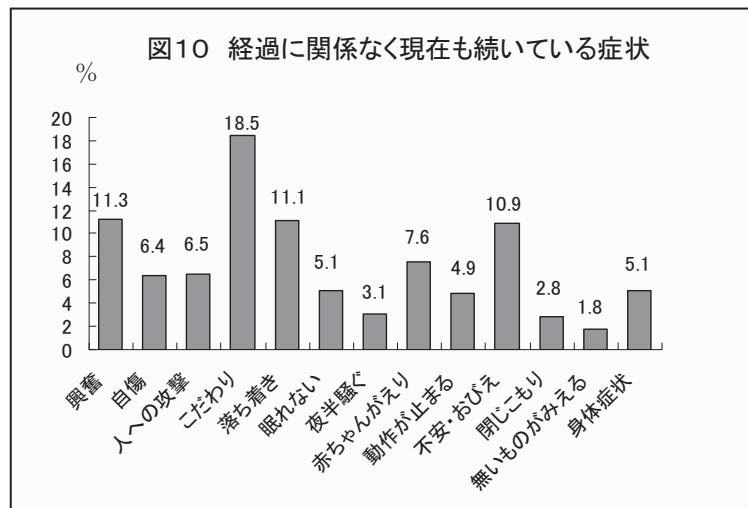
これに対して、③災害以前にもあったが災害後は少なくなっている、との回答を見ると、IX-5 落ち着きのなさや注意散漫(10.1%)が最も多く、IX-4 こだわり(9.7%)、IX-1 興奮やいらだち(7.8%)、IX-3 人への攻撃性(6.9%)、IX-6 眠れない(6.0%)の順に続いていた。(図9)



4) 経過に関係なく現在も続いている症状 (①+⑤)

これは、①災害以前にもあったが災害後に強くなり今も続いている、⑤災害後に新しく現れたが、現在も続いているに回答したものを合わせたものである。即ち症状はもともとあったが強くなり今現在も続いているものと、震災前まではなかったが震災で出現して現在まで続いているものの合計である。

一番が IX- 4 こだわり(18.5%)、次いで IX- 1 興奮やいらだち(11.3%)、IX- 5 落ち着きのなさや注意散漫(11.1%)、IX-10 不安とおびえ(10.9%)と続けていた。これらの症状は 9 ヶ月以上にわたって続いており、自閉症などの外傷後ストレス障害 (PTSD) の症状と関連が強いものと思われる。(図 10)

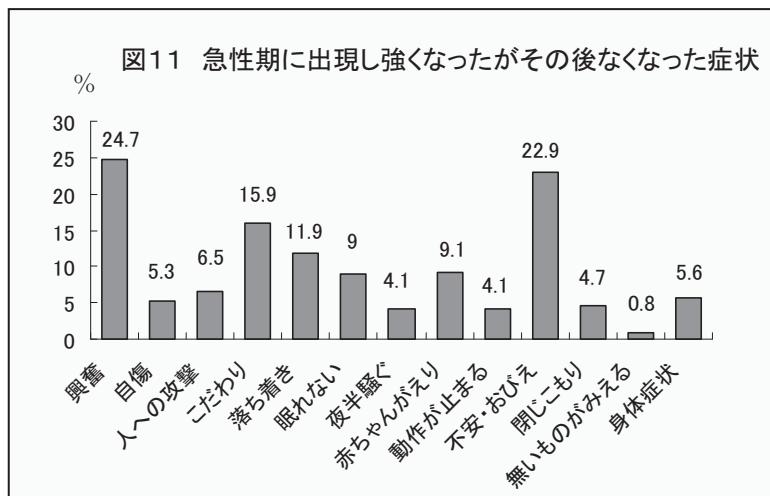


5) 急性期に出現・強くなったが、その後無くなった症状の割合 (②+④)

ここでは、②災害以前にもあったが災害後に強くなり、今は無くなっている（元に戻った）、④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなったとの二つの回答を合わせたものである。IX- 1 興奮やいらだち(24.7%)が一番多く、IX-10 不安とおびえ(22.9%)、IX- 4 こだわり(15.9%)、IX- 5 落ち着きのなさや注意散漫(11.9%)と続

いていた。

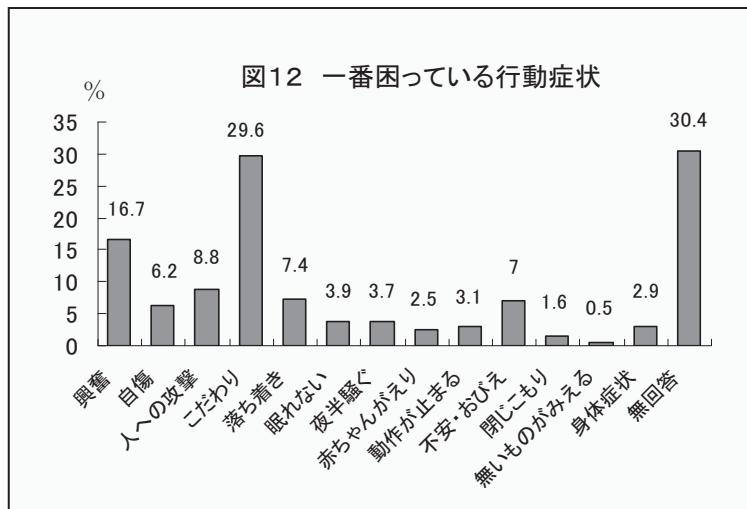
自閉症の人のこだわりが、強く続く場合と、弱くなる場合があり、その特徴を支援の時に役立てることが出来るヒントがあると考えられる。(図11)



6) 13項目中一番困っている行動症状（択一）

IX-4 こだわりが一番多く(29.6%)、IX-1 興奮やいらだち(16.7)、IX-3 人への攻撃性(8.8%)、IX-5 落ち着きのなさや注意散漫 (7.4%)、IX-10 不安とおびえ(7.0%)と続いていた。(図12)

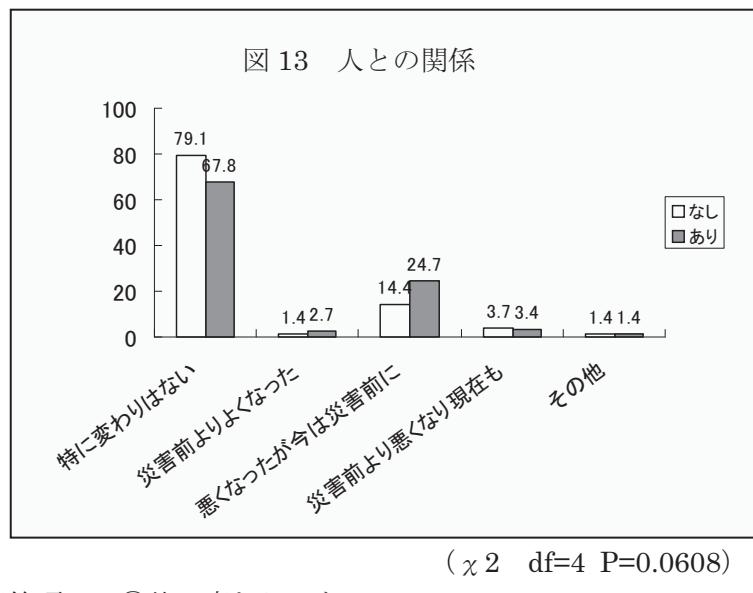
災害と関連して、現在、実際に家族が住みづらさとして感じている症状と理解されよう。



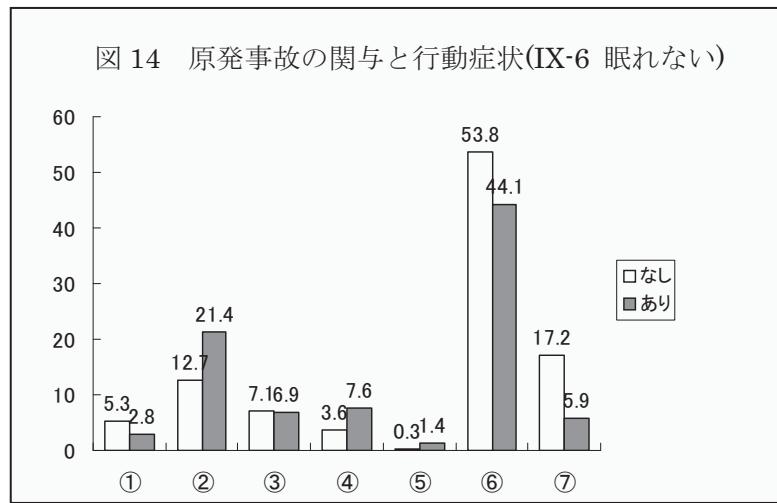
(7) 原発事故と関連して

可能であれば原発事故に伴う放射能災害の自閉症などの発達障害に及ぼす影響についての検討もこのアンケート検討委員会で議論になった。そこで、記入者がどのような種類の災害を被ったかの問(VII-1)において、原発事故を含む項目に

チェックした群とそうでない群に分けて検討した。即ち、①～③に回答したものと非原発関与群、④～⑦に回答したものを原発関与群として、この2群で行動症状との関連を検討した。VIII、IXについて、クロスをとり、 χ^2 二乗検定で参考にして、分布の差をチェックした。有意差、傾向のあったものはVIII-1、IX-6の二項目であった。(図13)



- 注：回答項目 ①特に変わりはない
 ②災害前よりもむしろよくなっている
 ③悪くなつたが今は災害前と同じ程度にもどつた
 ④災害前より悪くなり、現在も続いている
 ⑤その他



- 注： ①災害以前にもあったが災害後に強くなり、今も続いている
 ②災害以前にもあったが災害後に強くなり、今は無くなっている
 ③災害以前にもあったが災害後は少なくなっている
 ④災害後に新しく現れたがしばらくして無くなった
 ⑤災害後に新しく現れたが現在も続いている

⑥このような症状は今まで見られない

⑦その他

(χ^2 P=0.0319 df=6)

原発事故関与群の方が、この二つの項目について見ると、早い時期に症状が消失しているように見える。しかし、これらの項目は、避難生活の体験や他の多くの要因と関連しども強く結びついているので、意味づけは困難である。

【考察とまとめ】

(1) 災害後の状況と支援についての要望

今後の事故対策の要望には、災害の急性期、中長期の時期を振り返ってみる

親の切実な気持ちが良く出ている。

どのような支援が必要であったかについては、災害の早い時期での、本人が安定できる場所と対応とが一番の必要性を感じていた。これが出来なかつたために、避難所などで過ごせず、車の中で過ごさねばならない人たちが少なからず出たことになったと言える。

その家族が欲しくても得られなかつた情報を、一般的な被災者にも強く関係するものと自閉症の人とその家族に特徴的なものを分けて考えると、一般的なものは物資の補給などの生命維持のための基本的なものであつた。自閉症等の発達障害に関連するものは安定する場所や福祉避難所などで障害の特徴を適切に把握して個別の働きかけられる避難の場が必要とされており、年齢が低いほど子どもについての理解をして欲しいとしていた。安定できる場の確保は急性期における今後の重要な課題となろう。今回は原発事故が関与していることもあり、欲しくても得られなかつた情報として原発事故の状況（37.4%）が強かつた

(2) 本人の状況

診断名については（IV-3）、親が記載した診断名をそのまま挙げた。自閉症協会を通しての調査であるので、知的障害などの診断名を自閉症スペクトラム障害（ASD）として広く取り込んで分析しても、自閉症の特徴を薄めるものではないと考えた。

医療との関係をみると、災害前に、半数以上（52.9%）が定期的に薬を服用しており、情緒や行動、てんかんの薬がほとんどを占めていた。災害後に服薬が出来なかつた人が2.9%いた。また、この調査では身体的な怪我を負つたものが少なかつた。医療への要望は少なかつたのはこのためかも知れない。とはいえ、災害直後の医療の確保も重要であることは言語を待たない。年齢区分が高くなると服薬率が高くなつておらず、高齢者にとってはとりわけ医療の配慮が強く求められている。

要支援者名簿に登録していたものが 11.1%に過ぎず、ほとんど機能していないと思われる。存在を周知させると共に、適切に機能するように見直しが必要となる。

災害にあった場所は自宅以外が 76.5%となっていたが、その時一緒にいた人はほとんど家族や教員であった。避難訓練の意義は大きいと思われる。災害に合った時間が 14 時 46 分であったことが関係してよう。他の時間帯で起こったときの場合の支援についても考えておく必要があろう。

災害への本人の反応・行動が 60%が周囲の指示に従っていた。パニックを起こした者が 13%程度となっており、自閉症ではその割合は幾らか高い可能性が示唆される（松崎博文 2011）。安定の場や療育の場が確保されれば、パニックなどの症状を長引かせないで済む可能性があろう。反面、表面的には無関心な人がいるのも自閉症の特徴ではないか思われる。

(3) 震災前と比較しての全般的な状態について VIII

対人関係が元に戻らないものが 3.5%、言葉が無くなり今も続いているとの回答は 0.2%おり、長期にわたる震災の作用であり PTSD の症状とも考えられよう。反面むしろ良くなっていると評価している者が 1.8%おり注目される。

(4) 「一番困っているもの」(IX-2) について

災害後 9 月の時点での症状の変化を見る、災害と関連として新しく出現したり、強くなったり増えたりした症状が多くあるが、少なくなった症状も少なからずある。災害が自閉症の人への個々の症状に及ぼす多様であり、その変化も多様である。災害の被害の状況は多様であり、甚大である。家族や本人の心身への影響の強さには計り知れない。このアンケートで見る限り、こだわり、興奮やいらだち、人への攻撃性、落ち着きのなさや注意散漫、不安とおびえなどが、今なお適応のための住みにくさと関連していると言える。また、適応は環境との要因が関与しているので、適切な環境の復興の早さなどと関連していると考える。

(5) 原発事故と関連して

記入者が災害の種類についての問 (V-1) において、原発事故を含む項目にチェックした群とそうでない群に分けて 13 項目と全般的な状態の項目 (VIII-1) について検討した。「人との関係」と「眠れない」の項目が関連していた。事故関連群の方が早めに眠りが改善しているように見えるので意味付けが困難であった。

(6) おわりに

このアンケート調査の目的である自閉症をはじめとする発達障害の症状を明らかにし、より適切な支援や体制構築するための基礎資料を提供することが出来た。

アンケート内容が膨大であり、まとめの時間が短期間であるために、全体をまとめきれなかったことを協力していた親はじめご本人にお詫び申し上げます。

(参考文献)

文部科学省 子どもの心のケアのために－災害や事件・事故発生時を中心に－
平成22年7月

児童青年期精神医学会支援者のみなさまへ災害時の障害児への対応のため
の手引き 2011年3月

(http://www.ncnp.go.jp/pdf/mental_info_handicapped_child.pdf)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 震災後のこどもたちを支える教師
のためのハンドブック～発達障害のあり子どもへの対応を中心に～ 平成23年
4月

松崎博文 東日本大震災にともなって生じた福島県内における特別支援教育の
ニーズ調査と子ども・教師・保護者支援 福島大学東日本大震災総合支援プロ
ジェクト「緊急の調査研究課題」2011

3 防災・支援ハンドブック作成に関する考察

「防災・支援ハンドブック」の作成のための情報収集の段階から企画、編集の経
過を辿り、作成された内容から、災害にあった場合、自閉症の人たちが対応でき、
災害後も適切で必要な支援を受けられるようにしていくためには多くの課題がある
ことが示されました。

(1) 災害への備えについて

①自閉症の人への災害時支援として防災計画に支援が明記されていることが必要
である。

今回の現況調査、アンケート調査において、災害時、災害後に自閉症の人と家族
が避難する場合、避難所での生活は困難として避けている場合が多くみられました。
「車中泊での避難」は6.2%、「避難所利用」が7.2%でした。日頃から
の自閉症の特性の理解を周囲に図ることも重要であるが、国、都道府県、市区
町村等における防災計画に障害者全般ではなく、全ての障害に応じた個々の対策
が立てられ、特に、周囲からの理解が必要な自閉症への支援を具体化することが
支援の第一歩である。そこから地域での理解、支援が確実なものとなると考える。

②要援護者名簿への登録への周知と活用が必要である。

アンケート調査では、「要援護者名簿に登録していた」11.1%、「登録してい
なかつた」25.1%、「登録について知らなかつた」57.0%でした。登録の
周知とともに、災害時では個人情報等から十分機能しなかつたことも被災地から
伝えられたおり、登録とともに活用できる仕組みを作っていくことが急務だと考
える。また、自閉症の人が周囲への助けをうまく伝えられないことから、要援護

者であることを周囲に知らせる工夫が各地でなされていることも今後参考にしていく必要がある。

③福祉避難所の設置と自閉症の人が避難できる配慮や工夫が必要である。

今回の災害時、災害後の避難では、自閉症の人の不安や混乱、あるいは周囲の自閉症への理解等から、避難生活が困難な状況に追い込まれた場合も多くみられた。ハンドブックに掲載して宮城県自閉症協会からのメッセージにあるように、福祉避難所の設置と事前の周知、また、自閉症の人が避難生活できる環境の工夫や配慮が必要である。各地にある特別支援学校の福祉避難所としての指定されることも必要であると考えられる。今回、掲載した仙台市の小学校において様々な工夫や配慮で自閉症の人が避難生活できたことも参考に、一般の避難所となる学校においても同様の取り組みがなされるように伝えていく必要があると考える。

④日頃の備えの重要さと多様な防災、避難の方法の備えが必要である。

今回の震災では、報道関係者から、自閉症の人たちを支える仕組みの弱さが見られ、防災基本計画においても十分支援が図られていない現状があることが掲載されている。当面、不十分な支援の体制を改善を求めつつ、個々人で多様な防災、避難の方法の備えが必要である。

⑤防災教育における災害イマジネーションを高めるための体感訓練、防災訓練への参加が必要である。

アンケート調査の防災訓練への参加の状況では、「参加したことがある」は45.1%、「参加したことない」50%でした。自閉症の人が災害の理解や災害時の行動の取り方など、防災力に繋がる防災教育、防災訓練への参加の機会を増やしていくことが必要である。地域における理解、連携、支援のあり方につながるものである。

(2) 災害時の対応、支援について

①災害時の危険回避、避難誘導、保護等は、自閉症の人に分かる方法の工夫が必要である。

今回の震災では、自閉症の人が災害にあった場所は、自宅、外出先、学校、会社等就労先、通学途中などであった。災害時の避難誘導では、困難な場面への対応等が調査からも伝えられており、助けてカードやSOSカード等の活用とともに、個人毎に理解できる内容が異なることから、日頃から支援する人へ対応の方法をより具体的に提供していく必要がある。

②自閉症の人の災害における不安や混乱を軽減していく方法を確認しておく必要がある。

アンケート調査では、災害時の本人の反応・行動は、「無反応」11.7%、「恐怖で動けない」6.2%、「パニックを起こした」7.2%、「周囲の指示に従った」59.3%でした。災害時に日頃から避難訓練などをしておくことで周囲の

人の指示に応じることができていることが示されている。災害直後も我慢したことと褒め、見通しを持たせていくことで安定したことなどがアンケート調査や現況調査から伺うことができている。

(3) 災害後の対応、支援について

①自閉症の人への災害後の支援は本人の環境を一日でも早く日常に戻すことが必要である。

災害そのものへの驚きがテレビの映像等でフラッシュバックする場合も 調査結果にありましたが、災害時の不安、混乱とともに、災害後に日常生活が崩れてしまうことに応じることができず、不安や混乱が続くことが調査結果に多く示されていた。学校や就労先が臨時に休みになる等に対して、本人に理解できるような様々な方法がとられたことが調査からの明らかとなりました。ライフラインが途絶えてしまい食料がないことやテレビやゲームなど好きなことができないことに対するストレスが続いき、本人、家族ともに困難な状況が続いたことも調査から多く伝えられました。

②避難所での生活は自閉症の人への様々な配慮、工夫が必要であることが支援する側に十分理解されている必要がある。

避難所では、多くの人々が体育館等に集まり生活するため、自閉症の人にとっては、困難の状況となっていたことが今回の震災でも明らかでした。福祉避難所の活用等も検討される必要があるが、今回、掲載した仙台市的小学校において様々な工夫や配慮で自閉症の人が避難生活できたことも参考に、一般の避難所となる学校においても同様の取り組みがなされるように伝えていく必要があると考える。

③相談支援体制の早期の整備が必要である。

アンケート調査からも災害後の支援として、相談する機関がない、あるいは不十分で困難な状況が続き、相談する人もなく孤立したケースも伝わってきました。福島県の支援センターの支援員の「災害時には相談窓口の早期開設と周知を」という内容を掲載しました。今回、機能した相談体制、機能が難しかった相談体制を検証して、今後に生かしていく必要がある。

④ネットワークによる支援体制を活用できるようにすることが重要である。

被災地の自閉症協会を中心に会員の安否確認等を図り、また、関係機関との連絡調整にネットワークが活用されたことが伝えられている。前回の「防災ハンドブック」には新潟県自閉症協会のネットワークの提案が掲載され、各地の自閉症協会でもネットワークが構築されている。通信手段がなくなるなど不通になった場合の対応やネットワークの担当が被災している状況等、今後、災害時のネットワークの体制の整備が必要である。

⑤協会としての後方支援等、支援体制の整備が必要である。

現況調査やアンケート調査などから、協会として災害時における支援体制を早急に検討し、人的支援、情報支援、物的支援など可能なことを整備しておく必要が

ある。アンケート調査の要望に応えていく必要がある。今回の震災の後方支援として福島県への東京都自閉症協会の取り組みを掲載した。今回の震災においては被災から1年を経ているものの、復興が進んでいない状況や原発事故での避難の状況から、支援の継続は再確認し、それぞれの支援を進めていきたいと考え、その視点で復興と支援の継続を掲載している。

⑥心のケアについては災害直後と災害後の長期にわたり支援していく必要がある。

本人と家族の心のケア、支援がともに必要である。

アンケート調査では、「本人の現在の様子について」という質問について、「ほぼ日常生活に戻った」79.2%、「災害時と変わらない」5.3%、「災害時よりも落ち着きがない」5.3%である。また、「今後、本人にどのような支援が必要ですか」という質問に対して、回答は、「心のケア」31.9%、「居場所づくり」70.8%、「医療の場」17.5%でした。これらの調査結果についてはグラフなどにより掲載した。災害直後の不安などに対するケア、また災害後、長期にわたる行動の変化等からケアの必要性が挙げられている。今回は、被災地で、また、被災地に赴き医療支援に当たった方々に心のケアについて災害時、災害後の支援について書いていただき掲載した。

自分の気持ちをうまく伝えられない自閉症の人たちの心のケアを周囲の関係者は十分図っていく必要があると考える。また、その医療支援体制の整備も図られ十分支援が図られることが必要であると考える。

以上、「防災・支援ハンドブック」の作成に関連して報告するものですが、今後、これらの情報を冊子やHP等を媒介に発信して自閉症の人と家族の災害時等の支援に実際に役立てられることを願っております。

検討委員会等の実施状況

VI 検討委員会等の実施状況

1 検討委員会の開催状況

第1回検討委員会

日時：平成23年10月29日

場所：航空会館

議題：①東日本大震災の被災による自閉症をはじめとする発達障害のある
方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査の企画について
②その他

第2回検討委員会

日時：平成23年11月27日

場所：こどもの城

議題：①アンケート調査票の決定と実施について
②現況調査のヒヤリング項目、日程表について
③防災・支援ハンドブック（仮題）改定の基本方針について
④その他

第3回検討委員会

日時：(平成24年 1月29日)

場所：こどもの城

議題：①アンケート調査の速報と結果報告書（案）について
②被災地の現況調査の速報と報告書（案）について
③防災・支援ハンドブック改定の編集（案）について
④その他

第4回検討委員会

日時：平成24年 2月26日

場所：こどもの城

議題：①ケース検討
②本事業のまとめ
③その他

2 防災・支援ハンドブックの企画・編集の作業部会等の開催状況

アンケート調査、現況調査の企画、実施、結果のまとめを毎週1～2回作業担当で実施。

成果の公表実績計画

VII 成果の公表実績計画

本事業における結果については、「災害時における自閉症をはじめとする発達障害のある方の行動把握と効果的な情報のあり方等に関する調査について」事業報告書および「東日本大震災を受けて 自閉症の人のための防災・支援ハンドブック」として、発行し普及することとした。

併せて、当協会ホームページへ掲載することとしている。

URL:<http://www.autism.or.jp/>

(報告書等配布先)

厚生労働省、文部科学省、都道府県の障害福祉主管部局、発達障害者支援センター、都道府県教育委員会、都道府県社会福祉協議会、都道府県政令指定都市自閉症協会

おわりに

VIII おわりに

(社) 日本自閉症協会 会長 山崎晃資

1 本研究のまとめ

本研究では、災害時に自閉症をはじめとする発達障害（以下、「自閉症」と略す）のある方々がどのような生活上の困難に遭遇し、どのような支援や対応が必要であったのかを災害の複合性と時系列との関連で明らかにし、どのような情報提供が有効かを検討するために3つの研究を行った。

① 被災地の現況調査およびケース検討

(社) 日本自閉症協会は平成23年11～12月にかけて、被災地の関係者1名を含む3名1組のチームで被災地（岩手県、宮城県、福島県、茨城県）の県庁・市町村役場・支援施設など20施設を訪問し、現況調査を実施した。そして、転居・転校を繰り返さなければならなかつたり、避難所暮らしで苦労し続けたなどの3事例について検討を行い、問題の背景と発達特性、さらには地域における社会資源の活用の仕方について検討した。

今後は自閉症の特性に配慮した福祉避難所の指定や、(社)日本自閉症協会、全国自閉症者施設協議会、発達障害者支援センター連絡協議会などが連携を密にし、自閉症支援に取り組んでいる知的障害施設、特別支援学校などとの連携も強化し、全国的なネットワークの構築を急ぐ必要があると考えられた。

② 自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査

自閉症の人々は、災害時には、診断学的行動特性の他に、常同行動、興奮、攻撃性、自傷、こだわり、多動と注意の問題、気分の問題などがある。さらに阪神淡路大震災の時にみられた身体症状や心理・行動面の問題などが発現する可能性が高い。これらの行動の推移を検討するために、急遽、44項目からなる「東日本大震災の被災による自閉症をはじめとする発達障害のある方々の行動の変化と支援に関するアンケート調査票」を作成し、被災県の自閉症協会会員975人を対象に、平成23年12月に郵送によるアンケート調査を行い、522人（53.5%）から回答を得た。この種のアンケート調査では高い回収率であった。自由記述の欄には膨大な書き込みがなされており、被災された方々の苦労と切実な思い、そして今後の対策への期待の大きさを知ることができた。

このアンケート調査でとくに注目されたことは、原発事故の状況に関する情報の不足、災害時の医療的支援システムの構築、要支援者名簿への登録などの福祉行政的情報の周知、PTSDと関連する可能性がある症状への対応などであった。一方、わずかではあるが、災害前にあった症状が災害後に軽減した例もあった。今回のアンケート調査によって、自閉症の人々の状態の変化が明らかになり、適切な支援体制を整えるための基礎資料を得ることができた。

③「防災・支援ハンドブック」の作成と公刊

(社) 日本自閉症協会は、平成7年の阪神淡路大震災以来、いくつかの自然災害の経験から、平成20年7月に「自閉症の人たちのための防災ハンドブックー支援をする方へー」を刊行し、同年12月には「自閉症の人たちのための防災ハンドブックー自閉症のあなたと家族の方へー」を刊行し、ホームページにも公開していた。今回の東日本大震災では、多くの方々に活用して頂いた。しかし、大地震・大津波・原発事故という未だ経験したことのないあまりに大規模な今回の複合災害を経験して、改めて「東日本大震災を受けて 自閉症の人のための防災・支援ハンドブック」を編纂する必要があると考えた。

今回の調査結果を基に、「防災・支援ハンドブック」を作成し、広く配布すると共にホームページに公開することにした。被災地の方々をはじめ、放射能汚染の専門家を含めた多くの方々に執筆して頂いた。しかし、放射能汚染に対する防災・支援に関する資料は乏しく、今後の重要な検討課題となった。

2 災害と自閉症

平成23年3月11日の東日本大地震が起きた時、私は「川崎市くさぶえの家」（成人の自閉症の人々のための知的障害者通所更生施設）で、診察を行っていた。これまで経験したことがない大きな揺れで、立っていることも困難であった。揺れがおさまった時に、作業中の利用者に声かけをして道路に出ることになった。再度、大きな揺れが来た。その日は30人ほどの利用者が作業をしていたが、路上に座り込んで泣き出す人、真っ青になってスタッフにしがみつく人、呆然と立ちすくむ人、いつものようにニコニコ笑っている人など、さまざまな反応の仕方であった。下校中の小学生たちは道路脇にしゃがみ込み、肩を寄せ合って不安げであった。大地震が起きた時に自閉症の人々がどのように反応するのかを間近に見たのは初めての経験であった。

周知のように、2008年4月2日に「世界自閉症啓発デー」（World Autism Awareness Day）が発足し、世界各地において自閉症に関する啓発の取り組みが行われるようになった。日本では、平成21年4月2日に第1回「世界自閉症啓発デー・シンポジウム」を行い、平成22年4月2には第2回シンポジウムを開催した。平成22年6月から第3回シンポジウム「メインテーマ：私たちの育ちを信じて！ 愛して！」の開催準備を進めていた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災の影響を受けてシンポジウムは延期し、同年6月18日に急遽、「特別シンポジウム」として開催することになった。テーマも「災害と自閉症～共に支え合い、共に生きる～」に変更し、被災地の自閉症協会の方々や多くの支援者の参加を得て、わずか2ヶ月の準備期間であったが、400人を超える参加者を得て実りある議論を展開することができた。国連の潘基文事務総長からは、4月2日と6月18日の2回にわたって、メッセージが寄せられた。

このシンポジウムでは、岩手県、宮城県、福島県、茨城県からの報告がなされ、さらに支援に入った方々や新聞記者などからの報告も行われた。想像を絶する状況の中で自閉症の人々と保護者、および関係者がどのように過ごしたのかという報告を聞いていると、自

閉症の人々が抱えている諸問題がまさに象徴的に浮き彫りにされ、国や地域社会が早急に対応しなければならないことを鋭く突きつけていたように思えた。

朝日新聞の赤井陽介記者は、平成23年4月26日の朝刊に次のような記事を掲載した（抜粋）。『・・・重い自閉症のA君（19歳）を持つF子さんは、スーパーでパニックになり、他の買い物客を突き飛ばすA君のことを理解してもらおうと10年以上必死に訴え、やっと理解が根付いた地域が失われた。・・・避難所は気苦労の絶えない場所だ。体育館を「体を動かして遊ぶところ」と憶えていたA君は飛び跳ねまわり、避難中の男性から大声で怒られた。なぜ怒られたのか理解できずにパニックになったA君をF子さんは毛布をかぶせて押さえ込み、「すいません」と頭を下げ続けた。その後A君は数日間、毛布をかぶって出てこなかった。・・・避難所では炊き出しや掃除が輪番で始まった。A君から目を離せないF子さんは、申し訳なく辛い日々が続いた。「自分のことを訴えられず、避難所にも入れない人たちがまだまだいる」とF子さんは声を落とす。』

今回の東日本大震災は、地震、津波、さらに放射能汚染と、複合的な巨大災害であった。自閉症の子どもたちにとって「日常がなくなった」（家・家族・学校・電気・水道・食料などが一瞬にしてなくなり、先の見通しもなくなった）のである。まわりの反応を気にして避難所に入れず（入らず）、車の中で過ごしたり、つぶれかかった自宅に危険を承知で留まった家族も多い。避難所に入らないと食料がもらえず、コンビニには食料品はほとんどなかった。避難所にいる他の保護者から、わずかばかりの食料を分けてもらって飢えをしのいでいる家族もいた。

「子ども達の混乱」は想像を越えるものとなった。幼い子ども達は、親にしがみつき、泣き止まず、表情を失い、むずかり続けていた。「アッ、これ地震です」（感覚過敏）、「水道は1日1回出ます」（確認行動）、「直します、直します。何月何日に直します」（復旧要求）、「あやまってごめんなさい」（罪悪感？）など、自閉症の子ども達の特有な行動も見られた。余震の度に家を飛び出す子ども、放射能が気になって押し入れから出られなくなった子どももいた。

平成23年6月18日の「特別シンポジウム」では、仙台市の弦楽合奏グループ「おお宙ストリングス」のメンバー（自閉症や弱視の人たち）が出演し、素晴らしい演奏を聴かせてくれた。演奏の合間に自閉症の人たちが語る震災直後の体験談は感動的であった。バイオリンを演奏したBさんは電車が止まってしまい、自宅よりはおじいちゃんの家の方が安全と思い、同じ作業所で仕事をしている弟とKさんの3人で歩き出し、暗闇の雪道を6時間かかってたどり着いたという。途中、人が並んでいる体育館でおにぎりをもらい、飢えをしのいだ。自宅に戻ってバイオリンが壊れていないことを知り、弾くことによって安心できたという。どうして家までたどり着けたのかと不思議に思う例は多く、彼らのサバイバル能力に驚かされた。

今回の大災害は、地震の他に大津波と放射能汚染が起きたために、ピンポイントで被災の程度が大きく異なっていた。道路一本を隔てて津波に流された家と流されなかつた家があり、その不公平感が避難所に持ち込まれ、微妙な感情の変化があつたらしい。

「災害」は日常的な社会システムが機能しなくなる状況であり、日頃からの防災対策が重要である。（社）日本自閉症協会が作成していた「防災ハンドブック」が非常に役立ったという。これまでも災害が起きる度に私が強調してきたことであるが、避難所では障害種別または重症度によって異なる利用の仕方が工夫されるべきであり、障害の有無にかかわらず子どもが避難してきた場合には、真っ先に暖かい飲み物と食物が与えられるような準備をしておくことが必要である。さらに避難所の管理者やスタッフは、72時間を超えて連続的に勤務してはならないというルールを取り決めておき、避難者に明示すべきである。欧米諸国の防災マニュアルには明記されていることであるが、わが国の場合、このような考え方がなかなか浸透しないのはなぜなのだろうか。とくに原発事故による放射能汚染に対する「防災マニュアル」をどう整理するのかは、今後の大きな課題であろう。東日本大震災について、継続的な綿密な調査を行い、今後のさまざまな災害に備える対策を一時も早く確立することが急務であろう。

岩手県自閉症協会の熊本葉一会長の『被災地において「障害のある子どもやその家族」の最も大きな支えとなったのは「人」でした。そういう地域、社会を築いていく中心に自閉症の子どもが達がいます』という言葉がこころに重い。

3 本研究にご協力いただいた方々への謝辞

平成23年度障害者総合福祉推進事業による本研究（指定課題番号：24）「災害時における自閉症をはじめとする発達障害のある方の行動把握と効果的な情報提供のあり方等に関する調査について」は、多くの関係の皆様に多大のご支援・ご協力を頂いて実施することができた。とくに被災地である岩手県（熊本葉一氏）・福島県（酒主照之氏）・茨城県（高山孝信氏）・宮城県（目黒久美子氏）の各自閉症協会の会長の皆様には、被災後の辛い状況の中にもかかわらず、多くの貴重な情報を提供して頂き、さらに現況調査やアンケート調査に多大なご支援・ご協力を頂いたことにこころより感謝申し上げる。さらに外部委員として近藤直司氏（山梨県都留児童相談所・所長）と本間博彰氏（宮城県子ども総合センター・所長）にも加わって頂き、研究方針の決定およびアンケート調査票の作成には、貴重なご助言を頂いた。アンケート調査票の作成と「防災・支援ハンドブック」の作成に当たっては、とくに本協会出版委員会の阿部叔子氏と白井和子氏に多大なご尽力を頂いた。さらに本協会の理事である五十嵐康郎氏（本協会副会長、災害対策委員会委員長）、太田昌孝氏（研究委員会委員長）、三苦由紀雄氏（出版委員会委員長）には現況調査に参加して頂き、膨大な資料の分析と考察をまとめて頂いた。この他にも多くの方々のご支援を頂いたが、とくに社会福祉法人・嬉泉の森下尊広氏（全国自閉症者施設協議会広報委員長）には、平成23年4月に被災地の状況調査に行って頂き、さらに今回の現況調査でも中心的な役割を取って頂いた。また協会の山浦正市事務局長には、調査および報告書作成に関する煩雑な事務処理をお引受け頂いたことに感謝申し上げる。

この他にも多くの方々にこころよくハンドブックの執筆をお引受け頂いた。紙面を借りてこころより御礼申し上げる。

平成23年度障害総合福祉推進事業検討委員会

代 表 者 : 山崎晃資（日本自閉症協会会長）

委 員 : 近藤直司（山梨県都留児童相談所所長）

: 本間博彰（宮城県子ども総合センター長）

: 五十嵐康郎（社会福祉法人萌葱の郷理事長）

: 太田昌孝（心の発達研究所所長）

: 三苦由起雄（東洋大学非常勤講師）

: 熊本葉一（岩手県自閉症協会会長）

: 酒主照之（福島県自閉症協会会長）

: 高山孝信（茨城県自閉症協会会長）

オブザーバー : 小林真理子（厚生労働省発達障害対策専門官）

協力委員 : 森下尊広（全国自閉症者施設協議会広報委員長）

: 阿部叔子（日本自閉症協会出版委員会委員）

: 白井和子（日本自閉症協会出版委員会委員）

事 務 局 : 山浦正市（日本自閉症協会事務局長）

厚生労働省
平成 23 年度障害者総合福祉推進事業

平成 24 年 3 月発行

災害時における自閉症をはじめとする発達障害のある方の行動把握
と効果的な情報提供のあり方等に関する調査について
報告書

代表者 山崎晃資
連絡先 社団法人 日本自閉症協会
〒104-0044 東京都中央区明石町 6-22 築地 622
Tel 03-3545-3380 Fax 03-3545-3381
E-mail asj@autism.or.jp URL <http://www.autism.or.jp>

印 刷 株式会社 ファーストワン
